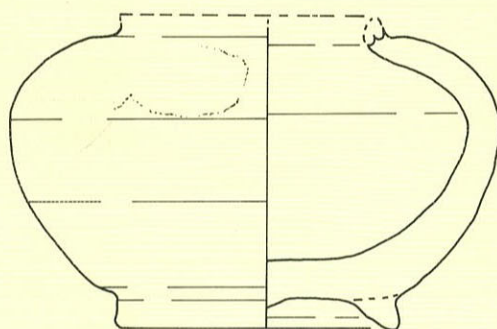


吹田市所在

# 吹田操車場遺跡

— 吹田（信）基盤整備工事に伴う吹田操車場遺跡発掘調査報告書 —



1999年3月

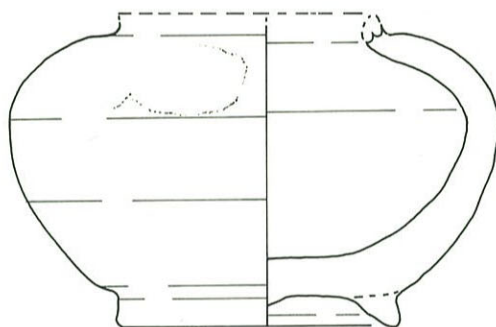
財団法人 大阪府文化財調査研究センター



吹田市所在

# 吹田操車場遺跡

— 吹田（信）基盤整備工事に伴う吹田操車場遺跡発掘調査報告書 —



1999年3月

財団法人 大阪府文化財調査研究センター





a. NO.40トレンチ出土須恵器大甕底部



b. NO.41トレンチ井戸1出土シジミ・ドブ貝 (原寸大)

# は し が き

吹田操車場遺跡は、吹田市芝田町にある鎌倉時代の集落跡です。

今回の調査は、吹田（信）基盤整備工事に先立つものです。

今回の調査では、古墳時代の土坑群や埋甕、奈良時代の大溝や掘立柱建物跡、平安～鎌倉時代の井戸や溝などの遺構が多数検出され、古墳時代の大足や奈良時代の三彩小壺など、珍しい遺物も多数出土しました。これらの遺構・遺物は、当地域の歴史にとどまらず、日本の古代史・中世史を解明していく上でも貴重な資料となるものと確信されます。

最後に、発掘調査および遺物整理事業の実施にあたり、多大の御協力をいただきました日本鉄道建設公団国鉄清算事業本部、吹田市立博物館、摂津市教育委員会など関係各位に深く感謝するとともに、今後文化財保護に御協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成11年 3 月

財団法人 大阪府文化財調査研究センター

理 事 長 坪 井 清 足



# 例 言

1. 本書は、大阪府吹田市芝田町に所在する吹田操車場遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、日本鉄道建設公団国鉄清算事業本部の委託を受け、平成10年度に発掘調査・遺物整理事業を実施した。
3. 発掘調査・遺物整理事業は、当センター北部事務所調査第1係係長西口陽一、技師三好孝一が担当した。
4. 本報告書に掲載した遺構写真は西口・三好が、遺物写真は、北部事務所調査第1係主査平井貞子が撮影した。
5. 本調査に伴い、国土座標第VI系に基づく3級・4級基準点を設置し、トレンチ位置を明示するため単点測量を行った。標高は、東京湾標準潮位を基準とした。
6. 出土遺物・写真・図面などは、当センターが保管している。
7. 発掘調査・遺物整理事業において、下記の方々の御指導・御協力を賜った。記して感謝する。

(敬称略・順不同)

帝塚山大学名誉教授 堅田直

大阪府教育委員会文化財保護課 森屋直樹

吹田市立博物館 藤原学・増田真木・西本安秀

摂津市教育委員会生涯学習課 伊部貴雄

【調査・整理補助】 樋口玲子・波岸初美・谷口倫子・八十千里・酒井貢



# 本文目次

はしがき

例言

第 I 章 遺跡の位置と環境	1
第 II 章 調査に至る経過	2
第 III 章 調査結果	3
第 1 節 調査経過と調査方法	3
第 2 節 基本層序	6
第 3 節 遺構と遺物	7
第 IV 章 まとめ	49

# 挿図目次

第 1 図 昭和 7 年の吹田操車場遺跡（2 万 5 千分の 1）	1
第 2 図 『大阪府文化財分布図』による吹田操車場遺跡（73 番）	2
第 3 図 トレンチ単点位置図	3
第 4 図 No.19 トレンチ北東壁断面図	11
第 5 図 No.12 トレンチ、No.15 トレンチ、No.24 トレンチ、No.26 トレンチ出土遺物実測図	13
第 6 図 No.21 トレンチ、No.29 トレンチ平面図・断面図	15
第 7 図 No.31 トレンチ、No.33 トレンチ平面図・断面図	16
第 8 図 No.36 トレンチ井戸 1 断面図	17
第 9 図 No.29 トレンチ、No.30 トレンチ、No.32 トレンチ、No.36 トレンチ、No.40 トレンチ遺物実測図	19
第 10 図 No.40 トレンチ埋甕出土状況平面図・断面図	20
第 11 図 No.40 トレンチ出土須恵器大甕実測図	21
第 12 図 No.41 トレンチ井戸 1 平面図・断面図	23
第 13 図 No.41 トレンチ溝 1、井戸 1 出土遺物実測図	24
第 14 図 No.41 トレンチ、No.48 トレンチ、No.49 トレンチ出土遺物実測図	25
第 15 図 No.48 トレンチ、No.49 トレンチ平面図・断面図	27
第 16 図 No.51 トレンチ平面図上層・下層、断面図	29
第 17 図 No.50 トレンチ、No.51 トレンチ上層出土遺物実測図	30
第 18 図 No.51 トレンチ下層、No.52 トレンチ出土遺物実測図	31
第 19 図 No.53 トレンチ土坑群半割り・全掘平面図、断面図	34
第 20 図 No.56 トレンチ、No.57 トレンチ平面図・断面図	35
第 21 図 No.53 トレンチ、No.56 トレンチ、No.58 トレンチ出土遺物実測図	35
第 22 図 明治 8 年の吹田操車場遺跡（2 万 5 千分の 1）	49



## 図 版 目 次

図版 1	調査区全景	図版 2	調査区旧状	図版 3	調査区全景	図版 4	調査区全景
図版 5	遺構	図版 6	遺構	図版 7	遺構	図版 8	遺構
図版 9	遺構	図版10	遺構	図版11	遺構	図版12	遺構
図版13	遺構	図版14	遺構	図版15	遺構	図版16	遺構
図版17	遺構	図版18	遺構	図版19	遺構	図版20	遺構
図版21	遺構	図版22	遺構	図版23	遺構	図版24	遺構
図版25	遺構	図版26	遺構	図版27	遺構	図版28	遺構
図版29	遺構	図版30	遺構	図版31	遺構	図版32	遺構
図版33	遺構	図版34	遺構	図版35	遺構	図版36	遺構
図版37	遺構	図版38	遺構	図版39	遺構	図版40	遺構
図版41	遺構	図版42	遺構	図版43	遺構	図版44	遺構
図版45	遺構	図版46	遺構	図版47	遺物	図版48	遺物
図版49	遺物	図版50	遺物	図版51	遺物	図版52	遺物
図版53	遺物	図版54	遺物	図版55	遺物	図版56	遺物
図版57	遺物	図版58	遺物	図版59	遺物	図版60	遺物
図版61	遺物	図版62	遺物	図版63	遺物	図版64	遺物
図版65	遺物	図版66	遺物	図版67	遺物	図版68	遺物
図版69	遺物	図版70	遺物	図版71	遺物	図版72	遺物
図版73	遺物	図版74	遺物				

## 表 目 次

第 1 表	トレンチ位置測量成果表	4・5
第 2 表	遺物観察表	38～46
第 3 表	トレンチ一覧表	47・48

# 第 I 章 遺跡の位置と環境

吹田操車場遺跡は、行政区画では吹田市芝田町に所在している。標高9～10mで、千里丘陵との地形変換点近くの平坦な段丘上に立地している（第1図）。この遺跡は、昭和42年4月、旧国鉄吹田操車場に於ける道路・側溝工事で遺物が出土したため発見されたものである。遺跡の範囲は、旧国鉄吹田工場内遺物発見地と合わせて、東西170m、南北430mと推定されている。

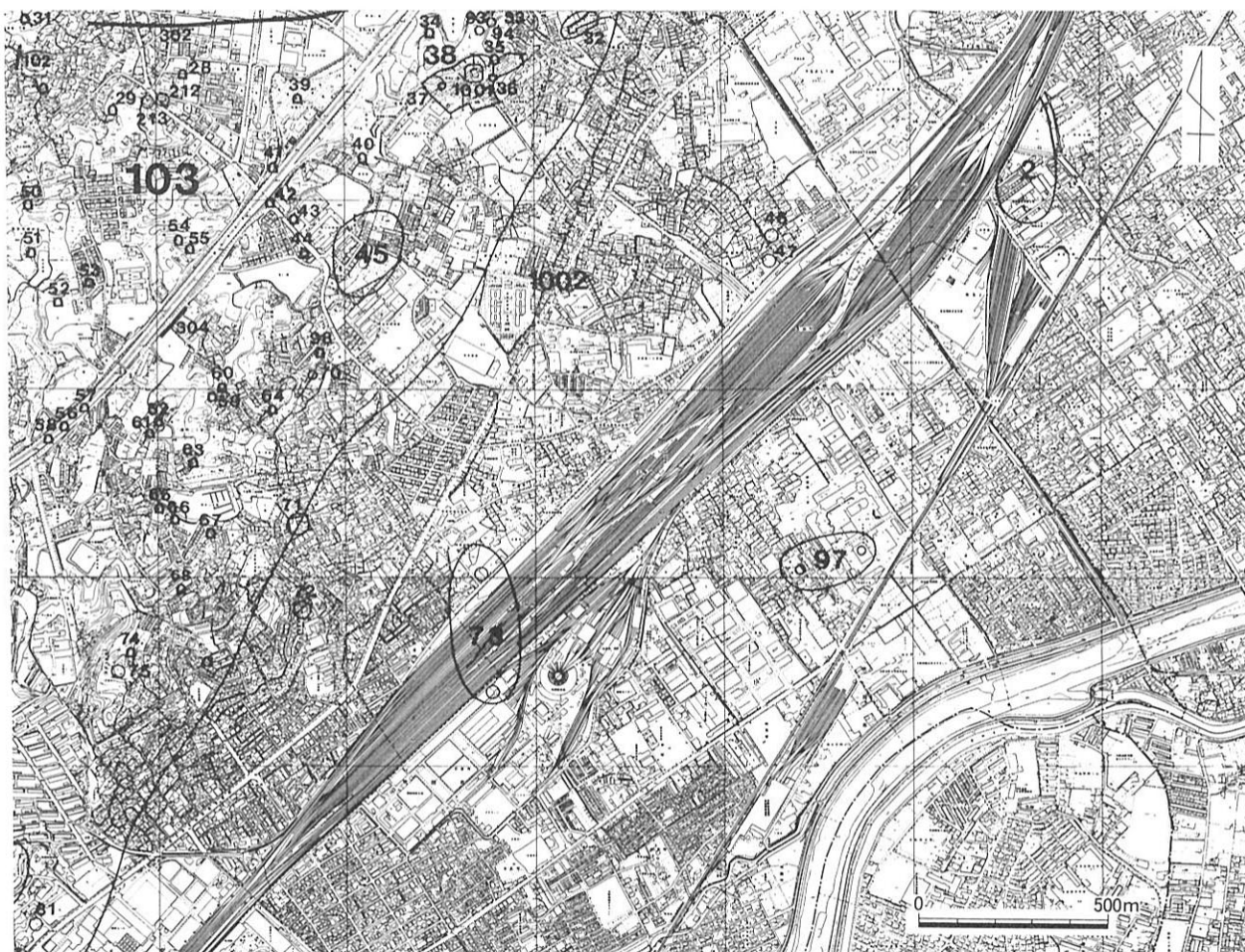
この遺跡周辺には、平成3年3月発行の『大阪府文化財分布図』によると（第2図）、多数の遺跡が発見されている。2番の遺跡は、弥生時代から戦国時代にいたる建物跡・水路跡や土器類が発見された摂津市明和池遺跡である。97番は、大阪学院大学構内で古墳～奈良時代の遺物が発見された中ノ坪遺跡である。73番が、古墳～鎌倉時代の集落跡？である吹田操車場遺跡である。72番が、今は消滅してしまったが、須恵器提瓶が発見された円塚古墳である。71番が、奈良時代の掘立柱建物・溝・土坑が検出された片山東屋敷廻遺跡である。45番が旧石器・縄文時代の石器が採集された吉志部遺跡である。103番が



第1図 昭和7年の吹田操車場遺跡（2万5千分の1）

古墳時代の須恵器窯跡群である釈迦ヶ池窯跡群である。38番が平安宮供給瓦窯として国史跡に指定された吉志部瓦窯跡である。32番が、聖武朝難波宮供給瓦窯として国史跡に指定された七尾瓦窯跡である。46・47番が須恵器出土地である。

このように、この吹田操車場遺跡周辺には、近年の発掘調査により、多数の遺跡が発見され、府指定有形文化財である1001番の吉志部神社本殿や1002番の三島街道などの歴史的建造物・旧街道も含めた歴史的遺産の豊富な地域と指摘することができる。



第2図 『大阪府文化財分布図』による吹田操車場遺跡（73番）

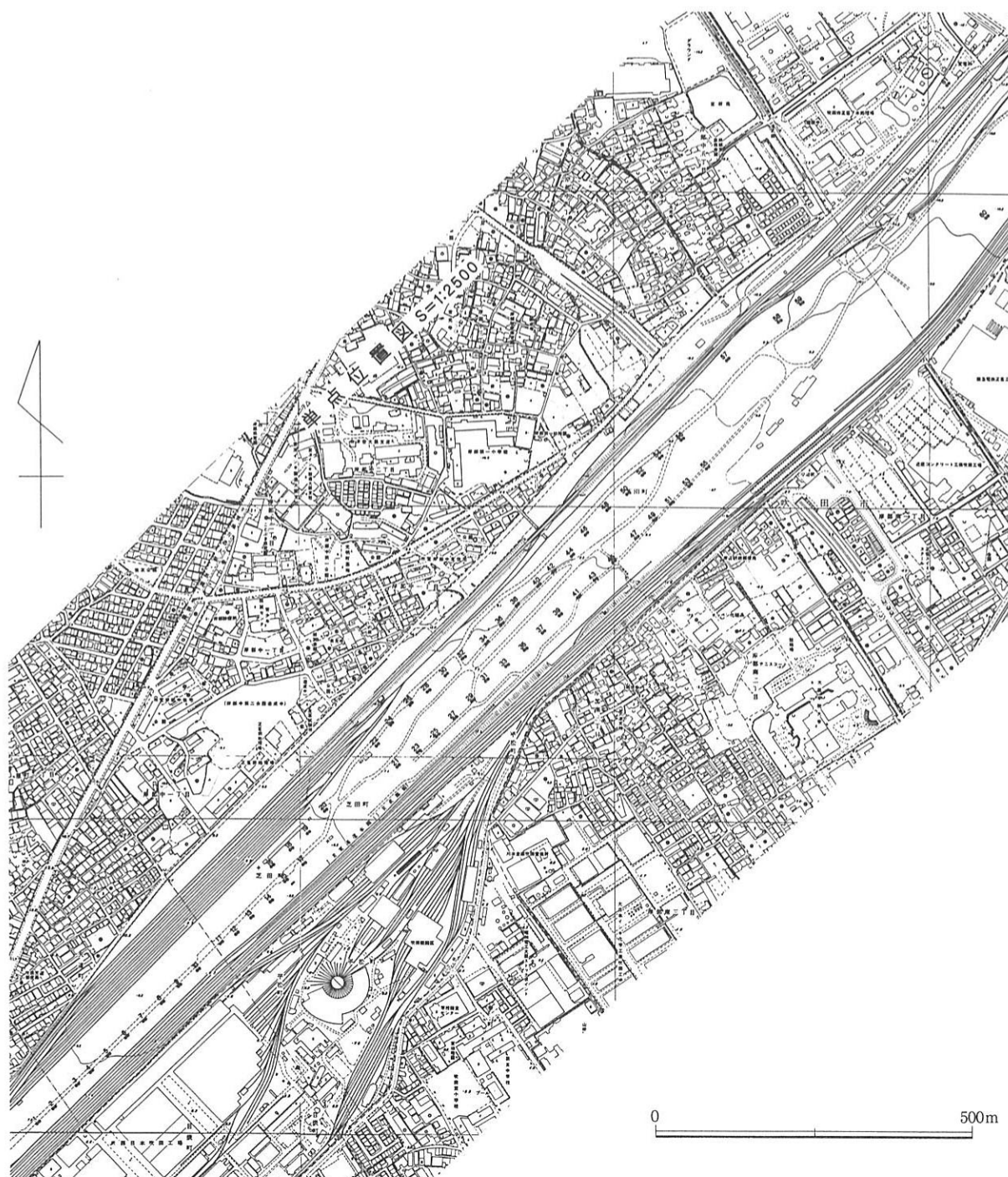
## 第II章 調査に至る経過

JR梅田貨物駅（大阪市北区）の機能の半分を旧国鉄吹田操車場跡地へ移転することを計画した日本鉄道建設公団（旧国鉄清算事業団）は、同用地内に周知の遺跡である「吹田操車場遺跡」があるため、取扱いについて、大阪府教育委員会に協議を求めた。大阪府教育委員会では、同用地が大正時代以来操車場として機能してきたため文化財調査が全く行われてこなかった点や同用地の面積が市街地の中にあって約50ヘクタールと広大なこと、近年、隣接する岸部中地区や天道、目俵地区で遺跡発見が相継いだことから、同用地内に試掘トレンチを60箇所設定し、遺跡範囲の確定、遺構存在の有無、遺構面の枚数、遺構の種類などを調べることにした。調査は、(財)大阪府文化財調査研究センターが当たることとした。

# 第Ⅲ章 調査結果

## 第1節 調査経過と調査方法

平成10年10月、調査区南西端のNo.1トレンチから調査を開始した。以降、No.20トレンチまで、40m間隔で北東に向けて調査は進んだ。No.21トレンチからは南北60m離れて2列にトレンチが存在するため、



第3図 トレンチ単点位置図

第1表 トレンチ位置測量成果表

トレンチ名	X	Y	H
1-1	-136987.006	-42920.442	7.848
1-2	-136984.414	-42917.847	7.856
2-1	-136963.267	-42895.873	7.856
2-2	-136961.000	-42893.180	7.829
3-1	-136926.243	-42858.005	7.991
3-2	-136923.591	-42855.419	8.011
4-1	-136905.042	-42836.068	7.916
4-2	-136902.529	-42833.392	7.886
5-1	-136878.011	-42807.857	7.953
5-2	-136875.403	-42805.210	7.904
6-1	-136849.551	-42778.880	7.941
6-2	-136846.905	-42776.313	7.893
7-1	-136821.886	-42750.386	8.004
7-2	-136819.352	-42747.734	7.978
8-1	-136793.266	-42721.655	7.941
8-2	-136790.780	-42719.009	7.940
9-1	-136765.380	-42692.893	7.897
9-2	-136782.839	-42690.220	7.920
10-1	-136738.863	-42663.082	7.922
10-2	-136736.361	-42660.333	7.880
11-1	-136697.875	-42626.548	7.983
11-2	-136694.517	-42623.208	7.984
12-1	-136682.070	-42602.691	7.886
12-2	-136678.694	-42599.356	7.821
13-1	-136656.485	-42578.338	7.804
13-2	-136652.755	-42573.973	7.818
14-1	-136630.258	-42547.397	8.466
14-2	-136627.657	-42544.720	8.427
15-1	-136597.402	-42524.492	7.895
15-2	-136594.149	-42521.032	8.059
16-1	-136574.484	-42545.278	7.793
16-2	-136570.624	-42541.213	7.837
17-1	-136570.711	-42494.931	7.929
17-2	-136568.061	-42492.270	7.998
18-1	-136547.683	-42515.691	7.861
18-2	-136543.688	-42511.575	7.823
19-1	-136520.775	-42487.651	7.441
19-2	-136518.231	-42484.980	7.431
20-1	-136485.493	-42459.815	7.749
20-2	-136483.180	-42457.578	7.764
21-1	-136414.059	-42344.240	7.520
21-2	-136409.829	-42340.264	7.574
22-1	-136380.875	-42378.015	8.068
22-2	-136376.831	-42374.049	8.015
23-1	-136390.923	-42311.981	7.565
23-2	-136387.355	-42307.561	7.606
24-1	-136347.810	-42354.721	8.038
24-2	-136343.255	-42350.995	8.042
25-1	-136364.387	-42281.505	7.539
25-2	-136360.175	-42277.509	7.597
26-1	-136315.185	-42323.163	7.988
26-2	-136310.848	-42319.332	8.010
27-1	-136336.081	-42253.213	7.622
27-2	-136331.838	-42249.168	7.580
28-1	-136293.761	-42295.266	7.960
28-2	-136290.008	-42290.937	7.949
29-1	-136307.696	-42224.873	7.656
29-2	-136303.839	-42220.690	7.716
30-1	-136266.614	-42266.084	8.010
30-2	-136262.359	-42262.156	8.015
31-1	-136273.687	-42201.839	7.867

トレンチ名	X	Y	H
31-2	-136270.070	-42197.620	7.912
32-1	-136238.059	-42237.955	8.034
32-2	-136233.943	-42233.734	8.061
33-1	-136250.306	-42169.397	7.922
33-2	-136246.315	-42165.817	7.948
34-1	-136214.871	-42201.734	7.990
34-2	-136210.749	-42197.882	8.066
35-1	-136233.219	-42139.978	8.030
35-2	-136219.427	-42136.107	8.064
36-1	-136185.293	-42177.082	8.119
36-2	-136181.283	-42173.488	8.151
37-1	-136191.057	-42107.610	8.021
37-2	-136195.584	-42111.437	8.012
38-1	-136149.304	-42148.476	8.260
38-2	-136153.116	-42152.680	8.219
39-1	-136163.529	-42079.697	8.137
39-2	-136167.434	-42083.670	8.096
40-1	-136116.889	-42113.386	8.228
40-2	-136120.997	-42117.290	8.249
41-1	-136134.475	-42050.827	8.284
41-2	-136138.598	-42054.434	8.292
42-1	-136095.488	-42089.606	8.264
42-2	-136099.380	-42093.648	8.249
43-1	-136106.514	-42022.434	8.306
43-2	-136110.484	-42026.318	8.286
44-1	-136068.301	-42060.419	8.375
44-2	-136072.127	-42063.832	8.323
45-1	-136078.154	-41993.880	8.232
45-2	-136081.901	-41997.909	8.263
46-1	-136034.508	-42037.501	8.363
46-2	-136038.863	-42041.387	8.318
47-1	-136050.148	-41965.629	8.259
47-2	-136053.995	-41969.757	8.203
48-1	-136005.092	-42010.708	8.375
48-2	-136009.307	-42014.581	8.369
49-1	-136021.710	-41937.167	8.273
49-2	-126025.103	-41940.551	8.201
50-1	-135980.259	-41979.936	8.326
50-2	-135983.792	-41983.431	8.325
51-1	-135993.645	-41909.059	8.315
51-2	-135997.936	-41913.126	8.332
52-1	-135948.571	-41954.300	8.425
52-2	-135952.911	-41958.034	8.399
53-1	-135965.295	-41880.435	8.388
53-2	-135969.333	-41884.396	8.367
54-1	-135920.598	-41926.453	8.450
54-2	-135925.069	-41929.944	8.452
55-1	-135937.404	-41852.233	8.331
55-2	-135941.454	-41856.045	8.327
56-1	-135892.497	-41892.908	8.557
56-2	-135896.971	-41896.386	8.542
57-1	-135764.751	-41818.274	8.903
57-2	-135767.828	-41822.397	8.907
58-1	-135703.090	-41735.506	9.103
58-2	-135706.522	-41739.894	9.141
59-1	-135672.908	-41699.660	9.314
59-2	-135676.680	-41703.791	9.347
60-1	-135530.641	-41403.752	9.732
60-2	-135535.199	-41406.862	9.719
61-1	-135320.839	-41464.163	11.200
61-2	-135325.354	-41467.710	11.219

北側のトレンチを先行し、No.55トレンチからNo.21トレンチへと引き返し、平成10年12月、すべてのトレンチの調査を終了した。

各トレンチは4 m×4 mで、掘削深度は地表下2 mと設計されたが、実際は安全基準を満たすため、勾配を付けて掘削された。

掘削方法は、大正8年から12年にかけて完成し、その後も拡張が繰り返され、東洋一と称された吹田操車場以前の田んぼの耕土層より上層を機械掘削し、それ以下地山層までを人力掘削した。

また、トレンチ位置については、事前の立会を受け、架空線・地下埋設物を避けた安全な位置に移動した。

掘削途中で地下埋設物（下水・水道・電気ケーブルなど）が発見された場合は、すべて現状保存することとし、下層への掘削は行わなかった。

途中、摂津市域に1箇所、日本鉄道建設公団（旧国鉄清算事業団）の依頼で、試掘箇所を追加した。

遺構や遺物が各トレンチから多数検出されだした平成10年11月になって、大阪府教育委員会から調査結果を発行する旨、伝えられたので、試掘調査から本調査へと発掘方法を変更した。

各トレンチの位置は、測量会社に委託し、基準点・単点測量を行った（第3図、第1表）。

各トレンチの調査状況は、その都度、大阪府教育委員会や吹田市・摂津市の立会を受け、すべて埋戻し、現状復旧した。

平成11年1月から3月まで遺物整理事業を行い、本書の刊行を以て、終了した。

## 第2節 基本層序

吹田操車場遺跡の立地は、平坦な段丘上にある。

千里丘陵に面した北西側が高く、安威川側の南東側が低い。また、南西方向では、東海道線千里駅側が高く、南西部の吹田駅側が低い。

吹田操車場遺跡の現地表面は、枕木やレールの面である。その下の30 cm程は、バラス層である。その下50 cm～1.8 mは、粘土層である。両層は、共に大正時代以降に新しく操車場の地上げのために盛られた層である。以上の新盛土層を除去すると、旧の田圃の耕土層が現れる。

吹田操車場遺跡一帯には、田圃の地割りに条里遺構がよく残っており、吹田操車場遺跡は、その条里遺構の北端部分に当たっている。

田圃の耕土層およびその下にある粘土層中には、近世・近代の陶磁器片が含まれていた。

耕土・床土層の下には、遺物包含層の残っているトレンチと、残ってなくてすぐに地山層の検出されたトレンチとがあった。各トレンチごとの層序の様子は、本書第三章第3節に詳しいが、基本的には、厚さ数 cm から1 mに及ぶ遺物包含層の中に、旧石器・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・戦国時代の遺物が多数含まれていた。

吹田操車場遺跡の地山層は、自然河川が検出された箇所以外は、すべて、黄色や灰色の固い粘土層であった。No.36トレンチでは、洪積段丘が形成されてからの、その表面を覆う黄色粘土層中から著しく風化したサヌカイト製剥片石器が出土し、時期決定の資料となった。

### 第3節 遺構と遺物

遺構・遺物の記述に先立って、今回の調査の経過と経緯について、若干の補足を行っておきたい。

今回の調査は、調査区南西端のNo.1トレンチから開始した。No.1トレンチからNo.20トレンチまでは、北東に向かって番号通りに調査した。No.21トレンチからNo.56トレンチまでは、南北に2列並行してトレンチが設定されていた。南北間の重機の移動が、雑草や溝のため困難だったので、まず、No.22トレンチからNo.56トレンチまで、偶数番号のトレンチを北東向きに調査し、No.55トレンチからNo.21トレンチまでは、逆に南西に向かって奇数番号のトレンチをさかのぼって、調査した。また、No.1トレンチからNo.30トレンチまでは、試掘調査の判断だったので、遺構掘削は行わず、遺構面検出で調査を終了した。No.32トレンチからは、重要な遺構・遺物の出土が相継いだので、随時、遺構掘削も行い、時期・性格を判断する資料も得ることとなった。また、調査区の大きさも、4m×4mが基本であったが、現地の状況により、種々の変更を余儀無くされた。また、勾配を付けて掘削するため、トレンチ底面での大きさも壁面の状態・掘削深度・湧水状況・障害物の有無等によって、種々なものとなった。

#### ①. No.1トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。トレンチ中央に地表下0.7mで、電車の枕木によって保護された電気ケーブルが検出されたので、北西側半分のみを調査した。地表下1.9mで、旧の耕土・床土層を検出した。その下には、遺物包含層と推定される厚さ30cmの暗茶褐色粘質土層が存在した。その下には、酸化鉄が厚く沈着した遺構面らしき面が存在したが、湧水が激しく、調査不可能だった。したがって、遺物・遺構の有無は不明である（図版5a）。

#### ②. No.2トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1.9mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ35cmの灰褐色粘質土が堆積し、平安時代中期の黒色土器碗（内黒）・土師器小皿などが包含されていた。その下には、酸化鉄が厚く沈着した遺構面が検出された。北西から南東にかけて直線的に伸びる幅20cmの溝や径10~40cmの円形ピットから5個検出された。埋土は、暗灰黒色の砂質粘土であった。溝の埋土上にピットが検出されたことから、遺構の時期も複数と判明した。地山は、黄褐色の固い洪積粘土層であった。遺構の時期は、掘削していないので不明である（図版5b）。

#### ③. No.3トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1.5mで、旧の耕土・床土層が起伏をもって検出された。その下には、厚さ23cmの耕土層を踏み荒らしたような汚い暗灰色粘質土があり、平安時代の土師器碗や須恵器片が出土した（図版6a）。北東部の壁面に径33cm深さ24cmのピット断面が部分的に残っていた。埋土は黒色粘質土で、平安時代の土師器細片が包含されていた（図版6b）。

#### ④. No.4トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ3cmの茶褐色砂礫層があり、洪水砂と考えられた。その下には、淡い黄灰色粘土層があり、部分的に暗灰色粘土が混じていたので、20cm掘り下げたが、無遺物・無遺構だった（図版7a）。

#### ⑤. No.5トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、地山層である黄灰色粘土層があった。南東側で、耕土層の落ちが認められたので、15cm掘り下げたが、



無遺物・無遺構だった（図版7 b）。

⑥. No. 6 トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。耕土層中には、近世瓦や18世紀後半の伊万里焼くらわんか茶碗などが包含されていた。その下には、地山層である灰緑褐色粘土層があった。湧水が激しい中、さらに10cm掘り下げたが、無遺物・無遺構だった（図版8 a）。

⑦. No. 7 トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1mで、レールの枕木で保護された電気ケーブルが検出されたので、北西側半分のみ調査した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、地山層である黄褐色粘土層があった。無遺物・無遺構だった（図版8 b）。

⑧. No. 8 トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下70cmで、レールの枕木で保護された電気ケーブルが検出されたので、北西側半分のみ調査した。地表下1.1mで、厚さ15~20cmの汚れた灰茶褐色粘質細砂層と厚さ12cmの淡い灰褐色細砂層が検出された。共に遺物は包含されていなかった。また、このトレンチ北西部では、旧の耕土・床土層が存在しておらず、田圃ではなかったことが推定された。トレンチ北西部の南東寄りの部分では、北西部から南東部にかけて、溝の肩部分が検出された。溝底には、旧の耕土層が落ち込み、肩部には、土留めの長い木杭が80cm間隔で打ち込まれていた。近世~近代にかけての水路が存在した様子である。また、トレンチ北西部の北東寄りの箇所、地山層上に長径20cm短径16cmの楕円形ピットを1個検出した。埋土は、暗灰褐色粘質土層だった。掘削していないので、時期は不明である（図版9 a）。

⑨. No. 9 トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、調査区南東端では20cmの厚さの旧耕土層を除去すると、地山層である暗灰色粘土層が検出されたが、北西側では、深い河川内堆積層である灰色砂層が検出された。地表下1.7mまで掘削したが、遺物は出土せず、非常に固く締まっていた層なので、洪積世の段階の河川跡と考えられた（図版9 b）。

⑩. No.10 トレンチ

3.7×3.7mのトレンチを設定した。地表下1.8mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、地山層である黄灰色粘土層があった。トレンチ北西部には、幅50cm深さ10cm程の溝が検出された。旧耕土層が落ち込んでいたので、近世~近代の溝と考えられた。遺物は出土せず、他に遺構もなかった（図版10 a）。

⑪. No.11 トレンチ

4.7×4.7mのトレンチを設定した。地表下1mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、無遺物の厚さ12cmの暗灰色シルト層が堆積していた。このトレンチは、後世の攪乱がひどく、縦横に地山である黄灰色粘土層の面が損壊されていた。地山面に、遺構は5個検出された。北西側から、南北54cm東西40cmの楕円形ピット、南北110cm東西60cm以上の方形土坑、南北17cm東西15cmの小楕円形ピット、南北20cm東西18cmの楕円形ピット、南北54cm東西34cmの楕円形ピットである。これ以外にも北西壁の壁面中にも土坑1基やピット2個の断面がかかっており、遺構は調査区以外にも広く続いていることが判明した。旧の耕土層やピット埋土中から、鎌倉時代の瓦器碗・三足、土師器鍋・羽釜などが出土しているので（図版47 a）、遺構の時期もその時期のものかと推定された（図版10 b）。

#### ⑫. No.12 トレンチ

4.7×4.7mのトレンチを設定した。地表下90cmで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ10cmの暗灰色砂質土が堆積していた。その下には、厚さ10～20cmの灰褐色土が堆積していた。この層の中には、鎌倉時代の瓦器碗・三足、土師器小皿、青白磁合子蓋、青磁碗などの中世土器が多量に含まれていた。中には、縄文時代後期の金山産サヌカイト製平基式石鏟や古墳時代後期の須恵質陶棺などの古い時代の遺物も混じっていた。鎌倉時代の玉縁式丸瓦も出土したことから、近くに寺跡の存在も推定された（図版47b・c、48a）。

遺物包含層の下、黄灰色粘土の地山面に、北西から南東にかけての幅30cmの直線的な溝と、一辺45cmの隅丸方形ピット、径30cmの円形ピット、長辺2.5m短辺2mの大きな長方形の土坑が2基並んで検出された。溝は土坑を切って掘られているので、遺構には時期差のあることも判明した。遺構の埋土は、黄色粘土がブロック状に混じる暗灰色粘土であった。遺構の掘削は行っていないので、時期は不明である（図版11a）。

#### ⑬. No.13 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下50cmで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ12cmの黄灰色砂質土が堆積していた。この層の上位には、厚さ5cm程の層となって、マンガン・鉄分が多量に沈着していた。江戸時代後期の伊万里焼や湊焼の磁器破片などが出土した。その下には、厚さ20cmの灰褐色砂質土が堆積していた。この層の中には、鎌倉時代の瓦器碗・三足、東播ねり鉢、土師器小皿、白磁碗、青磁碗などの中世土器が多量に含まれていた。中には、弥生時代中期の二上山産サヌカイト製凸基有茎式石鏟や古墳時代?の袋柄鉄斧、奈良時代前期の格子目叩きの平瓦などの古い遺物も混じっていた。竹芯入りの焼土片も出土し、土壁が火を受けた結果と考えられた（図版48b）。

この遺物包含層の下、灰褐色砂質土の面に、ピット6個、溝2本、土坑1基が検出された。溝は、北西から南東にかけての幅30cmの直線的な溝と、北東から南西に伸びる長さ1.4m幅30cmの短い溝である。北西から南東に伸びる溝は、No.2 トレンチやNo.12 トレンチでも検出されており、恐らく、中世の時期に現存する状里の方向と一致する向きで土地区画がなされた結果の溝と考えられた。ピットは、径20～50cmまでのいずれも円形のもので、埋土は暗灰色粘質土で、一部断面から、瓦器碗が出土した。中世の掘立柱建物跡群の存在が判明した。土坑は、その一部分が調査区東隅で検出されたのみである（図版11b）。この遺構面の下層20～25cmにも遺構面の存在することが、側溝断面により明らかであった。また、さらに下層にも水田址の存在が推定される土壌化した層が続いていた。いずれも、試掘調査のため、上層遺構保護のため掘削していない。したがって、詳細な時期も不明である。

#### ⑭. No.14 トレンチ

3.2×3.7mのトレンチを設定した。調査区北東側で、地表下1.5mの位置に大きなコンクリート擁壁が検出されたため、調査区南西側のみ掘り下げた。地表下1.6～1.7mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、暗灰色の砂層が検出されたが、湧水が激しく、壁面崩壊が始まりだしたので、それ以上の掘削を中止した。したがって、遺物の出土はなく、遺構の有無も不明である（図版12a）。

#### ⑮. No.15 トレンチ

3.7×4.7mのトレンチを設定した。地表下1.3mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、上位に鉄分が沈着した厚さ18cmの灰色砂質土や全体に鉄分が沈着した厚さ10cmの茶灰色砂質土、厚さ13cmの暗灰色粘質土が堆積していた（図版12b）。地山である暗青灰色シルト層上に遺構は認められなかつ

た。しかし、暗灰色粘質土や地山上からは、多数の瓦器椀・三足、土師器羽釜・高台付き皿・鍋、十瓶焼壺、常滑焼甕、白磁碗などの中世土器や珍しいフイゴの羽口片などが出土した。中世瓦も出土し、窯壁片も出土したことから、近くに寺跡および寺に使用する瓦焼成用の瓦窯の存在が推定された（図版49 a、50 a）

#### ⑯. No.16トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下55cmで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、汚れた厚さ10~20cmの灰褐色砂質土が堆積していた。この層の中には、平安時代?の須恵器杯や土師器鍋、鎌倉時代の土師器小皿などが含まれていた（図版50 b）。地山面である灰褐色砂質土上には、溝1本、土坑1基、ピット8個が検出された。いずれも埋土は暗灰色粘質土であった。溝の大きさは、幅15cm長さ110cm、土坑は調査区南西隅に伸びていたが、長さ130cm幅65cm以上の小判形を呈していた。ピットは、径が20~30cmの円形を呈する小さなものが多かった（図版13 a）。遺構の時期は掘削していないので不明だが、ピットの大きさからすると、中世の掘立柱建物跡群かと推定された。

#### ⑰. No.17トレンチ

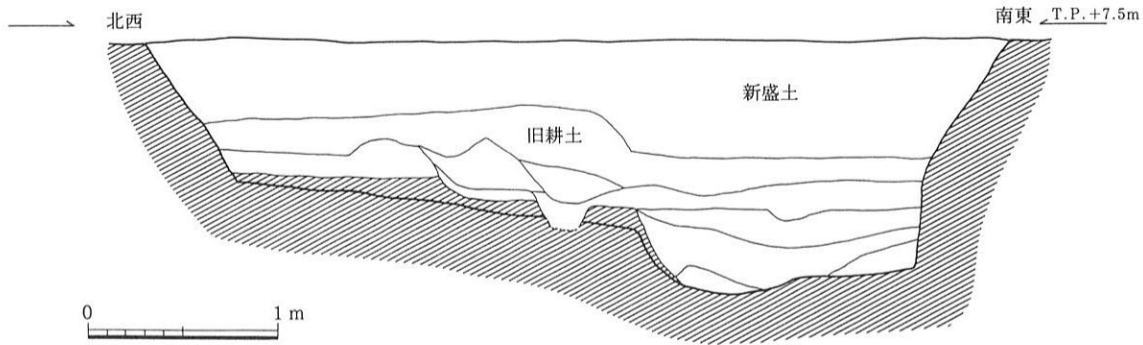
3.2×3.7mのトレンチを設定した。地表下1.3mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ20cmの明灰色砂層が堆積し、その層中から平安時代?の須恵器甕や白磁碗、鎌倉時代の東播ねり鉢、常滑焼、天目茶碗などの他、近世の京焼系磁器や伊万里焼などの新しい土器も混じって出土した。地山面である黄褐色粘質土上に、遺構は検出されなかった（図版13 b）。

#### ⑱. No.18トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ10cmの暗灰色シルト層が堆積していた。この層中からは、古墳時代?の須恵器甕や平安~鎌倉時代の瓦器椀や白磁碗の他、戦国時代の瀬戸・美濃焼の灰釉菊皿なども出土した（図版50 c）。地山面である灰褐色シルト層上には、土坑3基、ピット1個が検出された。土坑のうち、調査区西隅で検出された土坑は隅丸方形気味で、一辺が170cmと190cm以上もある大きなもので、あるいは井戸であるのかも知れなかった。他の2基の土坑も150×100cmと90×90cm以上のものであった。ピットも50×55cmの隅丸方形の大きなもので、埋土中に土師器片の含まれているのが確認された（図版14 a）。これらの大土坑群も掘削していないため、時期は不明である。

#### ⑲. No.19トレンチ

3.7×4.7mのトレンチを設定した。地表下40cmで、旧の耕土・床土層が検出された。旧の耕土・床土層は、調査区中央部で北東から南東にかけて20cm南東側に落込んでおり、旧の田圃に段差のあったことが判明した。調査区北西側では、旧の耕土・床土層の下に厚さ20cmの灰褐色砂質土が堆積していた。この層の上位には、茶褐色の酸化鉄が沈着し、中位以下には暗茶褐色の鉄分・マンガンが多量に沈着していた。この層中からは、瓦器椀・土師器小皿が出土し、鎌倉時代の遺物包含層であることが判明した。調査区南東側では、調査区北西側で検出された灰褐色砂質土はなく、幾度も溝が掘り返された断面が検出された。最下層からは、幅1.5m以上深さ45cmの溝が検出された（図版14 b）。溝の向きは、北東から南西にかけてで、最下層から平安時代頃と推定される土師器鍋?がほぼ完形で出土した。ただ、外面の風化が著しく、底部のみ取り上げ可能であった（図版50 d）。地山面は、北西側と南東側では、50cmの段差が認められた。



第4図 No.19トレンチ北東壁断面図

㊦. No.20トレンチ

2.7×3.2mのトレンチを設定した。地表下1.3mで、旧の耕土・床土層が検出された。耕土層中には、江戸時代後期の伊万里焼系磁器破片が包含されていた。旧の耕土・床土層の直下に、地山層である灰黄色粘土層が検出された。中・近世の堆積層が一切ないことから、後世、地山層まで削平・整地されていた様子である。調査区北東部の地山層上に、長径30cm短径25cmの円形ピットが1個検出された。埋土は、暗灰色粘質土で、時期は掘削していないので、不明である（図版15a）。

㊧. No.21トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.7mで、旧の耕土層が検出された。耕土層のすぐ下には、厚さ2～4cmの灰色細砂層が堆積し、洪水による砂の堆積と考えられた。その下には、厚さ8cmの暗灰黄色粘質土層が堆積し、床土層と考えられた。その下には、厚さ40cmの遺物包含層が存在した。遺物包含層は、上2層は暗灰色粘質土層と暗灰色粘土層で、近世陶磁器片が出土し、下2層は暗灰褐色粘質土層と灰茶褐色粘質土層で、黒色土器や瓦器碗、土師器小皿、内面に布目痕のある製塩土器片などが出土した。

遺構面は、2面検出され、灰茶褐色粘質土層が堆積した上から掘られた溝が調査区中央の北西から南東にかけて緩やかに蛇行して検出された（溝1）。幅40cmで、埋土は暗茶褐色粘質土層で、遺物は出土しなかった。もう1面の遺構面は、地山の黄灰色粘土層上で検出されたもので、やはり幅40cmの溝が、調査区の南西端で、北西から南東に向けて直線的に検出された（溝2）。埋土は暗灰茶褐色粘質土層で遺物は出土しなかった。溝2は、No.2トレンチやNo.12・No.13トレンチで検出された溝と同じ向きを示しており、中世頃、この地域に施行された可能性のある条里区画に規制されたものと考えられた（図版15b）。

㊨. No.22トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に厚さ10cmの灰色シルト層があり、古墳～奈良時代の須恵器甕・土師器甕・近世陶磁器片などが出土した。灰色シルト層の下に地山面である灰黄褐色砂質土層が現れ、7本以上のスキ溝がほぼ並行して検出された。スキ溝の方向は、北西から南東にかけてで、北西側ほど良く残っていた。スキ溝の長さとは幅は、南西側から、長さ210cm幅16cm、長さ55cm幅15cm、長さ60cm幅14cm、長さ120cm幅15cm、長さ130cm幅16cm、長さ55cm幅14cm、長さ80cm幅20cmであった。埋土は、いずれも暗灰色粘質土層で、深さおよび時期はいずれも掘削していないため、不明である。スキ溝の方向は北西から南西にかけてで、やはり条里に規制さ

れた結果と考えられることから、時期も中世頃かと推定された（図版16 a）。

#### ㉓. No.23 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。調査区南西壁面に、径1.6mの木枠の野井戸が半分検出された。新しい時期のものであることが、土層断面の観察から明らかであったため、掘削しなかった。耕土・床土層の下には、厚さ32cmの遺物包含層があった。上層は、厚さ5cmの暗灰色粘質土層で、中層は、厚さ17cmの暗灰色粘土層で、下層は、厚さ10cmの暗灰褐色粘土層である。朱に、下層から、瓦器碗や土師器小皿、須恵器甕片、馬か牛の脚の骨（図版50 e）などが出土した。遺物包含層を除去すると、地山層である黄灰色粘土層が現れ、調査区西隅で北西から南東に伸びる溝の一部を検出した（図版16 b）。溝の長さは1.3m、幅は北西端で75cm、南東端で26cm、深さは11cmと浅く、埋土は暗灰色粘質土層で、遺物は出土しなかった。溝の南東端は削平を受けて存在していなかった。溝の時期は、下層遺物包含層の時期、すなわち鎌倉時代頃と推定された。

#### ㉔. No.24 トレンチ

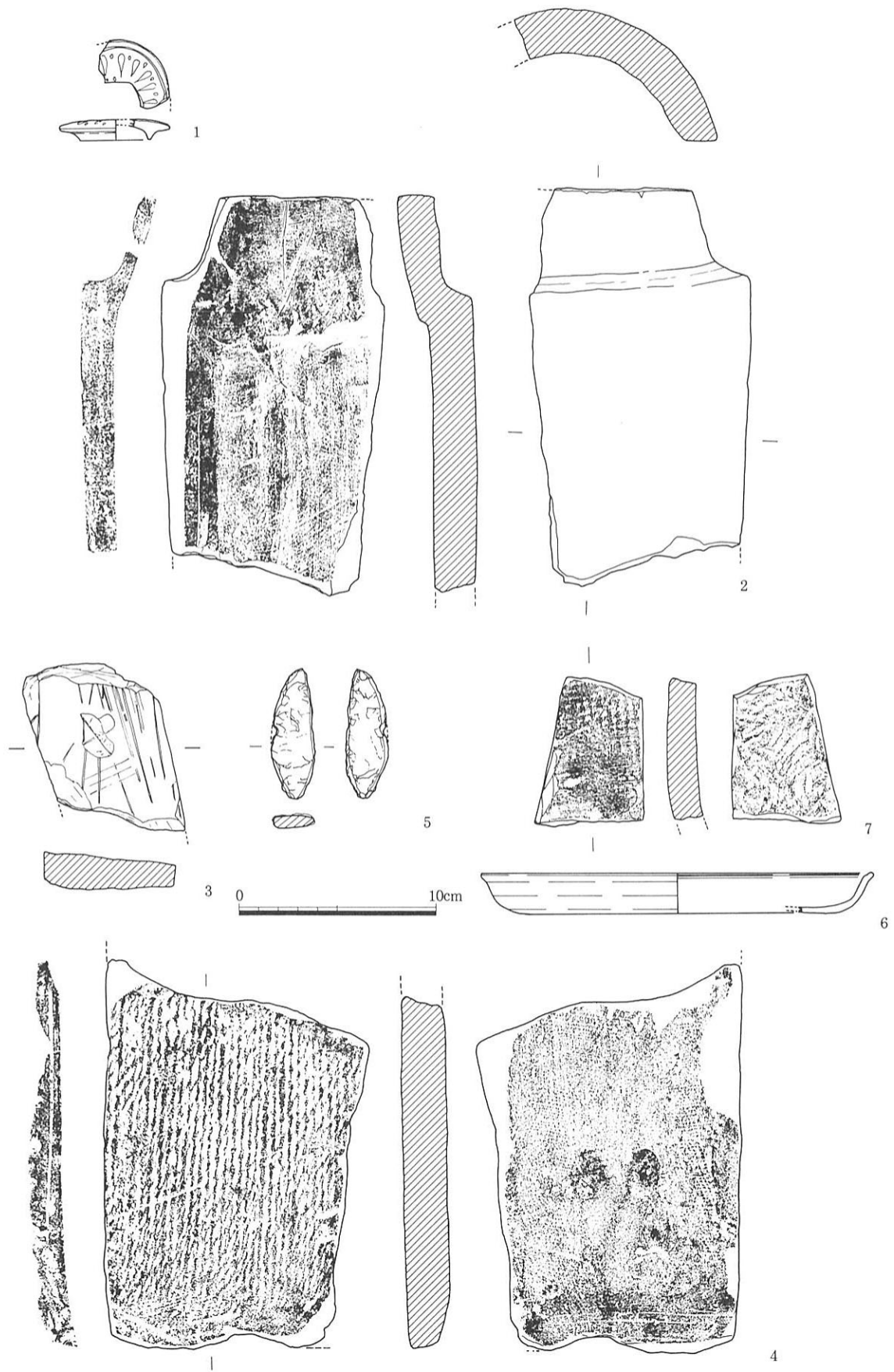
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.8mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ30cmの遺物包含層があった。遺物包含層は、灰色砂層で、鉄刀子や奈良～平安時代の須恵器杯、甕瓦器碗、土師器、近世陶磁器などが出土した（図版50 f）。灰色細砂層を除去すると、地山層である灰茶褐色砂質土層上に、溝1本、土坑3基を検出した（図版17 a）。溝は、調査区北西壁に平行する幅67cm以上のもので、その南東肩部のみ検出された。土坑は、溝と並行するように検出された2つの溝状のもので、西側のものは、幅107cm、東側のものは、幅130cmあり、20cmの間隔をあけて並んでいた。もう1基の土坑は、長さ121cm幅80cmの隅丸長方形のもので、一部分試掘してみると、深さ20cmと浅いものであった。埋土中に須恵器・土師器の細片が含まれていたが、詳細な時期は不明であった。この隅丸長方形の土坑は、溝状の土坑を切っているもので、遺構に新旧の時期差のあることが判明した。その他の遺構は掘削していないので、内容は不明である。

#### ㉕. No.25 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ60cmの古代～近世にかけての堆積層が5層にわたって検出された。その最下層に、厚さ5cmの汚れた暗灰褐色粘質土層が検出された。遺物包含層と推定されたが、トレンチ底面の2.6×2.6mの狭い調査範囲内では、遺物の出土はなかった。その下に、地山層である固い茶灰色粘土層が検出され、調査区南西側に北西から南東向きの溝が検出された。溝は、その西肩のみが検出され、幅90cm深さ40cm以上あり、かなり大きな深い溝になると推定された。溝の埋土は、調査区中央で検出された暗灰褐色粘質土層が最下層に落込んでいて、同層中から古墳時代頃と推定される須恵器甕と土師器片が出土した。なお、この溝の上層部では、旧の耕土層も溝状に落込んでおり、そのさらに上層部では、現代のコンクリート製水路も同じ向きに設置されていた。代々、この場所に溝は掘り続けられていた様子である（図版17 b）。

#### ㉖. No.26 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ17cmの灰褐色土があり、江戸時代のくわんか茶碗が出土した。その下には、厚さ17cmの暗灰色土があり、多量の奈良・平安・鎌倉時代の土器が出土した。主なものは、奈良時代の須恵器（図版51 a）、土師器（図版51 b）で、周囲を磨いた須恵器甕片（図版51 c - 1）や玉縁式丸瓦片（図版51 c - 2・3）、緑釉皿（図版51 b - 4）、軽石混じりの製塩土器（図版51 b - 6～8）などもあった。その下に、地山



第5図 No.12トレンチ (1~3)、No.15トレンチ (4)、No.24トレンチ (5)、No.26トレンチ (6・7) 出土遺物実測図

層である黄褐色～緑灰色をした砂質土層上に遺構が検出された。遺構は、調査区西と北の隅に検出された、共に一辺が1.5m以上もある大きな土坑2基と2基の土坑に挟まれた位置に小判形の土坑1基と径30～70cmのピット3個である(図版18a)。調査区北隅で検出された土坑1の中からは、たまたま調査用に掘られた側溝中から混入と考えられる古墳時代後期の須恵器杯身片(図版50g-1)や奈良時代の須恵器・土師器(図版50g)が出土し、年代決定できた。他の遺構の時期は、掘削していないため不明である。

#### ㉗. No.27 トレンチ

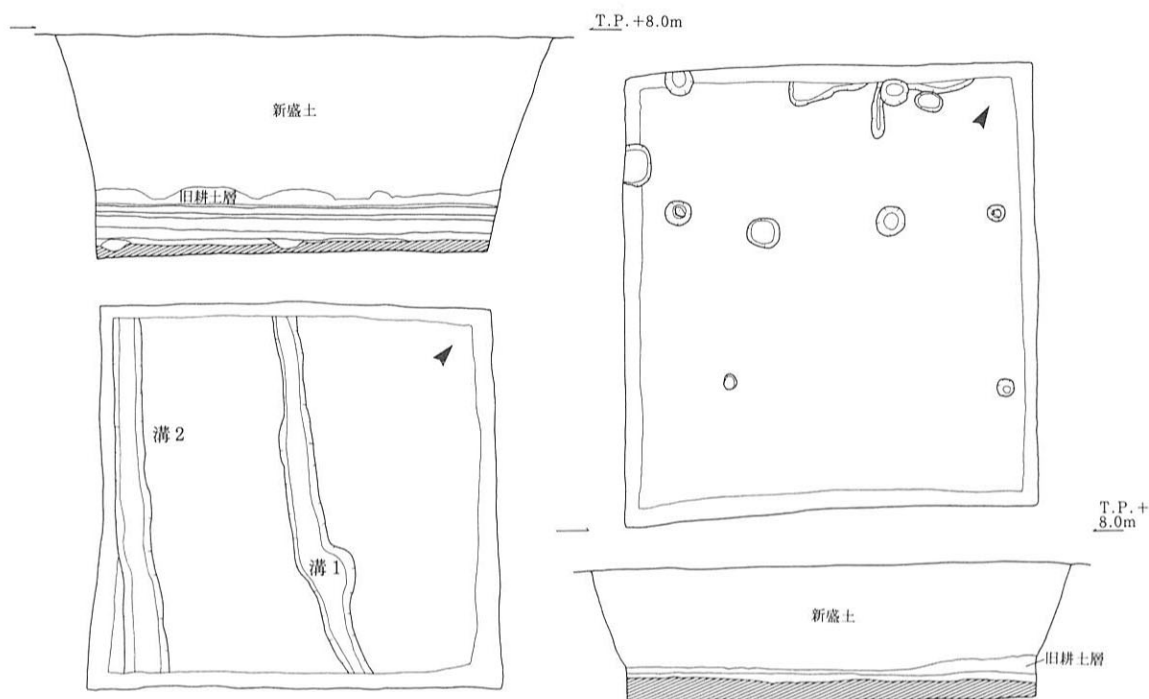
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に厚さ5cmの灰黄褐色粘質土層があり、鎌倉時代の土師器小皿が出土した。その下に、地山層である黄灰色粘土層があり、スキ溝・ピットなどが検出された。スキ溝は、その底部だけが断片的に6箇所残っていた。幅は、15～30cmで、長さは60～140cmであった。埋土は暗灰色粘質土で、方向はいずれも北西から南東にかけてのものであった。遺物は出土していない。ピットは、調査区北東端で検出された円形のもので、径25cm深さ5cmであった。埋土は暗灰色粘質土で、遺物は出土していない。なお、調査区中央部で北東から南西にかけて検出された鉄管は、水道管で、吹田操車場時のものである(図版18b)。

#### ㉘. No.28 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.5mで、旧の耕土・床土層が検出された。旧耕土・床土層中にも近世瓦・陶磁器と共に瓦器碗・三足、土師器甕・小皿などが出土した。その下には、厚さ10cmの灰褐色土があり、古墳時代後期の須恵器杯身(図版51e-1)や平安時代の黒色土器・瓦器・緑釉・灰釉・白磁(図版51d・e)、フイゴ羽口片(図版51e-8)などが含まれていた。その下には、厚さ8～20cmの茶褐色土があり、黒色土器碗、瓦器碗、土師器小皿・甕などが出土した。その下には、暗灰色の砂質土があり、井戸状の大土坑、ピット、溝などの多数の遺構が検出された(図版19a)。井戸状の大土坑は、調査区南端と西端で検出された2基あり、南端側は、径150cmあり、西端側は、径140cmあり、共に半円の部分のみ検出された。溝は、調査区西側で検出され、南端の井戸状の大土坑や他の土坑を切っている。溝の幅は20～30cmで、北西から南東にかけて直線的に検出された。この溝もやはり、調査区近辺に認められる条里に規制された結果の溝と考えられた。ピットや土坑は、計13個あり、密集状況にあった。ピットの径は20～55cmあり、土坑は長さ60～70cmの楕円形のものであった。いずれも埋土は、暗灰黒色の粘質土であった。ピットには、調査区内で、溝と平行するように直角に曲がる掘立柱建物跡の一部と考えられるピットもあった。この遺構面のさらに下層にも遺構や包含層が存在すると推定されたが、遺構面保護のため、この面で調査は終了した。したがって、遺構も掘削していないので、正確な時期も不明である。

#### ㉙. No.29 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.1mで、旧の耕土・床土層が検出された。旧の耕土・床土層のすぐ下で、地山面である灰黄色粘土層が検出された。古代・中世の堆積層が一切ないことから、近世に削平を受けていた様子である。しかし、地山層に於いて、ピット10個、溝1本、土坑2基が検出された(図版19b)。ピットは、径15～48cmのもので、円や楕円形のものばかりである。埋土は、いずれも暗灰色粘質土で、深さは9～59cmと様々であった。調査区北側で検出されたピット5の底には、一辺9cmの長方形の自然石が敷かれていた。また、調査区西側で検出されたピット2の中には、鎌倉時代の土師器羽釜の大破片が納められていた(図版20a)。底からも同一個体の破片が出土し、わざわざピッ



第6図 No.21トレンチ (左)、No.29トレンチ (右) 平面図・断面図

ト中に土器を納めたものであることは明らかであった (図版52 a)。ピット 3・4・6 で掘立柱建物跡が復元でき、ピット 2・7 でも建物跡が復元できそうであった。ピット 1 の底で、瓦器碗が出土したので、この建物跡の時期も鎌倉時代と判明した (図版51 f)。溝は、南北に65cm 検出された幅14cm 深さ6cm のもので、土坑も調査区北西端で、その南肩が僅かに検出されただけのものである。

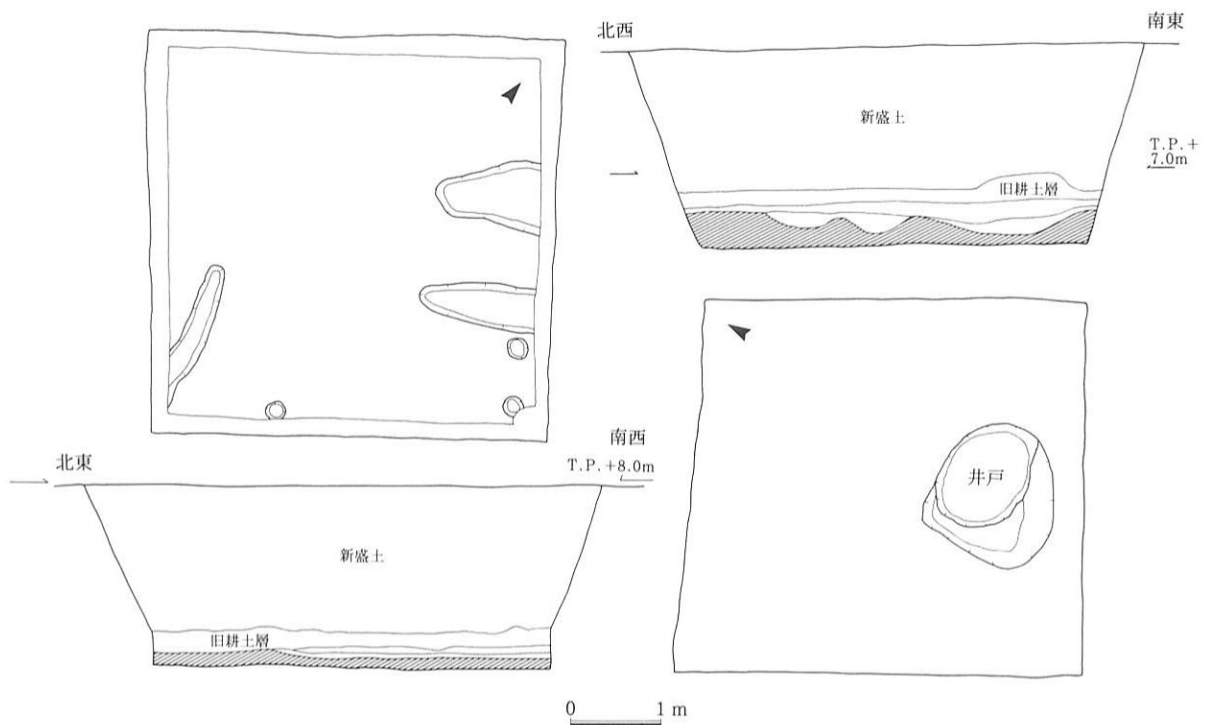
#### ㊸. No.30 トレンチ

5.7×5.7m のトレンチを設定した。地表下1.4m で、旧の耕土・床土層が検出された。床土層中から、18世紀後半の陶磁器類が出土した。その下に厚さ15cm の暗灰緑色粘質土があり、その上位に鉄分が多く沈着していた。その下に厚さ15cm の無遺物の灰褐色粘質土があった。その下に、厚さ8cm の灰褐色粘土層があり、遺物を多量に含んでいた。弥生時代中期の鉢、弥生時代後期の甕 (図版52 b)、古墳時代後期の須恵器杯身、奈良時代の須恵器杯・甕、平安時代の須恵器ねり鉢、黒色土器碗、瓦器碗、土師器鍋・皿・杯、馬歯 (図版52 c)、緑釉陶器皿、白磁碗、製塩土器、平瓦片 (図版53 a) など、幾時代にも及ぶ遺物が包含されていた。その下に、地山層である灰黄色～灰緑褐色の粘土層が検出され、遺構が検出された (図版20 b)。遺構は、溝 2 本で、共に蛇行していた。調査区の南西側で検出された溝 1 は、幅50cm で長さ2m にわたって検出された。一端は終わっていて、一端は調査区外に伸びていた。調査区の北東端で検出された溝 2 は、幅10～30cm で、長さ2.4m にわたって検出された。共に埋土は、汚い暗灰色粘質土である。2本の溝とも掘削していないため、時期・性格は不明である。

#### ㊹. No.31 トレンチ

5.7×5.7m のトレンチを設定した。地表下1.6m で、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、調査区南西部のみ、厚さ5cm の汚れた暗灰色粘質土層が検出された。中世の遺物包含層と推定されたが、遺物は出土しなかった。その下に、地山層である茶灰色粘土層上に、遺構が検出された。径22cm のピットが3個と、幅25～80cm の溝が3本あり、埋土はいずれも暗灰色粘質土であった。ピットの深さは6～





第7図 No.31トレンチ（左）、No.33トレンチ（右）平面図・断面図

12cmで、溝の深さは6cmと浅いものばかりであった。遺構から遺物が出土せず、遺構の時期は不明である（図版21a）。

### ㊸. No.32トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.7mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、厚さ10cmの暗灰緑色粘土層、厚さ10cmの暗茶褐色粘土層、厚さ12cmの灰褐色粘土層がそれぞれ水平に堆積していた。灰褐色粘土層からは、古墳時代後期や飛鳥時代の須恵器、奈良～平安時代の緑釉・灰釉、生焼けの奈良時代前期の斜格子叩き目文の平瓦、鎌倉時代の瓦器椀、土師器小皿、羽釜、東播ねり鉢など多数の遺物が出土した（図版53b）。その下には、地山層である灰緑褐色粘土層が検出され、大型の土坑2基が検出された（図版21b）。調査区南東側で検出された土坑の内、西側の土坑1の長さは2m、幅1.8m、深さ20cm、埋土は暗灰色粘土で、鎌倉時代の瓦器椀が出土した（図版53b-1）。土坑1の東側に接して検出された土坑2は、大半が調査区外に伸びていたが、検出されただけで、長さ1.7m、幅1.5mあった。埋土は暗灰色粘土で、掘削していないため、時期は不明である。

### ㊹. No.33トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。床土層中からは、江戸時代の染め付け磁器片と共に、鎌倉時代の玉縁式丸瓦、瓦器椀、三足、土師器小皿、羽釜、須恵器甕、備前焼甕などが出土した（図版53d）。その下に、褐色混じりの暗灰緑色粘質土層が地山層である灰緑色粘質細砂層の起伏をならすように堆積していた。河川内堆積層と考えられ、湧水も常にあった地山層上に、調査区南東部で井戸が検出された（図版22a）。井戸の大きさは、長さ145cm、幅170cm。楕円形を呈し、素掘りであった。西側の肩部のみ25cm下がって、2段になっていた。井戸の中心部は、長さ1.35m幅1.04mの楕円形で、一気に深くなっていた。検出面から-70cmまでは暗灰色粘土層で埋められており、鎌倉時代の土師器羽釜・小皿、東播甕、混入と考えられる古墳時代後期の須恵器壺などが

出土した（図版53 c）。井戸は、検出面下3.5mまで掘り下げたが、底が出ず、そこで掘削を中止した。井戸底の遺物が不明だが、鎌倉時代の井戸と考えられた。

#### ㊸. No.34 トレンチ

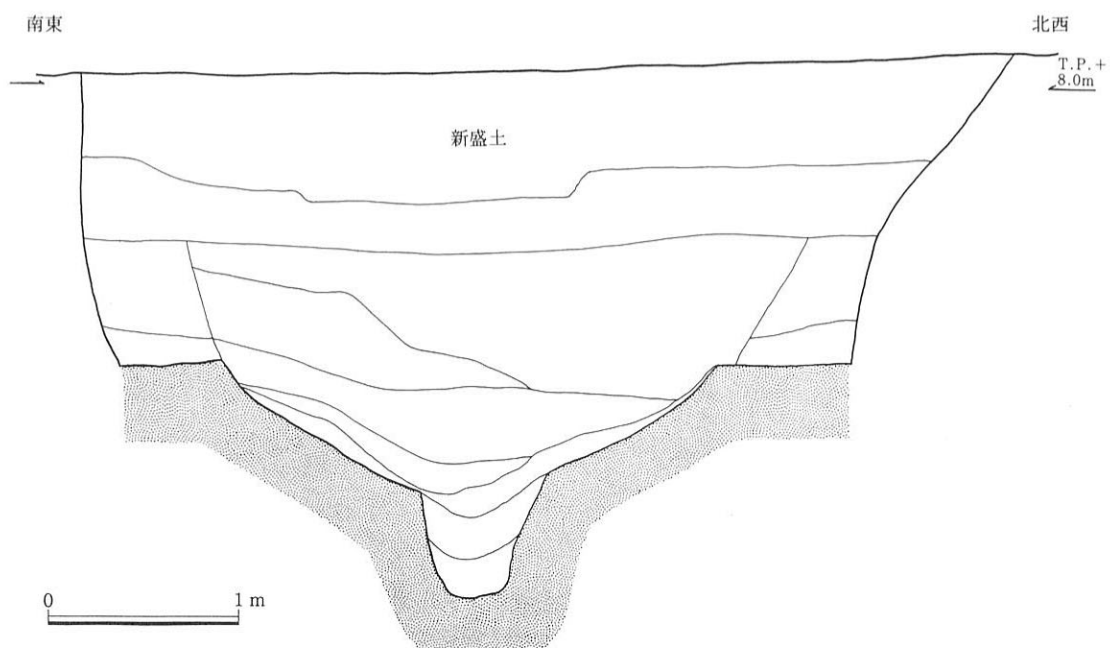
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下50cmで、調査区北西部には、厚いコンクリート製建物の基礎が検出され、それ以下の掘削が不可能であった。また、調査区南東部にも、中央に水道管が検出された。調査区南東部を地表下1.3m掘削すると、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ25cmの暗灰色粘土があり、その下に、厚さ8cmの灰褐色土があった。灰褐色土中には、古墳時代後期の生焼けの須恵器高杯脚部片や、平安時代中期の黒色土器碗、鎌倉時代の瓦器碗や南北朝～室町時代の雷文青磁碗などが含まれていた（図版53 e）。その遺物包含層の下に、ピットが1個検出された（図版23 a）。ピットの長さは35cm、幅30cmで、埋土は暗灰色粘質土であった。掘削していないため、時期・深さなどは不明である。

#### ㊹. No.35 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.9mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、地山層である暗灰褐色細砂層があった。調査区南西部の地山層上に、土坑1基とそれに切られた溝を1本検出した（図版23 b）。土坑の長さは70cm、幅67cm、深さ45cm。溝の長さは1m、幅30cm、深さ30cm。埋土は、共に暗灰色粘質土層で、遺物は出土しなかった。したがって、時期も不明である。

#### ㊺. No.36 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下40cmで、北東から南西にかけて、水道管を発見した。地表下55cmで、旧の盛土層がなくなった。その下には、通常どのトレンチでも認められた旧の耕土・床土層が一切なく、他に例をみない褐色の締まった粘質土層が現れた。吹田操車場造成時の盛土が薄く、旧の耕土・床土層がないことからすると、地盤も高いことから、堤状のものがあったのか、道路跡でもあった可能性が考えられた。旧の盛土層の下には、南北に、幅50cm深さ2mの直線的な溝が掘削されていた。



第8図 No.36トレンチ井戸1断面図

底から、近世の染付け陶磁器片などと共に径15cmの鉄管が検出された。吹田操車場造成以前の下水管か水道管と考えられた。旧の盛土層の下の厚さ40cmの褐色土中には、瓦器碗・土師器小皿・羽釜・東播ねり鉢・甕などの中世土器が多数包含されていた。中には、弥生時代中期の土器や平安時代中期の黒色土器碗や南北朝時代の瓦質火鉢なども含まれていた（図版54 b）。褐色土を除去すると、遺構が現れた。調査区南西側には、半円形に径3.3mの井戸が検出された。検出面から-1.3mまでは、断面が半円形を呈する大きな掘り方であったのが、それ以下は径70cmの小さな掘り方に変わり、深さ60cmあった。底に曲物枠などもなく、素掘りのままであった。埋土中から、鎌倉時代の瓦器碗・三足、土師器小皿、青磁碗、平瓦、東播ねり鉢などが出土し、鎌倉時代の井戸と判明した（図版54 a）。鎌倉時代の井戸の下には、大きな土坑らしきものが2基検出された（図版24 a）。掘削していないため、時期・性格は不明である。調査区北西隅で、地山層である黄褐色礫混じり土中から、外面が著しく風化した旧石器時代のサヌカイト剥片が出土した。周囲に小さな剝離痕も認められることから、削器として使用された可能性もあった。旧石器時代のサヌカイト剥片は、このトレンチでは、溝や井戸からも出土しており（図版54 d）、近くに石器製作地の存在していたことが判明した。

#### ㊦. No.37 トレンチ

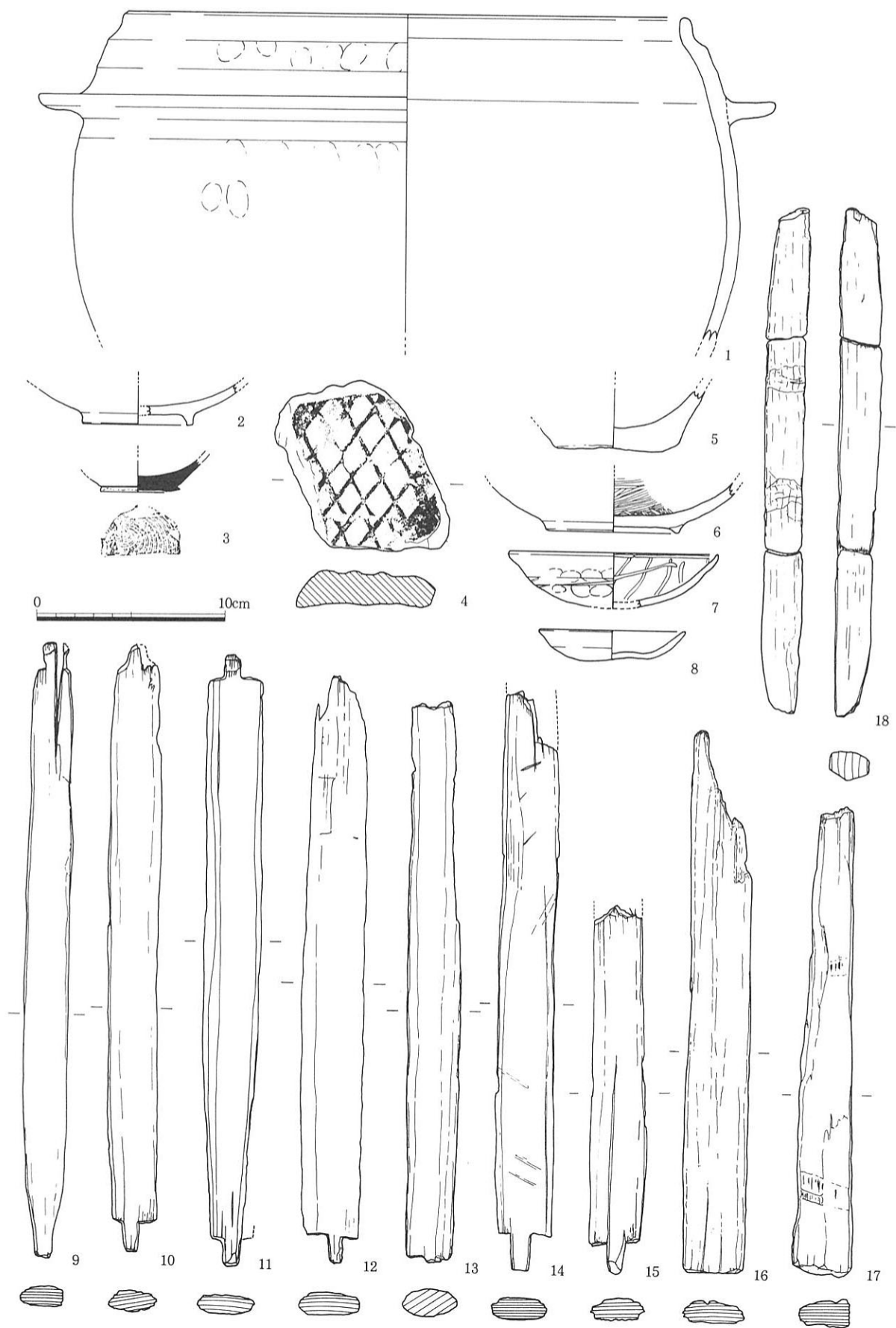
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下2.1mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、厚さ18cmの暗灰褐色シルト層があり、鎌倉時代の瓦器碗片が出土した。その下に、厚さ10cmの暗灰褐色粘土層がある。無遺物層であった。その下に厚さ18cmの砂混じりの暗灰黒色粘土層があり、古墳時代後期の須恵器杯蓋片が出土した（図版54 e）。その下に、厚さ2～3cmの薄い灰色細砂層が部分的に堆積し、無遺物の黒色粘土層へと続いていた。灰色細砂層中には、流木片が含まれていたことから、自然河川内堆積層と考えられた。このトレンチの古墳時代後期以前の堆積層は全体に南西ほど下がっていた（図版24 b）。黒色粘土層をさらに1m掘削すると、洪積層の灰緑色粘土層が現れた。その間も砂層・粘土層の堆積が認められたことから、やはり自然河川内堆積層であることが判明した。

#### ㊧. No.38 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下30cmで、調査区南東端と北西端で水道管が発見されたため、調査区南東側、幅2m部分のみを調査することとなった。地表下1.2mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下は、すぐ自然河川だった。厚さ40cmの暗灰色細砂層中には、鎌倉時代の瓦器碗片が含まれていた。その下の黒色粘土層や暗灰色粗砂層中には、遺物は含まれず、さらにその下の暗灰黒色粘土層中には、古墳時代前期の土師器甕などが含まれていた（図版55 a）。自然河川の堆積土層は、まだまだ下層へと続いていたが、地表下2.5mにも達しており、これ以上下へは掘削できなかった（図版25 a）。No.37・38トレンチでは、そろって深く大きい自然河川が北西から南東方向にかけて検出されたことから、No.36トレンチで検出された褐色土の盛土は、やはり堤であった可能性が高くなった。

#### ㊨. No.39 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.9mで、旧の耕土・床土層が検出された。床土層中には、縄文時代？のサヌカイト剥片や鎌倉時代の瓦器碗・土師器小皿、戦国時代の丹波焼すり鉢片などが含まれていた（図版55 b）。床土層のすぐ下は、自然河川だった。無遺物の暗灰色細砂層は、湧水が激しく、壁面崩壊の危険があったため、掘削不可能だった（図版25 b）。地表下2.5mの灰色砂層上面には、鹿かと推定されたU字形の動物の足跡が多数検出された。川岸の湿地帯に黒色粘土が落込んで偶然残ったものと考えられた。

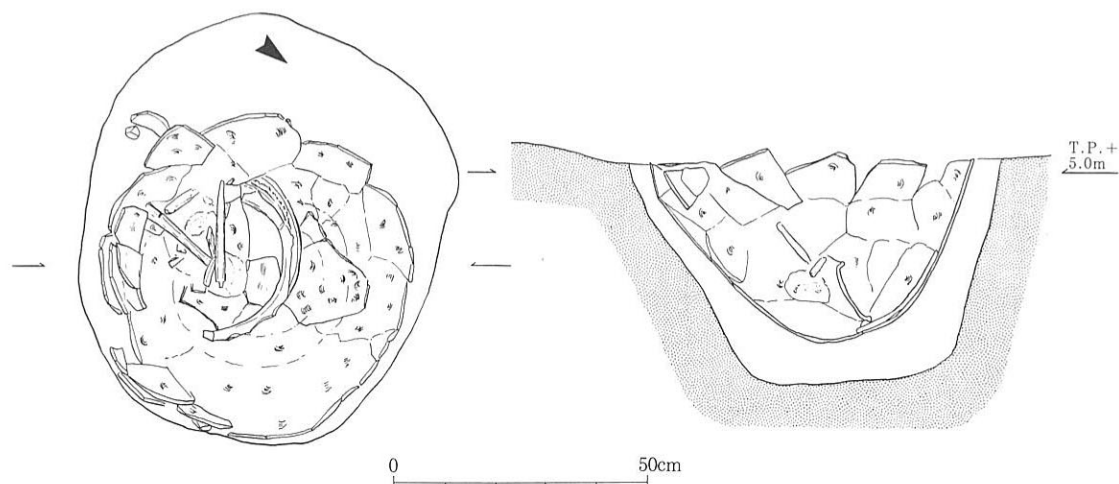


第9図 №29トレンチ (1)、№30トレンチ (2・3)、№32トレンチ (4)、№36トレンチ (5~8)、№40トレンチ (9~18) 出土遺物実測図

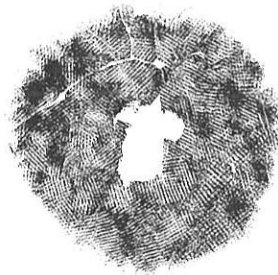
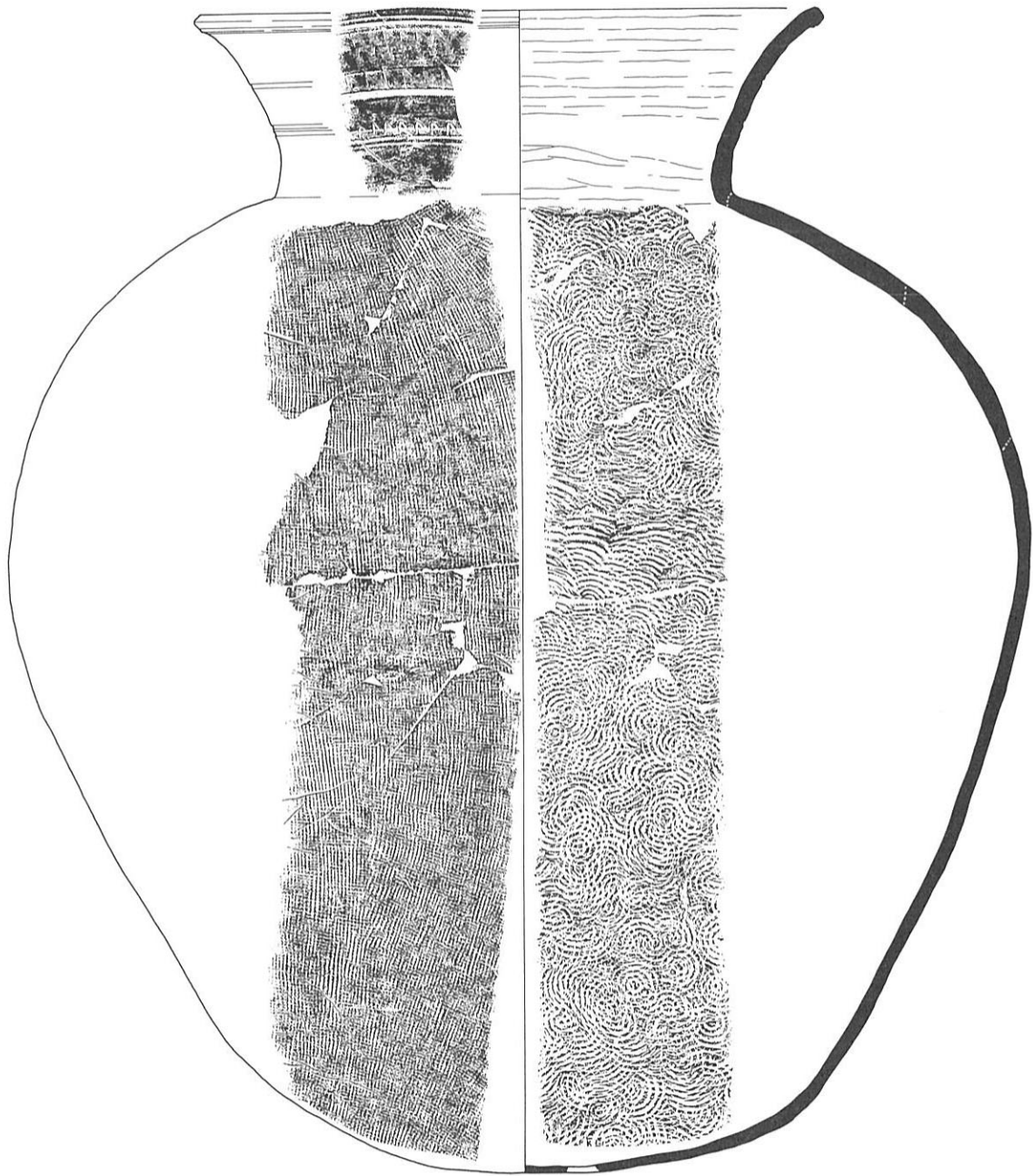
#### ④ No.40 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。調査区北西部に、地表下40cmで水道管が発見されたため、調査区南東部幅2.3mのみを調査することとなった。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、無遺物の厚さ45cmの灰色粘質土があった。その下に、厚さ8cmの黒青色土があり、この層の上面で古墳時代後期の須恵器杯身や土師器甕、平安中期の黒色土器碗（内黒）などが出土した。調査区の南西隅では、古墳時代後期の須恵器大甕片が固まって出土した（図版26 a）。で、調査区を拡げ、平面の状況を調べると、南北95cm東西110cmの楕円形の穴を深さ78cm掘って、底から30cm程上の位置に大甕を据えていたことが分かった。大甕の位置は、掘方内の西側のみ25cmあけて、据えていた（図版26 b）。大甕の位置は、南西に約10度ほど傾いていた。検出時は、大甕の腹部以下が当時の地表面とほぼ水平な位置に一周残っていた。大甕の内部を掘削すると、大甕の口縁部の破片や肩部の破片、大足の部品、用途不明の木器、木片、木の根、昆虫・植物遺体などが雑然と落込んだ状態で検出された。口縁部や肩部の破片が出土したことから、もとは大甕は完形品であったこと、北西方向からの土圧や水圧による圧力によって壊れたことなどが推定された（図版27 a）。この大甕の据えられた位置は、No.37・38トレンチで検出された自然河川の川岸に近い湿地帯であったことが、No.39トレンチの調査成果からも伺い知られた。事実、大甕の掘方壁面に現れた、粘土・粗砂・細砂の互層は、この地が自然河川の堆積土上にあることを示していた（図版27 b）。

この須恵器大甕は、取り上げて、洗浄し、接合すると、完形になったが（図版55 c）、その過程で、色々なことを教えてくれた。まず、須恵器大甕の作り方が、その手抜きされた内面の観察結果から大凡分かった。この大甕は、ロクロの上で底部から作り出され、腹部から少し上までで作業が中断される（第1段階）。内外面叩きで仕上げられ、しばらく乾燥させられ、内側に迫り出す甕上半部を支えるだけの支持力が器壁に得られた後、次に幅24cmほどの腹部上半部が一周積み重ねられる（第2段階）。そして、又、しばらく乾燥させられ、器壁に十分な支持力が得られた後、幅25cmほどの肩部が、より内側に迫り出して、一周、積み重ねられる（第3段階）。第1・第2・第3段階とも、必ず内傾する最終の粘土紐の継目が、どうしても次に積み重ねられる部分と十分に密着しないため、その僅かな間隙に、焼成時、炎が入って焼き上がってしまっているのが、作業が中断され、乾燥の施されていたことが分かるの



第10図 No.40トレンチ埋甕出土状況平面図・断面図



第11図 №40トレンチ出土須恵器大甕実測図

である。また、第1段階の接合面の上下では、内面に施された青海波文の大きさが異なり、文様が上下で連続しないこと（つまり、先にできている部分は器壁が固くなってしまっているため、青海波の跡がつかない訳である）も、製作時期にズレのある証明となった（堅田直先生の御指摘による）。そして、大きい重い口縁部が載っても大丈夫なだけの支持力が器壁に得られたと判断された段階で、いよいよ口縁部が肩部に載せられ、大甕の形が完成する訳である（第4段階）。

また、そうしてできた未焼成の大甕が登り窯内に置かれる際には、須恵器大甕の破片などがつめ具として使われ、傾斜する窯内で動かないように固定される。つめ具は、当然甕を傷付けないように藁でくるまれていて、藁が焼けて火嚮もできていた。つめ具は、焼き上がり後、窯出しの際、打ち欠きによってはずされる訳だが、その痕跡は必ず甕底面に残る。この大甕の場合だと、6箇所につめ具が使われた痕跡が歴然としていた（図版56a）。登り窯内の斜面上方には、小さいつめ具が、反対側の下方には、大きいつめ具が何枚も重ねて使われ、固定されていたことも分かった。甕底面は火のまわりが悪く、クリーム色を呈していて、そのクリーム色の傾きによって、登り窯内で、この甕が斜面上方に向けて、やや傾けて焼かれていたことも分かった。

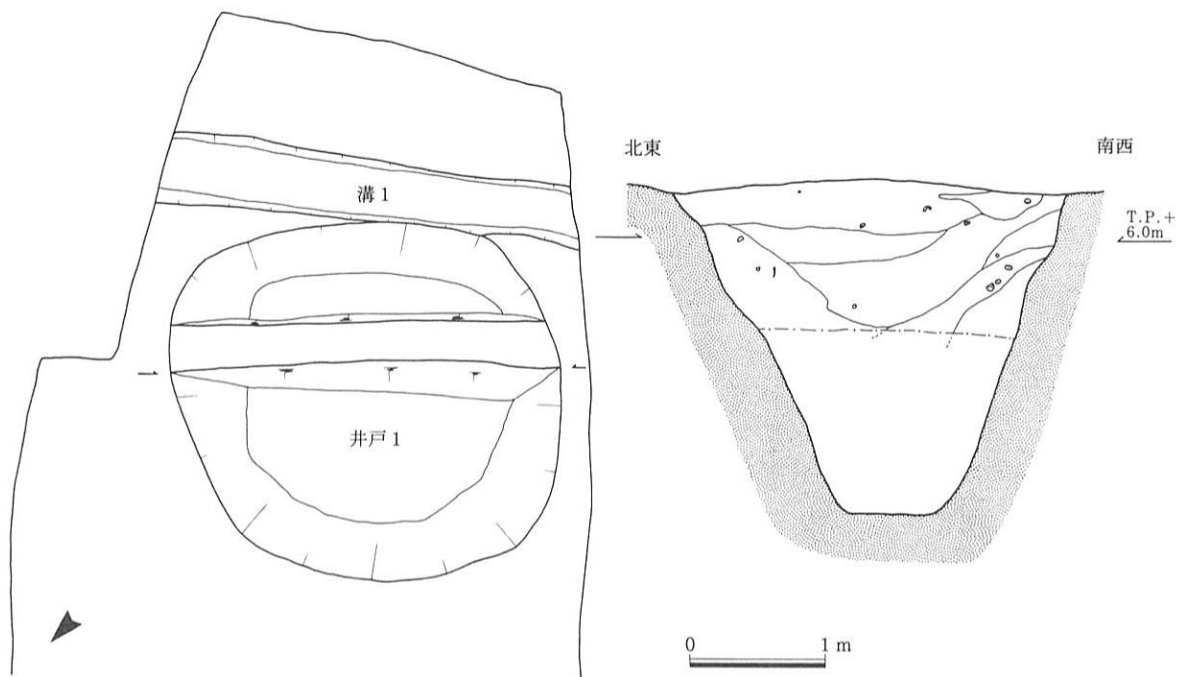
また、この須恵器大甕は、千里窯跡群の産ではないと藤原学氏の指摘を受けた訳だが、器肌が内外面ともに損耗を受けておらず、焼成後、あまり日常生活に使われることなく埋められた様子である。埋められる前には、幅3.3cm長さ7.2cmの楕円形の穴が底にあげられていた。甕の底部外面に剝離面が存在することによって、甕内面からの打撃3回により穿孔されたことも分かった訳だが（図版56a）（穿孔予定の甕底を地面に付け、甕内面からの打撃だと甕底にヒビに入らず、穴が無事にあくことも堅田直先生から御指摘を受けた）、液体を入れる甕の甕としての機能を喪失させた上で、埋甕として、据えられていた様子である。

この大甕の出土状況に関しては、参考となる記述が『日本書紀』崇神紀十年九月条に登場している。「爰に忌瓮を以て、和珥の武録坂の上に鎮坐う」とあるのがそれで、『古事記』にも「忌瓮」が登場し、『播磨国風土記』にも、「大甕を此の上に掘り埋めて国の境と為し」と登場している。大甕を使った古代の土地の境界の祭りの存在が伺える訳だが、今回の出土状況は、その祭りの実際を伝える貴重な出土例であった可能性がある。

また、穿孔して据えていたという点については、たとえば、弥生時代の壺棺や甕棺・供献土器などがやはり穿孔し、容器としての機能をなくした上で使用されていたり、平安～鎌倉時代の土坑墓に、白磁・青磁碗の口縁部が一部打ち欠かれ、器能を喪失させた上で副葬されたりするのと同じで、いずれも当時の関係者以外の人々に対する盗難対策であった可能性がある。ただ、この甕がそういう処置を施し、当時の人々の共通認識としてそうした祭りに使用されたものであったとしても、なぜ最終的に内部に農具としての大足の部品やヒョウタンの種、木の根などが入っていたのかについては、不明である。後世、祭りの意味が忘れ去られ、別な用途に使われていたのかも知れなかった。

#### ④. No41 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。床土層中には、鎌倉時代の瓦器碗・土師器小皿片などが含まれていた。その下に、黄灰色粘土層の地山面が現れた。地山面上には、調査区西隅に径37cmの円形ピットが1個と、調査区南東端に径2.95mの井戸が検出された。共に埋土は暗灰色粘土で、ピットの深さは11cmで、遺物は出土しなかった。井戸は遺物が多数含まれていたため、調査区を拡張した。その結果、井戸の南東に接して、北東から南西の向きの溝1が検出され



第12図 No.41トレンチ井戸1平面図・断面図

た。幅50cm深さ10cmの浅い溝で、埋土から鎌倉時代後期の瓦器碗が出土した（図版57 a）。井戸1は、東西2.95m南北2.7mのやや隅丸方形気味の平面形の素掘りの井戸であった（図版28 a）。埋土は、肩部から-1.1mまでは、灰緑色粘土がブロック状に混じった暗灰色粘土層がなだらかに下に落ち込んでいた（図版28 b）。その埋土中には、多数の鎌倉時代後期の土器などが含まれていた。完形品がないことからすると、ゴミ溜めとして使用された可能性があった。土器は、30cmの深さごとに取り上げたが、上層下層で時期差は認められなかった。井戸の肩部から-1.2m以下は、暗灰色粘土層が続いていて、土器に混じって、大きなシジミの貝殻片やドブ貝の貝殻片、曲物桶の底板、竹の串、砥石、鹿角を加工したもの、焼土、瓦、混入と考えられる古墳時代の家形埴輪片など雑多なものが含まれていた。井戸の底は、-2.5mで、黄灰色粗砂層が現れ、湧水があった。

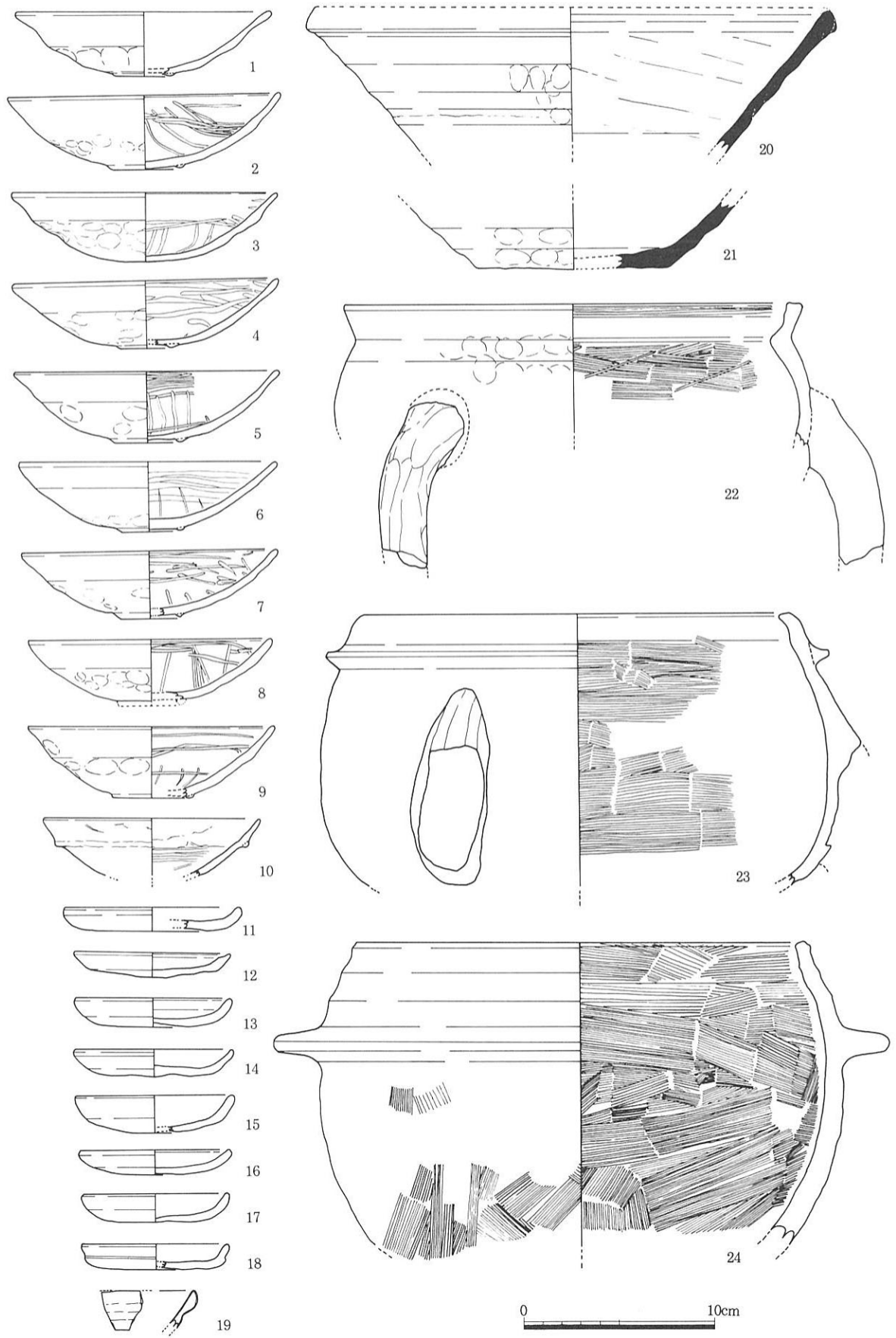
#### ⑫. No.42トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下30cmで、水道管を検出した。地表下1mで、旧の耕土・床土層を検出した。その下に、厚さ10cmの灰褐色土層があり、近世瓦や近世染付陶磁器、備前焼すり鉢、鎌倉時代の渥美焼甕底部片などが出土した。この渥美焼甕底部片の外面には、底部に接する位置に、藁紐の巻かれた痕跡が付いていた（図版60 b - 2）。恐らく、この大甕がやわらかい粘土であった時、底部の回りに藁紐が巻かれ、器体を安定保持できるように処置された結果と考えられた。同様の藁紐痕は、No.15トレンチ出土渥美焼甕底部片にも残っていた（図版49 a - 16）。灰褐色土層の下は、地山層で、黄灰色粘土層であった。その地山面に、調査区南寄りに径80cmの土坑が検出された。埋土は、旧耕土と地山層のブロック土が混じっており、あるいは近世の井戸かと推定されたが、掘削していないため、時期・性格は不明である（図版29 a）。

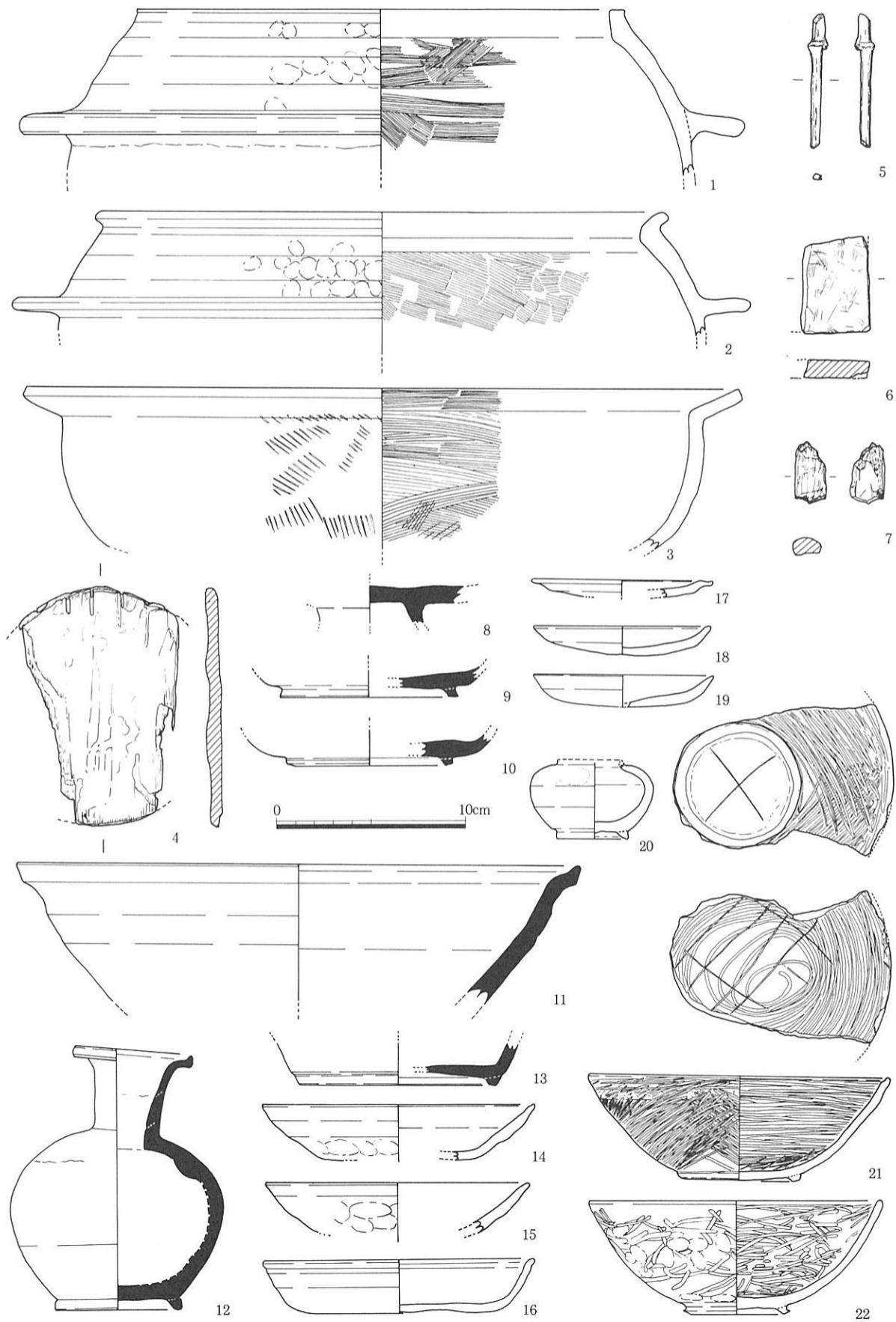
#### ⑬. No.43トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.2mで、旧の耕土・床土層が検出された。床土層中には、近世瓦と共に鎌倉時代の東播ねり鉢、瓦器碗、青磁碗、土師器小皿片などが含まれていた。旧耕土・床





第13図 №41トレンチ溝1 (1)、井戸1 (2~24) 出土遺物実測図



第14図 No.41トレンチ (1~7)、No.48トレンチ (8~10)、No.49トレンチ (11~22) 出土遺物実測図

土層の下には、調査区南東側には、耕作溝である暗灰色粘土層が堆積していた。その中には、常滑焼甕や須恵器甕片と共に、戦国時代の瀬戸・美濃焼皿が混じっていた（図版60b）。その下は地山層で、黄灰色粘土層であった。遺構は、検出されなかった（図版29b）。

#### ④. No.44 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、地山層があり、地山層である黄灰色粘土層上に奈良時代の遺構面が現れた。中世の堆積土層が一切ないことからすると、一帯は、後世の相当規模の削平を受けていたことが推定された。検出された遺構は、溝1本とピット3個である。溝1は、幅30cm、長さ3.5mにわたって直線的に検出された溝で、北東端は、終っていた。埋土は、濁灰色粗砂で、奈良時代の須恵器壺、甕、杯、土師器甕などが出土した（図版61a-1・2）。ピット1は、長さ45cm幅35cm、ピット2は、長さ50cm幅35cmで、一端に径10cmの柱痕があった。ピット3は、長さ70cm幅50cmで、ピットの埋土は、いずれも濁灰色砂質土で、遺物は出土しなかった。深さも浅いもので、0～5cmまでのものであった。平面形も隅丸方形気味のものばかりであった（図版30a）。

#### ⑤. No.45 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に厚さ12cmの灰褐色粘土層と深さ17cmの暗灰色粘土層があり、奈良時代の須恵器杯・甕、土師器甕・杯、製塩土器、平安時代末期の瓦器碗・白磁碗などが出土した。製塩土器は、胎土中に暗灰色の軽石（スコリア）を含んでいるものであった（図版61a-4）。その遺物包含層の下に、地山層である黄灰色粘土層が検出され、土坑1基、ピット2個の遺構が検出された。土坑は、南北78cm東西70cm深さ46cmの素掘りの円形土坑で、底は平らであった。埋土は、黒色粘土層で、遺物が出土しなかったため、時期は不明である。調査区南隅からは、径20cmのピット2個が検出された。ピットの埋土は、暗灰色粘質土で、深さ10cmの浅いものであった。遺物も出土しなかった（図版30b）。

#### ⑥. No.46 トレンチ

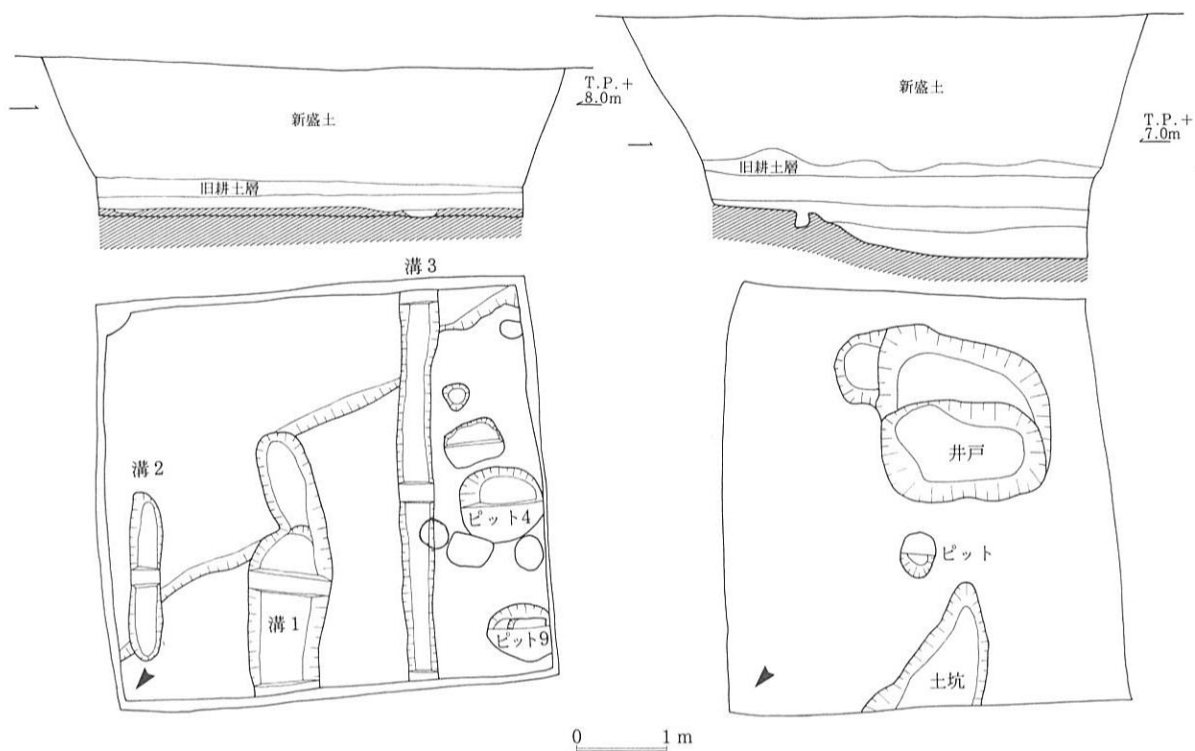
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.3mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に厚さ9cmの灰褐色砂質土があり、平安時代頃の土師器甕口縁部片が出土した。その下に、地山層である黄灰色粘土層が検出された。中世の堆積層が一切ないことから、後世の削平を受けていた様子である。調査区中央で地山層上に円形・楕円・隅丸方形のピットが5個検出された（図版31a）。ピットの大きさは、ピット1が南北20cm東西30cm、ピット2が南北35cm東西35cm、ピット3が南北20cm東西28cm、ピット4が南北34cm東西23cm、ピット5が南北25cm東西25cmであった。ピットの深さは、すべて掘削していないため、不明で、時期も不明である。掘立柱建物跡になるのかどうかについても、調査区狭小のため、不明である。

#### ⑦. No.47 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に厚さ20cmの濁灰色粘土層と厚さ6cmの濁灰色シルト層があり、濁灰色シルト層から、平安時代の平瓦、鎌倉時代の瓦器碗・土師器小皿、戦国時代の備前焼すり鉢片などが出土した（図版61a-8・9）。その下に、きれいな暗灰色シルト層があり、地山層と考えられた。遺構は検出されなかった（図版31b）。

#### ⑧. No.48 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.3mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に厚さ



第15図 No.48トレンチ (左)、No.49トレンチ (右) 平面図・断面図

14cmの灰褐色土層があり、飛鳥時代の須恵器に混じって、奈良・平安時代の須恵器杯・甕、土師器皿・甕、黒色土器碗、緑釉皿、灰釉皿、平瓦などが出土した。中世堆積層がないことからすると、後世の削平を受けていない可能性がある。灰褐色土層の下に、地山層である黄灰色粘土層上に多数の遺構が検出された(図版32 a)。溝は、3本検出されたが、いずれも方向が条里に規制された北西から南東にかけてのものばかりだった。長さ3 mにわたって検出された溝1が一番太く、幅90cm、深さ23cmあった。埋土は灰褐色で、飛鳥時代の生焼けの須恵器杯が出土した。長さ1.9mと0.81 mにわたって断続的に直線方向で検出された溝2は、幅40cm深さ12cmあった。埋土から、飛鳥時代の横瓶が出土した。長さ4.6mにわたって直線的に検出された溝3は、幅40cmで、深さ120cmあった。埋土から飛鳥時代の須恵器甕や土師器杯などが出土した。溝1と溝3は、その形状がよく似た溝で、互いに平行しており、両者の間隔は2.7mあいており、あるいは道路の側溝である可能性も考えられた。この溝3は、その南西側で8個検出されたピットの1つを切っており、調査区南東側で検出された落ち込みも切っている。落ち込み中には、飛鳥時代の須恵器杯や甕、土師器高杯などがほぼ純粋に包含されていたので、それよりは新しい時期の遺構であることが判明した。ピット4は、南北86cm東西92cm深さ17cmあり、ピット9は、南北66cm東西72cm以上深さ16cmあり、両者は組み合わさって大きな掘立柱建物跡になる可能性もあった(図版32 b)。ピット4からは、飛鳥時代の須恵器杯が出土している(図版61 b-3)。

#### ⑨. No.49トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.6mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ33cmの灰色粘土層があり、古墳時代後期の須恵器鉢形器台や奈良時代の硯に転用された須恵器杯(図版62 d-3)、平安時代後期の瓦器碗、土師器小皿、平瓦などが、製塩土器、土錘、砥石、五輪塔(?)と共に出土した。排土中から出土した奈良三彩壺(図版62 d-1)も、この層出土と考えられる。

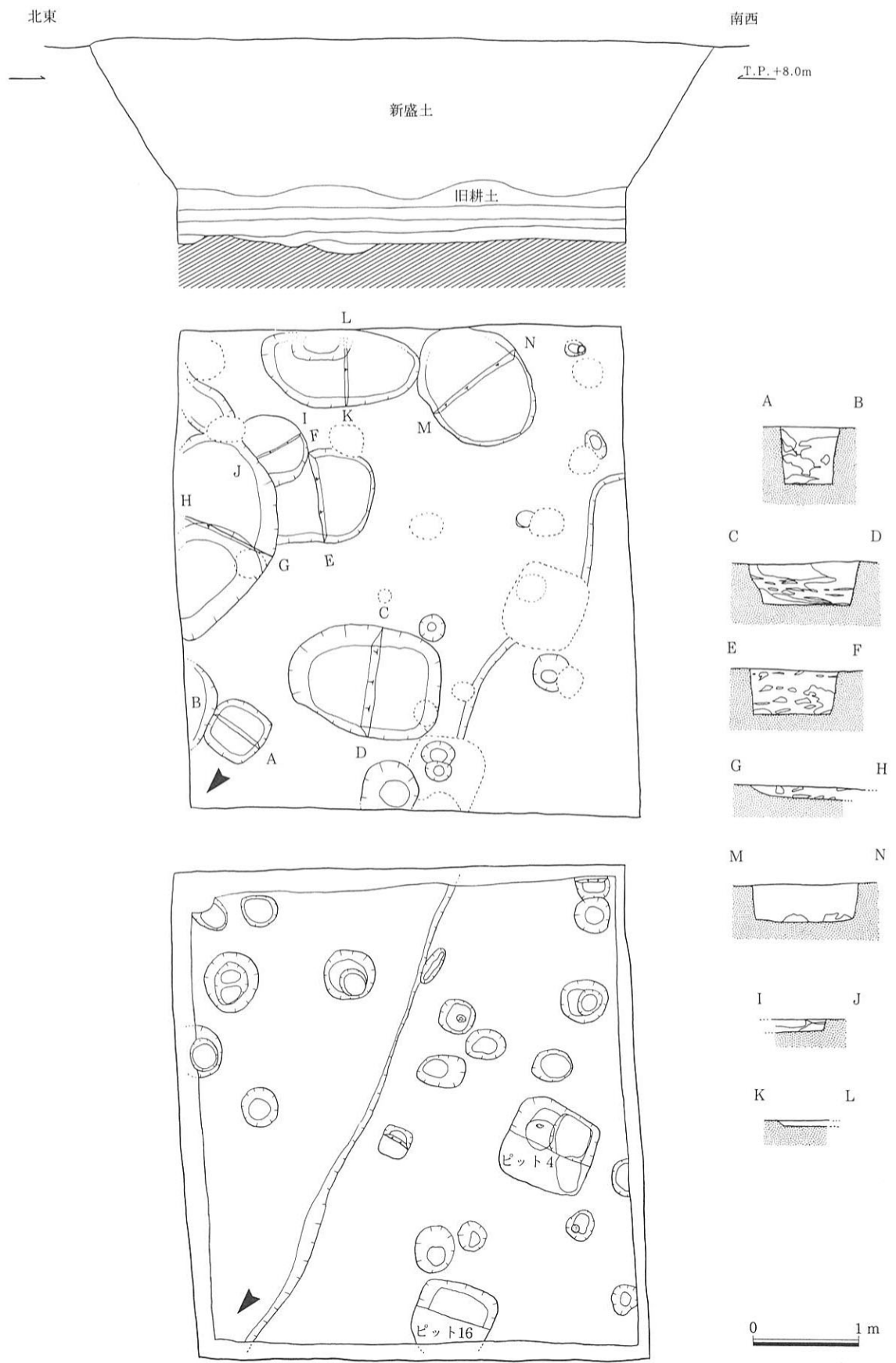
灰色粘土層の下に、暗灰色粘土層があり、厚さ28cmあった。奈良～平安時代頃の土師器碗・皿、製塩土器などが出土した。この層は、調査区北東端では、厚さ6cmと薄く、南西ほど厚くなっていた。その断面形態から自然河川もしくは大溝の埋土最上層と考えられた。暗灰色粘土層の下には、厚さ30cmの暗褐色粘土層があり、やはり調査区北東端で薄く、南西ほど厚くなっていた。自然河川もしくは大溝の埋土下層と考えられた。その下に、地山層である淡灰黄色の細砂層が検出された。この調査区は、全体に、南西側が低く、北東隅が高く、比高差60cmの斜面をもっていた。その斜面の下方には、偶蹄類の足跡に黒色粘土の落ち込んだものが多数検出された。ぬかるむ自然河川もしくは大溝の肩部に当時の動物の足跡が偶然残ったものと考えられた。その斜面上に、井戸1基、ピット1個、土坑1基が検出された(図版33a)。井戸は、東西1.9m南北2mあり、その南端部が長さ90cm幅50cm東側に張り出していた。埋土は、暗灰黒色粘質土層で、除去すると3段にわたって落ち込んでいた。一番深い部分は、東西1.9m南北1.1m深さ70cmあって、底はなだらかであった。隅丸方形の形状から井戸と考えたが、あるいは土坑の可能性もあった。内部からは、平安時代後期の黒色土器碗、土師器小皿・甕、須恵器甕などが出土した。ピットは、南北50cm東西40cm深さ15cmで、北半分のみ掘削したが、遺物は出土しなかった。土坑は、南北1.4m以上、東南1.4m深さ30cmで、内部から、奈良時代のほぼ完形の須恵器壺や土師器杯が出土した(図版62a・b)。この調査区で検出された自然河川もしくは大溝は、埋土の状況からすると、当初から水が淀んだ状況下で粘土が堆積し続けており、その中に土器片や石器片などが包含されている訳である。その堆積が自然河川としては不自然とするのならば、集落を取り囲む濠のようなものである可能性が考えられた(図版33b)。

#### ㊦. No.50 トレンチ

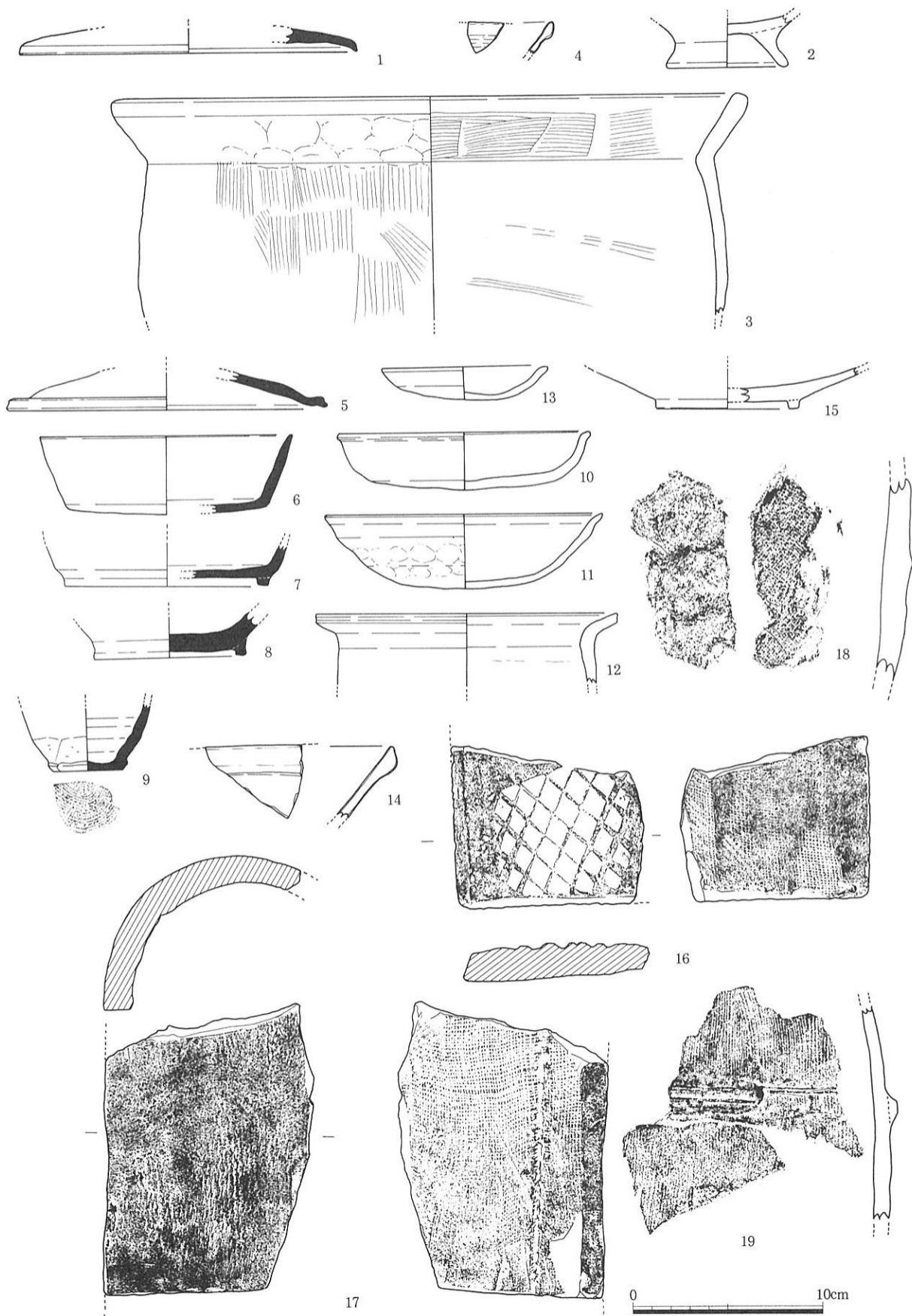
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.25mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ45cmの灰色粘土層があり、平安時代の黒色土器碗や土師器甕、須恵器壺などが出土した。その下には、地山層である黄灰色粘土層が検出され、遺構が多数検出された。遺構には、調査区中央部に幅1.2m長さ3m以上の溝状土坑と調査区北側にピットが3個、調査区東端に土坑が1基検出された(図版34a)。溝状土坑のみを掘削した。すると、溝状土坑は、調査区北東隅で上がっていて、素掘りの井戸になることが判明した。検出面から1.5m掘削すると、長さ1m幅80cmの小判形の部分のみ深くなっていることが判明し、さらにその部分を掘り下げると、50cmで、底に到達した。埋土は、暗灰褐色粘質土で、黒色粘土がブロック状に混じっていた(図版34b)。その埋土からは、奈良時代の須恵器杯蓋片や平安時代中期の黒色土器碗、平安時代後期の白磁碗、土師器鍋、台付き土師器杯や内面に切り目を縦方向に何本も入れた曲物桶の側板片などが出土した(図版63b)。

#### ㊧. No.51 トレンチ

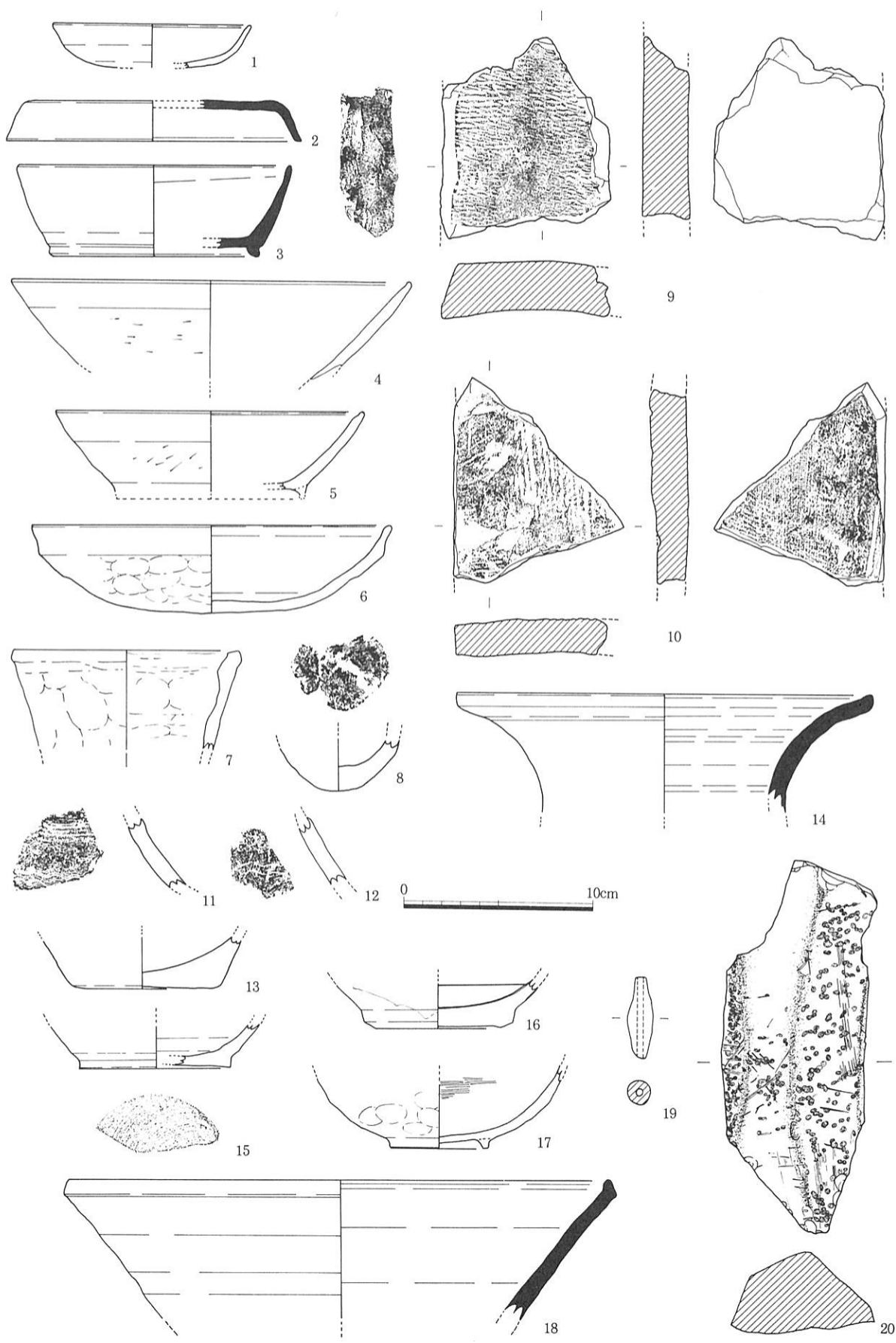
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、長さ12cmの灰褐色土層があり、多数の土器が出土した。上層包含層として、遺物を取り上げた。遺物の中には、古墳時代後期の円筒埴輪、奈良時代の須恵器・土師器・瓦、奈良～平安時代の緑釉・灰釉、製塩土器、平安時代の黒色土器・白磁碗、時期不明の叩き石などがあつた(図版65・66)。その下に、多数のピットが検出された。なお、この遺構面上において、調査区北東端で、深さ10cmの段落ち部が認められた。南北にほぼ直線的に西から東へと落ちる段で、中世以降の削平によるものと考えられた。段落ち部の埋土からは、やはり奈良時代～鎌倉時代の遺物が多数出土した。段落ち部を取り除いた下からは、南西部同様のピットが多数検出された。この上層遺構面からは、ピットが22個検出された。中で最も大



第16図 No.51トレンチ平面図上層(下)・下層(中)、断面図(上)



第17図 No.50トレンチ (1~4)、No.51トレンチ上層 (5~19) 出土遺物実測図



第18図 No.51トレンチ (下層) (1~10)、No.52トレンチ (11~20) 出土遺物実測図



きいものは、共に隅丸方形のピット4とピット16で、両者は組み合わさって、大型の掘立柱建物跡になると考えられた。ピット4は南北84cm東西86cm深さ30cm、ピット16は南北60cm以上東西74cm深さ14cmあった(図版36b)。ピット4には、径28cmの柱根が北東寄りに残っていた(図版66a-15)。ピット4・ピット16ともに、奈良時代の須恵器・土師器片が掘方埋土中に含まれていた(図版64)、建物跡の時期は奈良時代と判明した。他には、ピット14・15・17・18からは平安時代の黒色土器や灰釉・土師器が出土し、ピット2・6・18・19・22からは、鎌倉時代の瓦器や土師器が出土している(図版36a)、その時期のピットもこの面に存在していることが判明した。奈良時代以降鎌倉時代まで、代々、この箇所に掘立柱建物跡が建て続けられていた様子である。なお、混入品として珍しい縄文時代後期の深鉢口縁部片がピット18から出土している(図版64a-7)。また、内面に極細の布目圧痕をもつ製塩土器(六連式土器)も珍しいものであった(図版64a-8)。

上層遺構面の下には、厚さ12cmの灰色粘質土層があり、多数の土器が出土した。下層包含層として、遺物を取り上げた。遺物の中には、飛鳥時代の須恵器が少量と奈良時代の須恵器・土師器が多数あった(図版67b)。製塩土器や瓦もあった(図版68)。その下に、多数の大きな土坑群やピット群からなる遺構面が検出された(図版36c)。土坑の中で、全形が分かる土坑1は、南北106cm東西133cm深さ37cmあった。平面形は西側が大きく、東側が小さい楕円形で、底は平らであった。埋土から飛鳥時代の土師器杯や甕片が出土し、所属時期が判明した(図版67a)。土坑6は、幅1m長さ128cmの卵形で、底は、やはり平らであった。埋土は、灰茶褐色粘質土で、遺物も出土しなかったが、平坦な底の上に黒灰色粘質土が山状に堆積する断面がその中央部断面に現れていた(図版36e)。同様の黒灰色粘質土は、他の土坑断面でも空に浮かぶ雲のように千切れ千切れた状態で検出され、人の手による埋戻しの結果と考えられた(図版36d)。土坑群は、いずれも平面形が楕円で、底が平たく、向きもばらばらで、一部切り合い関係も持っていた。ピット群は、土坑群の縁辺に検出されたもので、径15~55cmまでばらつきがあり、平面形も楕円、円、隅丸方形と種々であった(図版37a)。

## ⑤2. No.52トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.3mで、旧の耕土・床土層が検出された。床土中にも、瓦器碗・土師器杯が包含されていた。その下に、厚さ25cmの暗灰色粘土層があり、多数の遺物が出土した。櫛描き波状文の施された弥生土器、奈良時代の須恵器・土師器、奈良~平安時代の灰釉・瓦・埴、平安時代の黒色土器、瓦器、須恵器、馬歯、土錘、砥石などがあった(図版69・70)。その下に厚さ15cmほどの灰褐色粘土層があり、調査区北東端で薄くなっていた。調査区北東端では、地山層である黄灰色粘土層が検出されたことから、南西方向に向かって深くなる自然河川もしくは大溝の埋土最上層が灰褐色粘土層と考えられた。その下には、厚さ30cmの黒色粘土層があり、南西ほど厚く、北東ほど薄くなっていた。黒色粘土層上面は、部分的に人の足による踏み込み部分が認められ、踏み込みは、地山層にまで達している部分もあった。黒色粘土層中には、奈良時代の須恵器・土師器に混じって、瓦器も出土した。この黒色粘土層も自然河川もしくは大溝の埋土と考えられ、その東側の肩部が検出されたと推測された(図版37b)。この自然河川もしくは大溝は、このトレンチの南60mに位置するNo.49トレンチでも同様な肩部が検出されており、両者は一続きのものとして推測された。No.52トレンチの南西40mに位置するNo.50トレンチやNo.49トレンチの南西40mに位置するNo.47トレンチで、その西側の肩部が検出されていないので、その中間領域内に西側肩部は存在すると推定された。その緩やかな勾配からすると、幅15~20m位にはなるものと推定された。

### ㉔. No.53 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.5mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下には、厚さ20cmの暗黄灰色土があり、奈良～平安前期の須恵器・土師器・瓦が出土した（図版71e・f）。中世の堆積層が一切ないことからすると、後世の削平を受けていた可能性があった。その下に、厚さ5cmほどの薄い灰褐色シルト層があり、それを除去すると、地山層である黄灰色粘土層上に遺構面が検出された（図版38a）。遺構は、大小9基の土坑である（図版38a）。土坑の平面形は、隅丸方形のものが多く、楕円形のものもあった。埋土は暗灰色粘質土で、地山の黄灰色粘土がブロック状に混じっていた。土坑の深さは、大きさの割に浅く、11～28cmであった（図版39b）。底はいずれも平たかった。調査区西側で全形が明らかになった土坑1の大きさは、長さ138cm幅112cm深さ24cmあり、その埋土上層から飛鳥時代の須恵器杯のほぼ完形品が単独で上向きに1点出土し、埋土下層からは、互いに接合する須恵器甕の胴部破片が分かれて出土した（図版40a・b）。幅が94cmある土坑6からは、飛鳥時代の須恵器杯・甕（図版71b）が出土した。以上の事実から、土坑群の時期は飛鳥時代で、南西40mに位置するNo.51トレンチ下層で検出された土坑群と一連のものと考えられた。なお、土坑3や土坑5の断面では、柱抜き取り痕が認められたことから（図版40a・f）、この土坑の内には、柱穴として掘られた土坑のあることも判明した。しかし、柱抜き取り痕のない土坑も多く、土坑群の性格としては、単一なものではない可能性もあった。また、土坑群の平面分布の点では、調査区狭小のため、巨大掘立柱建物群になるのかどうかについても、不明であった。将来の周辺域の調査に解決は待つしかないと考えられた。

### ㉕. No.54 トレンチ

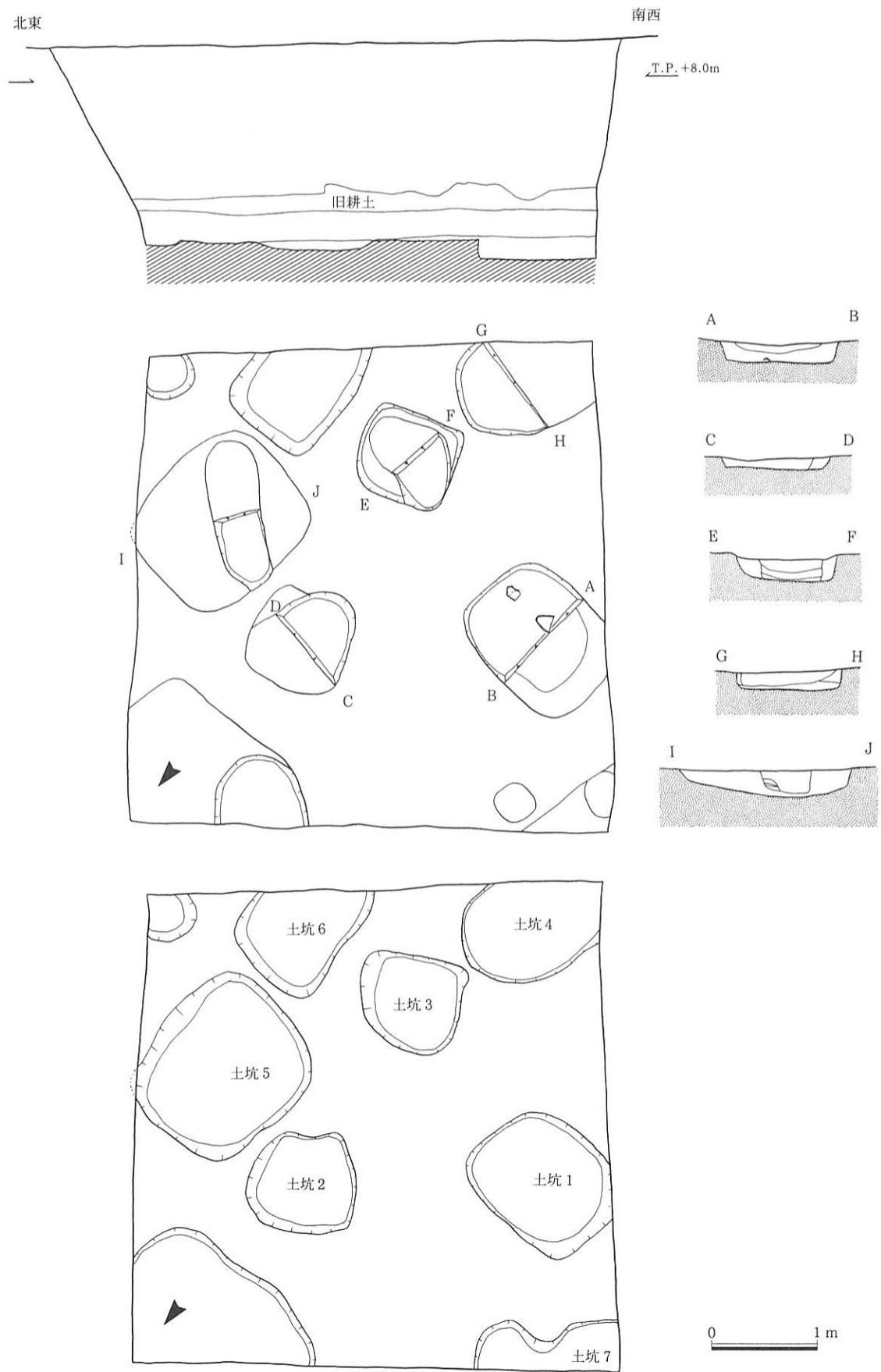
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下0.9mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に厚さ6cmの茶褐色粘質土があり、時期不明の土師器小型甕口縁部片と近・現代の軒平瓦が出土した。その下に固い茶褐色土の地山層が検出された。中・近世の堆積層がないことから、後世の削平を受けていた可能性があった。地山層上にピットが7個検出された。ピットの平面形は、長さ70cm幅40cmの隅丸方形のピットを覗き、すべて円形で、径20～40cmの小さなものばかりであった。ただ、その内3個には、柱穴掘方内部に、掘方よりは少し小さい柱根の痕跡が残っており、掘立柱建物跡の柱穴であることが判明した。しかし、調査区狭小のため、建物跡を復元するまでには至らなかった（図版41a）。

### ㉖. No.55 トレンチ

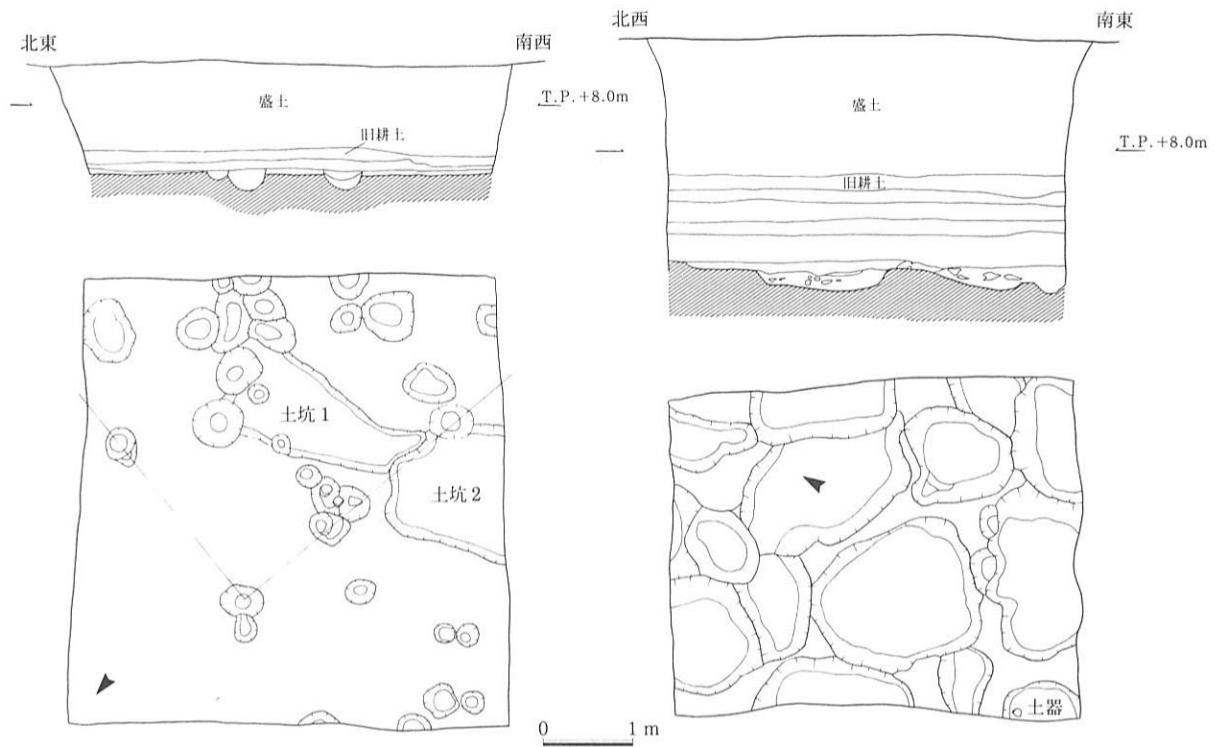
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.4mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、厚さ20cmの濁黄灰色粘土層があった。濁黄灰色粘土層の上位には、鉄分が厚く沈着した層があり、一時期の水田床土層であったことが判明した。調査区の北東角には、旧の耕土・床土層が内部に厚く落ち込んでいた円形の野井戸が検出された。近・現代のものであることが明らかだったので、掘削しないこととした。濁黄灰色粘土層中には、古墳時代後期の須恵器や、飛鳥・奈良時代の須恵器・土師器、平安～鎌倉時代の瓦器・土師器などが含まれていた（図版72a）。濁黄灰色粘土層の下には、厚さ5～7cmの茶褐色粘質土層があり、その層の下に地山層である黄灰色粘土層が検出された。黄灰色粘土層下に調査区南側で長さ25cm幅20cmの小さなピットが1個検出された。埋土は暗灰色粘質土層で、掘削していないため、時期・深さは不明である（図版41b）。

### ㉗. No.56 トレンチ

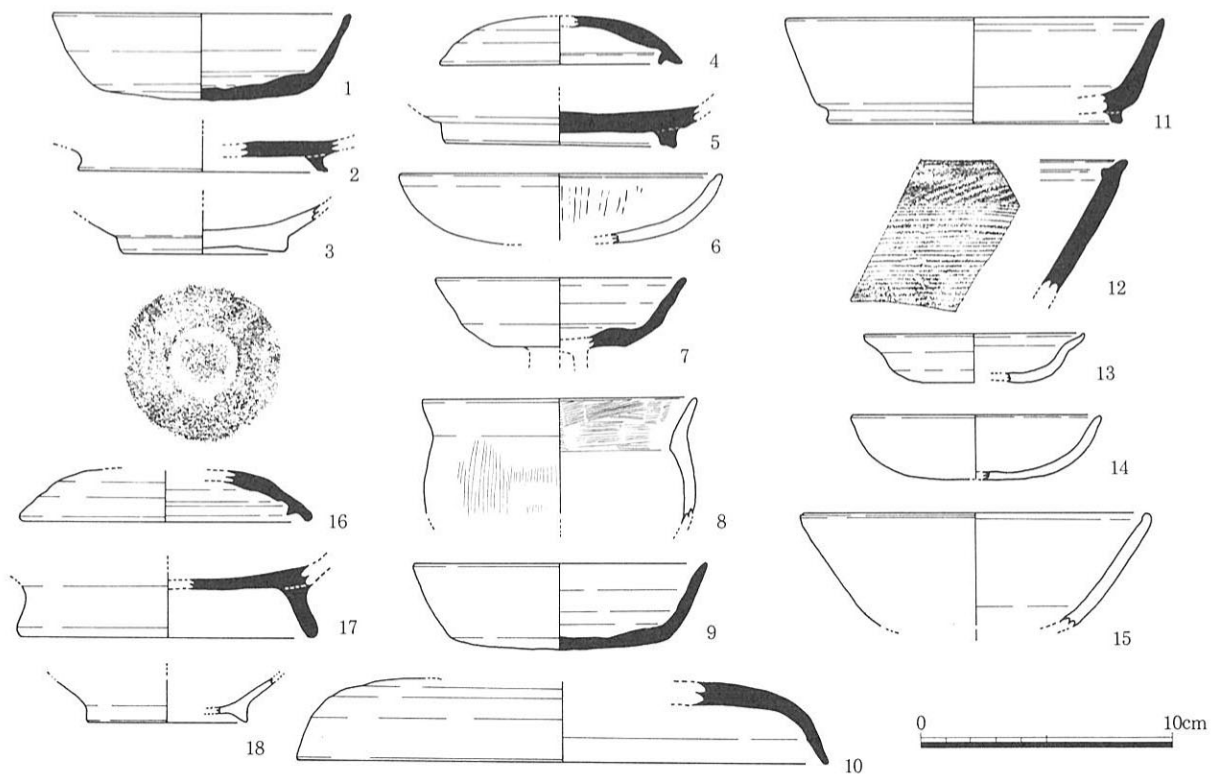
5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、厚さ16cmの灰褐色土があり、その層の下位には、厚さ6cmにわたって、鉄分やマンガンが厚く沈着していた。



第19図 №53トレンチ土坑群半割り(中)・全掘(下)平面図、断面図(上)



第20図 No.56トレンチ（左）、No.57トレンチ（右）平面図・断面図



第21図 No.53トレンチ（1～3）、No.56トレンチ（4～15）、No.58トレンチ（16～18）出土遺物実測図

灰褐色土中には、飛鳥時代の須恵器・土師器が包含されていた（図版73d）。中・近世の堆積層が一切ないことから、後世の削平を受けていた可能性があった。その下には、地山層である茶褐色砂質土上に、土坑2基と32個のピットが検出された（図版42a）。土坑1は、長さ230cm幅108cm深さ9cmあり、土坑

2は、長さ132cm以上幅146cm深さ8cmあった。土坑1の南西部分は土坑2を切っており、両者の時期に前後関係はあったが、出土土器についても、土坑1の須恵器と土坑2の須恵器とでは、土坑2の方が同じ飛鳥時代でも古かった。土坑1・土坑2を切って、ピット群が検出されたが、ピット群からは、奈良時代の須恵器・土師器が出土した(図版73c)。土坑2からは、内面に布目痕のある製塩土器が出土し、多数の焼土塊も出土した(図版73a・b)。ピットからも、極細の絹と推定される布目痕のある製塩土器や弥生時代の櫛描き波状文の施された壺片などが出土した(図版73c)。ピットは、平面形が円・楕円・隅丸方形など色々あり、大きさも径22~72cmまで様々であった。概して、径30cm位のピットが多く、深さも30cm位のものが多かった。ピット群は、調査区狭小のため、発見個数の割には、2間?×3間以上の掘立柱建物跡と復元された建物跡1以外は、明確に建物跡に復元できるものはなかった。なお、復元された掘立柱建物跡の建物の向きは、磁北とほぼ平行するものであった。

#### ㉞. No.57 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下1.2mで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、厚さ76cmに達する厚い堆積層があった。上から、厚さ16cmの暗灰色粘土層、厚さ18cmの灰色粘土層、厚さ12cmの暗灰褐色粘土層、厚さ28cmの灰褐色粘土層(黄灰色粘土ブロック混じり)であった。最下層の灰褐色粘土層中に、古墳時代後期の須恵器甕片が少量含まれていた。その下に、部分的に、地山層である黄灰色粘土層が顔を出していた。地山層以外には、すべて灰褐色粘土層や黒色粘土と黄色粘土がブロック状に混じり合った遺構埋土が出現していた(図版43a)。灰褐色粘土層の部分は、その上層を取り除くと、土坑の輪郭が現れた。掘削すると、狭い範囲に密集して土坑群が検出された(図版43b)。土坑の数は15基あり、部分的にはお互いを切り合っていた。土坑の平面形は、楕円形が多く、外形がでこぼこしたものもあった。底は、なだらかに窪むものがほとんどで、埋土中に黒色粘土がブロック状あるいは層状に落ち込んで堆積していた。遺物は、調査区南西隅の土坑1の北寄り部から、古墳時代後期の生焼けの須恵器壺底部片が内面を上にして、破片で1点出土したのみである(図版73e)。土坑の大きさは、小さなものだと長さが1m幅70cm位のものから、大きなものだと長さが190cm幅160cmのものまで色々あった。深さは、13~28cmまで様々であった。狭い範囲にこのような形・大きさの土坑群が密集して検出される現象については、脂肪酸分析の結果から墓と考える説ときれいな粘土地帯に発見されることが多いことをもって土器製作用の粘土取り穴と考える説、風倒木の痕跡と考える説など諸説あるが、現在最も多いのは墓説である。今回の土坑群もすべて埋め戻されていること、土器が破片とはいえ出土したこと、封土の存在およびそれが流失した形状を土層断面が示すことなどにより、群集する古墳時代後期の土坑墓群と考えられた。

#### ㉟. No.58 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下93cmで、旧の耕土・床土層が検出された。その下に、厚さ40cmに達する堆積層があった(図版44a)。上から、厚さ10cmの灰色砂質土、厚さ8cmの暗灰色粘質土、厚さ22cmの黄灰色粘質土であった。上2層のそれぞれ上位には、鉄分・マンガンの沈着している層があり、それぞれ水田面であったと考えられた。一番下の黄灰色粘質土中には、飛鳥時代の須恵器、平安時代の黒色土器、土師器などが包含されていた。その下に、地山層である黄灰色粘土層上に長さ3.2m幅3mの楕円形の輪郭をもった井戸が検出された(図版44a)。この井戸は、素掘りで、黒色粘土や灰黄色粘土で埋められていた。埋土中からは、飛鳥時代の須恵器、平安時代前期の須恵器・土師器、平瓦、灰釉壺などが出土した(図版74a)。井戸の深さは2mで、底は平たかった。底に径60cm深さ60cm、径

80cm深さ73cmのピットが2個検出された。ピットの底は、黄褐色の粗砂層に到達していた。井戸にしては、掘方が大きく、青灰色粘土で掘削が中止されていること、粘っこい黄灰色粘土のみが掘られていることから、あるいは、粘土取り穴であった可能性も考えられた。

㊦. Na.59 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下90cmで、調査区全面にわたってコンクリートのベタ基礎が検出された。基礎は厚く、それ以下の掘削が不可能だったので、機械掘削のみで、調査を終了した。したがって、遺構・遺物の有無は不明である（図版45 a）。

㊧. Na.60 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下3.5mで、旧の耕土・床土層が検出された。その直下に、厚さ50cmの黒色粘土層が検出された。無遺物で、泥炭化した固い粘土層であった。その下に、厚さ50cmの灰色粗砂層があり、無遺物だった。両層とも自然河川内堆積層と考えられた。以下の層に関しては、掘削深度があまりに深く、激しい湧水により壁面崩壊の恐れがあったので、調査を中止した。したがって、遺構・遺物の有無は不明である（図版45 b）。

㊨. Na.61 トレンチ

5.7×5.7mのトレンチを設定した。地表下2.1mで、旧の耕土・床土層が検出された。耕土層中には、近世陶磁器・瓦片と古墳時代中期後半の須恵器高杯・土師器片が包含されていた。また、調査区北隅には、径1.2m以上の円形をした野井戸が検出された。土層断面の観察により、近世～近代にかけてのものであることが明らかだったので、掘削することは中止した。耕土・床土層の下には、厚さ60cmからなる中世～近世にかけての堆積層が検出された。上から、厚さ9cmの灰色粘土層、16cmの灰緑色粘質細砂層、6cmの灰色細砂層、17cmの灰茶褐色粘質細砂層、8cmの灰褐色粘質土層、6～20cmの灰茶褐色細砂層であった。上から2層目、3層目、5層目、地山層上には、それぞれその層の上位に酸化鉄・マンガンの沈着層が認められ、それぞれの時期の水田面の存在が明らかとなった。また、下から2層目の灰褐色粘質土層中には、弥生時代後期の甕底部片や須恵器甕、鎌倉時代の瓦器・土師器・青磁碗などの遺物が含まれていた（図版74 b）。その灰褐色粘質土層を除去すると、北西から南東にかけての向きのスキ溝が10数本検出された（図版46 a）。幅15～20cm、深さ5～7cmの浅いもので、埋土は暗灰色粘質土層であった。中世の畑跡と考えられた。その下には、調査区北西部に、幅1.6m深さ20cmの浅い東西方向の自然河川があり、地山層である暗灰褐色粘土層に達していた（図版46 b）。

第2表 遺物観察表

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
1		47a-1	瓦器椀	(1.1)	(2.5)	0.4	鎌倉	11トレ旧耕土・ピット埋土	981012		
2		" 2	" 三足	(6.7)	(2.1)	2.1	"	"	"		
3		" 3	土師器羽釜	(3.3)	(2.9)	0.8	"	"	"		
4		" 4	" 鍋	(4.7)	8.1	0.9	"	"	"		
5		47b-1	瓦器椀	(3.8)	(4.5)	0.4	"	12トレ包含層(灰褐色土)	981013		
6		" 2	"	(3.8)	(4.6)	0.4	"	"	"		
7		" 3	"	(5.7)	(3.6)	0.4	"	"	"		
8		" 4	"	(5.6)	(5.3)	0.3	"	"	"		
9		" 5	" 三足	(9.0)	2.8	2.8	"	"	"		
10		47c-1	土師器小皿	(3.7)	(4.1)	0.25	"	"	"		
11		" 2	"	(2.8)	(3.5)	0.4	"	"	"		
12		" 3	"	(3.3)	(3.6)	0.4	"	"	"		
13		" 4	"	(3.2)	(3.7)	0.5	"	"	"		
14		" 5	"	(2.6)	(5.7)	0.6	"	"	"		
15	第5図1	" 6	青白磁合子蓋	1.0	(5.6)	0.6	"	"	"	実114	
16		" 7	青磁碗	(2.1)	(2.5)	0.4	"	"	"		
17		" 8	"	(2.5)	(2.7)	0.5	"	"	"		
18		" 9	"	(2.3)	(1.9)	0.4	"	"	"		
19		" 10	陶棺	(5.6)	(8.3)	2.8	古墳後期	"	"		内面刷毛目
20	第5図2	" 11	玉縁式丸瓦	(20.2)	(10.2)	2.3	鎌倉	"	"	実120	
21		48a-1	サヌカイト製石鏝	1.8	(1.8)	0.55	縄文後期	"	"		金山産
22		" 2	サヌカイト剥片	2.0	1.2	0.4	"	"	"		二上山産
23		" 3	結晶片岩剥片	1.9	4.0	0.2	不明	"	"		
24	第5図3	" 4	粘板岩製砥石	(8.2)	6.8	1.8	鎌倉	"	"	実126	両面使用
25		48b-1	瓦器椀	(4.6)	(4.7)	0.4	"	13トレ包含層(下位)	"		
26		" 2	"	(3.8)	(5.2)	0.35	"	"	"		
27		" 3	" 三足	(9.8)	2.4	2.4	"	"	"		
28		" 4	須恵器東播ねり鉢	(4.2)	(7.1)	1.0	"	"	"		
29		" 5	"	(4.7)	(7.1)	1.0	"	"	"		
30		" 6	土師器小皿	(4.2)	(5.2)	0.6	"	"	"		-
31		" 7	"	(3.0)	(6.1)	0.3	"	"	"		
32		" 8	"	(2.6)	(4.4)	0.4	"	"	"		
33		" 9	"	(2.7)	(4.4)	0.4	"	"	"		
34		" 10	白磁皿	(1.0)	(0.9)	0.3	平安末期	"	"		
35		" 11	"	(2.0)	(3.9)	0.35	"	"	"		
36		" 12	"	(3.8)	(2.9)	0.4	"	"	"		
37		" 13	青磁碗	(3.2)	(3.4)	0.9	鎌倉	"	"		
38		" 14	土師器鍋	(6.0)	(8.0)	1.1	平安末期	"	"		
39		" 15	" 鍋?	(5.7)	(5.7)	1.2	"	"	"		
40		" 16	" 鍋	(3.6)	(7.2)	1.0	"	"	"		
41		" 17	瓦質東播甕	(3.6)	(6.0)	1.1	鎌倉	"	"		
42		" 18	土師器甕	(3.5)	(5.6)	0.9	"	"	"		
43		" 19	"	(5.8)	(2.8)	0.65	"	"	"		
44		" 20	凸基有茎式石鏝	4.0	2.0	0.6	弥生中期	"	"		二上山サヌカイト
45		" 21	火打石破片	1.5	1.7	0.3	江戸後期	"	"		灰緑色チャート
46		" 22	袋柄鉄斧	6.9	4.4	1.85	古墳中期?	"	"		
47		" 23	平瓦	(6.5)	(5.0)	1.85	奈良	"	"		菱形叩き
48		" 24	焼土	2.4	3.6	2.8	鎌倉	"	"		
49		" 25	"	3.85	3.0	1.7	"	"	"		
50		49a-1	瓦器椀	(6.5)	(7.8)	0.4	"	15トレ包含層	9810		
51		" 2	瓦器三足	(4.4)	(5.0)	0.85	"	"	"		
52		" 3	" "	(7.0)	2.6	2.6	"	"	"		
53		" 4	" "	(9.35)	3.6	2.7	"	"	"		
54		" 5	土師器羽釜	(7.1)	(5.9)	1.3	"	"	"		
55		" 6	" 鍋	(4.2)	(7.6)	0.8	平安末期	"	"		

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
56		49 a - 7	土師器高台付き皿	(3.5)	(6.0)	0.4	平安末期	15トレ包含層	981019		
57		" 8	瓦質土器鍋	(2.7)	(6.5)	0.8	鎌倉	"	"		
58		" 9	土師器移動式かまど	(5.6)	(5.0)	1.1	平安?	"	"		
59		" 10	須恵器甕	(4.8)	(9.5)	1.6	平安末期	"	"		直口
60		" 11	十瓶焼壺	(7.0)	(5.7)	1.15	"	"	"		
61		" 12	須恵器甕	(11.2)	(8.6)	1.05	"	"	"		
62		" 13	渥美焼甕	(5.9)	(9.5)	1.20	"	"	"		
63		" 14	常滑焼甕	(7.5)	(3.0)	1.3	"	"	"		
64		" 15	"	(6.0)	(6.2)	0.1	"	"	"		
65		" 16	渥美焼甕	(3.8)	(11.6)	1.2	"	"	"		外面に薬紐痕
66		" 17	白磁碗	(1.7)	(4.8)	1.1	"	"	"		
67		" 18	フイゴ羽口	(2.4)	(2.2)	(1.7)	"	"	"		
68	第5図4	" 19	平瓦	(19.7)	(13.3)	2.3	鎌倉	"	"	実100	内面に指文
69		50 a - 1	窯壁	(11.8)	(10.3)	4.8	"	"	"		
70		50 b - 1	土師器鍋	(6.7)	(8.3)	0.8	平安後期	16トレ包含層	981014		
71		" 2	" 小皿	(3.8)	(3.1)	0.6	"	"	"		
72		" 3	須恵器東播椀	(2.1)	(1.9)	0.6	"	"	"		
73		50 c - 1	須恵器甕	(3.6)	(2.9)	1.1	古墳後期?	18トレ地山直上	981015		
74		" 2	白磁碗	(2.5)	(1.6)	0.7	平安末期	"	"		
75		" 3	灰釉菊皿	(2.5)	(3.5)	0.6	戦国	"	"		
76		50 d - 1	土師器鍋	(5.7)	(5.7)	0.8	平安?	19トレ溝1	981014		
77		" 2	"	(4.0)	(6.7)	0.5	"	"	"		
78		" 3	"	(7.0)	(11.7)	0.6	"	"	"		
79		50 e - 1	牛か馬の骨	(2.0)	3.4	(1.7)	鎌倉	23トレ地山直上	981126		
80		" 2	"	(5.3)	(3.1)	(1.5)	"	"	"		
81		" 3	"	(7.0)	(3.0)	(1.15)	"	"	"		
82	第5図5	50 f - 1	鉄刀子	6.6	2.3	0.6	奈良	24トレ包含層	981022	実103	
83		" 2	須恵器杯	(5.0)	(6.5)	0.7	"	"	"		
84		50 g - 1	" 杯身	(1.5)	(2.6)	0.4	古墳後期	26トレ土坑1暗灰色粘土	981023		生焼け
85		" 2	須恵器杯蓋	(1.0)	(2.7)	0.3	奈良	"	"		
86		" 3	" "	(2.5)	(3.5)	0.6	"	"	"		
87		" 4	土師器杯	(2.6)	(5.0)	0.4	"	"	"		
88		" 5	" "	(3.8)	(3.7)	0.5	"	"	"		
89		51 a - 1	須恵器杯	(4.8)	(6.8)	0.5	飛鳥	26トレ包含層II(暗灰色土)	"		
90		" 2	" 杯蓋	(4.1)	(7.2)	0.75	奈良	26トレ土坑1暗灰色粘土	"		
91		" 3	" 甕	(5.5)	(9.5)	0.75	"	26トレ包含層II(暗灰色土)	"		
92		" 4	" 壺	(3.0)	(5.6)	0.85	"	"	"		
93	第5図6	51 b - 1	土師器杯	2.1	(20.0)	0.4	"	26トレ南側落ち部	"	実102	
94		" 2	" 小型甕	(2.8)	(3.8)	0.3	"	26トレ包含層II暗灰色土	"		
95		" 3	" 杯	(2.8)	(4.2)	0.5	平安前期	"	"		
96		" 4	緑釉皿	(1.3)	(1.8)	0.3	奈良~平安	"	"		
97		" 5	製塩土器	(2.8)	(3.0)	1.15	"	"	"		
98		" 6	"	(3.1)	(2.4)	0.7	"	"	"		軽石含有
99		" 7	"	(2.6)	(1.6)	0.3	"	"	"		"
100		" 8	"	(1.3)	(1.5)	0.6	"	"	"		"
101		" 9	"	(1.6)	(2.0)	0.5	"	"	"		
102	第5図7	51 c - 1	須恵器製品	(7.2)	5.3	1.6	"	"	"	実99	側縁磨き
103		" 2	丸瓦	(3.2)	(4.7)	1.3	奈良	"	"		
104		" 3	"	(6.3)	5.5	1.3	"	"	"		
105		51 d - 1	黒色土器椀	(3.0)	(3.1)	0.4	平安中期	28トレ包含層(灰褐色土)	"		内黒
106		" 2	土師器鍋	(4.5)	(4.4)	0.6	"	"	"		
107		" 3	瓦器椀	(3.9)	(4.0)	0.5	平安後期	"	"		
108		" 4	"	(2.1)	(4.3)	0.5	"	"	"		
109		51 e - 1	須恵器杯身	(1.3)	(3.0)	0.5	古墳後期	"	"		
110		" 2	" 杯蓋	(2.9)	(1.9)	0.4	奈良	"	"		



番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
111		51 e - 3	緑釉皿	(3.0)	(2.7)	0.35	奈良	28トレ包含層(灰褐色土)	981023		
112		" 4	灰釉皿	(3.2)	(1.2)	0.8	"	"	"		
113		" 5	" 壺	(3.1)	(3.8)	0.5	"	"	"		
114		" 6	" "	(2.7)	(3.9)	0.6	"	"	"		
115		" 7	白磁碗	(2.0)	(3.3)	0.6	平安後期	"	"		
116		" 8	フイゴ羽口	(3.0)	(3.0)	(1.2)	奈良	"	"		
117		51 f - 1	土師器小皿	(3.0)	(3.6)	0.5	鎌倉	29トレピット1	981124		
118		" 2	瓦器椀	(4.4)	(4.2)	0.4	"	" "	"		
119		" 3	東播甕	(13.0)	(8.8)	0.6	"	" ピット3	"		
120		" 4	土師器鍋	(2.5)	(4.2)	0.8	"	" ピット4	"		
121	第9図1	52 a - 1	土師器羽釜	(17.0)	(39.0)	1.0	"	" ピット2	"	実31	
122		52 b - 1	弥生土器鉢	(3.6)	(3.9)	0.8	弥生中期末	30トレ地山直上包含層	981026		
123		" 2	" 甕	(2.4)	(5.0)	1.3	弥生後期	" "	"		
124		" 3	" "	(5.0)	5.9	1.4	"	" "	"		
125		52 c - 1	須恵器杯身	(2.8)	(5.4)	0.5	古墳後期	" "	"		
126		" 2	" 杯	(3.2)	(4.4)	0.6	奈良	" "	"		
127		" 3	" 甕	(6.5)	(9.4)	0.7	古墳後期	" "	"		
128		" 4	東播ねり鉢	(8.4)	(13.2)	1.2	平安後期	" "	"		
129		" 5	黒色土器椀	(4.2)	(4.8)	0.6	"	" "	"		両黒
130		" 6	瓦器椀	(5.1)	(11.0)	0.35	"	" "	"		
131		" 7	"	(4.0)	(6.3)	0.5	"	" "	"		
132		" 8	"	(3.8)	(6.8)	0.5	"	" "	"		
133		" 9	"	(4.5)	(6.9)	0.45	"	" "	"		
134		" 10	土師器鍋	(3.5)	(11.0)	0.9	"	" "	"		
135		" 11	"	(4.8)	(9.1)	0.1	"	" "	"		
136		" 12	" 小皿	(3.8)	(4.5)	0.7	"	" "	"		
137		" 13	"	(4.0)	(2.2)	0.35	"	" "	"		
138		" 14	"	(4.5)	(3.7)	0.5	"	" "	"		
139		" 15	"	(3.8)	(4.5)	0.35	"	" "	"		
140		" 16	馬歯	5.7	1.1	(0.1)	"	" "	"		
141		53 a - 1	緑釉皿	(1.9)	(3.0)	0.3	奈良～平安	" "	"		
142	第9図2	" 2	"	(5.0)	(5.8)	0.6	"	" "	"	実115	
143	" 3	" 3	"	(1.7)	(6.8)	0.8	"	" "	"	実116	
144		" 4	白磁碗	(2.2)	(2.7)	0.6	平安末期	" "	"		
145		" 5	"	(3.5)	(3.7)	0.6	"	" "	"		
146		" 6	製塩土器	(3.6)	(2.5)	0.75	奈良～平安	" "	"		
147		" 7	"	(3.8)	(3.7)	1.3	"	" "	"		
148		" 8	平瓦	(2.0)	(3.2)	1.5	鎌倉	" "	"		
149		53 b - 1	瓦器椀	(1.6)	(2.3)	0.4	"	32トレ土坑1(灰褐色土)	981027		
150		" 2	緑釉皿	(2.0)	(3.0)	0.5	奈良～平安	32トレ灰褐色粘土	981026		
151		" 3	灰釉皿	(2.6)	(1.6)	0.65	"	"	"		
152		" 4	土師器小皿	(4.3)	(5.5)	0.7	鎌倉	"	"		
153		" 5	須恵器杯蓋	(5.5)	(3.0)	0.7	飛鳥	"	"		
154		" 6	"	(3.2)	(3.4)	0.4	古墳後期	"	"		
155		" 7	須恵器臬	(5.6)	(6.2)	0.6	飛鳥	"	"		
156	第9図4	" 8	平瓦	(9.0)	(7.3)	1.8	奈良	"	"	実125	
157		53 c - 1	須恵器壺	(5.0)	(4.3)	1.0	古墳後期	33トレ井戸1(-70cm)	981121		
158		" 2	土師器小皿	(3.1)	(2.6)	0.4	鎌倉	"	"		
159		" 3	東播甕	(3.7)	(4.1)	0.9	"	"	"		
160		53 d - 1	瓦器椀	(3.6)	(5.1)	0.4	鎌倉	33トレ床土層	981120		
161		" 2	" 三足	(3.2)	(7.8)	0.9	"	"	"		
162		" 3	土師器小皿	(2.6)	(6.8)	0.3	"	"	"		
163		" 4	" 羽釜	(7.0)	(5.0)	1.4	"	"	"		
164		" 5	玉縁式丸瓦	(11.3)	(7.4)	1.5	"	"	"		
165		53 e - 1	青磁碗	(4.5)	(3.0)	0.45	室町	34トレ包含層(灰褐色土)	981030		

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
166		53 e - 2	須恵器高杯	(2.5)	(4.6)	0.7	飛鳥	34トレ包含層(灰褐色土)	981030		生焼け
167		54 a - 1	瓦器椀	(3.8)	(5.0)	0.4	鎌倉	36トレ井戸1	981028		
168		" 2	"	(5.3)	(3.9)	0.3	"	" "	"		
169	第9図8	" 3	土師器小皿	1.6	7.8	0.3	"	" "	"	実94	
170		" 4	青磁碗	(1.5)	(2.8)	0.5	"	" "	"		
171		" 5	"	(2.0)	(2.2)	0.7	"	" "	"		
172		" 6	平瓦	(3.3)	(3.3)	2.1	"	" "	"		
173		" 7	東播ねり鉢	(8.4)	(5.5)	0.9	"	" "	"		
174		" 8	"	(7.0)	(12.5)	1.1	"	" "	"		
175		" 9	瓦器三足	(8.2)	(4.4)	3.0	"	" "	"		
176	第9図5	54 b - 1	弥生土器壺	(3.2)	(9.6)	1.8	弥生中期	" 地山直上包含層	981026	実91	
177	" 6	" 2	黒色土器椀	(2.7)	(12.9)	6.5	平安中期	" "	"	実92	内黒
178	" 7	" 3	瓦器椀	2.9	(11.2)	0.4	鎌倉	" "	"	実89	
179		" 4	土師器小皿	(6.3)	(5.7)	0.3	"	" "	"		
180		" 5	東播椀	(4.1)	(4.7)	0.6	平安末期	" 溝1	981028		
181		" 6	白磁碗	(3.2)	(3.8)	0.8	"	" 地山直上包含層	981026		
182		" 7	土師器三足	(5.5)	1.9	1.9	鎌倉	" 溝1	981028		
183		" 8	十瓶焼壺	(5.6)	(8.8)	1.5	"	" 地山直上包含層	981026		
184		" 9	瓦質火鉢	(4.7)	(6.5)	1.2	南北朝	" "	"		
185		54 c - 1	サヌカイト剥片	3.1	4.0	0.5	旧石器	" 褐色土	981028		
186		" 2	"	1.7	3.6	0.7	"	" 溝1	"		
187		" 3	"	2.3	3.7	0.65	"	" 井戸1	"		
188		54 d - 1	須恵器杯蓋	(2.4)	(5.0)	0.6	古墳後期	37トレ包含層(黒色粘土層)	981119		
189		" 2	" 壺	(4.0)	(3.8)	0.5	奈良	"	"		
190		" 3	瓦器椀	(3.0)	(3.0)	0.4	鎌倉	"	"		
191		55 a - 1	"	(3.7)	(3.2)	0.4	"	38トレ包含層	981029		
192		" 2	土師器小皿	(2.6)	(2.0)	0.4	"	"	"		
193		" 3	" 甕	(2.8)	(4.4)	0.6	古墳前期	"	"		
194		" 4	" "	(4.3)	(4.6)	6.5	"	"	"		
195		55 b - 1	石器サヌカイト	3.2	1.9	0.8	縄文?	39トレ包含層(床土層)	981116		
196		" 2	土師器甕	(3.0)	(3.8)	5.5	奈良?	"	"		
197		" 3	瓦器椀	(2.5)	(4.0)	5.0	鎌倉	"	"		
198		" 4	土師器小皿	(2.7)	(3.5)	0.45	"	"	"		
199		" 5	丹波焼すり鉢	(4.5)	(6.3)	1.0	戦国	"	"		
200	第11図	55 c、56 a	須恵器大甕	101.0	91.0	1.0	古墳後期	40トレ埋甕	981030		底部穿孔
201	第9図9	56 c - 1	木器大足	32.5	2.3	1.15	"	"	"	実104	
202	" 10	" 2	"	32.2	2.8	1.2	"	"	"	実105	
203	" 11	" 3	"	32.5	3.1	1.1	"	"	"	実106	
204	" 12	" 4	"	(31.2)	3.3	1.7	"	"	"	実107	
205	" 13	" 5	"	(29.8)	2.9	1.5	"	"	"	実108	
206	" 14	" 6	"	(30.7)	3.0	1.2	"	"	"	実109	
207	" 15	" 7	"	(19.6)	3.0	1.2	"	"	"	実110	
208	" 16	" 8	不明	(18.7)	3.2	1.3	"	"	"	実111	
209	" 17	" 9	"	(14.9)	3.2	1.6	"	"	"	実112	
210	" 18	" 10	"	(27.0)	2.2	1.5	"	"	"	実113	
211	第13図1	57 a	瓦器椀	3.4	(13.5)	0.45	鎌倉	41トレ溝1	981119	実90	
212	" 10	57 b - 1	"	3.0	(11.4)	0.4	"	" 井戸1(-30~60cm)	"	実93	
213	" 19	" 2	白磁碗	(2.0)	(2.1)	0.55	"	" "	"	実23	定窯
214		" 3	土師器羽釜	(2.4)	(4.0)	0.9	"	" "	"		布目圧痕
215	" 6	57 c - 1	瓦器椀	3.7	(13.5)	0.55	"	" 井戸1(-60~90cm)	981120	実13	
216	" 2	" 2	"	3.9	(14.3)	0.5	"	" "	981126	実7	
217	" 7	" "	"	3.5	(13.4)	0.45	"	" "	"	実8	
218	" 4	" "	"	3.5	(14.0)	0.45	"	" "	"	実11	
219	" 3	" "	"	3.6	(14.0)	0.5	"	" "	"	実14	
220	" 9	" "	"	3.8	(12.9)	0.5	"	" "	"	実12	

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
221	第13図8	57c-2	瓦器椀	3.15	(12.8)	0.5	鎌倉	41トレ井戸(-60~90cm)	981126	実9	
222	" 5	" "	"	3.6	(14.0)	0.5	"	" "	"	実17	
223	" 15	" 3	土師器小皿	1.6	8.6	0.4	"	" "	981120	実20	
224	" 14	" 4	"	1.4	(8.4)	0.6	"	" 井戸1(-30~60cm)	981126	実10	
225	" 12	" 5	"	1.3	(8.3)	0.5	"	" 井戸1(-60~90cm)	981126	実18	
226	" 13	" 6	"	1.5	(8.4)	0.5	"	" 井戸1(0~-30cm)	981120	実15	
227	" 18	" 7	"	1.35	(7.8)	0.5	"	" 井戸1(-60~90cm)	981126	実16	
228	" 17	" 8	"	1.5	(7.8)	0.4	"	" 井戸1(0~-30cm)	981121	実22	
229	" 16	" 9	"	1.3	(8.1)	0.5	"	" "	"	実19	
230	" 11		"	1.2	(9.4)	0.5	"	" "	"	実21	
231	" 24	58a-1	" 羽釜	(15.8)	32.0	1.3	"	" 井戸1(-60~90cm)	981126	実30	
232		" 2	" "	(10.5)	(14.0)	0.8	"	" "	"		
233		" 3	" "	(7.1)	(9.5)	0.8	"	" "	"		
234	第14図2	" 4	" "	(6.7)	(39.0)	1.1	"	" 井戸1(0~-30cm)	981119	実28	
235	" 1	" 5	" "	(8.8)	(38.3)	1.1	"	" "	"	実26	
236	" 3	" 6	" 鉢	(8.4)	(36.0)	1.0	"	" 井戸1(-60~90cm)	981120	実27	
237	第13図22	" 7	" 三足	(13.8)	(24.8)	1.0	"	" "	"	実29	
238		" 8	" "	(9.1)	(5.8)	2.9	"	" 井戸1(0~-30cm)	"		
239		" 9	" "				"	" "	981119	実29	
240		" 10	" "	(10.3)	(4.8)	2.5	"	41トレ井戸1(-30~60cm)	981126		
241		" 11	東播甕	(12.5)	(20.5)	5.5	"	" 井戸1(0~-30cm)	981119		
242		" 12	"	(8.0)	(14.5)	5.5	"	" 井戸1底	981130		
243		59a-1	東播ねり鉢	(4.7)	(6.5)	0.9	"	" 井戸1(0~-30cm)	981126		
244		" 2	"	(3.3)	(7.1)	1.2	"	" 井戸1(-30~60cm)	"		
245		" 3	"	(8.2)	(10.5)	0.85	"	" 井戸1(0~-30cm)	981119		
246	第13図20	" 4	"	(7.4)	(27.7)	0.7	"	" 井戸1底	981130	実25	
247	" 21	" 5	"	(3.4)	(17.1)	1.0	"	" 井戸1(0~-30cm)	981121	実24	
248		" 6	瓦器三足	(5.5)	(15.3)	0.55	"	" 井戸1(-60~90cm)	981120		
249	第13図23	" 7	"	(9.2)	(13.9)	0.55	"	" 井戸1底	981130	実101	
250		" 8	"	(3.4)	(5.6)	0.9	"	" 井戸1(0~-30cm)	981119		
251		" 9	"	(4.3)	(6.3)	0.7	"	" 井戸1底	981130		
252		" 10	"	(5.8)	(8.6)	8.0	"	" "	"		
253		" 11	"	(12.75)	(4.4)	2.7	"	" "	"		
254		" 12	"	(8.0)	(3.8)	2.6	"	" "	"		
255		" 13	"	(6.8)	2.6	2.6	"	" "	"		
256		" 14	"	(5.5)	1.6	1.6	"	" "	"		
257		" 15	家形埴輪(?)	(14.0)	(8.4)	4.3	古墳後期	" 井戸1(-30~60cm)	981126		
258		" 16	焼土	2.2	2.9	1.4	鎌倉	" 井戸1(0~-30cm)	"		
259		" 17	"	2.8	3.0	1.7	"	" "	981129		
260		" 18	"	4.0	5.0	1.7	"	" 井戸1底	981130		
261		" 19	平瓦	(6.5)	(6.5)	2.15	"	" 井戸1(0~-30cm)	981121		
262		" 20	"	(7.8)	(6.0)	2.1	"	" 井戸1底	981130		
263		" 21	丸瓦	(6.0)	(5.8)	1.65	"	" 井戸1(0~-30cm)	"		
264		" 22	鬘斗瓦	(7.7)	(5.8)	1.65	"	" 井戸1(0~-30cm)	"		
265	第14図4	60a-13	木器曲物桶	(8.4)	12.6	0.9	"	" "	"	実98	
266	" 5	" 14	" 竹串	7.0	1.0	0.3	"	" "	"	実97	
267	" 6	" 15	砥石	(5.1)	3.7	1.4	"	" "	"	実95	
268	" 7	" 16	鹿角製品	3.3	1.7	0.9	"	" "	"	実96	
269		60b-1	土師器甕	(3.5)	(4.0)	0.8	不明	42トレ包含層(灰褐色土)	981102		
270		" 2	渥美焼甕	(8.5)	(8.0)	1.3	鎌倉	" "	"		外面に薬紐痕
271		" 3	備前焼すり鉢	(3.5)	(6.3)	0.9	江戸	" "	"		
272		" 4	瀬戸・美濃焼皿	(2.2)	(2.3)	0.35	戦国	43トレ包含層	981116		
273		" 5	青磁碗	(2.0)	(2.2)	0.4	鎌倉	" 包含層(床土中)	"		
274		" 6	東播ねり鉢	(6.0)	(5.8)	0.7	"	" "	981113		
275		61a-1	須恵器壺	(4.0)	(3.7)	0.9	奈良	44トレ溝1(濁灰色粗砂)	981104		

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
276		61 a - 2	須恵器平瓶	(6.7)	3.1	1.35	奈良	44トレ溝1(濁灰色粗砂)	981104		
277		" 3	白磁碗	(2.0)	(4.9)	0.9	平安末期	45トレ包含層	981112		
278		" 4	製塩土器	(2.4)	(0.9)	1.1	奈良	" "	"		軽石含有
279		" 5	土師器甕	(2.1)	(4.5)	0.5	"	" "	"		
280		" 6	須恵器杯蓋	(2.8)	(3.5)	0.5	"	" "	"		
281		" 7	" 杯	(3.0)	(6.4)	0.6	"	" "	"		
282		" 8	備前焼すり鉢	(4.7)	(4.5)	0.9	戦国	47トレ包含層(濁灰色シルト)	"		
283		" 9	平瓦	(7.0)	(4.3)	2.3	平安前期	" "	"		
284		61 b - 1	須恵器杯蓋	(4.5)	(6.0)	0.5	飛鳥	48トレ溝1(灰褐色土)	981105		
285		" 2	" 甕	(2.1)	(4.4)	0.6	"	" 溝2(灰色粘土)	"		
286		" 3	" 杯	(3.1)	(4.8)	0.8	"	" ピット4	"		
287		" 4	土師器高杯	(5.5)	(3.9)	0.6	"	" 灰褐色土	"		
288		" 5	緑釉杯	(2.3)	(4.8)	0.45	奈良	" "	981104		
289		" 6	灰釉杯	(2.8)	(2.6)	0.45	平安前期	" "	"		
290		61 c - 1	須恵器杯	(4.6)	(4.6)	0.7	飛鳥	" "	"		
291	第14図8	" 2	" 高台付皿	(1.9)	(7.9)	0.9	"	" "	"	実78	
292	" 9	" 3	" 杯	(1.5)	(11.5)	0.8	"	" "	"	実75	
293	" 10	" 4	" "	(1.6)	(12.9)	0.9	"	" "	"	実79	
294		" 5	平瓦	(3.5)	(3.9)	1.5	奈良	" "	"		
295		" 6	"	(5.0)	(4.8)	1.6	"	" "	"		
296	第14図12	62 a - 1	須恵器瓶子	14.0	11.3	0.7	平安前期	49トレ土坑1(濁灰色砂)	981111	実37	
297	" 16	62 b - 1	土師器杯	2.8	14.4	0.5	奈良	" 排土中	981112	実38	
298	" 21	62 c - 1	黒色土器椀	5.1	(15.9)	0.5	平安後期	" 井戸1	981116	実67	
299	" 17	" 2	土師器皿	(0.9)	(9.6)	0.5	"	" "	"	実86	
300	" 15	" 3	" "	(2.7)	(13.9)	0.6	"	" "	"	実83	
301	" 14	" 4	" "	(2.9)	(14.4)	0.6	"	" "	"	実84	
302	" 20	62 d - 1	奈良三彩小壺	4.0	6.5	0.7	奈良	" 排土中	981111	実40	
303	" 11	" 2	須恵器器台	(7.4)	(29.8)	1.1	古墳後期	" 包含層(オリブ灰色粘土)	"	実88	
304	" 13	" 3	" 杯	(2.2)	(12.8)	0.6	奈良	" "	"	実80	転用硯
305	" 22	" 4	瓦器椀	6.0	(15.5)	0.7	平安後期	" "	"	実82	
306	" 19	" 5	土師器皿	1.7	(9.5)	0.6	"	" 排土中	981112	実81	
307	" 18	" 6	"	1.2	9.35	0.55	"	" 包含層(オリブ灰色粘土)	981111	実87	
308		63 a - 1	平瓦	(7.0)	(4.4)	2.2	平安前期	" 排土中	981112		
309		" 2	製塩土器	(1.4)	(2.7)	0.8	奈良	" 包含層(オリブ灰色粘土)	981111		軽石含有
310		" 3	"	(1.2)	(1.5)	0.6	"	" 排土中	981112		"
311		" 4	"	(1.5)	(1.8)	0.65	"	" "	"		内面布目
312		" 5	"	(2.0)	(2.5)	1.15	"	" 包含層(オリブ灰色粘土)	981111		
313		" 6	"	(2.8)	(2.6)	1.2	"	" 排土中	981112		
314		" 7	"	(4.1)	(3.7)	1.0	"	" 包含層(オリブ灰色粘土)	981111		軽石含有
315		" 8	土錘	(2.1)	1.3	0.5	鎌倉	" "	"		
316		" 9	石器砥石	(1.4)	(1.7)	(1.0)	"	" "	"		凝灰岩
317		" 10	土師器三足	(10.4)	3.25	3.25	"	" 排土中	981119		
318		" 11	石器五輪塔?	(5.7)	(3.3)	(2.7)	"	" "	"		凝灰岩
319		" 12	" 砥石	(11.0)	(7.0)	(3.8)	"	" "	"		砂岩
320	第17図4	63 b - 1	白磁碗	(1.6)	(1.8)	0.3	平安後期	50トレ井戸1(埋土中)	981105	実36	
321	" 1	" 2	須恵器杯蓋	(1.3)	(17.7)	0.8	奈良	" "	"	実70	
322	" 2	" 3	土師器高台付杯	(2.8)	(6.9)	0.6	平安後期	" "	"	実35	
323	" 3	" 4	" 鍋	(11.7)	(33.6)	1.0	"	" 井戸1(灰色粘土)	981104	実39	
324		" 5	瓦器椀	(3.5)	(5.3)	0.35	平安後期	" "	"		
325		" 6	"	(2.2)	(4.9)	0.5	"	" "	"		
326		" 7	須恵器把手	(4.4)	1.3	1.3	奈良	" "	"		
327	第17図13	64 a - 1	土師器小皿	1.7	8.7	0.4	鎌倉	51トレピット2	981127	実71	
328	" 11	" 2	" 杯	3.9	14.5	0.5	平安	" ピット4	"	実73	
329	" 10	" "	" "	3.0	13.4	0.6	奈良	" ピット16	981126	実4	
330		64 a - 3	土師器高杯	(4.4)	(4.2)	1.2	"	" ピット4	981127		

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
331		64 a - 4	須恵器杯	(3.4)	(4.5)	0.6	奈良	51トレピット4	981127		
332		" 5	"	(4.0)	(4.7)	0.6	"	" "	"		
333		" 6	瓦器椀	(5.3)	(3.3)	0.35	鎌倉	" ピット22	981126		
334		" 7	縄文土器深鉢	(3.2)	(4.1)	0.9	縄文後期	" ピット18	"		中津併行
335		" 8	製塩土器	(4.4)	(2.9)	0.9	奈良	" ピット16	981127		内面極細布目
336		" 9	"	(5.8)	(4.7)	1.1	"	" ピット19	981126		穀入り。内面布目
337		" 10	"	(3.3)	(1.9)	1.1	"	" ピット21	"		内面布目
338		65 a - 1	須恵器甕	(10.8)	(21.0)	1.8	"	" 包含層(灰褐色土)	981111		
339	第17図6	" 2	" 杯	(4.1)	(13.2)	0.5	"	" "	"	実6	
340	" 5	" 3	" 杯蓋	(2.0)	(16.9)	0.65	"	" "	"	実76	
341	" 7	" 4	" 杯	(2.1)	(12.6)	0.6	"	" "	"	実77	
342	" 9	" 5	" 壺	(3.5)	(6.8)	0.6	"	" "	"	実2	
343		" 6	" 杯	(2.2)	(9.4)	1.0	"	" "	"	実85	
344		" 7	" 不明	(3.3)	(6.7)	1.7	"	" "	"		
345		" 8	黒色土器椀	(5.1)	(7.4)	0.4	平安前期	" " "	"		内黒
346		" 9	土師器椀	(6.5)	(4.8)	0.45	"	" " "	"		
347	第17図12	" 10	" 甕	(4.0)	(15.8)	0.8	奈良	" " "	"	実127	
348		" 11	" 杯	(3.8)	(3.7)	0.6	"	" " (暗灰褐色土)	"		
349		" 12	叩き石	9.1	6.8	5.8	奈良~平安	" " (灰褐色土)	"		
350		" 13	平瓦	(6.2)	(4.3)	0.8	奈良	" " (暗灰褐色土)	"		
351		" 14	"	(5.8)	(4.3)	1.7	"	" " "	"		
352		" 15	"	(5.3)	(6.8)	1.85	"	" " "	"		
353	第17図16	" 16	"	(8.5)	(10.0)	1.8	"	" " (灰褐色土)	"	実128	
354		" 17	"	(6.0)	(4.1)	1.9	"	" " (暗灰褐色土)	"		
355		" 18	"	(4.5)	(3.8)	2.35	"	" " (灰褐色土)	"		
356		" 19	"	(13.3)	(4.0)	2.0	"	" " "	"		
357	第17図17	" 20	丸瓦	(15.5)	(12.3)	1.6	"	" " "	"	実124	
358		66 a - 1	緑釉皿	(3.9)	(4.6)	0.4	"	" " "	"		
359	第17図15	" 2	灰釉皿	(2.2)	(13.8)	0.85	平安前期	" " "	実3		
360		" 3	"	(4.0)	(3.7)	1.15	"	" " "	"		
361		" 4	"	(4.7)	(3.0)	0.85	"	" " (暗灰褐色土)	"		
362		" 5	"	(8.7)	(6.0)	0.9	"	" " (灰褐色土)	"		
363	第17図14	" 6	白磁碗	(3.7)	(5.1)	0.5	平安末期	" " "	"	実68	
364		" 7	製塩土器	(1.9)	(1.8)	1.1	奈良	" " (暗灰褐色土)	"		軽石含有
365		" 8	"	(5.0)	(2.7)	0.5	"	" " (灰褐色土)	"		
366	第17図18	" 9	"	(10.5)	(5.3)	1.4	"	" " "	"	実72	内面粗布目、金雲母
367		" 10	"	(2.9)	(2.5)	1.0	"	" " (暗灰褐色土)	"		内面布目
368		" 11	"	(1.7)	(2.2)	0.7	"	" " "	"		"
369		" 12	"	(4.5)	(2.6)	1.5	"	" " "	"		軽石含有
370		" 13	"	(2.0)	(2.7)	1.0	"	" " "	"		内面粗布目
371	第17図19	" 14	円筒埴輪	(11.2)	(12.2)	0.9	古墳後期	" " (灰褐色土)	"	実66	
372		" 15	柱根				奈良	" ピット4	981127		
373	第18図1	67 a - 1	土師器皿	(2.3)	(10.5)	0.35	飛鳥	" (下層)土坑1	981130	実64	
374		" 2	" 甕	(5.1)	(6.8)	0.6	"	" " "	981202		
375		" 3	須恵器甕	(11.6)	(14.0)	1.9	奈良	" 包含層(地山直上)	981202		
376		" 4	" 杯蓋	(1.8)	(3.8)	0.35	飛鳥	" " "	"		
377		" 5	" "	(2.5)	(2.9)	0.4	"	" (下層)土坑1	981130		
378		" 6	" "	(6.7)	(8.9)	0.7	奈良	" 包含層(地上直上)	981127		
379	第18図2	" 7	" 壺蓋	(2.2)	(15.5)	5.5	"	" " "	"	実5	
380	" 3	" 8	" 杯	(4.8)	(14.5)	0.8	"	" " "	"	実1	
381		" 9	" 壺	(5.0)	(4.9)	0.7	"	" " "	"		
382		" 10	" "	(4.8)	(7.7)	0.9	"	" " "	"		
383	第18図4	" 11	土師器杯	5.2	(21.0)	0.6	"	" " "	"	実63	
384	" 6	" 12	" "	4.6	(18.9)	0.7	"	" " "	"	実61	
385	" 5	" 13	" "	4.4	(16.3)	0.675	"	" " "	"	実62	

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
386		67 a - 14	土師器杯	5.35	(6.5)	0.7	奈良	51トレ包含層(地山直上)	981127		
387		" 15	" 移動式かまど	(7.2)	(10.0)	1.9	"	"	"		
388	第18図7	68 a - 1	製塩土器	(5.2)	(12.1)	0.95	"	"	"	実69	
389		" 2	"	(3.4)	(2.9)	0.65	"	" ピット4	"		内面粗布目
390		" 3	"	(3.3)	(3.2)	0.6	"	" 包含層(地山直上)	"		
391		" 4	"	(2.3)	(1.5)	0.7	"	" " "	"		内面布目
392	第18図8	" 5	"	(2.7)	(6.4)	1.3	"	" " "	"	実74	"
393		" 6	"	(3.9)	(3.1)	0.8	"	" ピット4	"		軽石含有
394		" 7	"	(3.0)	(2.5)	0.7	"	" 包含層(地山直上)	"		"
395		" 8	"	(3.65)	(3.4)	1.7	"	" " "	"		
396		" 9	"	(3.5)	(3.1)	0.8	"	" " "	"		
397		" 10	"	(3.9)	(2.6)	1.2	"	" " "	"		
398		" 11	"	(4.2)	(4.1)	1.4	"	" " "	"		
399		" 12	"	(2.8)	(2.5)	0.85	"	" " "	"		
400		" 13	"	(2.6)	(2.7)	1.4	"	" " "	"		
401	第18図9	" 14	軒平瓦	(9.6)	(8.9)	2.7	"	" " "	"	実118	
402	" 10	" 15	平瓦	(10.7)	(8.9)	1.9	"	" " "	"	実119	
403	" 11	69 a - 1	弥生土器壺	(3.8)	(4.3)	0.9	弥生中期	52トレ包含層(床土下)	981105	実123	
404	" 12	" 2	" "	(3.8)	(3.0)	0.9	"	" " "	"	実122	
405	" 13	" 3	" "	(2.7)	(10.4)	2.0	"	" " "	"	実117	
406	" 14	" 4	須恵器壺	(6.3)	(11.9)	0.9	奈良	" " "	"	実56	
407		" 5	"	(5.4)	(5.6)	0.9	"	" " "	"		
408		" 6	"	(5.0)	(5.0)	1.3	"	" " "	"		
409		" 7	灰釉陶器	(3.5)	(3.9)	0.5	平安前期	" " "	"		
410		" 8	"	(3.4)	(3.4)	0.5	"	" " "	"		
411		" 9	" 壺	(7.0)	(7.1)	0.7	奈良	" " "	"		
412	第18図15	" 10	" 杯	(2.2)	(11.0)	1.1	平安前期	" " "	"	実121	
413		" 11	土師器鉢	(8.6)	(8.7)	0.85	平安後期	" " "	"		
414		" 12	" 鍋	(5.8)	(7.5)	0.9	"	" " "	"		
415		" 13	" 鍋	(4.1)	(5.5)	0.7	"	" " "	"		
416		" 14	" 椀	(4.1)	(4.8)	0.45	平安前期	" " "	"		
417		" 15	" 羽釜	(4.2)	(5.3)	0.75	平安後期	" " "	"		
418		" 16	平瓦	(10.5)	(11.0)	1.9	平安後期	" " "	"		
419		" 17	"	(9.5)	(8.0)	2.05	"	" " "	"		
420		" 18	"	(6.0)	(7.5)	2.15	"	" " "	"		
421		" 19	埴	(6.7)	(8.5)	1.6	"	" " "	"		
422	第18図16	" 20	白磁碗	(2.6)	(10.6)	1.05	平安末期	" " "	"	実41	
423		70 a - 1	黒色土器	(5.6)	(10.6)	1.05	平安中期	" " "	"		
424		" 2	"	(1.4)	(4.5)	0.6	"	" " "	"		
425		" 3	"	(3.5)	(5.4)	0.4	平安後期	" " "	"		
426		" 4	"	(5.0)	(5.5)	0.8	"	" " "	"		
427	第18図17	" 5	瓦器椀	(3.6)	(12.8)	0.6	平安末期	" " "	"	実58	
428	" 18	" 6	東播ねり鉢	(6.9)	(29.2)	1.0	"	" " (床土中)	981104	実59	
429		" 7	馬歯	4.5	1.1	1.1	"	" " (床土下)	981105		
430	第18図19	" 8	土錘	4.3	1.3	0.5	"	" " "	"	実55	
431	" 20	" 9	砥石	19.6	7.6	4.3	"	" " "	"	実57	
432	第21図1	71 a - 1	須恵器杯	3.5	11.8	0.9	飛鳥	53トレ土坑1	981113	実32	
433	" 2	71 b - 1	" 杯	(3.9)	(6.3)	0.6	"	" 土坑6	981125	実60	
434		" 2	" 甕	(6.4)	(5.6)	1.2	"	" " "	"		
435		71 c - 1	" 甕	(14.0)	(16.5)	0.75	"	" 土坑1	981113		
436	第21図3	71 d - 1	緑釉皿	(1.9)	(9.4)	1.2	平安前期	" 包含層(地山直上)	981126	実34	
437		71 e - 1	須恵器杯蓋	(1.3)	(6.0)	0.7	"	" " (暗黄灰色土)	981110		
438		" 2	"	(1.5)	(6.7)	0.4	"	" " "	"		
439		" 3	" 甕	(6.5)	(5.9)	1.0	"	" " "	"		
440		" 4	土師器鍋(把手)	(4.1)	(5.3)	1.2	奈良	" " "	"		

番号	挿図番号	図版番号	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	時期	出土遺構・層位	出土日	実測 番号	備考
441		71 f-1	平瓦	(14.2)	(7.3)	2.3	平安前期	53トレ包含層(暗黄灰色土)	981110		
442		72 a-1	須恵器杯身	(3.0)	(4.9)	0.5	古墳後期	55トレ包含層(濁黄灰色粘土)	〃		
443		〃 2	〃 〃	(3.1)	(4.1)	0.7	〃	〃 〃 〃	〃		
444		〃 3	〃 杯	(3.8)	(4.6)	0.75	飛鳥	〃 〃 〃	〃		
445		〃 4	〃 〃	(5.0)	(5.2)	0.7	〃	〃 〃 〃	〃		
446		〃 5	土師器鍋(把手)	(4.4)	(6.5)	1.45	奈良	〃 〃 〃	〃		
447		〃 6	〃 小皿	(3.5)	(5.2)	0.3	平安	〃 〃 〃	〃		
448	第21図4	72 b-1	須恵器杯蓋	1.9	9.6	0.7	飛鳥	56トレ土坑1(灰褐色土)	981109	実50	
449	〃 5	〃 2	〃 杯	(1.3)	(10.9)	0.8	〃	〃 〃 〃	〃	実53	
450	〃 7	72 c-1	〃 高杯	(2.8)	(9.9)	0.7	〃	〃 土坑2(灰褐色土)	〃	実54	生焼け
451	〃 6	〃 2	土師器杯	2.8	12.8	0.5	〃	〃 〃 〃	〃	実51	
452		〃 3	〃 甕	(5.3)	(8.1)	0.6	〃	〃 〃 〃	〃		
453	第21図8	〃 4	〃 甕	(4.5)	(10.9)	0.7	〃	〃 〃 〃	〃	実52	
454	〃 9	72 d-1	須恵器杯	3.4	11.7	0.65	〃	〃 〃 〃	〃	実33	
455	〃 10	〃 2	〃 杯蓋	3.3	(21.0)	0.9	〃	〃 〃 〃	〃	実49	
456		73 a-1	製塩土器	(4.3)	(4.8)	1.4	〃	〃 〃 〃	〃		内面布目
457		〃 2	〃	(2.3)	(1.5)	0.55	〃	〃 〃 〃	〃		
458		〃 3	〃	(2.1)	(1.8)	0.8	〃	〃 〃 〃	〃		金雲母
459		73 b-1	焼土	3.2	4.0	2.3	〃	〃 〃 〃	〃		
460		〃 2	〃	2.4	2.9	1.9	〃	〃 〃 〃	〃		
461		〃 3	〃	3.5	5.4	2.2	〃	〃 〃 〃	〃		
462		〃 4	〃	2.3	3.0	1.7	〃	〃 〃 〃	〃		
463		〃 5	〃	2.2	3.3	1.2	〃	〃 〃 〃	〃		
464		〃 6	〃	3.7	4.8	2.8	〃	〃 〃 〃	〃		
465		〃 7	〃	2.6	3.4	1.3	〃	〃 〃 〃	〃		
466		〃 8	〃	2.4	2.8	1.1	〃	〃 〃 〃	〃		
467		73 c-1	製塩土器	(2.7)	(2.3)	0.9	奈良	〃 ピット9	981116		内面極細布目
468		〃 2	〃	(4.3)	(3.3)	1.2	〃	〃 ピット10	〃		内面粗布目
469		〃 3	弥生土器壺	(5.4)	(4.0)	0.65	弥生中期	〃 ピット25	〃		櫛描波状文
470	第21図11	〃 4	須恵器杯	4.2	(15.0)	0.9	奈良	〃 ピット29	981109	実65	
471		〃 5	〃 壺	(6.1)	(8.0)	0.5	〃	〃 ピット30	981116		
472		〃 6	土師器椀	(5.7)	(6.6)	6.0	〃	〃 〃	〃		
473		73 d-1	須恵器壺	(6.0)	(7.0)	0.9	〃	〃 包含層(灰褐色土)	981109		
474		〃 2	〃 壺?	(6.0)	(4.0)	0.7	〃	〃 〃 〃	〃		
475	第21図12	〃 〃	〃 〃	(5.3)	(4.8)	0.8	〃	〃 〃 〃	〃	実46	
476	〃 13		土師器小皿	1.9	(8.8)	0.4	〃	〃 〃 〃	〃	実47	
477	〃 14		〃 杯	2.5	(10.0)	0.4	〃	〃 〃 〃	〃	実43	
478	〃 15		〃 椀	(4.5)	(14.0)	0.5	飛鳥	〃 〃 〃	〃	実48	
479		73 e	須恵器壺	(6.5)	(10.2)	0.8	古墳後期	57トレ土坑1(北端)	981112		生焼け
480		74 a-1	〃 甕	(7.3)	(14.0)	1.1	平安前期	58トレ井戸1	981002		
481		〃 2	〃 〃	(7.6)	(12.2)	0.8	〃	〃 〃 〃	981110		
482		〃 3	平瓦	(10.9)	(8.0)	3.4	〃	〃 〃 〃	981009		
483		〃 4	〃	(5.6)	(4.7)	2.25	〃	〃 〃 〃	〃		
484		〃 5	〃	(4.7)	(6.9)	2.2	〃	〃 〃 〃	〃		
485		〃 6	〃	(5.9)	(5.5)	2.2	〃	〃 〃 〃	981014		
486	第21図16		須恵器杯蓋	(2.1)	(11.6)	0.6	飛鳥	〃 〃	〃	実42	
487	〃 17		土師器高台付き皿	(2.8)	(12.0)	0.6	平安前期	〃 〃	981012	実44	
488	〃 18		〃 杯	(1.7)	(8.5)	0.3	〃	〃 〃	〃	実45	
489		74 b-1	弥生土器甕	(1.9)	(3.3)	1.4	弥生後期	61トレスキ溝中	981204		
490		〃 2	須恵器東播椀	(3.0)	(3.4)	6.0	鎌倉	〃 〃	〃		
491		〃 3	青磁碗	(2.7)	(5.2)	0.85	〃	〃 〃	〃		
492		〃 4	土師器三足	(6.2)	(3.8)	2.0	〃	〃 〃	〃		
493		〃 5	須恵器高杯	(4.2)	(4.7)	0.8	古墳中期	〃 旧耕土層	〃		

第3表 トレンチャー一覧表

標高はT.P. 単位はm

No.	トレンチ 大きさ	現地 表面	遺・包 上面	包含層有無・ 層厚	時 代	検 出 遺 構	出 土 遺 物	備 考
1	3.7×3.7	7.80	6.00	○? 0.30	不明	不明	なし	電気ケーブル
2	〃	7.85	6.45	○ 0.35	平安	溝、ピット	黒色土器、土師器	掘立柱建物跡
3	〃	7.90	6.50	○ 0.23	平安	ピット	須恵器、土師器	掘立柱建物跡
4	〃	7.85	6.60	× 0	不明	なし	なし	自然河川
5	〃	7.90	6.45	× 0	不明	なし	なし	削平?
6	〃	7.84	6.25	× 0	不明	なし	肥前焼系磁器、煉瓦	削平?
7	〃	8.25	6.55	× 0	不明	なし	なし	削平? 電気ケーブル
8	〃	8.05	7.00	○? 0.32	中世?	ピット、近世水路	なし	削平? 電気ケーブル
9	〃	7.90	6.80	× 0	不明	なし	なし	地山の下は自然流路
10	〃	7.95	6.55	× 0	不明	近世溝	なし	削平?
11	4.7×4.7	8.00	7.00	○ 0.12	鎌倉	土坑、ピット	瓦器、土師器	掘立柱建物跡
12	〃	8.05	6.95	○ 0.30	縄文～鎌倉	土坑、溝、ピット	石鎌、瓦器、土師器、青磁、瓦	近くに寺跡? 大型土坑群。掘立柱建物跡
13	5.7×5.7	7.75	7.15	○ 0.32	弥生～鎌倉	土坑、溝、ピット	石鎌、須恵器、瓦器、青磁、瓦	遺構面2面以上。掘立柱建物跡
14	3.2×3.7	8.50	6.45	? ?	不明	不明	なし	コンクリート擁壁
15	3.7×5.7	7.95	6.45	○ 0.51	鎌倉	なし	瓦器、土師器、白磁、窯壁、瓦	遺構面2面以上。近くに寺跡? 瓦窯?
16	5.7×5.7	7.85	7.15	○ 0.20	平安～鎌倉	溝、ピット、土坑	須恵器、土師器	掘立柱建物跡群
17	3.2×3.7	8.00	6.60	○ 0.20	平安～江戸	なし	須恵器、白磁、常滑、天目、磁器	
18	5.7×5.7	7.85	6.70	○ 0.10	平安～戦国	土坑、ピット	須恵器、土師器、瓦器、白磁、菊皿	井戸? 掘立柱建物跡
19	3.7×4.7	7.45	6.85	○ 0.20	平安～鎌倉	溝	瓦器、土師器	
20	2.7×3.2	8.25	6.45	× 0	平安?	ピット	肥前焼系磁器	削平?
21	5.7×5.7	7.90	6.00	○ 0.40	平安～江戸	溝	黒色土器、瓦器、土師器、製塩土器	遺構面2面以上
22	〃	8.05	6.15	○ 0.10	古墳～江戸	スキ溝	須恵器、土師器、磁器	
23	〃	7.55	5.85	○ 0.32	鎌倉～江戸	溝、野井戸	瓦器、土師器、須恵器、動物骨	
24	〃	8.05	5.95	○ 0.30	奈良～江戸	土坑、溝	須恵器、土師器、瓦器、磁器、刀子	土坑群
25	〃	7.60	6.10	○ 0.60	古墳?	溝	須恵器、土師器	コンクリート下水路
26	〃	7.85	6.00	○ 0.34	古墳～鎌倉	土坑、ピット	須恵器、土師器、瓦、緑釉、製塩土器	奈良時代の土器多量。掘立柱建物跡
27	〃	7.65	5.79	○ 0.05	鎌倉	スキ溝、ピット	土師器	水道管
28	〃	8.05	6.15	○ 0.30	古墳～鎌倉	土坑、溝、ピット	須恵器、土師器、緑釉、黒色土器、瓦器	遺物多量。掘立柱建物跡。井戸?
29	〃	8.60	6.50	○ 0.05	鎌倉	土坑、溝、ピット	瓦器、土師器、須恵器	掘立柱建物跡
30	〃	8.05	6.35	○ 0.38	弥生～平安	溝	弥生土器、須恵器、灰釉、瓦器、瓦	遺物多量
31	〃	7.95	5.80	○ 0.05	中世?	溝、ピット	なし	削平?

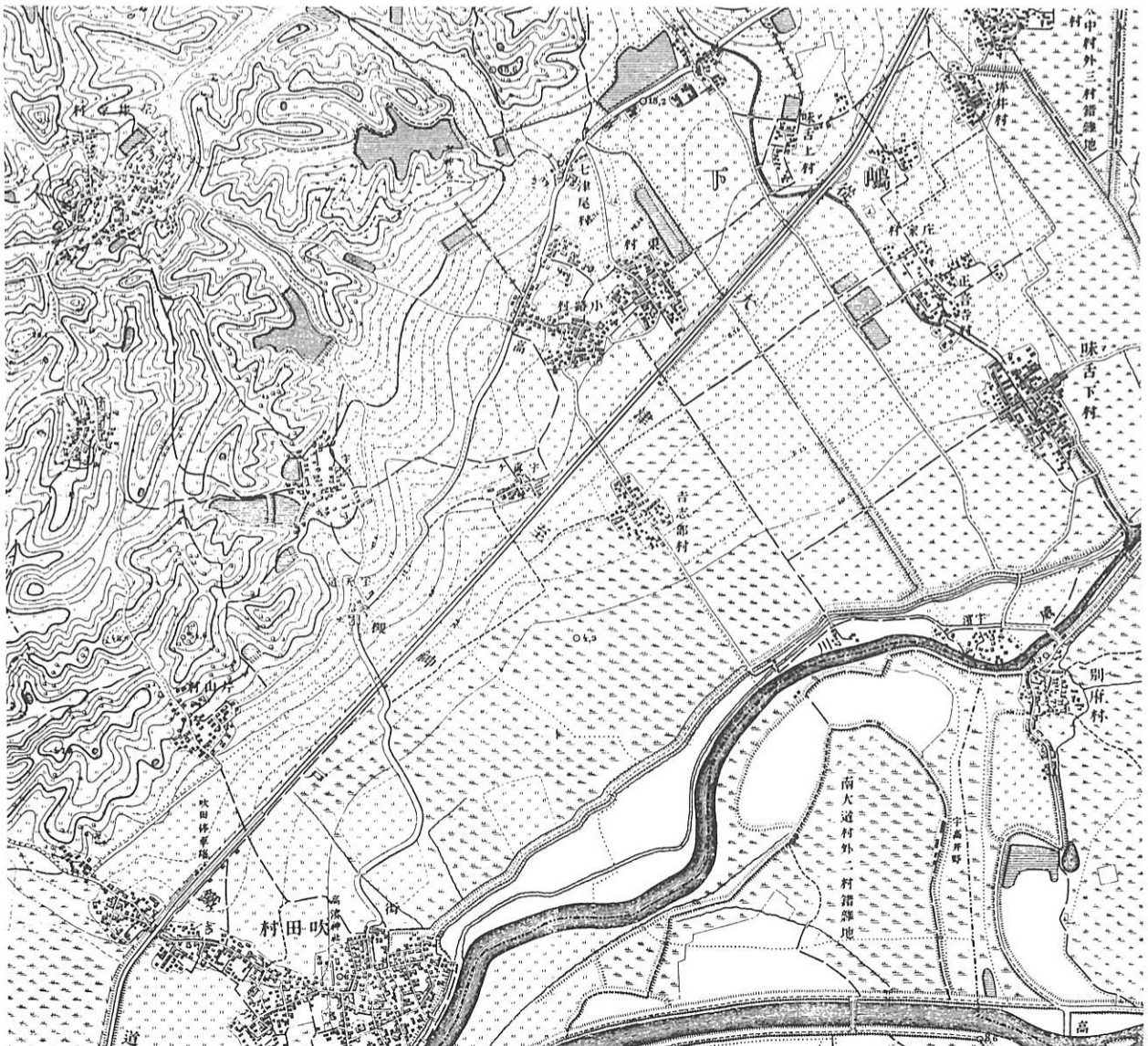


No.	トレンチ 大きさ	現地 表面	遺・包 上面	包含層有無・ 層厚	時 代	検 出 遺 構	出 土 遺 物	備 考
32	5.7×5.7	8.05	6.20	○ 0.32	古墳～鎌倉	土坑	須恵器、灰釉、瓦器、瓦	格子目叩きの平瓦。大型土坑
33	〃	8.20	6.20	○ 0.18	鎌倉	井戸	須恵器、瓦器、瓦、備前焼	下層は自然流路
34	〃	7.85	6.40	○ 0.33	鎌倉	ピット	須恵器、黒色土器、瓦器、青磁	コンクリート基礎。水道管
35	〃	8.05	5.95	× 0	中世?	溝、土坑	なし	削平?
36	〃	8.15	7.60	○ 0.40	旧石器～南北朝	井戸、土坑	旧石器、弥生土器、黒色土器、瓦器、火鉢	堤? 道路? 水道管。下水管?
37	〃	8.15	5.85	○ 0.49	古墳～鎌倉	(自然河川)	須恵器、瓦器	下層は自然河川
38	〃	8.05	6.55	○ 0.85	古墳～鎌倉	(自然河川)	古式土師器、瓦器、土師器	G.L.-2.5mでも不明。水道管
39	〃	8.15	5.85	○ 0	鎌倉～戦国	(自然河川)足跡	サヌカイト、瓦器、土師器、丹波焼	G.L.-3mで地山
40	〃	8.25	5.75	○ 0.53	古墳～鎌倉	埋甕(自然河川)	須恵器、黒色土器、大足、ヒョウタン	大甕は6世紀後半。水道管
41	〃	8.25	6.45	○ 0.05	鎌倉	井戸、ピット、溝	瓦器、土師器、曲物桶、シジミ、瓦	遺物多量
42	〃	8.25	6.95	○ 0.10	鎌倉～江戸	土坑	渥美焼、備前焼、瓦	井戸? 水道管
43	〃	8.25	6.25	× 0	鎌倉～江戸	なし	瓦器、須恵器、青磁、常滑焼、瀬戸焼	削平?
44	〃	8.40	6.95	× 0	奈良	溝、ピット	須恵器、土師器、灰釉	削平?
45	〃	8.30	6.65	○ 0.29	奈良～平安	土坑、ピット	須恵器、瓦器、白磁、製塩土器	井戸?
46	〃	8.35	6.95	○ 0.09	平安?	ピット	土師器	削平? 掘立柱建物跡?
47	〃	8.20	6.65	○ 0.26	平安～戦国	なし	瓦器、土師器、瓦、備前焼	
48	〃	8.45	6.85	○ 0.14	飛鳥～平安	溝、土坑、ピット	須恵器、灰釉、緑釉、黒色土器、瓦	削平? 掘立柱建物跡。道路側溝?
49	〃	8.45	6.65	○ 0.91	古墳～鎌倉	井戸、土坑、ピット、大溝?	須恵器、三彩小壺、製塩土器、瓦器、瓦	奈良三彩。転用硯。動物足跡
50	〃	8.45	6.95	○ 0.45	奈良～鎌倉	井戸、土坑、ピット	須恵器、土師器、瓦器、定窯白磁	掘立柱建物跡
51	〃	8.40	6.75	○ 0.24	縄文～鎌倉	土坑、ピット	縄文土器、埴輪、緑釉、瓦器、瓦	掘立柱建物跡。大型土坑群。近くに古墳?
52	〃	8.45	6.95	○ 0.70	平安～鎌倉	大溝?	弥生土器、須恵器、黒色土器、瓦器	人の足跡
53	〃	8.35	6.70	○ 0.20	飛鳥～奈良	ピット、大型土坑	須恵器、土師器、緑釉、瓦	削平? 大型掘立柱建物? 大型土坑群
54	〃	8.55	7.70	○ 0.06	?～江戸	ピット	土師器、瓦	削平? 掘立柱建物跡
55	〃	8.45	6.70	○ 0.27	古墳～鎌倉	ピット	須恵器、土師器、瓦器	野井戸
56	〃	8.45	7.65	○ 0.16	飛鳥～奈良	土坑、ピット	弥生土器、須恵器、土師器、製塩土器、焼土	削平? 掘立柱建物跡
57	〃	8.95	7.80	○ 0.76	古墳後期	土坑群	須恵器	群集土坑墓
58	〃	9.10	7.40	○ 0.40	平安	井戸	須恵器、黒色土器、灰釉、瓦	粘土取り穴?
59	〃	9.30	攪乱	? ?	不明	不明	なし	G.L.-0.9mでコンクリート基礎
60	〃	8.60	5.10	× 0	不明	(自然河川)	なし	G.L.-4.5mでも不明
61	〃	11.20	9.00	○ 0.60	古墳～鎌倉	スキ溝、動物足跡	弥生土器、須恵器、瓦器、青磁	

## 第Ⅳ章 まとめ

吹田操車場跡地を再利用しようとする計画に先立つ今回の発掘調査によって、種々の事項が判明した。まず、操車場であるが、その築造に際しては、操車場の西の山の土が運ばれた。明治18年の地図（第22図）にはなくて、昭和7年の地図（第1図）には、片山町に引き込み線が存在し、山が削られ、崖が存在し、グラウンドができていることによって、大正年間にトロッコによって、そこから操車場に土が運ばれていたことが推定された。その上層に、一説には滋賀県産と教示されたバラス層が敷かれて、安定した地盤が形成されていた。

操車場以前の様子は、明治18年の地図（第22図）に明らかである。線路以外は、すべて、水田・畑であった。今回の各トレンチで検出された旧耕土層は、まさしくこの水田耕土層であった。その下層の様子は、時代順に以下、まとめる。



第22図 明治18年の吹田操車場遺跡（2万5千分の1）

- ① 旧石器時代の石器や剥片が、No.36トレンチで出土した。近くに、キャンプ地の存在が推定された。
- ② 縄文時代の土器や石器が、No.51トレンチやNo.12トレンチで出土した。近くに、後期の集落跡の存在が推定された。
- ③ 弥生時代の土器や石器が6箇所トレンチから出土した。中期の土器が、No.30・36・56トレンチから出土し、石器（凸基有茎式石鏃）が、No.13トレンチから出土した。後期の土器が、No.30・61トレンチから出土した。近くに、それぞれの時期の集落跡の存在が推定された。
- ④ 古墳時代の遺構が、No.40トレンチやNo.57トレンチで検出された。共に、後期の遺構で、前者は、底部穿孔の須恵器大甕を地上に据えたもの、後者は、15基以上の土坑が狭い調査範囲内に密集して検出されたものであった。須恵器大甕は、古代の土地境界の祭りの存在を伺わせるもの、群集土坑群は墓と考えられるものであった。
- ⑤ 古墳時代の遺物は、No.12トレンチからNo.57トレンチにかけて、幅2.5kmの範囲内で断片的に出土した。No.12トレンチで出土した陶棺片やNo.13トレンチの袋柄鉄斧、No.41トレンチの家形埴輪（？）やNo.51トレンチの円筒埴輪は、後世に削平されてしまった古墳の存在を推定させた。他のトレンチから出土した遺物は、No.38トレンチの前期の土師器やNo.61トレンチの中期の須恵器を除けばすべて後期の須恵器であった。木器としての、No.40トレンチ須恵器大甕内出土大足は、出土したのは横木だけであったが、確実にこの時期のものであるとするのならば、泥田用農具として、珍しいものであった。
- ⑥ 飛鳥時代の遺構が、No.48トレンチやNo.51・53・56トレンチで検出された。No.48トレンチでは、ピットや掘立柱建物跡が検出され、集落跡の存在が判明した。No.51・53トレンチでは、群集する大型土坑群が検出された。土坑中には、ほぼ完形の須恵器杯が出土した土坑もあるので、副葬品と考えれば、これらの土坑群も墓である可能性が考えられた。No.56トレンチの土坑2基は、日常雑器である須恵器・土師器を多く出土し、集落内のゴミ溜め穴と考えられた。
- ⑦ 飛鳥時代の遺物は、No.26トレンチからNo.58トレンチまで、幅1.8kmの範囲内で出土した。
- ⑧ 奈良時代の遺構が、No.26トレンチからNo.56トレンチにかけて検出された。No.26トレンチでは大型土坑が、No.44トレンチでは、溝やピットが、No.49・52トレンチでは、大溝（？）が、No.51・56トレンチでは掘立柱建物跡が検出された。
- ⑨ 奈良時代の遺物は、No.13トレンチからNo.56トレンチにかけて、幅2.1kmの範囲内で出土した。瓦の出土が多く、七尾瓦窯跡・吉志部瓦窯跡で出土するのと同じ瓦が出土するので、関係の存在が伺われた。工人の屋敷に瓦を葺いたものか、単に南の淀川への搬出路に当たっているだけなのか、あるいは、近くに寺跡の存在を考えるのかなど、色々と推定された。
- ⑩ 飛鳥・奈良・平安時代の製塩土器は、須恵器や土師器に混じって、普遍的に出土している。内面に荒い布目や極細の布目痕をもち、口縁部端面が切り取られる山口県下関市の六連式土器も出土している。軽石（スコリア）の入った製塩土器も多く、相当の量、畿内へは、『日本書紀』仲哀天皇8年条に言う「<sup>しほどころ</sup>鹽地」の塩が「<sup>しほつつ</sup>鹽筒」に入って運び込まれていた様子である。
- ⑪ 平安時代の遺構が、No.2トレンチからNo.61トレンチまで、ほぼ調査区全域から検出された。No.2トレンチやNo.51トレンチでは、掘立柱建物跡群が、No.58トレンチでは、井戸が検出された。No.12・13・21・28・48トレンチでは、条里に規制された溝がそれぞれに検出された。No.22トレンチやNo.61トレンチでは、やはり条里に規制された方向を示すスキ溝が検出された。

- ⑫ 平安時代の遺物は、No.2 トレンチから、No.61 トレンチまで、幅2.1kmの範囲内で出土した。No.58 トレンチ井戸1出土の瓦は、同調査区の字名が「繁如寺」であったので、寺跡の存在が推定された。
- ⑬ 鎌倉時代の遺構が、No.11 トレンチからNo.51 トレンチにかけて検出された。No.11・13・16・28・29・51 トレンチでは、掘立柱建物跡が、No.33・36・41 トレンチでは、井戸が検出された。No.12 トレンチやNo.15 トレンチでは、瓦や窯壁が出土し、近くに従前から推定されていた寺跡の存在および寺に使用する瓦用の窯跡の存在も推定された。
- ⑭ 鎌倉時代の遺物は、No.11 トレンチからNo.61 トレンチまで、幅1.8kmの範囲内で出土した。
- ⑮ 南北朝以降、戦国時代までの遺構・遺物は、断片的にしか検出されていない。No.36 トレンチでは、その東側に検出された自然河川に対する南北朝時代の堤跡(?)が検出された。

結局、今回の発掘調査によって、調査区南西端のNo.1 トレンチからNo.61 トレンチまで、多くの遺構・遺物を検出した。時代は、旧石器時代から江戸時代にまで及び、遺構の種類も、群集土坑墓、埋甕、掘立柱建物跡、大溝、井戸、道路、堤、畑跡と多岐にわたった。

今回の調査で出土した遺物は、コンテナ(39×59×22cm)に60箱ある。主なものは、飛鳥～鎌倉時代の土器・瓦などである。珍しいものとしては、府下で6例目の奈良三彩壺や白鳳期の平瓦、製塩土器(六連式土器)などがある。馬歯や鹿角製品、シジミ、窯壁も珍しかった

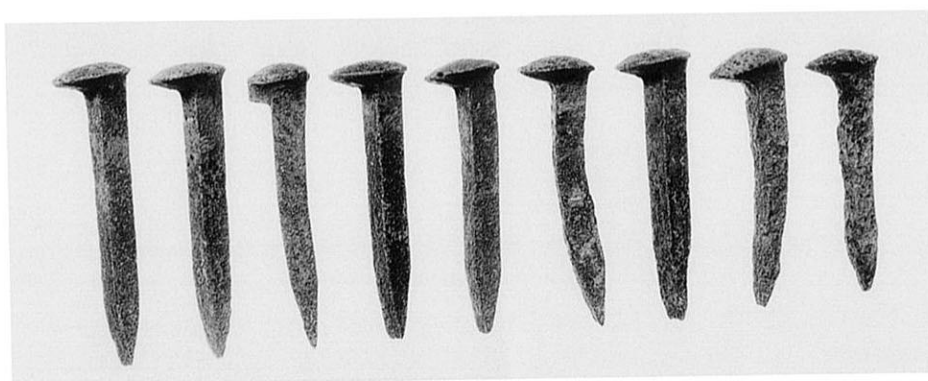
遺構の残存状況も、近世～近代の水田耕土層の上部に操車場建設時の盛土がなされたため、良好であった。

この遺構一帯の大字は「吉志部」である。古代の豪族「難波吉氏」の本貫地を当地に比定する説もある。この遺跡の北側には、難波宮に瓦を供給した国指定史跡「七尾瓦窯跡」、平安宮に瓦を供給した国指定史跡「吉志部瓦窯跡」もある。今回の調査で出土した多数の瓦・遺物も含めて、どう考えるのか、今後の調査に課せられた課題・責務は大きい。



# 写真図版

( 遺構 1～46 )  
( 遺物 47～74 )



大釘





図版1 調査区全景(上方が北)(昭和43年)



図版 2 調査区旧状 (昭和23年)





a. 調査区西半部 (NO.1～NO.45トレンチ)



b. 調査区東半部 (NO.45～NO.61トレンチ)



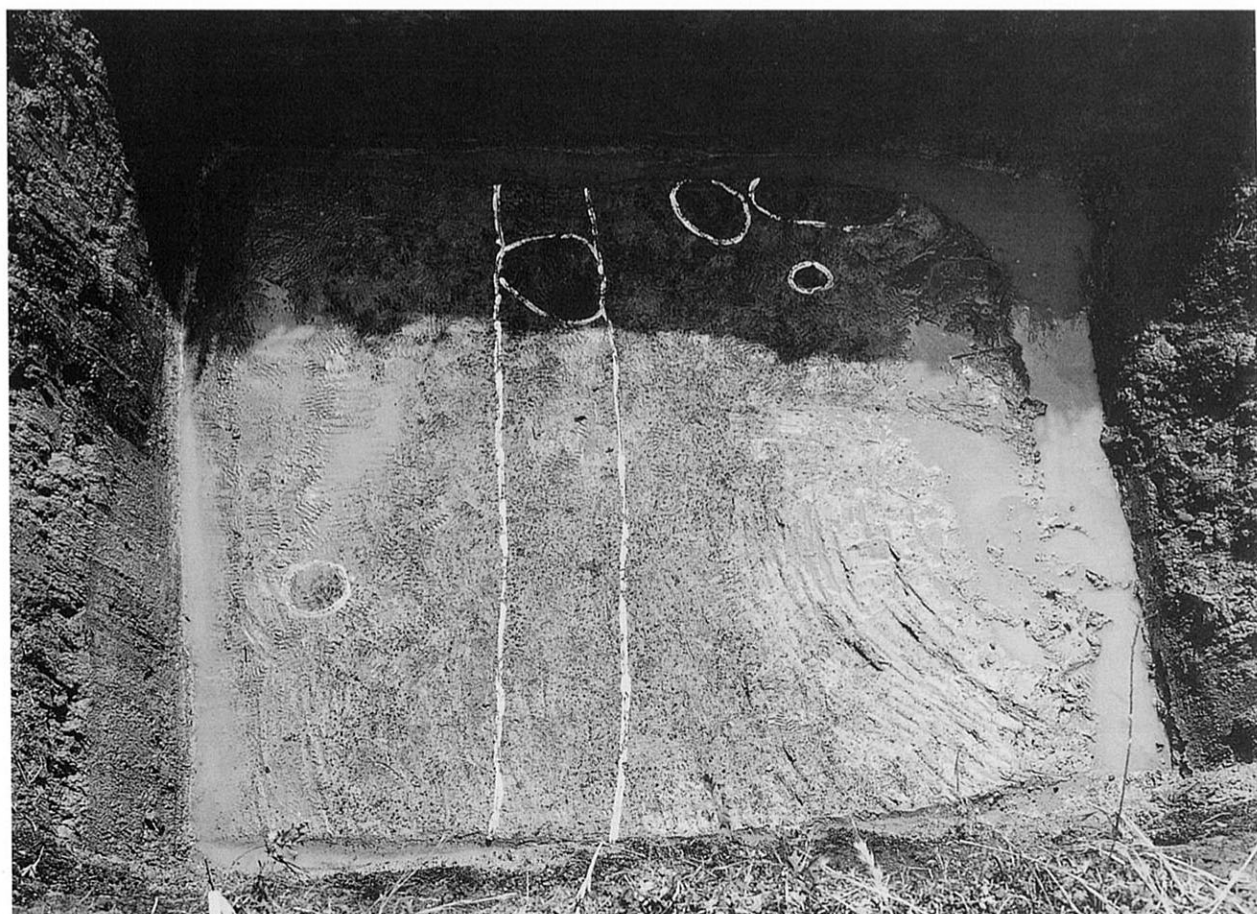
a. NO.53トレンチから南西を眺める



b. NO.53トレンチから北東を眺める



a. NO.1 トレンチ北西壁断面（南東から）



b. NO.2 トレンチ遺構検出状況（北西から）



a. NO. 3 トレンチ全景 (北西から)



b. NO. 3 トレンチ北東壁面に見えたピット断面 (南西から)



a. NO.4 トレンチ全景 (北西から)



b. NO.5 トレンチ全景 (北西から)



a. NO. 6 トレンチ全景 (西から)



b. NO. 7 トレンチ全景 (南西から)



a. NO.8 トレンチ遺構検出状況 (西から)



b. NO.9 トレンチ全景 (西から)

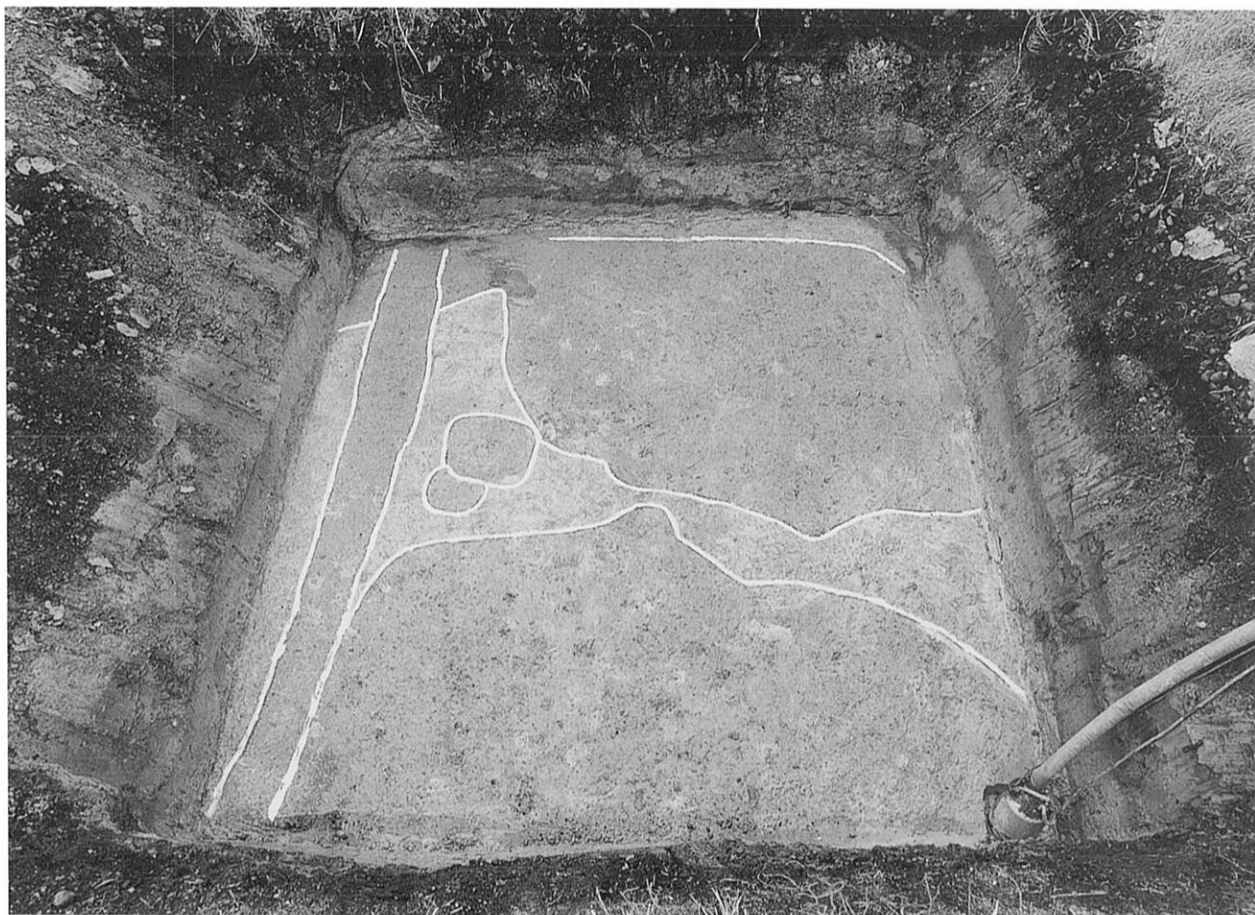




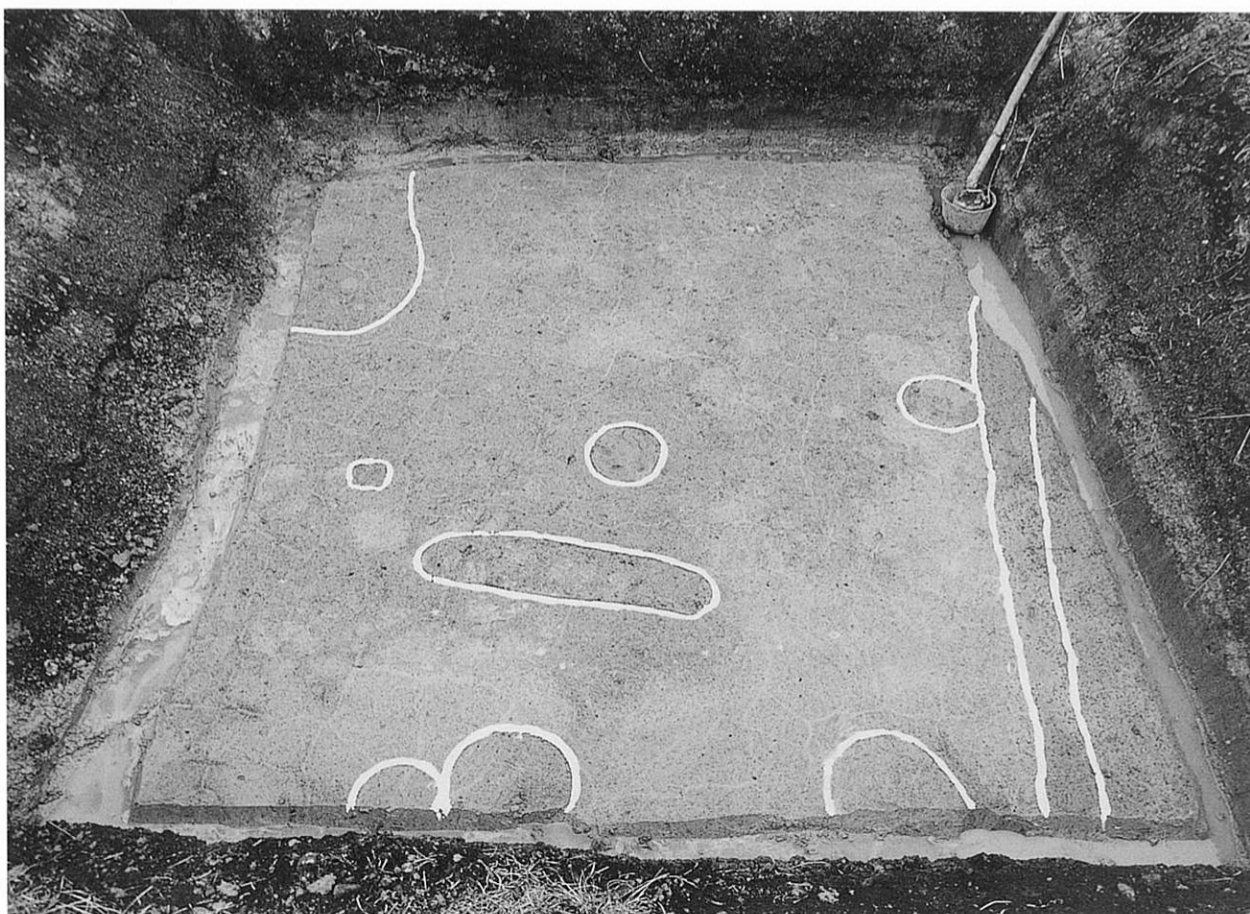
a. NO.10トレンチ全景（北西から）



b. NO.11トレンチ遺構検出状況（北西から）



a. NO.12トレンチ遺構検出状況（北西から）



b. NO.13トレンチ遺構検出状況（北西から）



a. NO.14トレンチ北西壁断面（南東から）



b. NO.15トレンチ北西壁断面（南東から）



a. NO.16トレンチ遺構検出状況（北東から）



b. NO.17トレンチ全景（北東から）



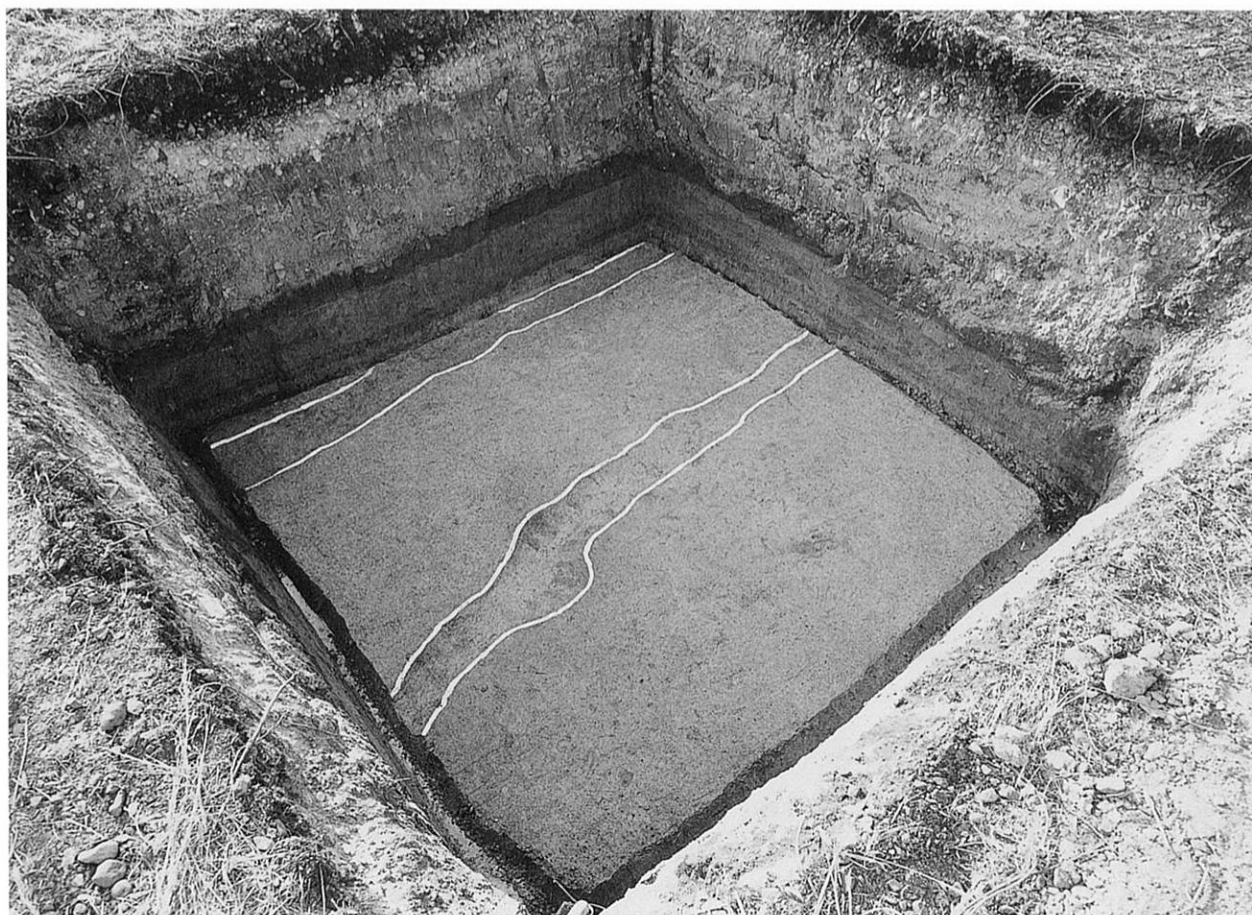
a. NO.18トレンチ遺構検出状況（南東から）



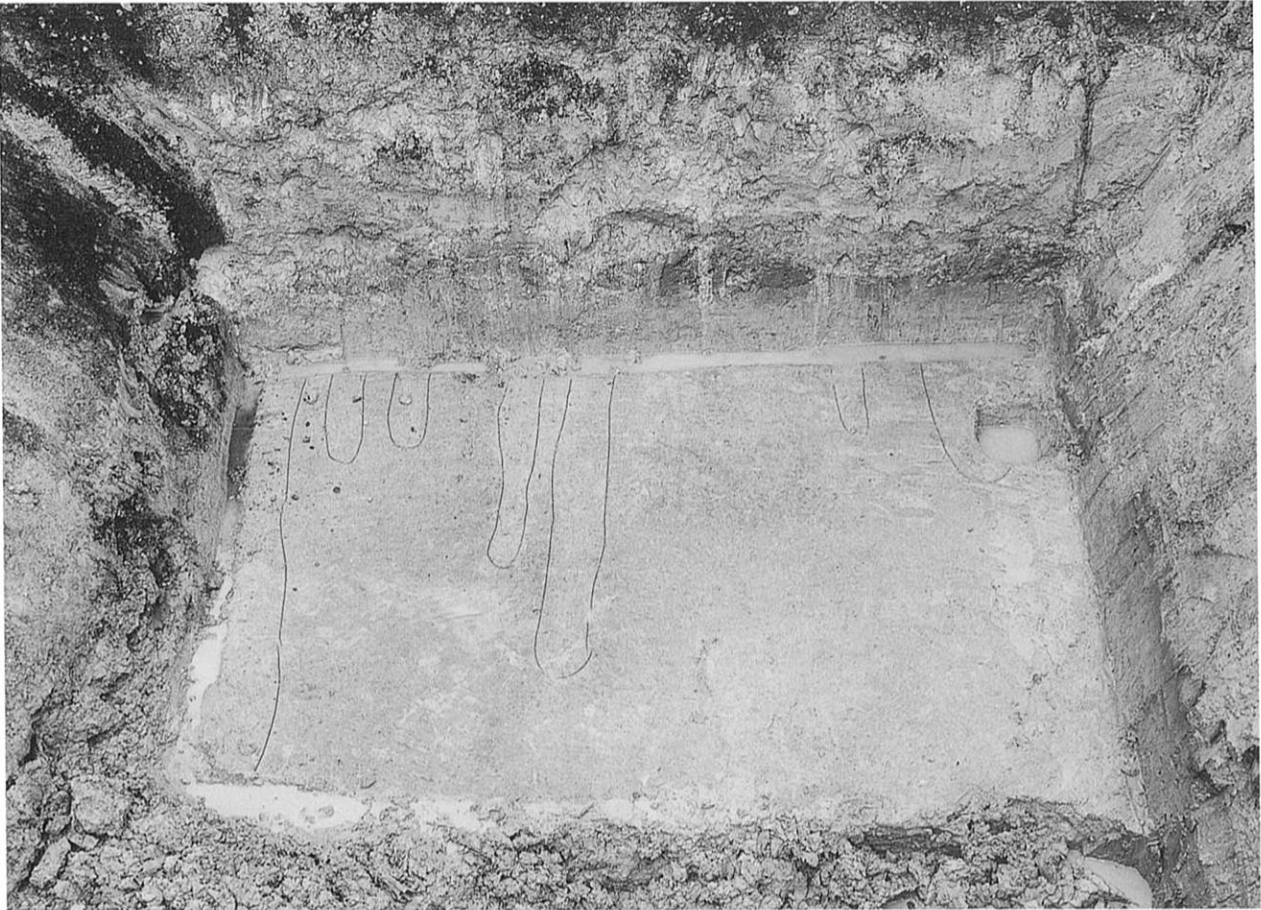
b. NO.19トレンチ溝1全景（南西から）



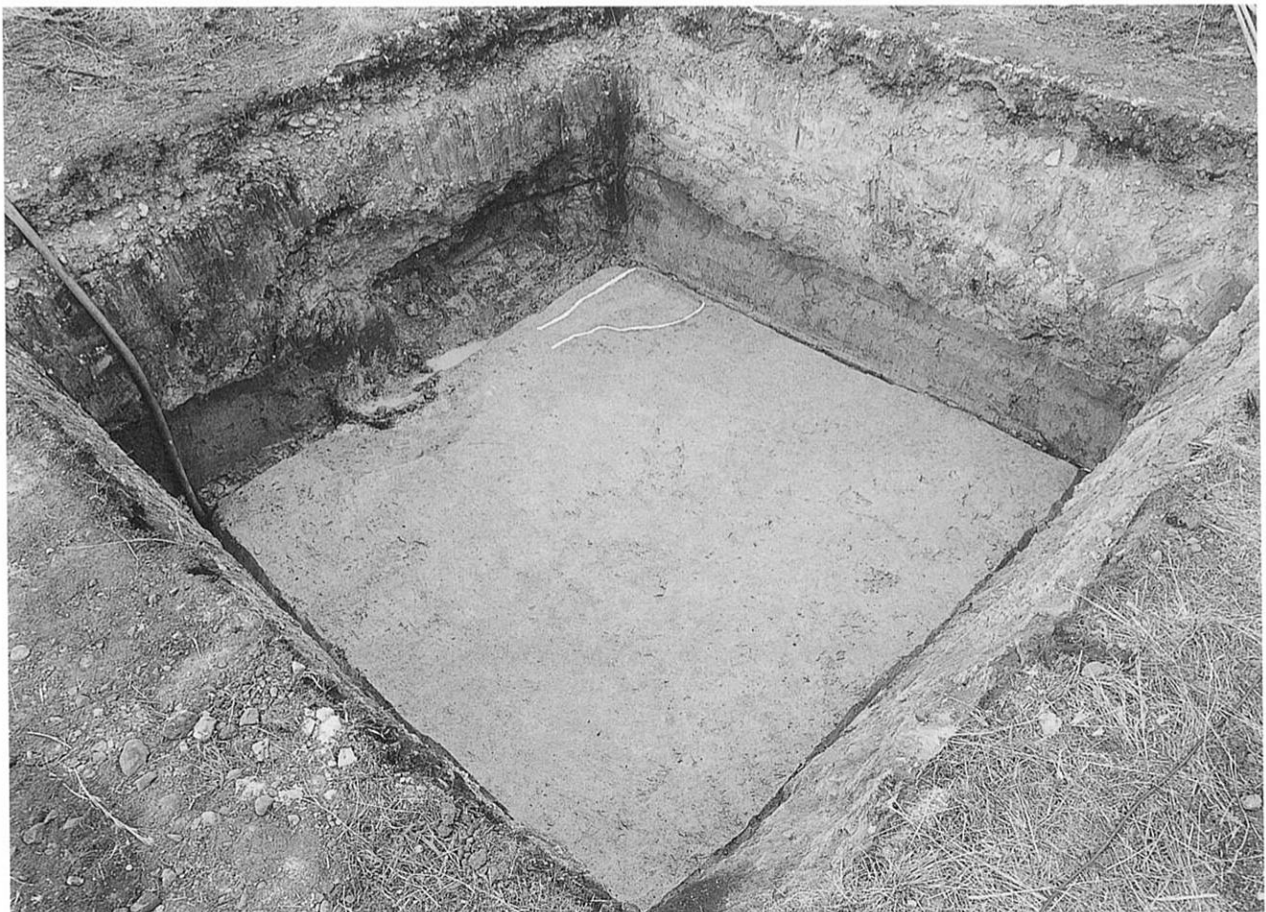
a. NO.20トレンチ遺構検出状況（北西から）



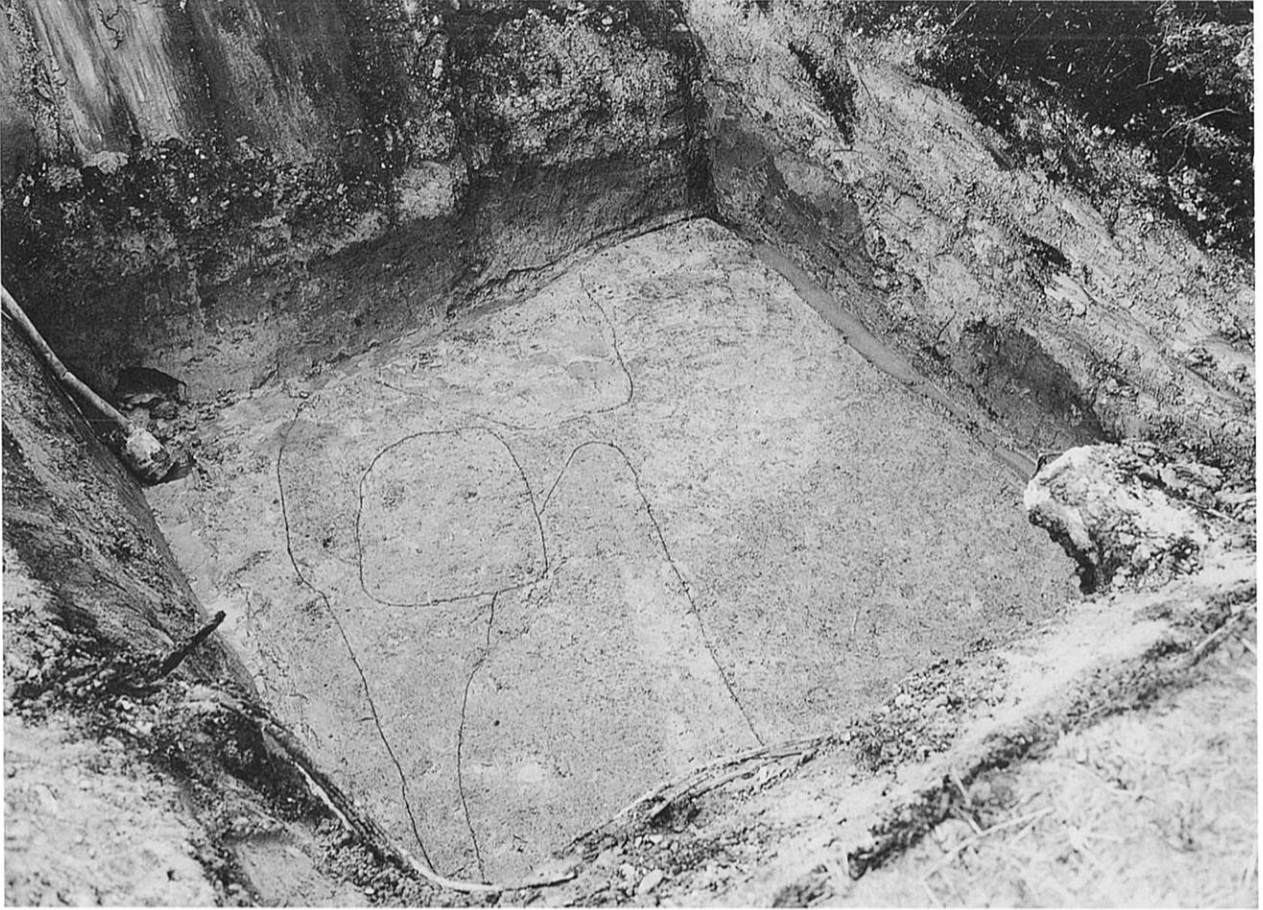
b. NO.21トレンチ遺構全景（東から）



a. NO.22トレンチ遺構検出状況（南東から）



b. NO.23トレンチ遺構検出状況（東から）



a. NO.24トレンチ遺構検出状況（南西から）



b. NO.25トレンチ溝1全景（西から）





a. NO.26トレンチ遺構検出状況（南東から）



b. NO.27トレンチ遺構検出状況（東から）



a. NO.28トレンチ遺構検出状況（南東から）



b. NO.29トレンチ遺構検出状況（東から）



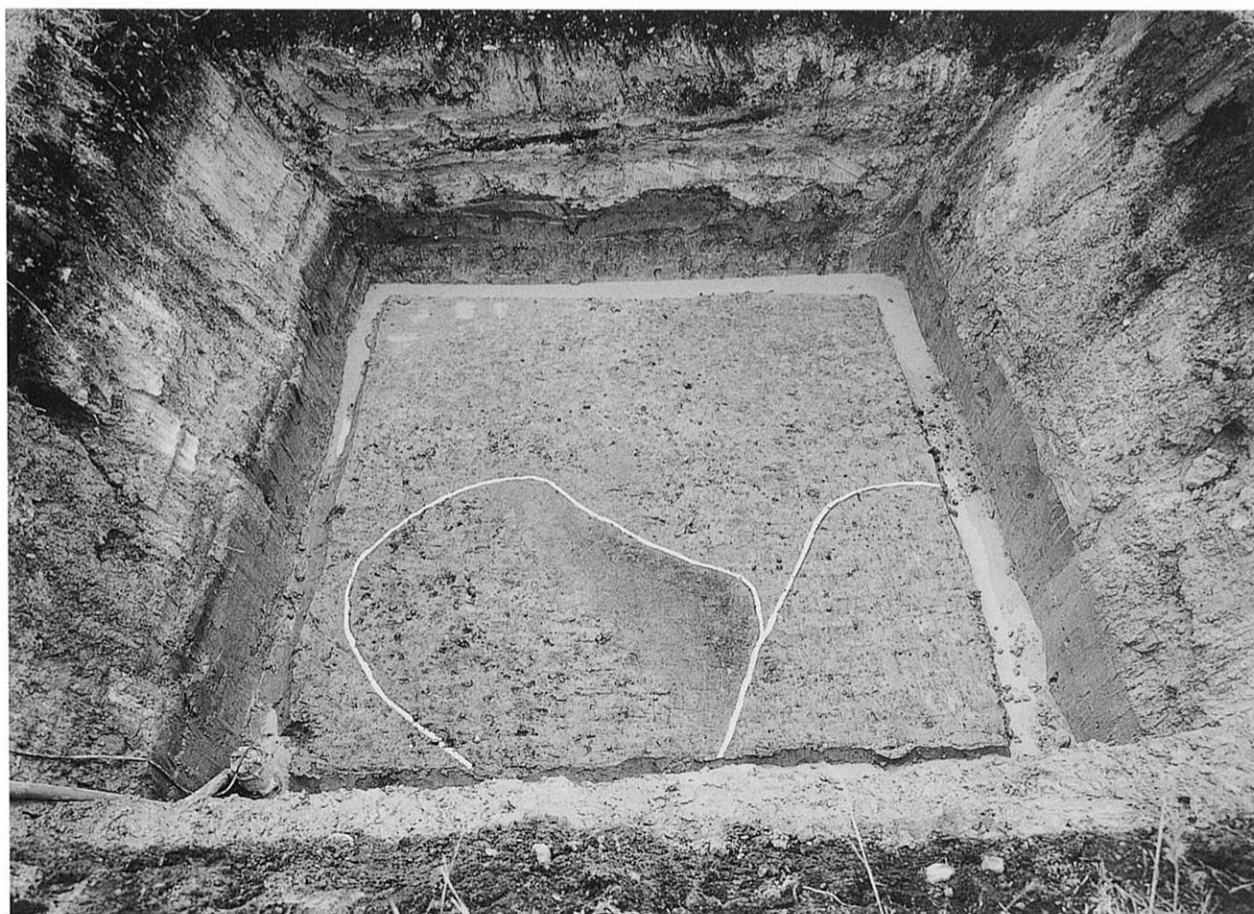
a. NO.29トレンチピット2土師器羽釜片出土状況（南西から）



b. NO.30トレンチ遺構検出状況（南東から）



a. NO.31トレンチ遺構検出状況（東から）



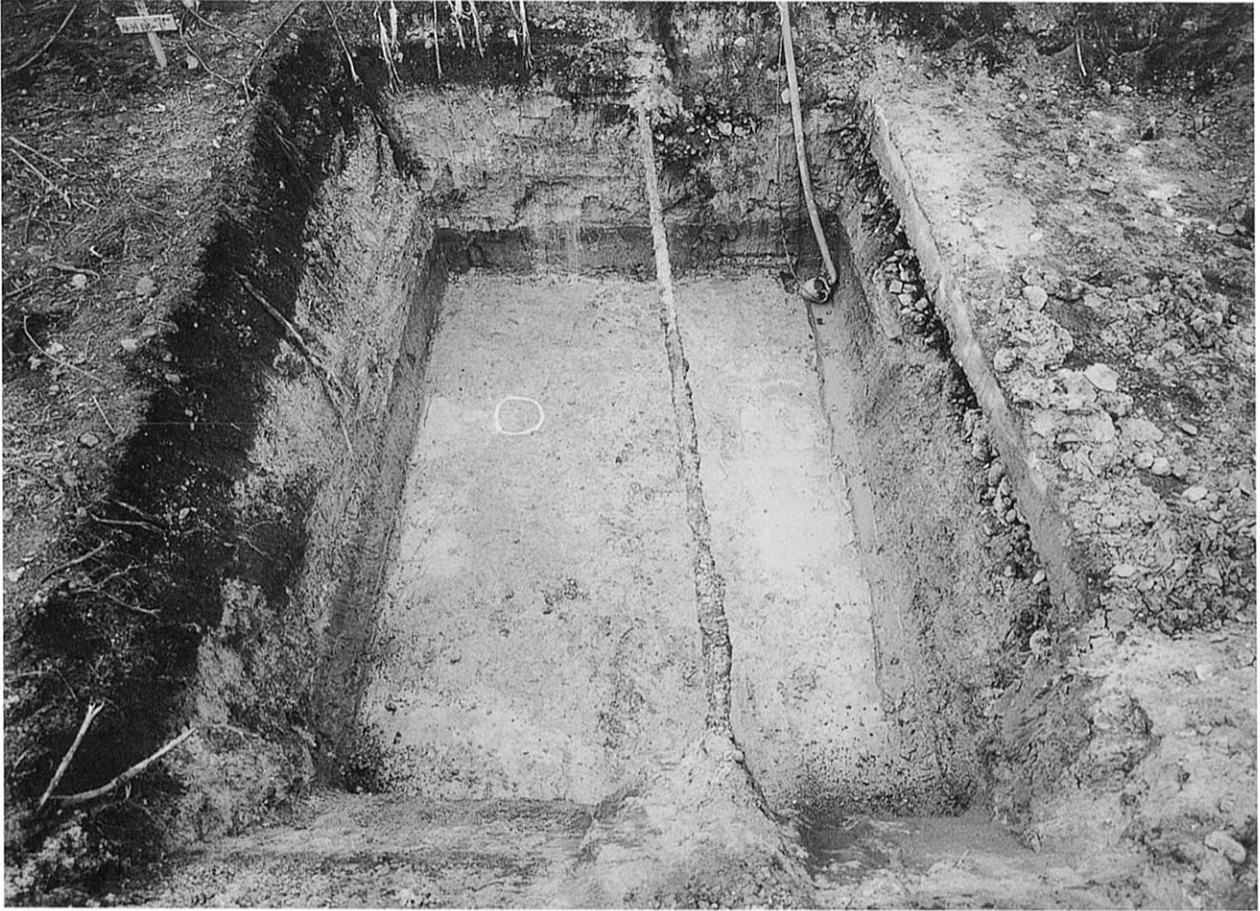
b. NO.32トレンチ遺構検出状況（南東から）



a. NO.33トレンチ遺構検出状況（北西から）



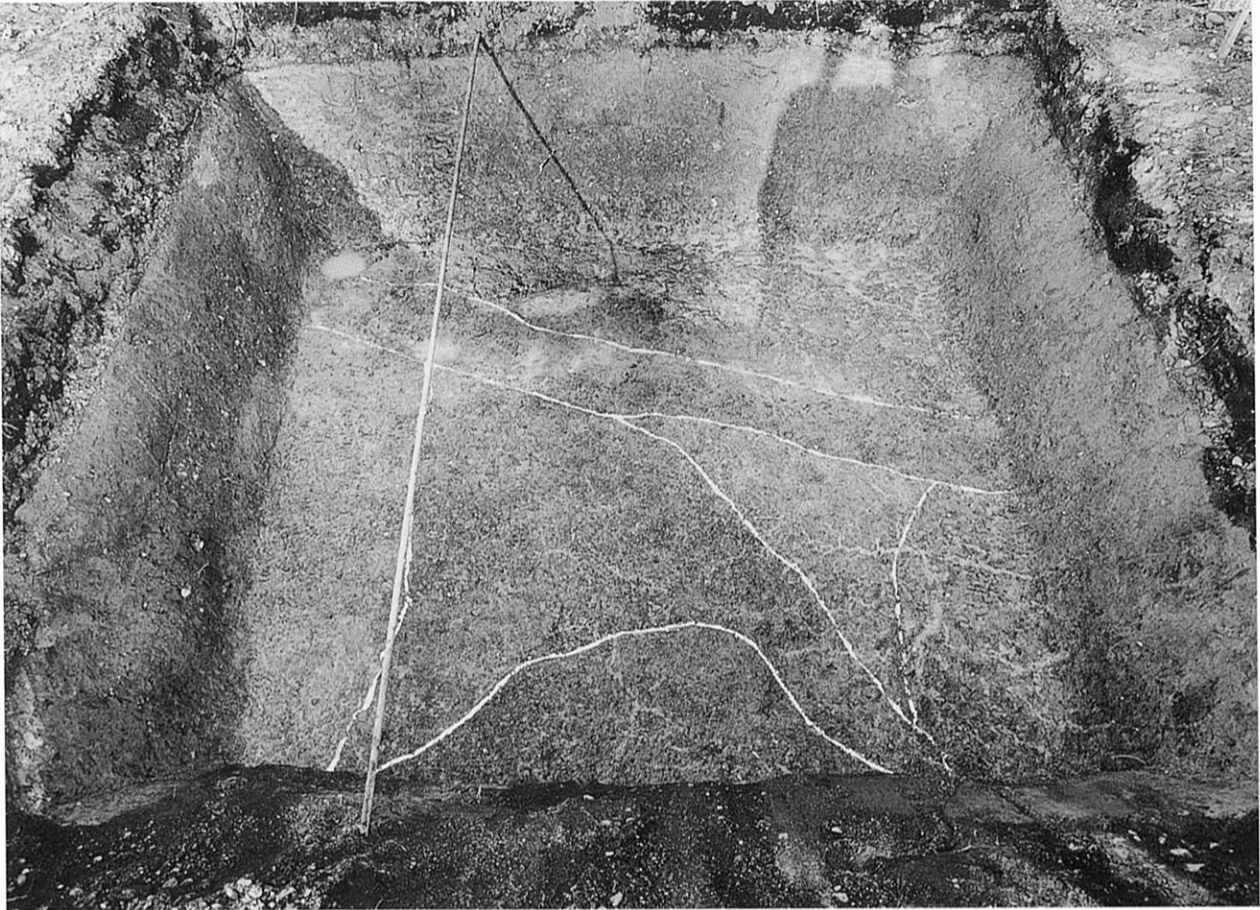
b. NO.33トレンチ井戸1全景（西から）



a. NO.34トレンチ遺構検出状況（北東から）



b. NO.35トレンチ遺構検出状況（北西から）



a. NO.36トレンチ遺構検出状況（南西から）



b. NO.37トレンチ全景（北から）



a. NO.38トレンチ全景（南西から）



b. NO.39トレンチ全景（西から）





a. NO.40トレンチ埋蔵検出状況（北東から）



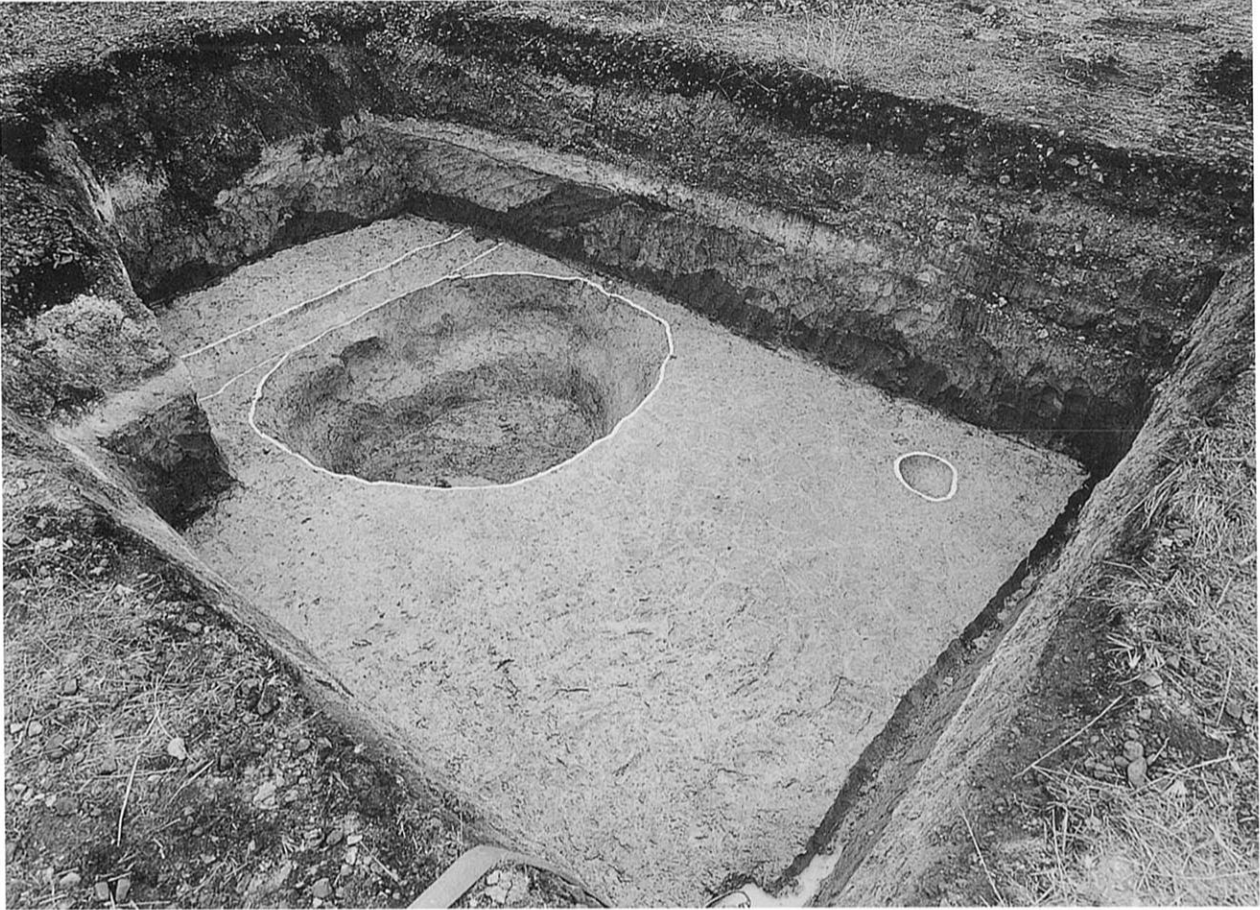
b. NO.40トレンチ埋蔵断面（北東から）



a. NO.40トレンチ埋甕内木器（大足）出土状況（東から）



b. NO.40トレンチ埋甕掘方全景（北から）



a. NO.41トレンチ遺構全景（北から）



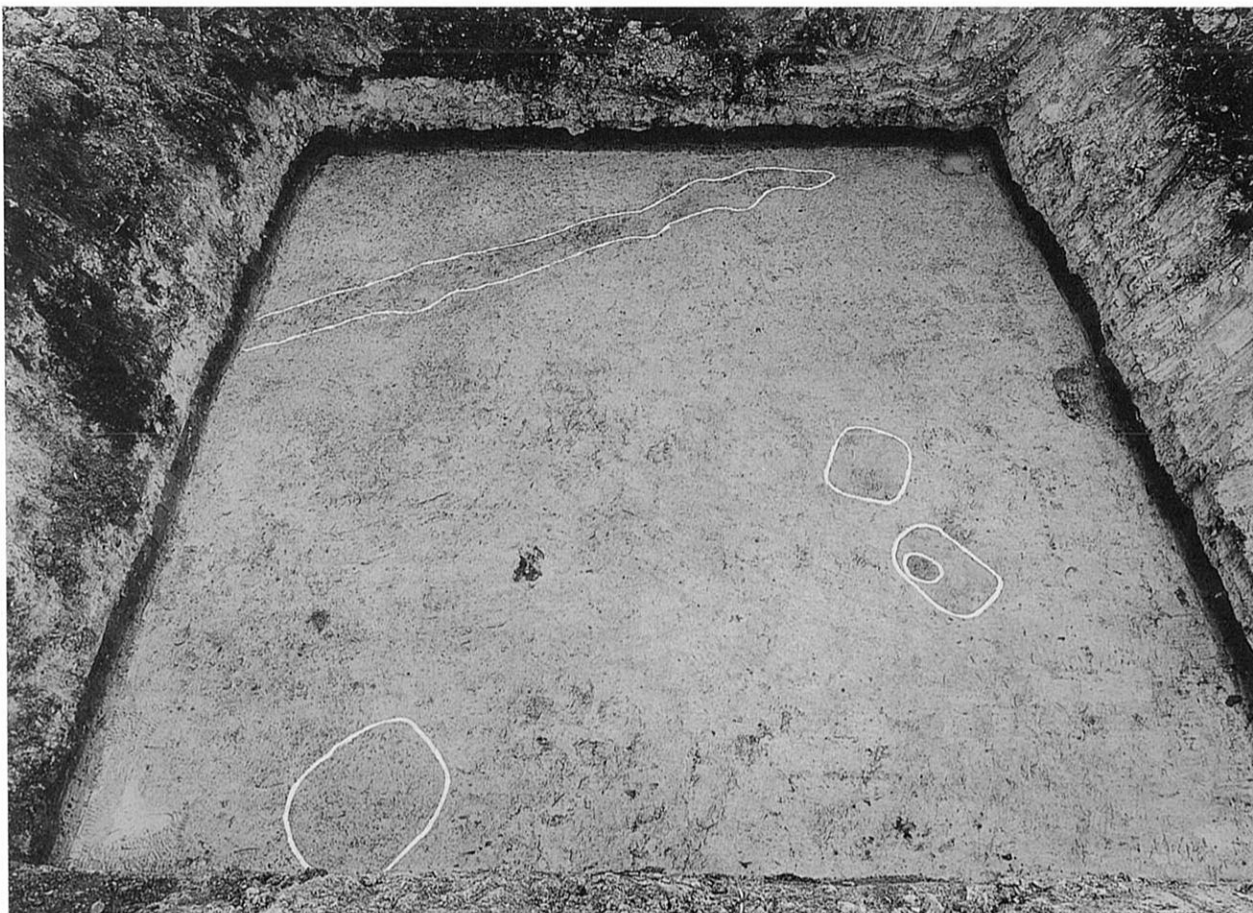
b. NO.41トレンチ井戸1断面（西から）



a. NO.42トレンチ遺構検出状況（北東から）



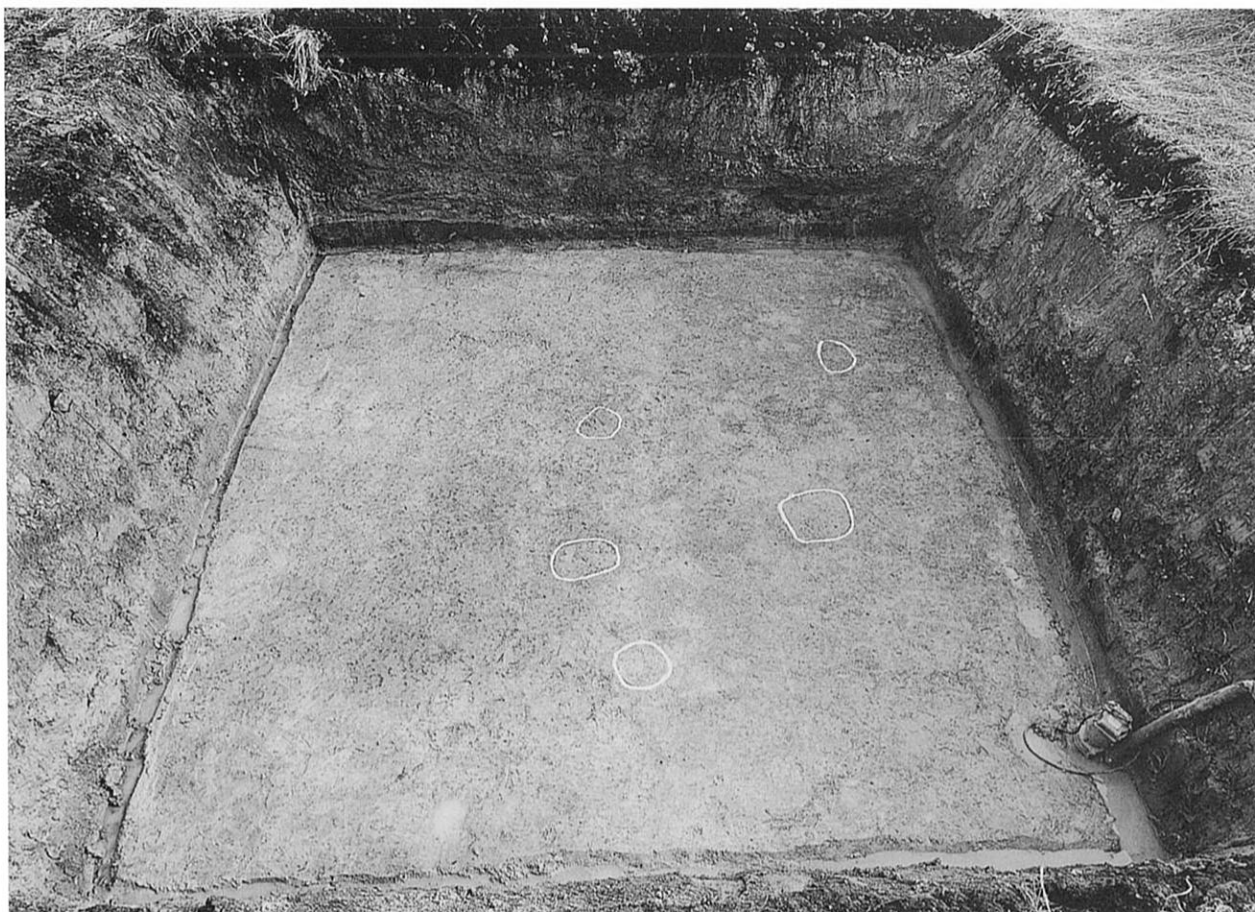
b. NO.43トレンチ全景（東から）



a. NO.44トレンチ遺構検出状況（北西から）



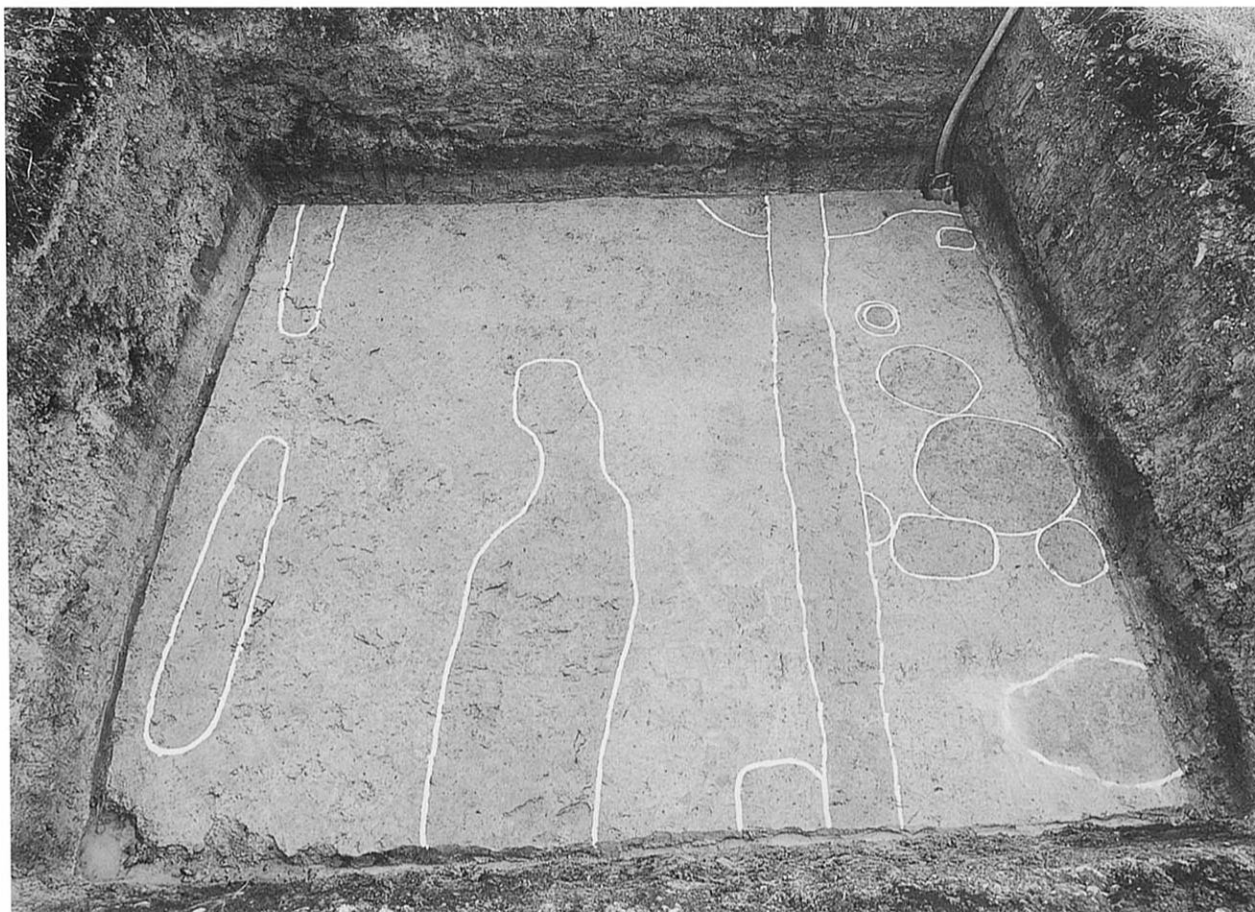
b. NO.45トレンチ遺構検出状況（北西から）



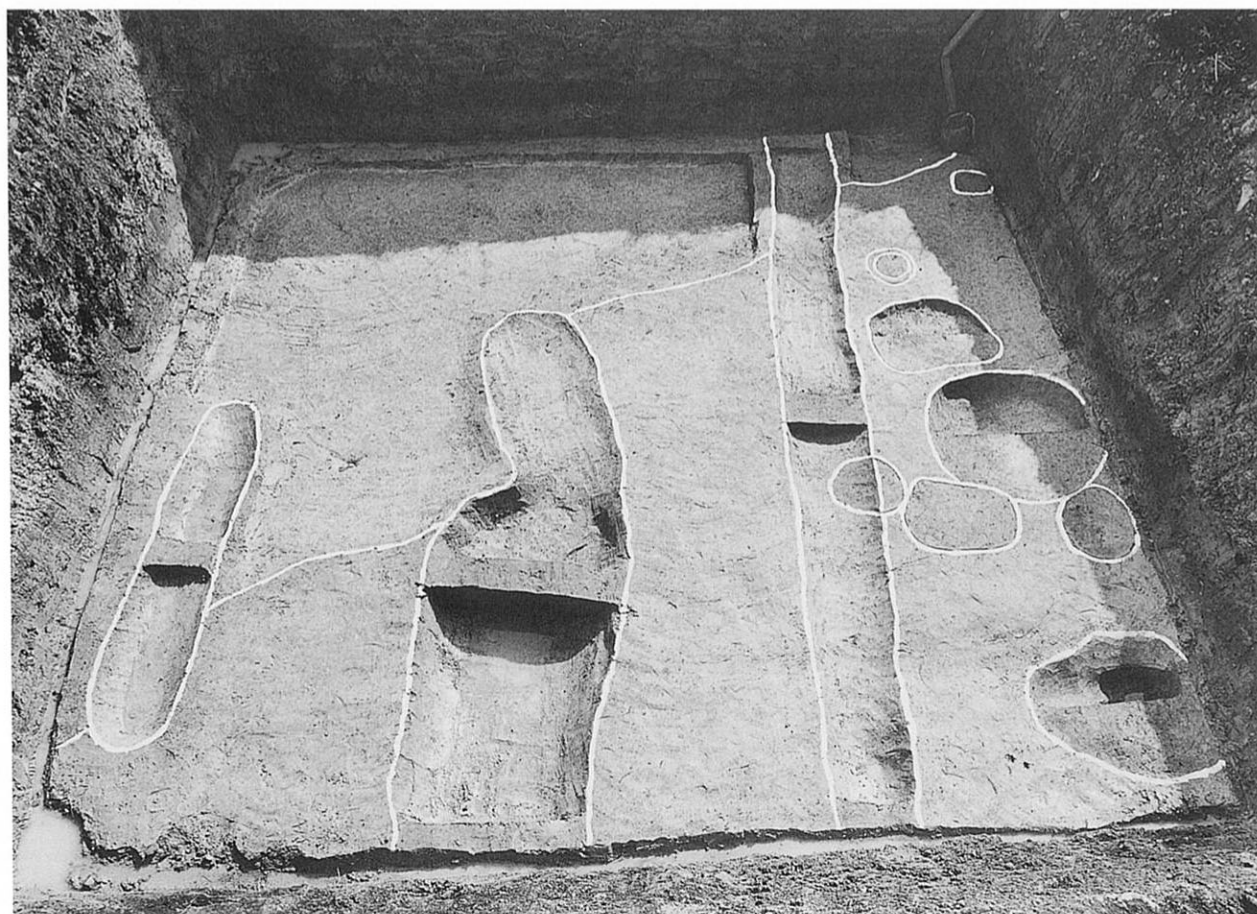
a. NO.46トレンチ遺構検出状況（北東から）



b. NO.47トレンチ全景（北西から）



a. NO.48トレンチ遺構検出状況（北西から）



b. NO.48トレンチ遺構全景（北西から）

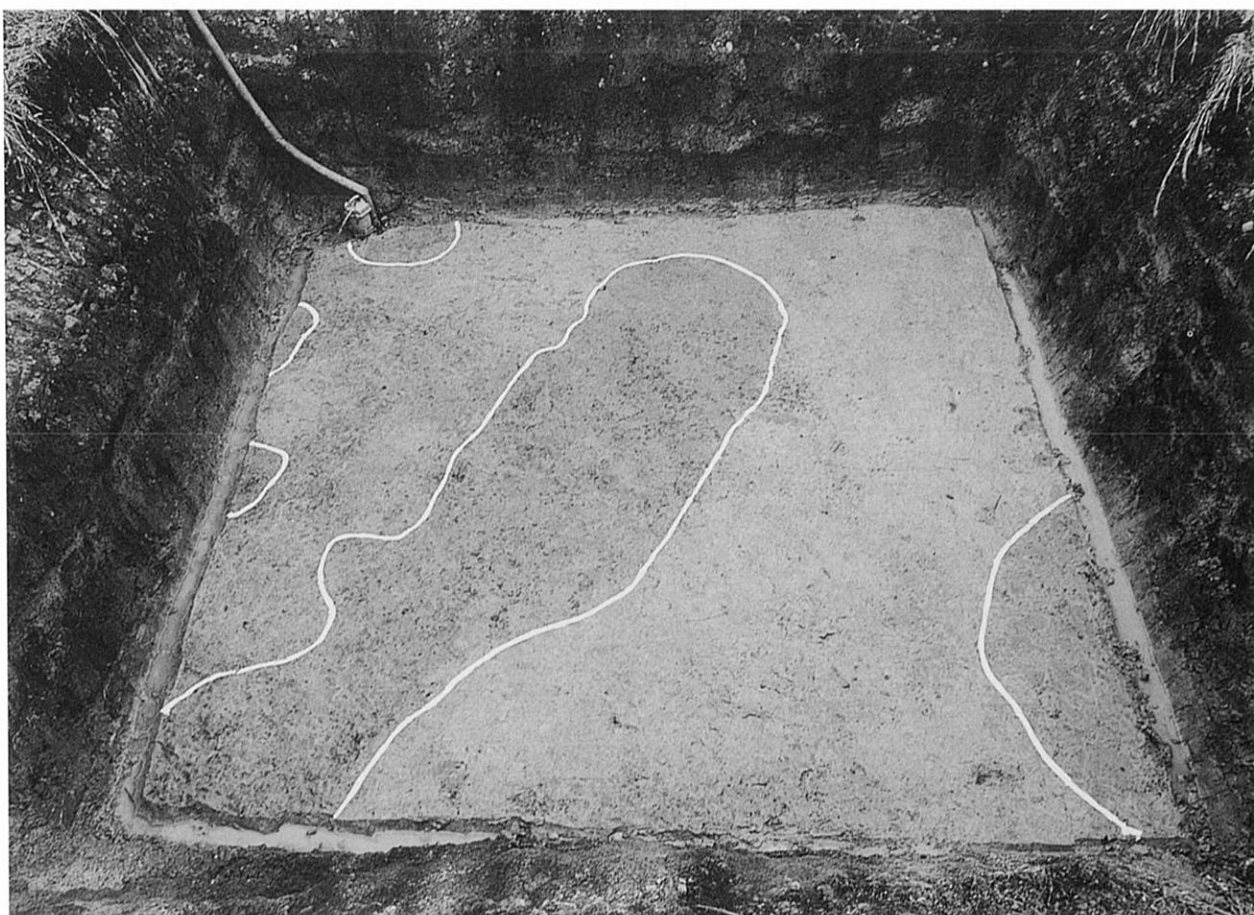


a. NO.49トレンチ遺構検出状況（北西から）



b. NO.49トレンチ遺構全景（北から）





a. NO.50トレンチ遺構検出状況（北東から）



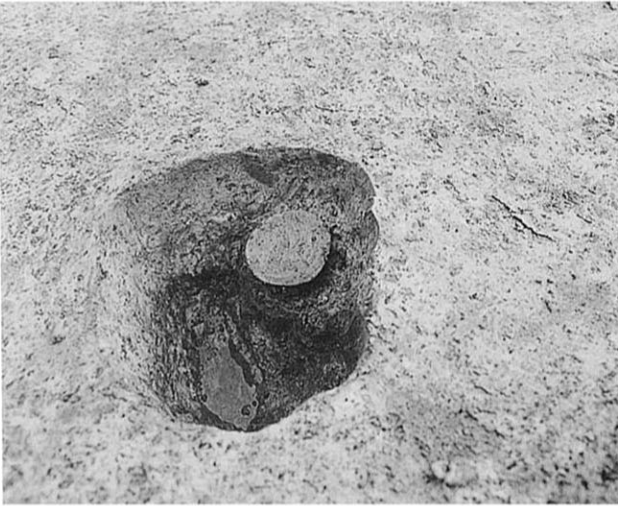
b. NO.50トレンチ井戸1断面（南西から）



a. NO.51トレンチ上層遺構（柱穴群）検出状況（北西から）



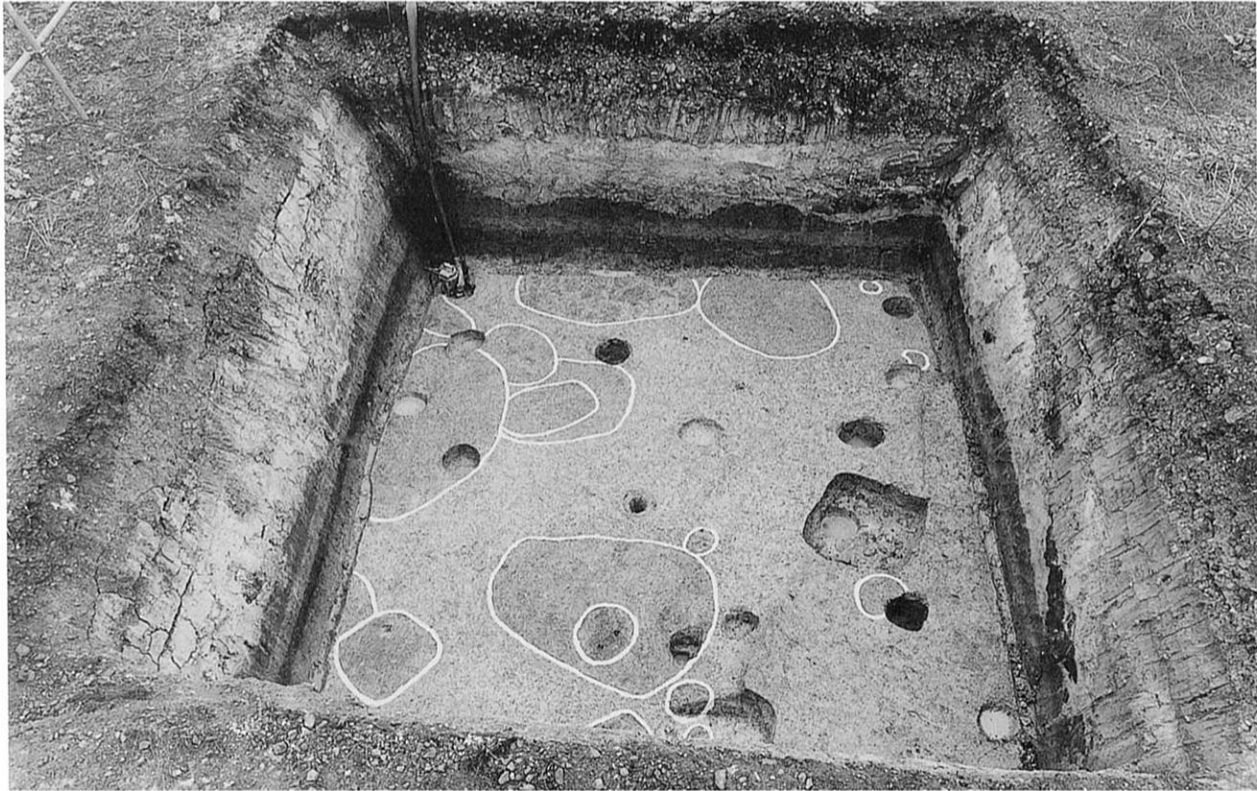
b. NO.51トレンチ上層遺構（柱穴群）全景（南東から）



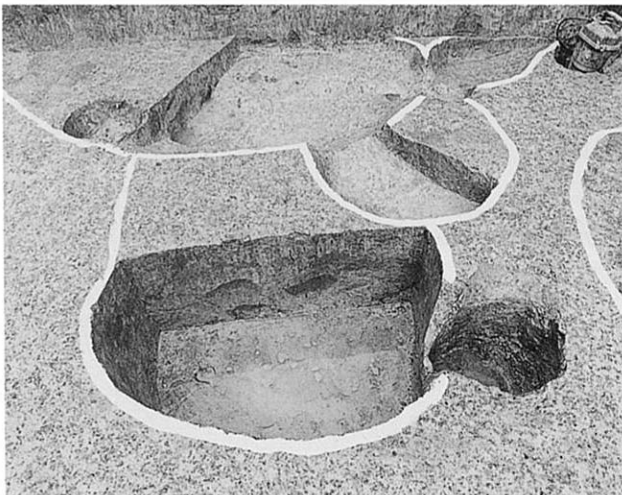
a. NO.51トレンチピット2土師皿出土状況（南西から）



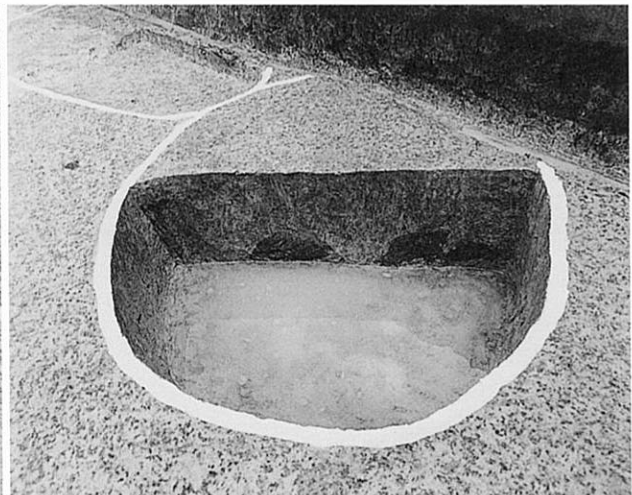
b. NO.51トレンチピット16断面（南東から）



c. NO.51トレンチ下層遺構検出状況（北西から）



d. NO.51トレンチ土坑2断面（南西から）



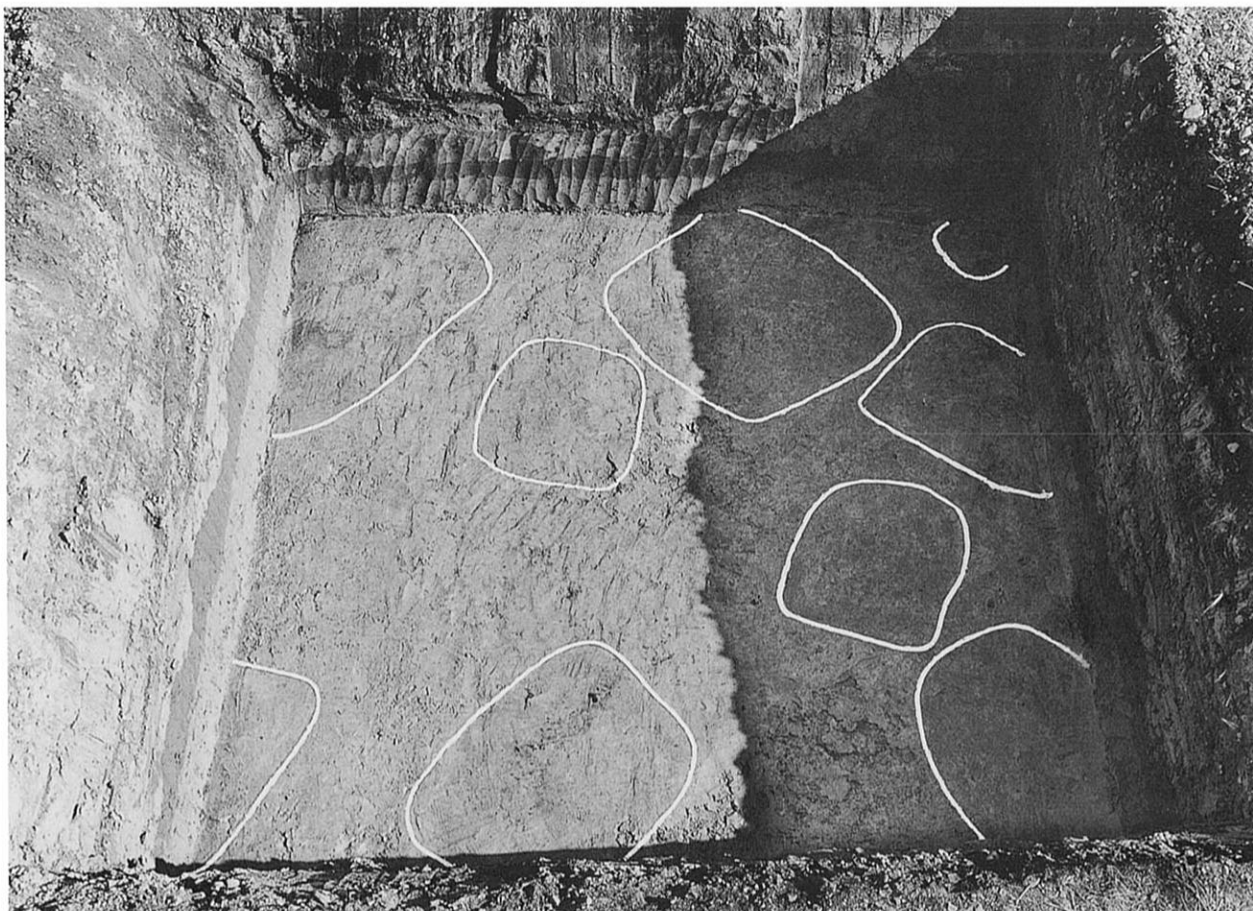
e. NO.51トレンチ土坑6断面（西から）



a. NO.51トレンチ下層遺構半割り状況（北西から）



b. NO.52トレンチ全景（北西から）



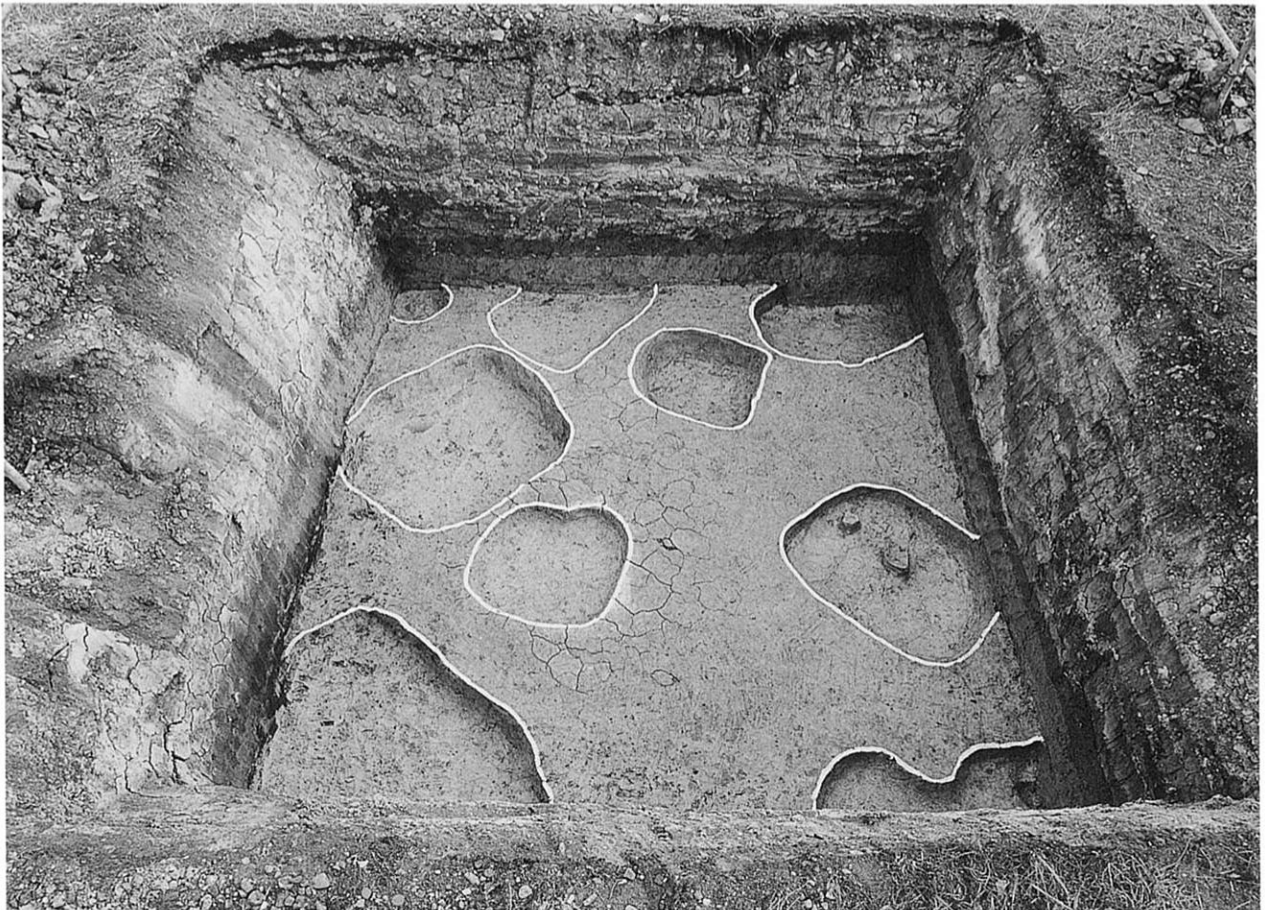
a. NO.53トレンチ土坑群検出状況（南西から）



b. NO.53トレンチ土坑群半割り状況（北西から）



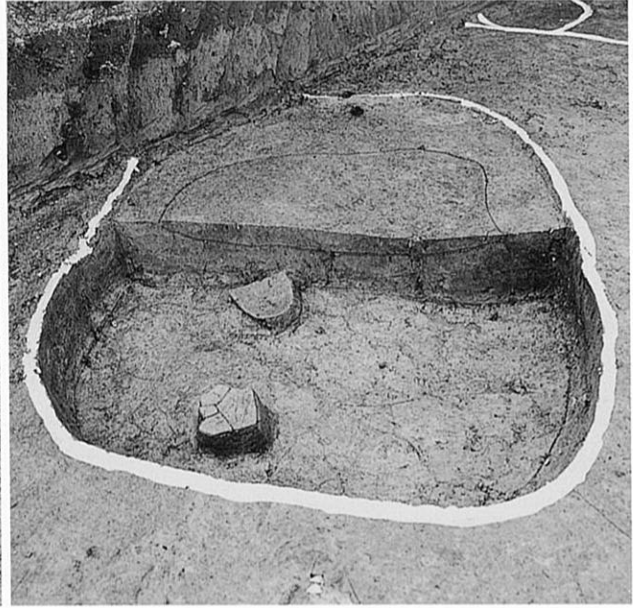
a. NO.53トレンチ土坑群半割り状況（西から）



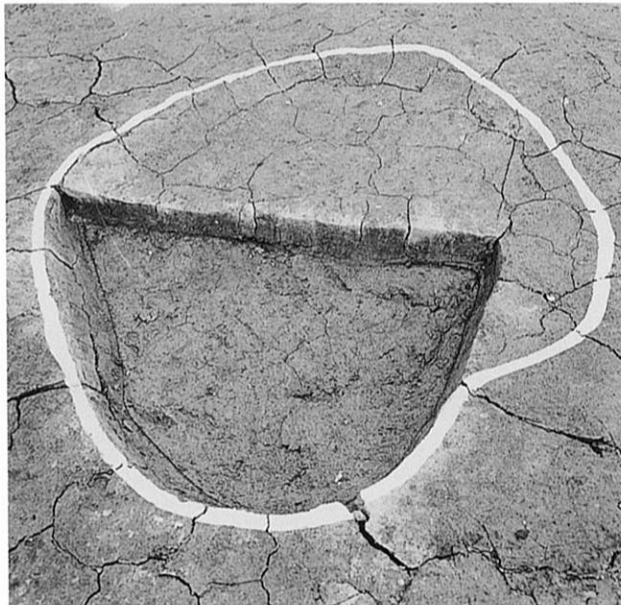
b. NO.53トレンチ土坑群全掘状況（北西から）



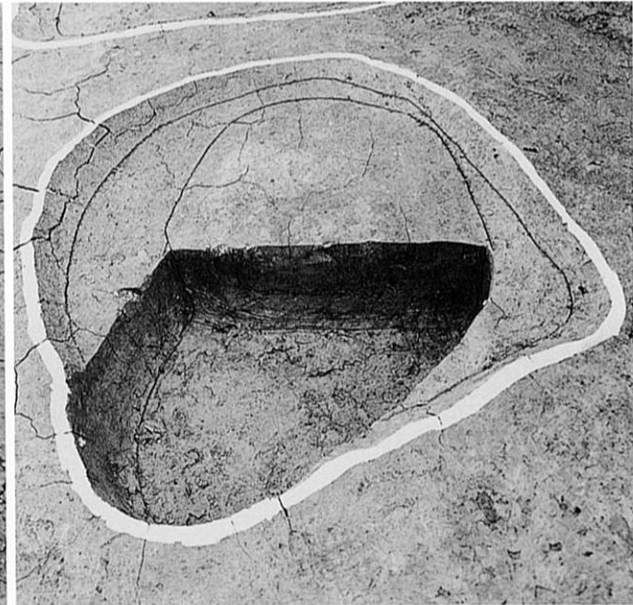
a. NO.53トレンチ土坑1 須恵器出土状況 (東から)



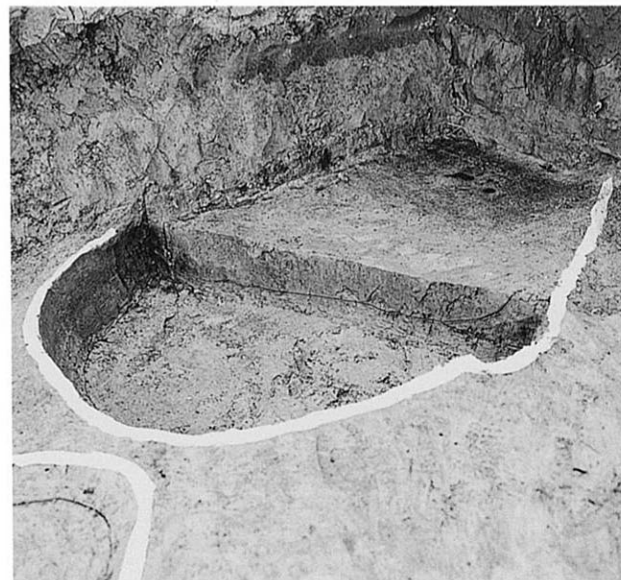
b. NO.53トレンチ土坑1 断面 (東から)



c. NO.53トレンチ土坑2 断面 (南から)



d. NO.53トレンチ土坑3 断面 (西から)



e. NO.53トレンチ土坑4 断面 (北から)



f. NO.53トレンチ土坑5 断面 (南西から)

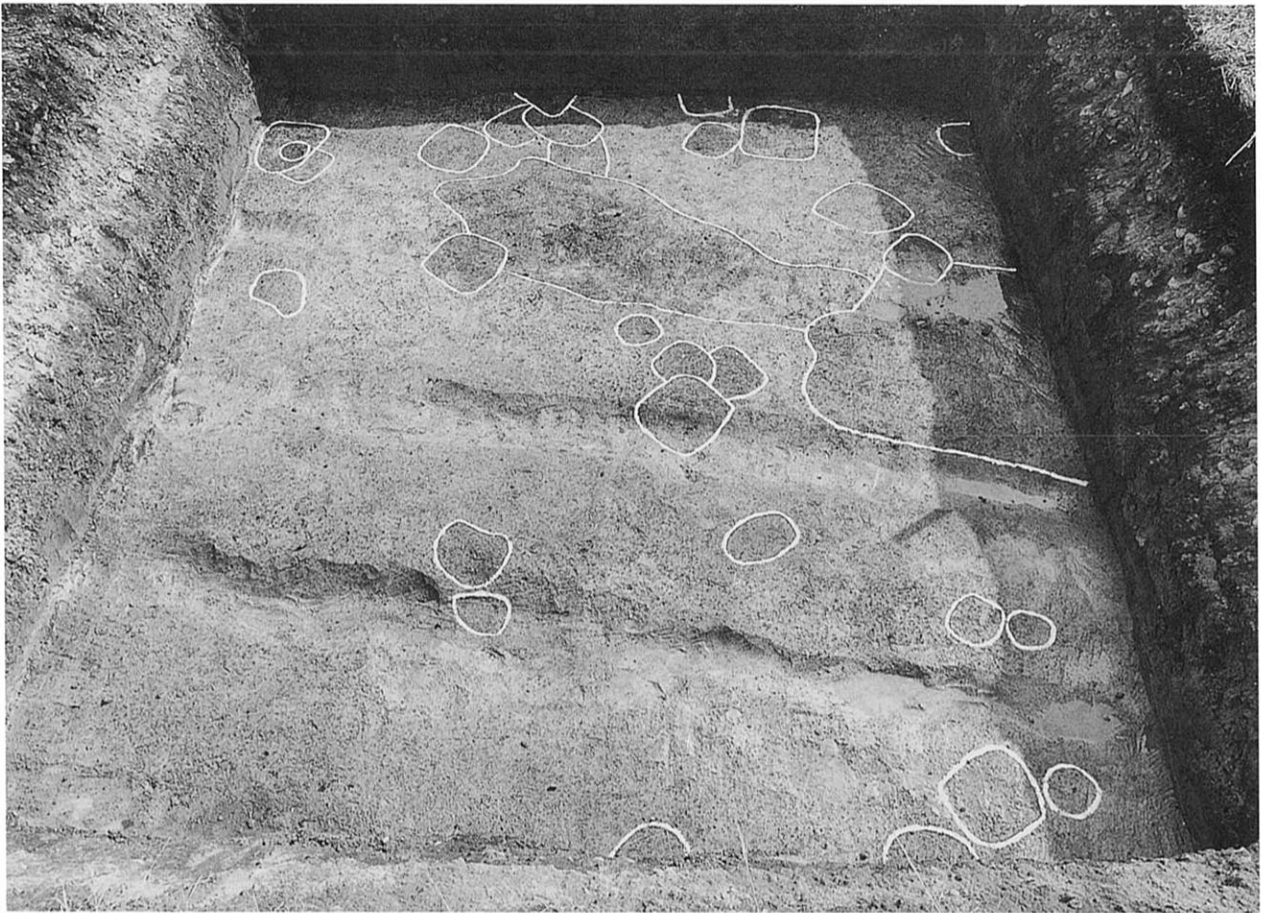


a. NO.54トレンチ柱穴群検出状況（北東から）



b. NO.55トレンチピット・野井戸（左下）検出状況（北西から）





a. NO.56トレンチ柱穴群検出状況（北西から）



b. NO.56トレンチ柱穴群全景（東から）



a. NO.57トレンチ土坑群検出状況（南東から）



b. NO.57トレンチ土坑群全景（北東から）



a. NO.58トレンチ土層断面・井戸1検出状況（南西から）



b. NO.58トレンチ井戸1断面（北西から）



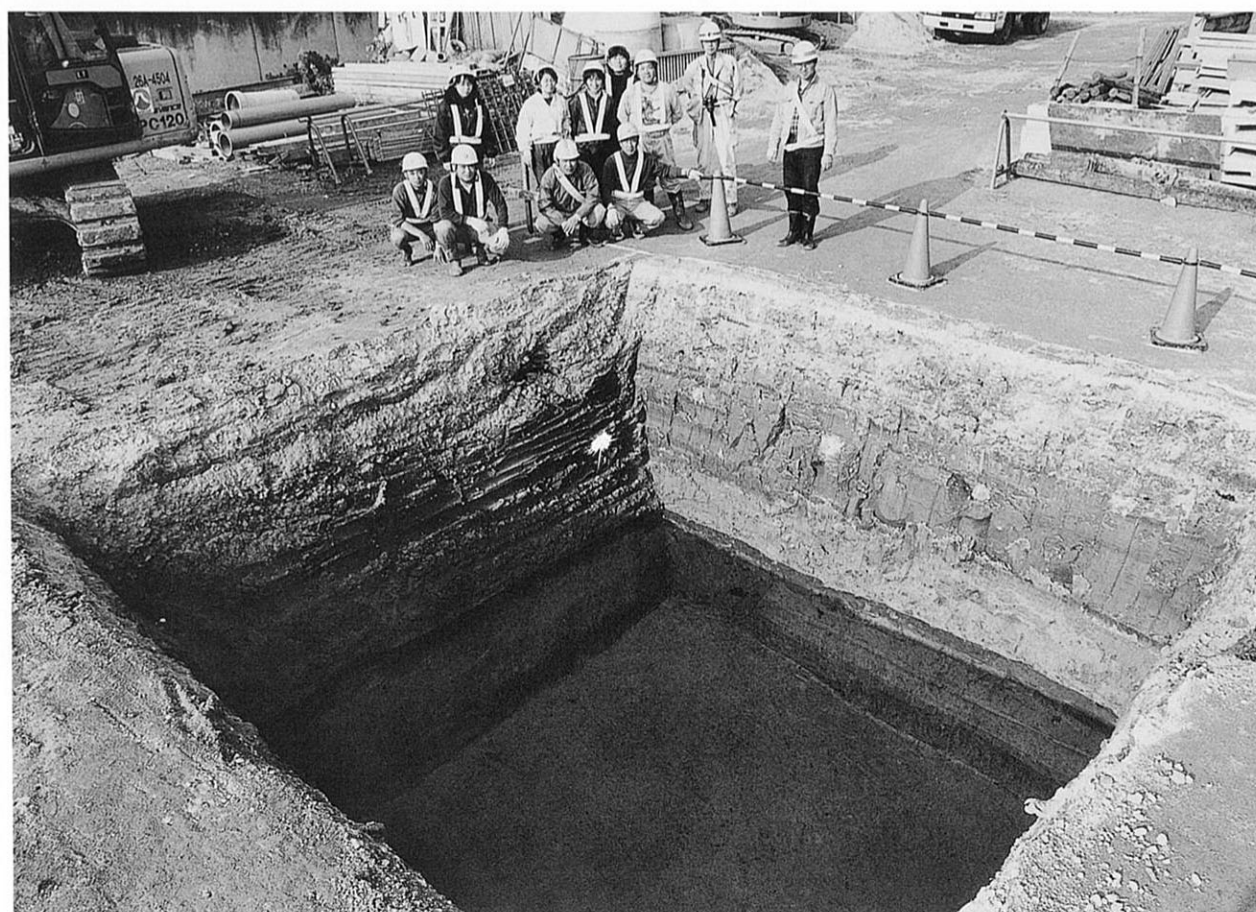
a. NO.59トレンチコンクリートベタ基礎検出状況（北東から）



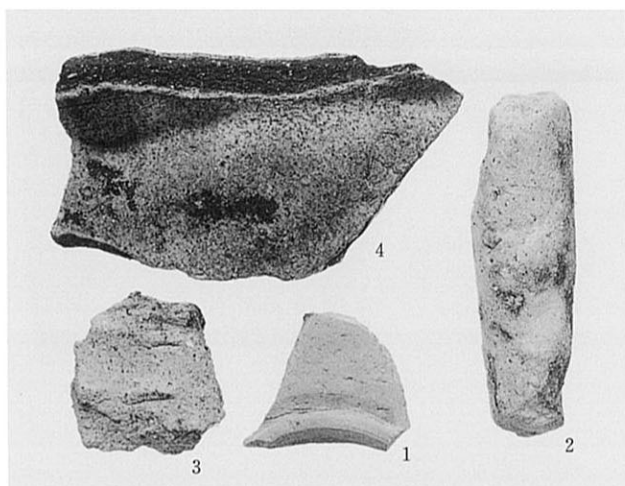
b. NO.60トレンチ全景（南西から）



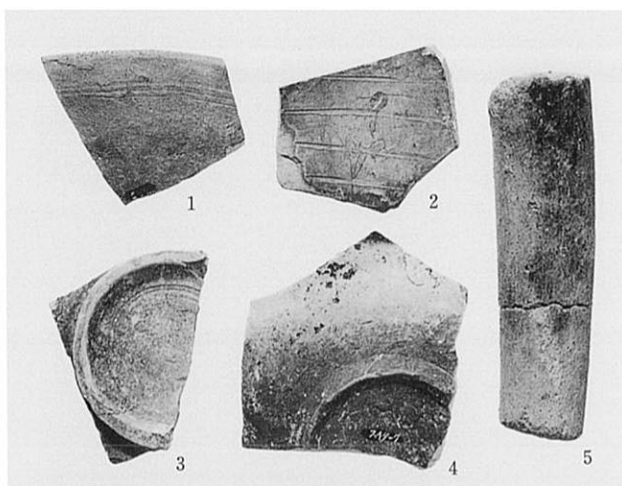
a. NO.61トレンチ中世スキ溝検出状況（南東から）



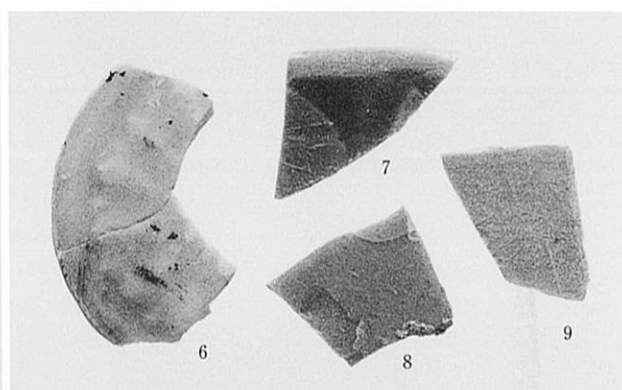
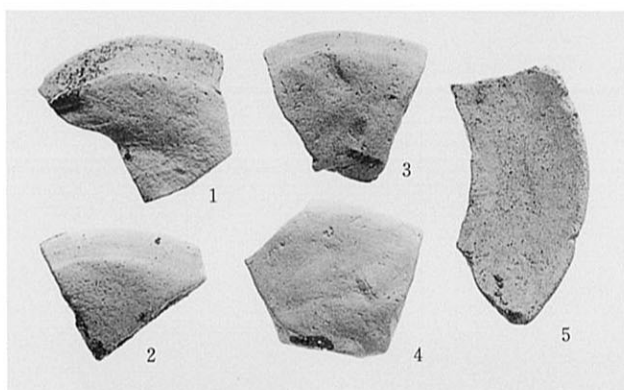
b. NO.61トレンチ全景（南から）



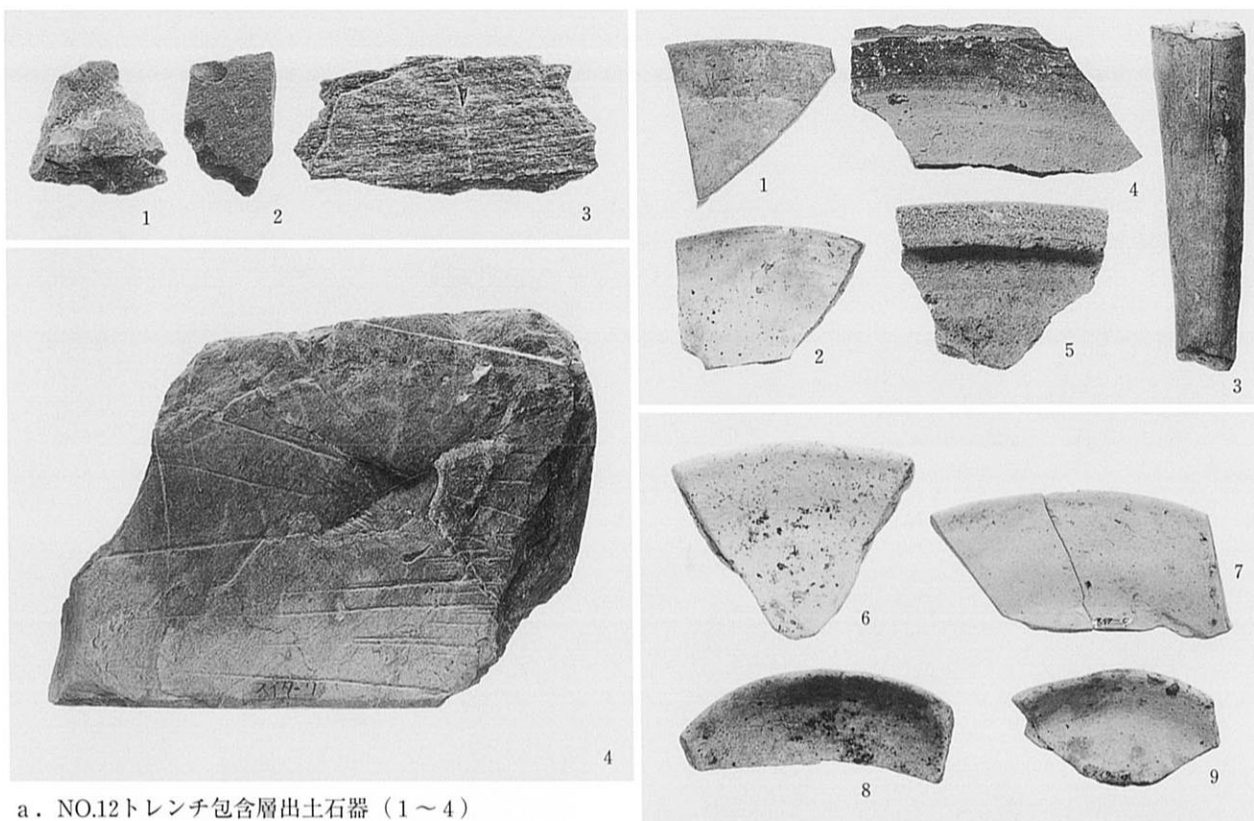
a. NO.11トレンチ包含層出土土器 (1~4)



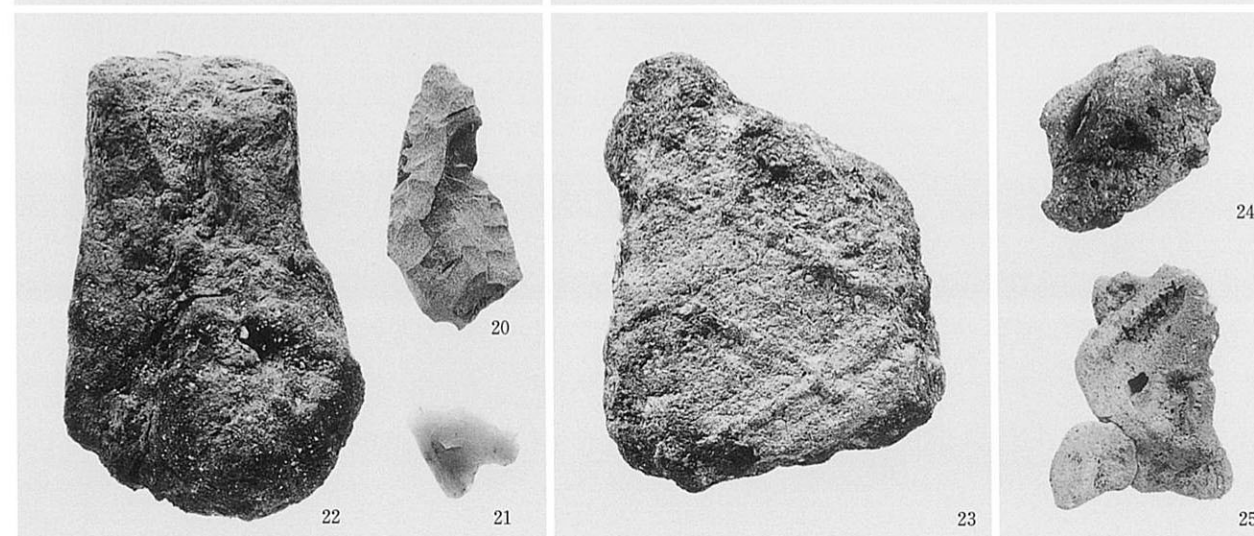
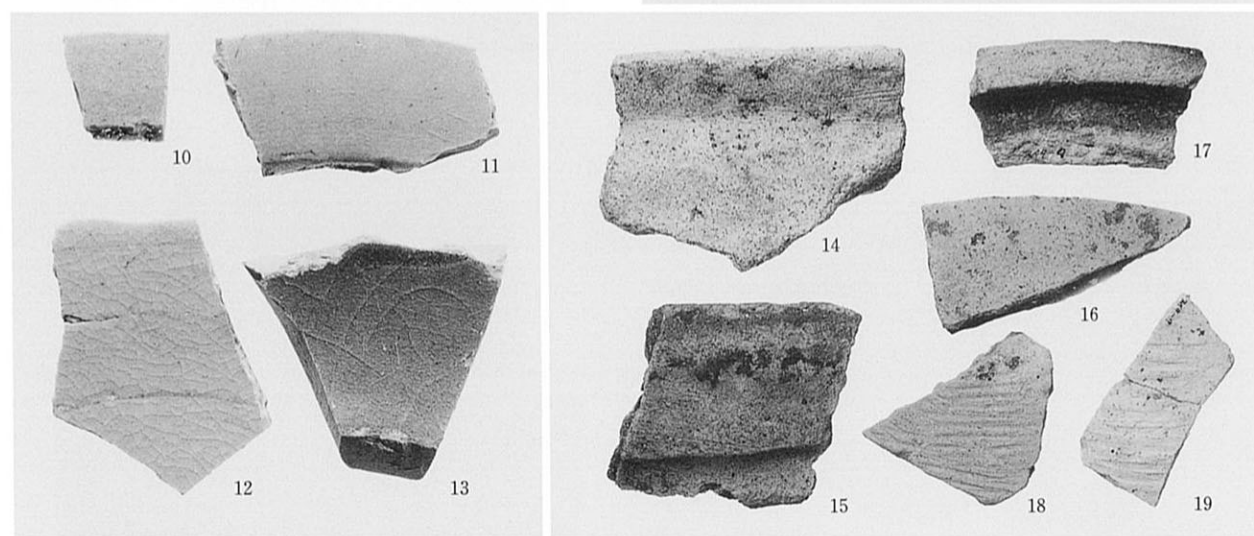
b. NO.12トレンチ包含層出土瓦器 (1~5)



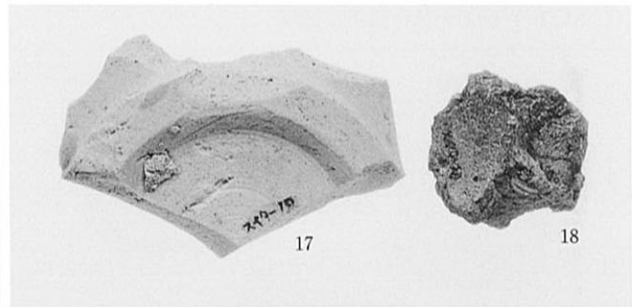
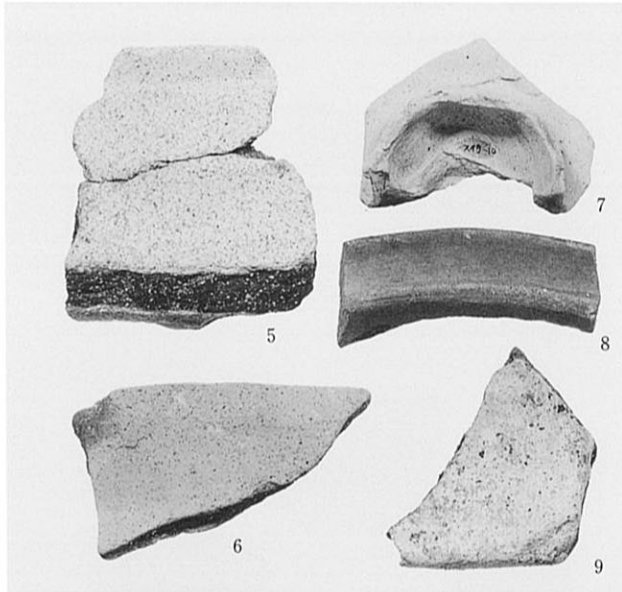
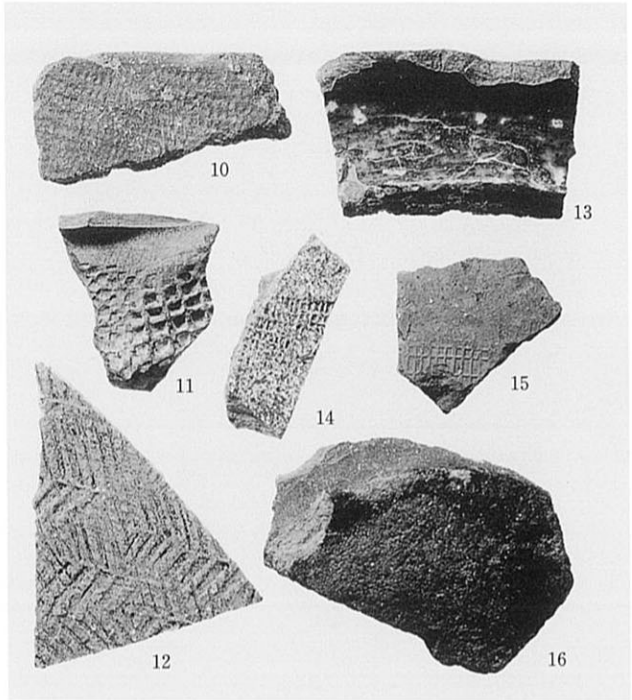
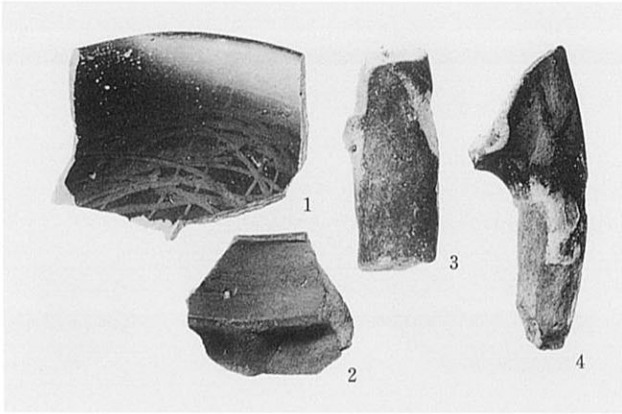
c. NO.12トレンチ包含層出土土師器 (1~5), 青白磁 (6), 青磁 (7~9), 陶棺 (10), 丸瓦 (11)



a. NO.12トレンチ包含層出土石器 (1~4)

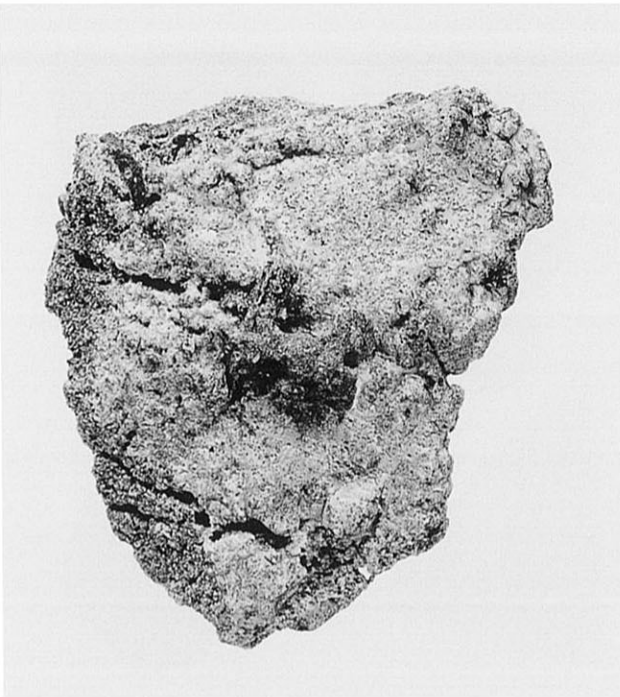


b. NO.13トレンチ包含層出土瓦器 (1~3), 須恵器 (4・5), 土師器 (6~9, 14~19), 白磁 (10~12), 青磁 (13), 石器 (20・21), 鉄斧 (22), 平瓦 (23), 焼土 (24・25)

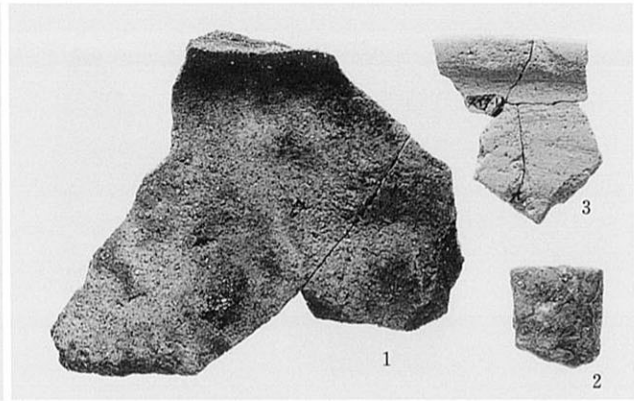


a. NO.15トレンチ包含層出土土器（1～17）、フイゴ羽口（18）、平瓦（19）

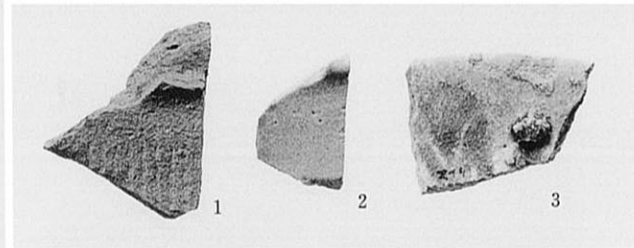




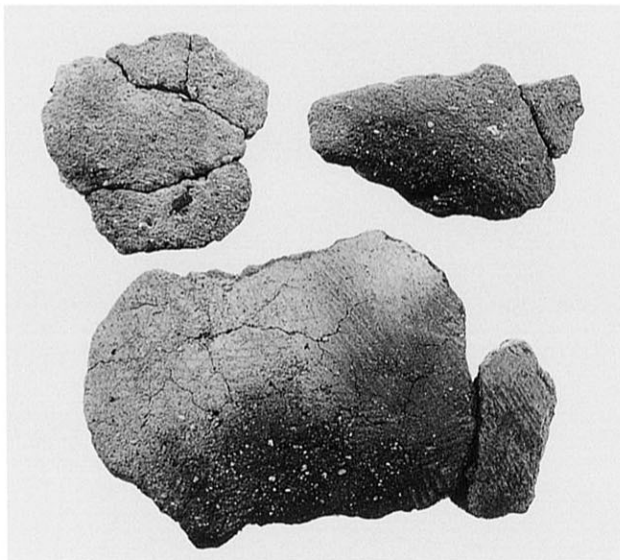
a. NO.15トレンチ包含層出土窯壁



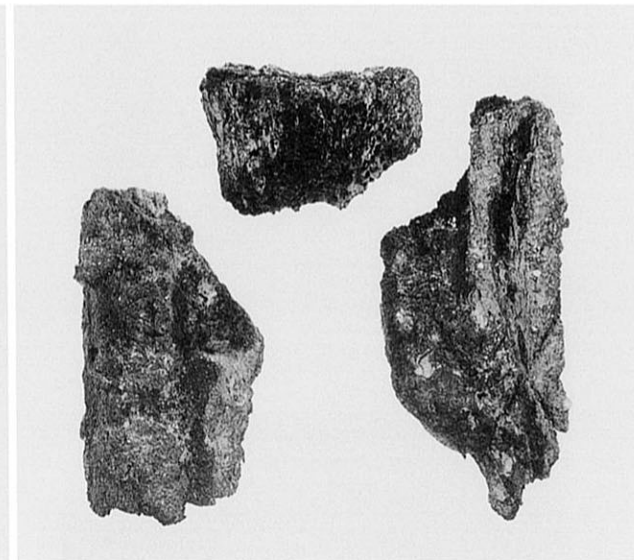
b. NO.16トレンチ包含層出土土器 (1~3)



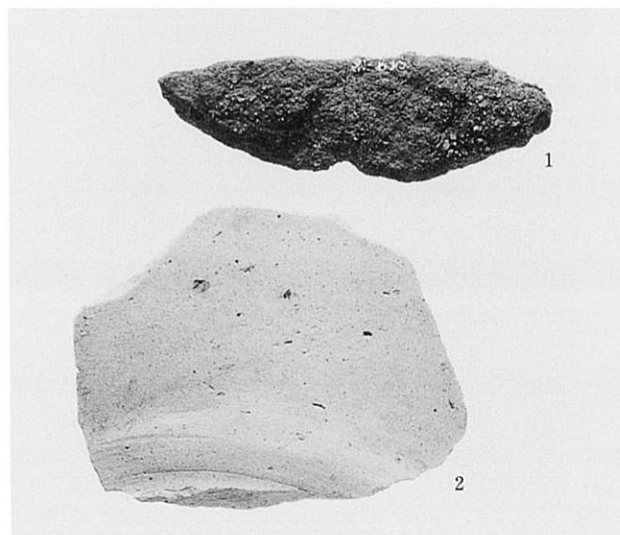
c. NO.18トレンチ包含層出土土器 (1~3)



d. NO.19トレンチ溝1出土土師器鍋 (1~3)



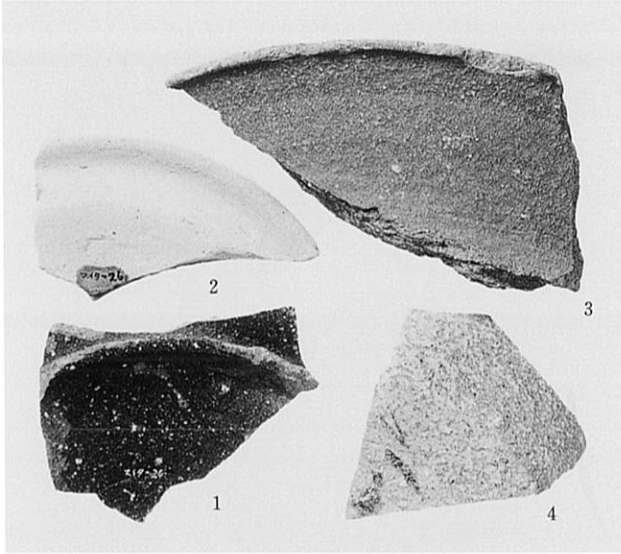
e. NO.23トレンチ地山直上出土動物骨 (1~3)



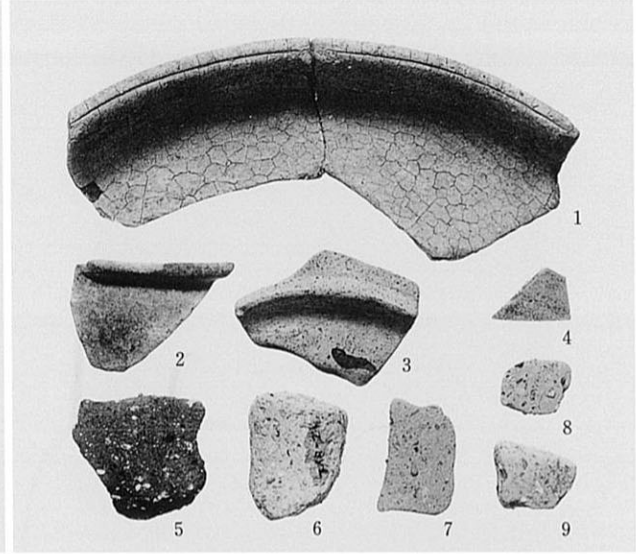
f. NO.24トレンチ包含層出土鉄刀子 (1),  
須恵器杯 (2)



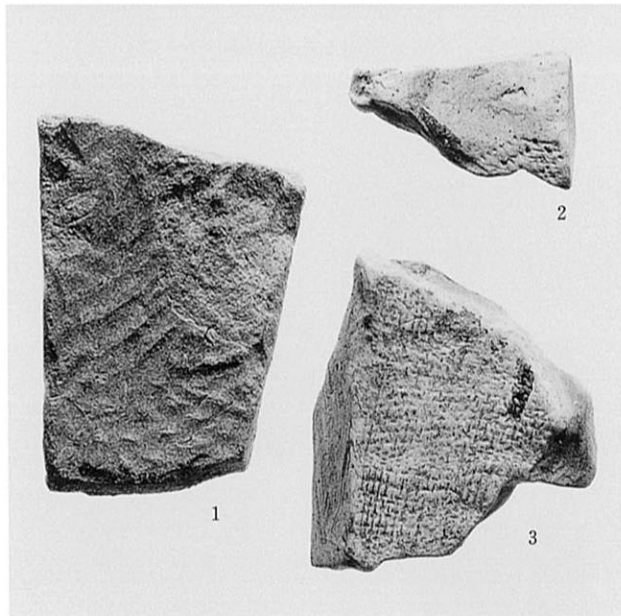
g. NO.26トレンチ土坑1出土土器 (1~5)



a. NO.26トレンチ包含層出土須恵器 (1~4)



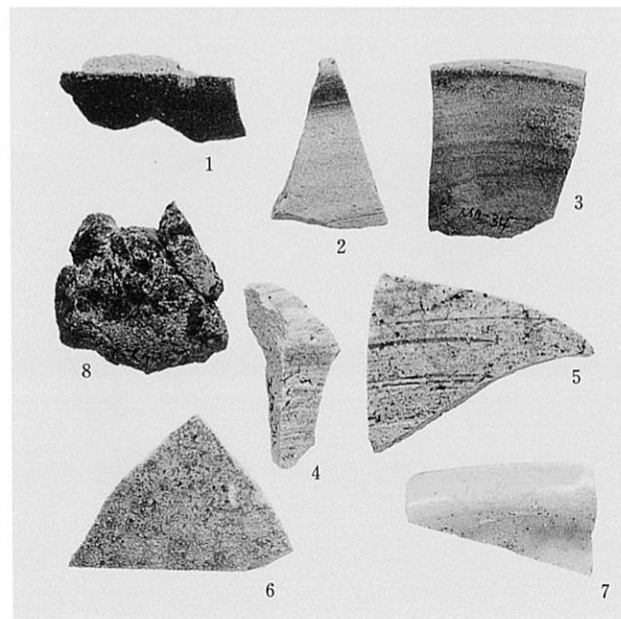
b. NO.26トレンチ包含層出土土器 (1~9)



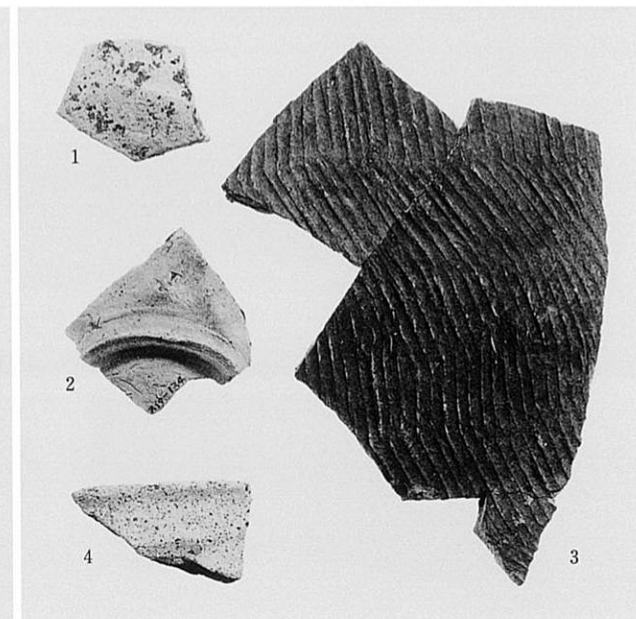
c. NO.26トレンチ包含層出土須恵器 (1), 丸瓦 (2・3)



d. NO.28トレンチ包含層出土土器 (1~4)



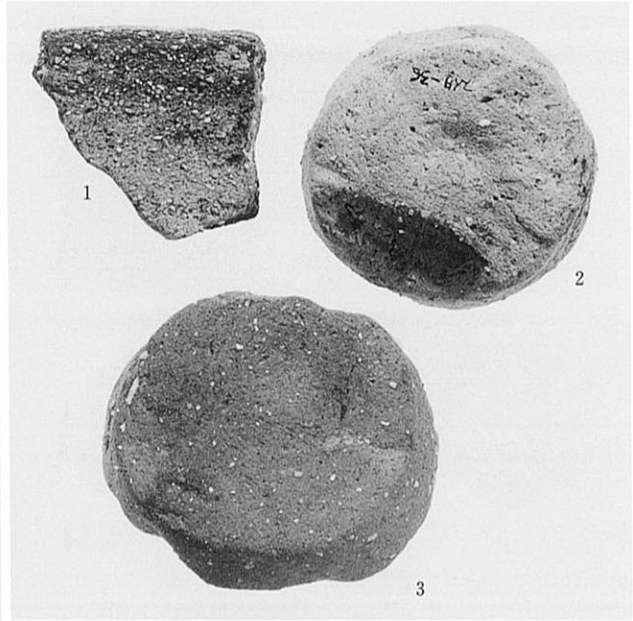
e. NO.28トレンチ包含層出土土器 (1~7),  
フィゴ羽口 (8)



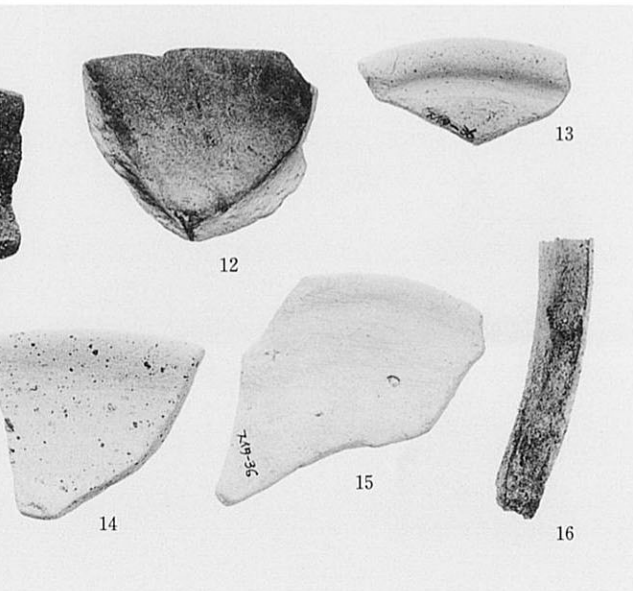
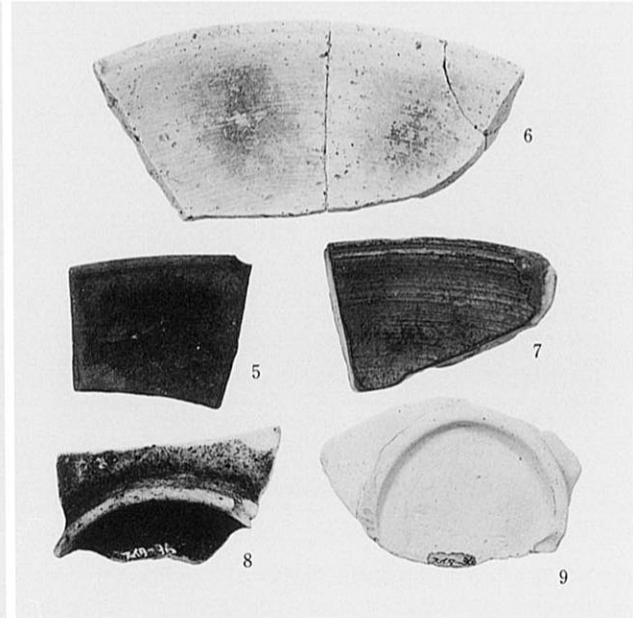
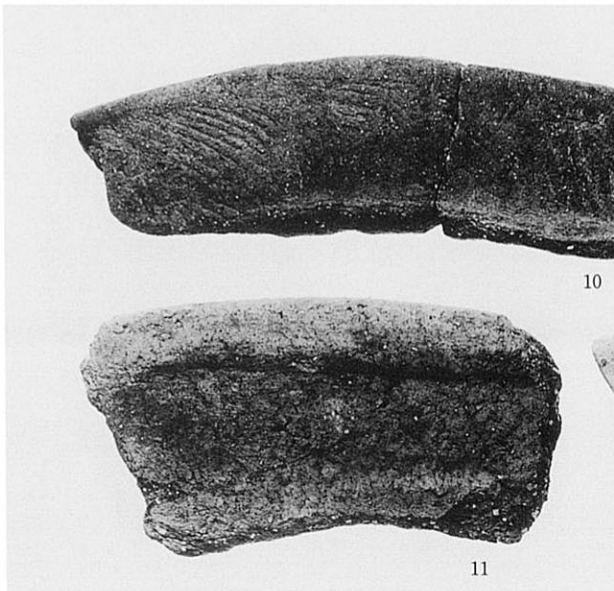
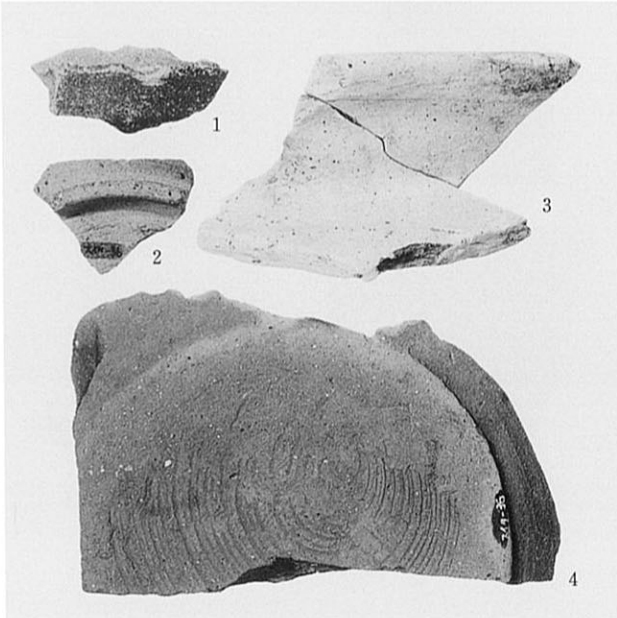
f. NO.29トレンチピット1 (1・2), ピット3 (3),  
ピット4 (4) 出土土器



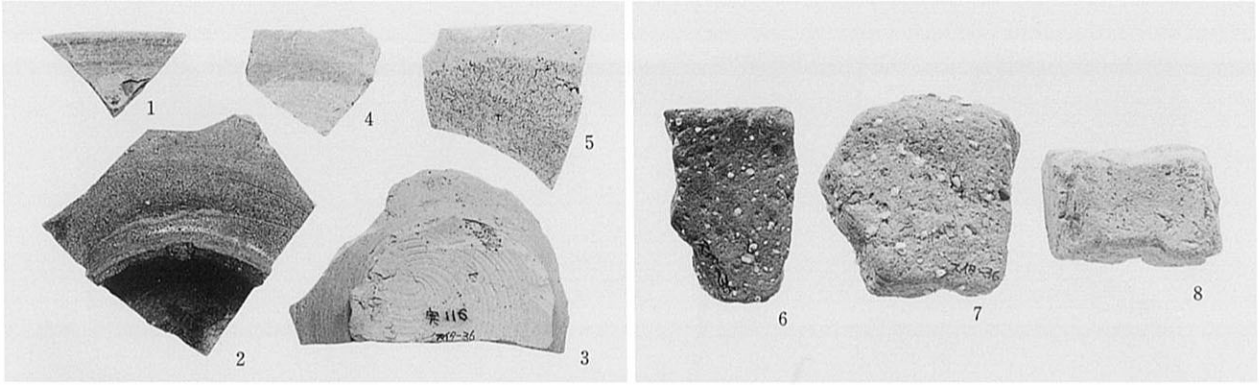
a. NO.29トレンチピット2出土土師器羽釜



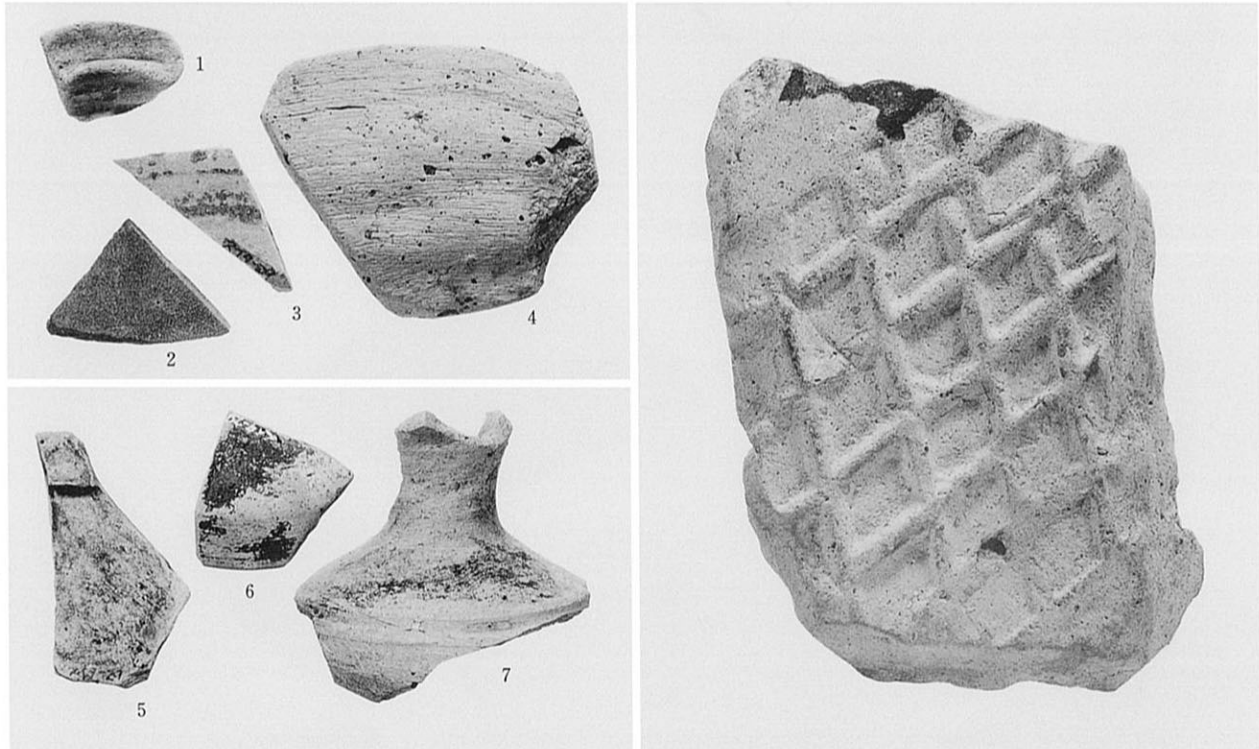
b. NO.30トレンチ包含層出土弥生土器（1～3）



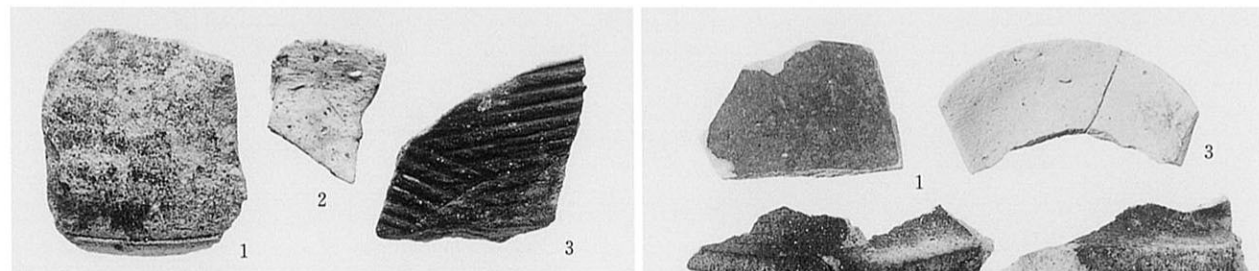
c. NO.30トレンチ包含層出土須恵器（1～4）、黒色土器（5）、瓦器（6～9）、土師器（10～15）、馬歯（16）



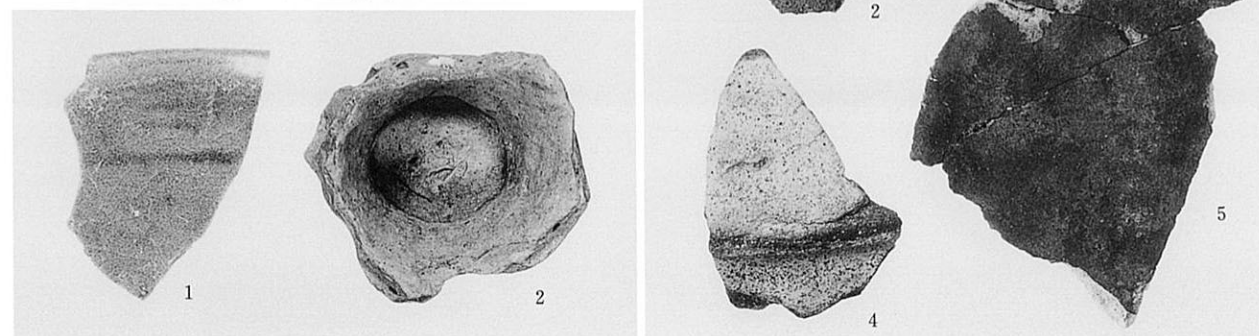
a. NO.30トレンチ包含層出土緑釉（1～3），白磁（4・5），製塩土器（6・7），平瓦（8）



b. NO.32トレンチ土坑1出土瓦器碗（1），包含層出土土器（2～7），平瓦（8）

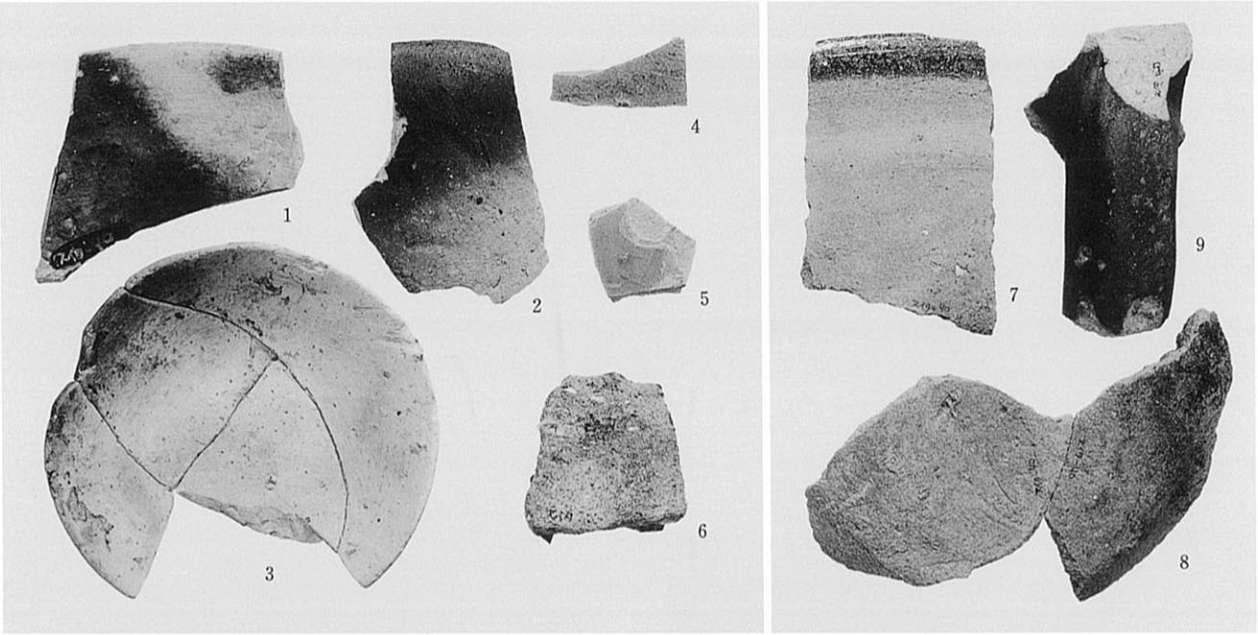


c. NO.33トレンチ井戸1出土土器（1～3）

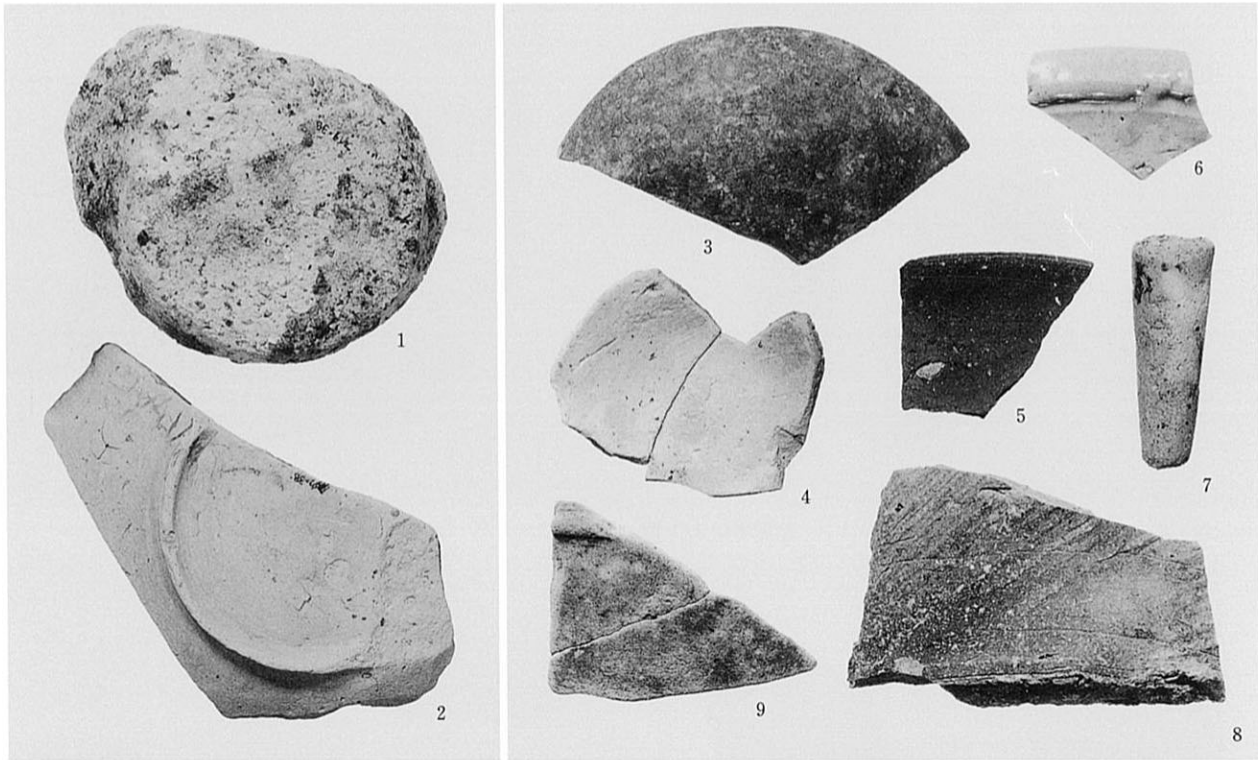


e. NO.34トレンチ包含層出土土器（1・2）

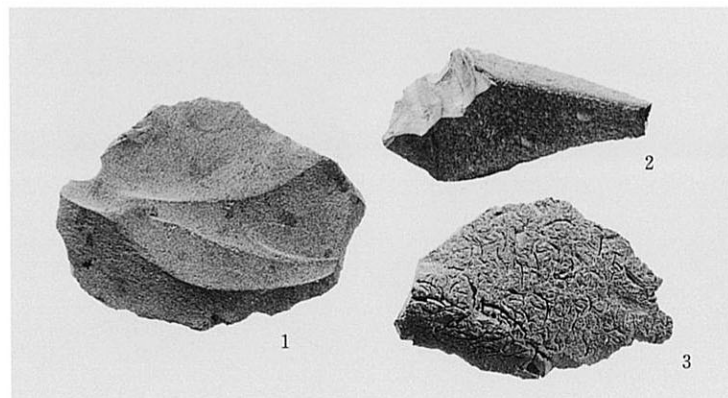
d. NO.33トレンチ床土層出土土器（1～4），丸瓦（5）



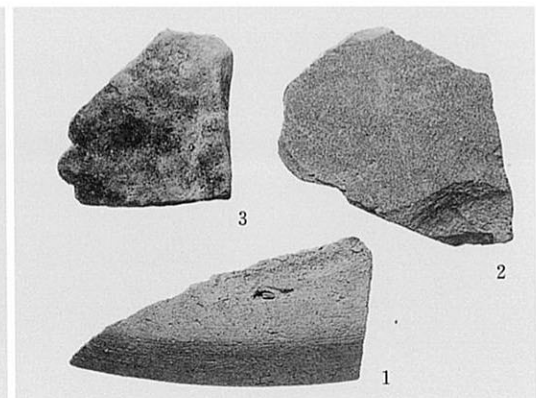
a. NO.36トレンチ井戸1出土瓦器 (1・2・9), 土師器 (3), 青磁 (4・5), 平瓦 (6), 須恵器 (7・8)



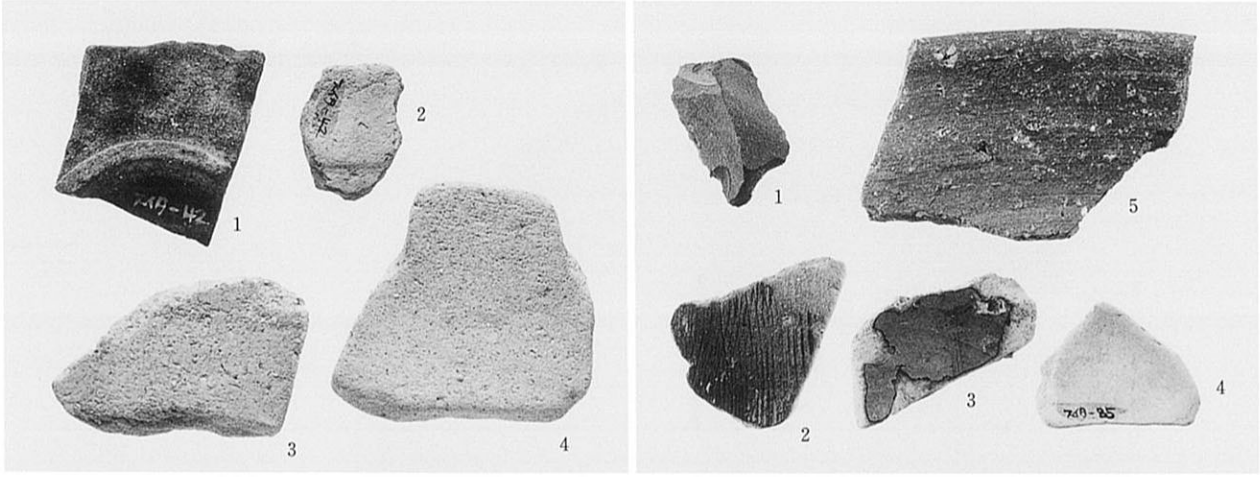
b. NO.36トレンチ包含層出土土器 (1~9)



c. NO.36トレンチ出土サヌカイト (1~3)



d. NO.37トレンチ包含層出土須恵器 (1・2), 瓦器椀 (3)

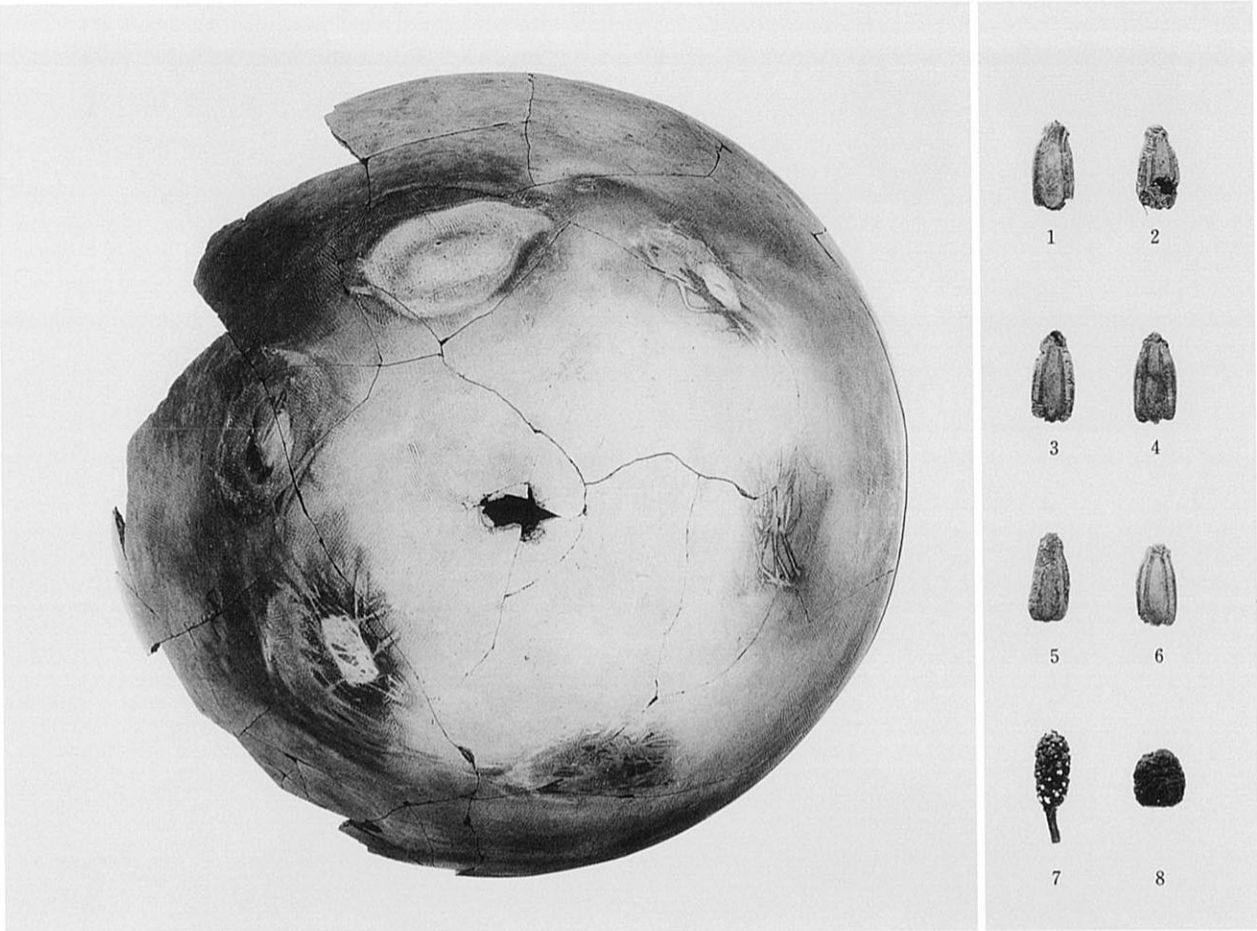


a. NO.38トレンチ包含層出土土器（1～4）

b. NO.39トレンチ包含層出土石器（1），土器（2～5）

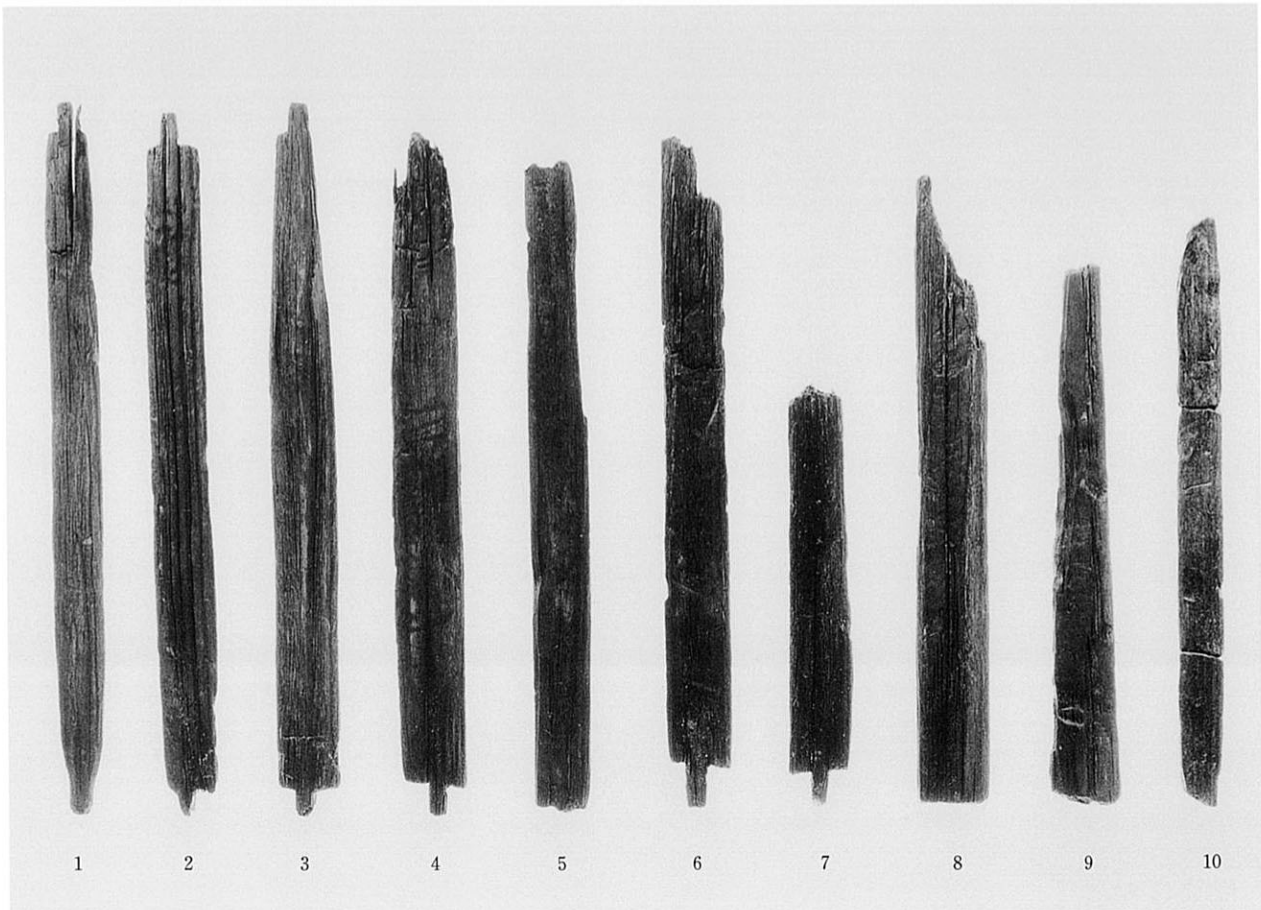


c. NO.40トレンチ出土須恵器大甕

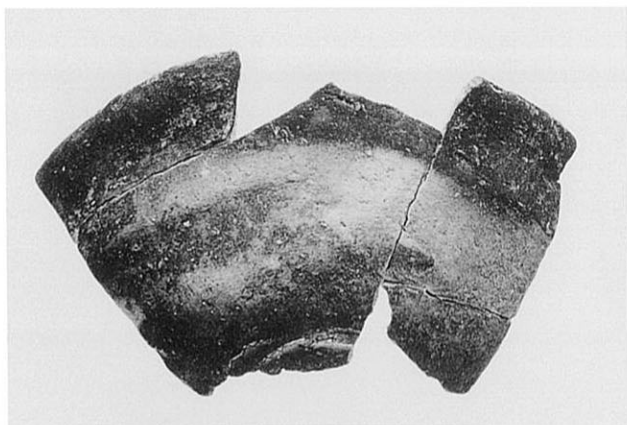


a. NO.40トレンチ出土須恵器大甕底部外面

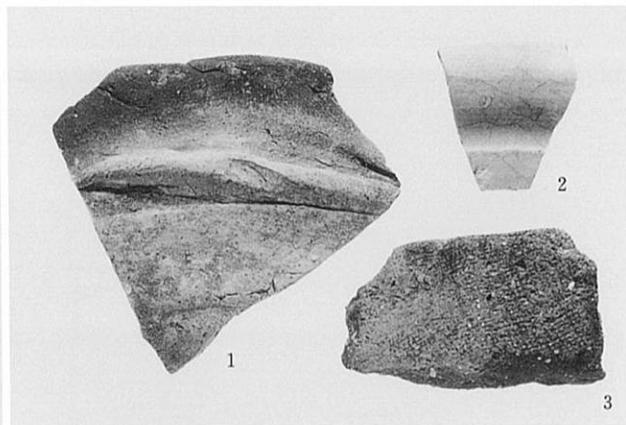
b. 大甕内出土種子



c. NO.40トレンチ須恵器大甕内出土大足（1～7），不明木器（8～10）



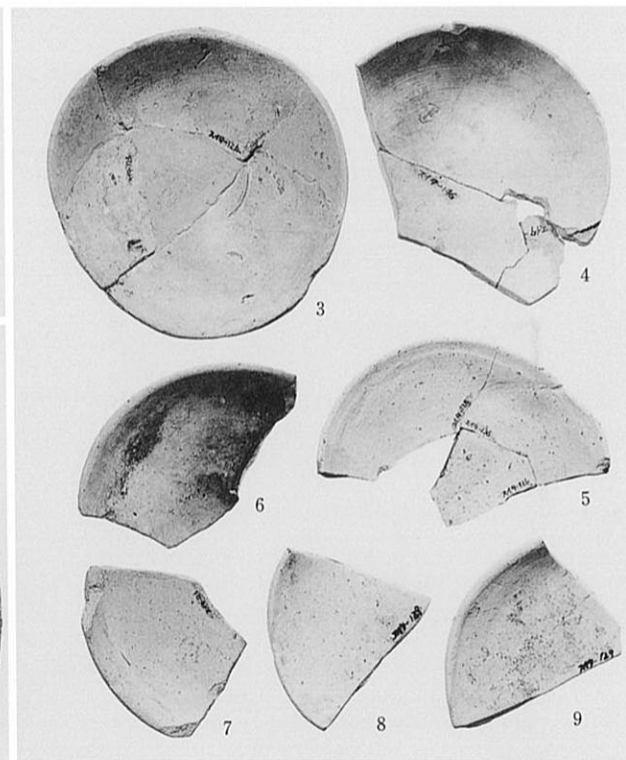
a. NO.41トレンチ溝 1 出土瓦器碗



b. NO.41トレンチ井戸 1 出土土器 (1~3)



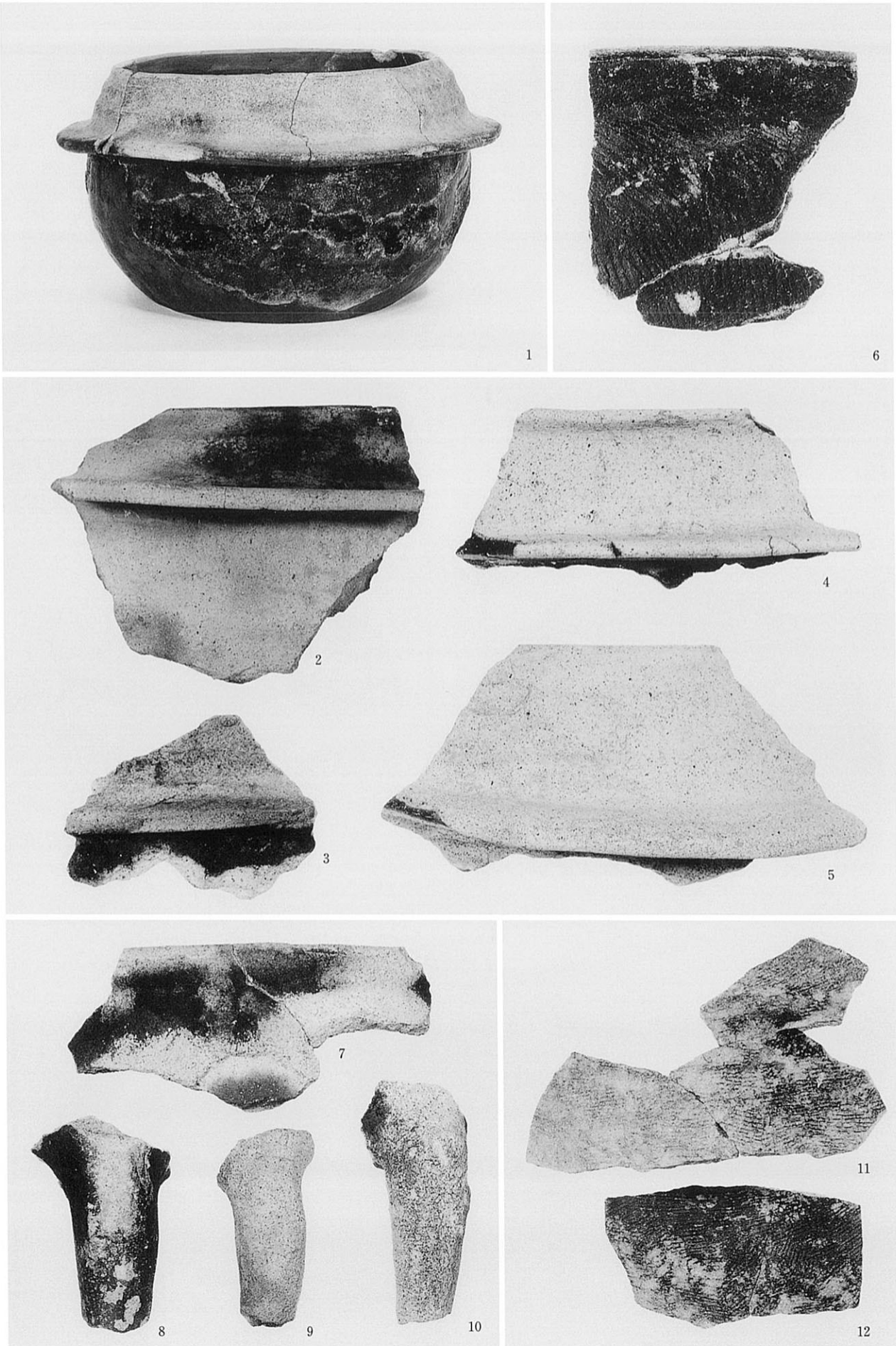
1



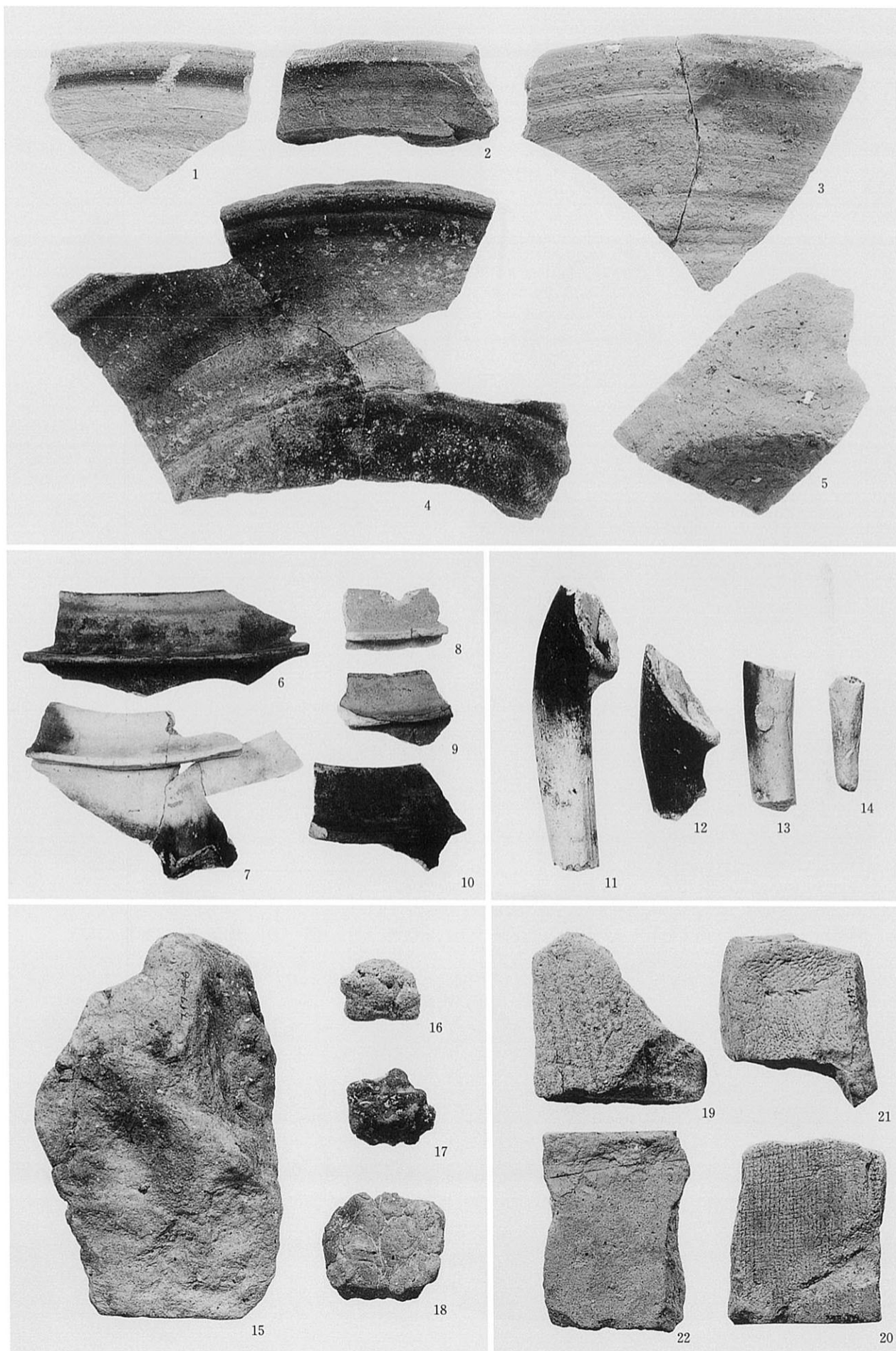
2

c. NO.41トレンチ井戸 1 出土瓦器碗 (1・2), 土師器小皿 (3~9)

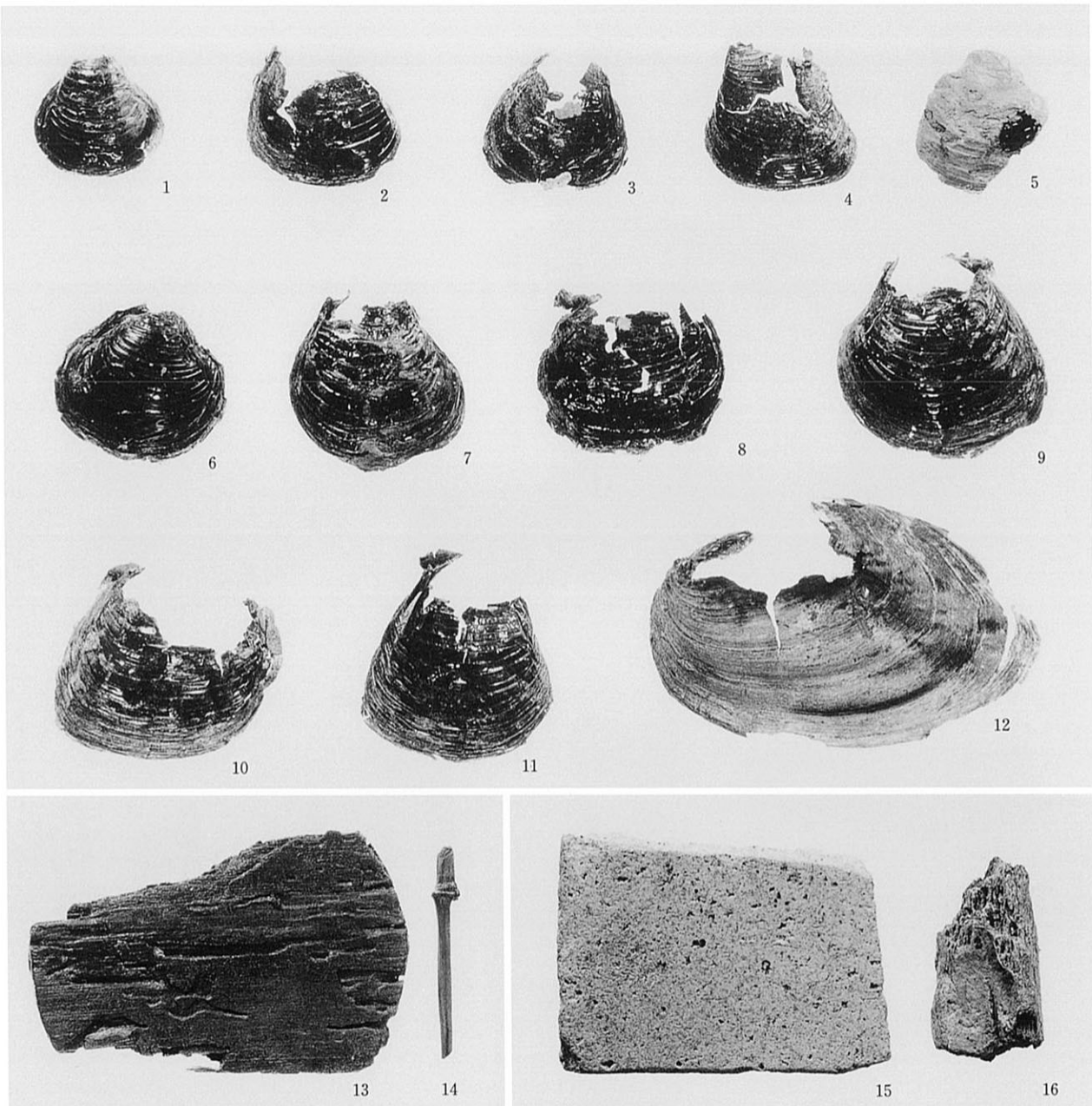




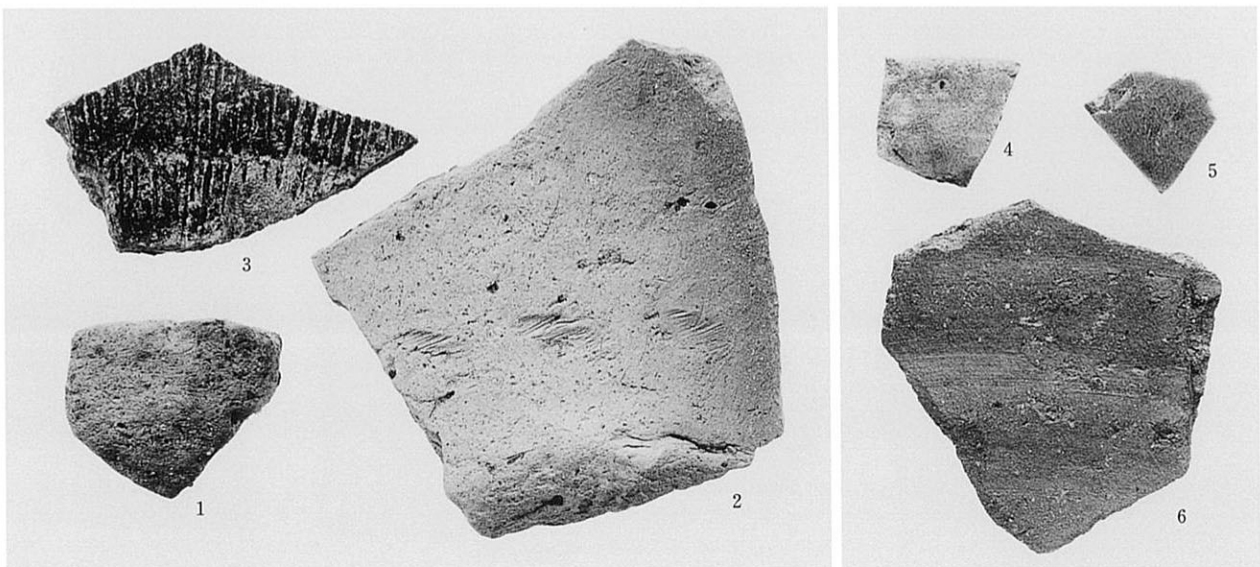
a. NO.41トレンチ井戸1出土土師器羽釜（1～5），鉢（6），三足鍋（7～10），東播磨（11・12）



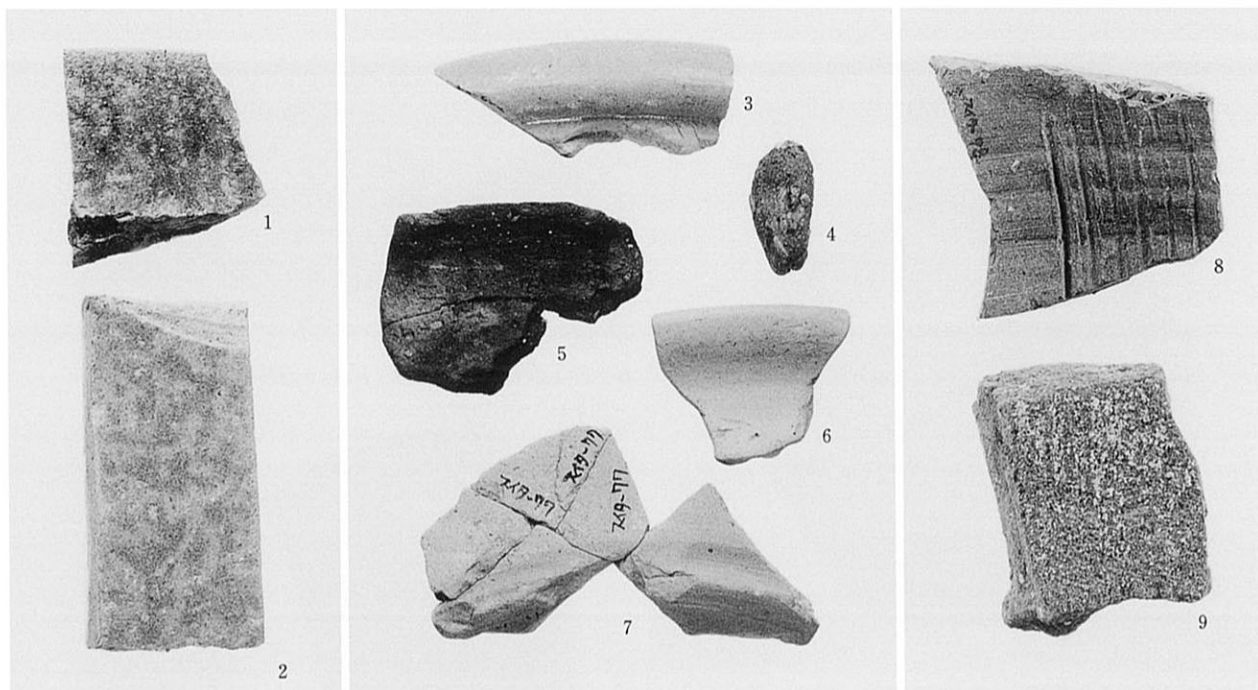
a. NO.41トレンチ井戸1出土東播ねり鉢(1~5), 瓦器三足(6~14), 家形埴輪(15), 焼土(16~18), 平瓦(19・20), 丸瓦(21), 熨斗瓦(22)



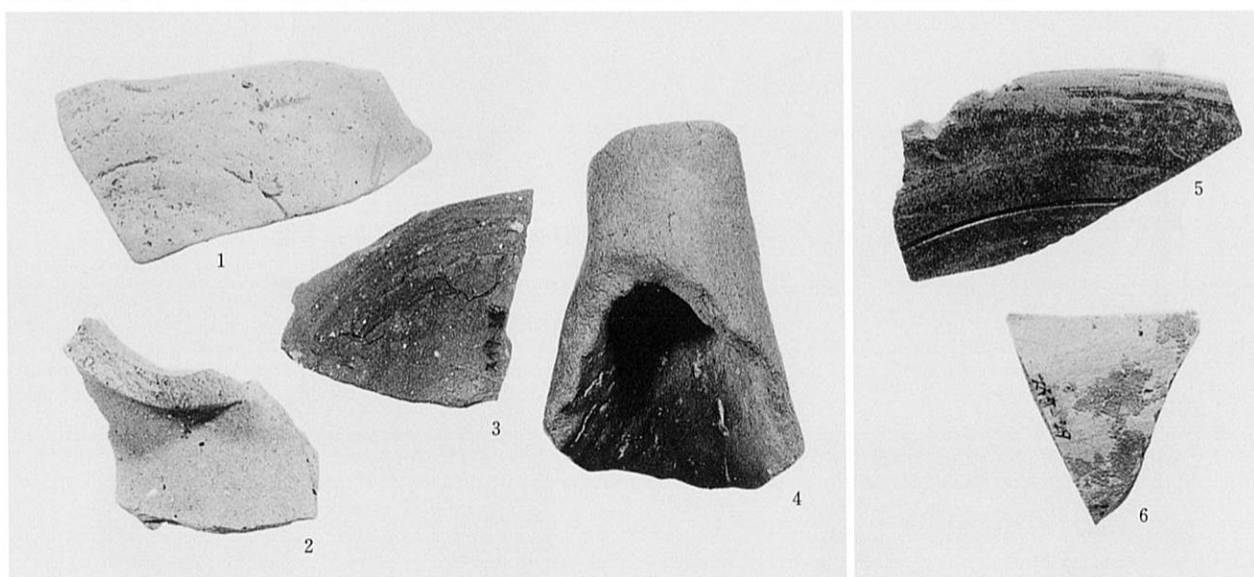
a. NO.41トレンチ井戸1出土シジミ (1~11), ドブ貝 (12), 曲物桶 (13), 竹串 (14), 砥石 (15), 鹿角 (16)



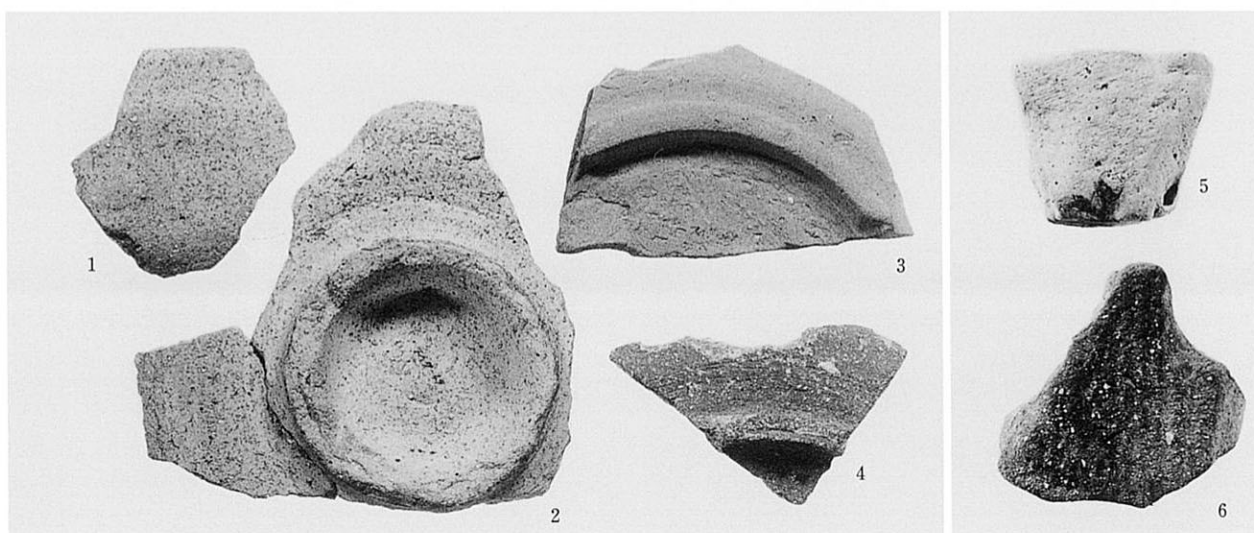
b. NO.42トレンチ包含層 (1~3), NO.43トレンチ包含層 (4~6) 出土土器



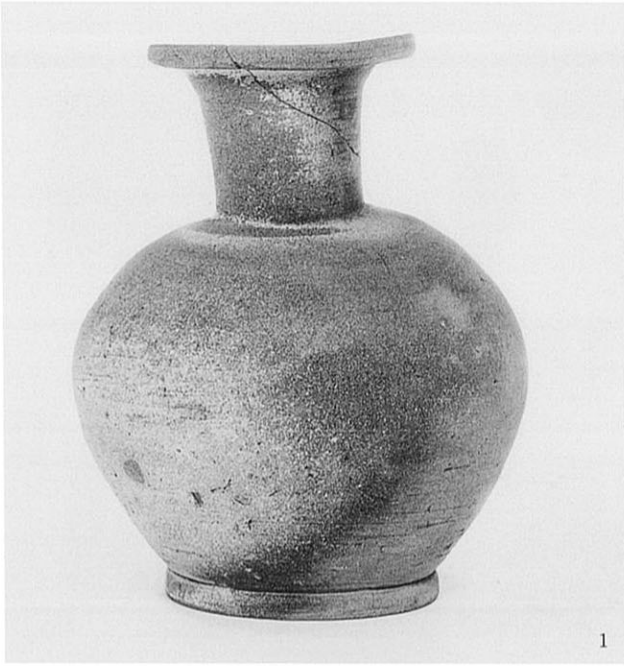
a. NO.44トレンチ (1・2), NO.45トレンチ (3～7), NO.47トレンチ (8・9) 出土土器・瓦



b. NO.48トレンチ溝1 (1), 溝2 (2), ビット4 (3), 下層包含層 (4), 上層包含層 (5・6) 出土土器



c. NO.48トレンチ上層包含層出土須恵器 (1～4), 平瓦 (5・6)



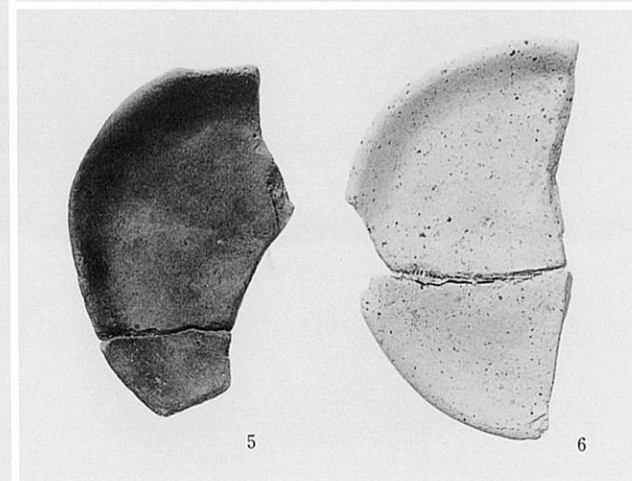
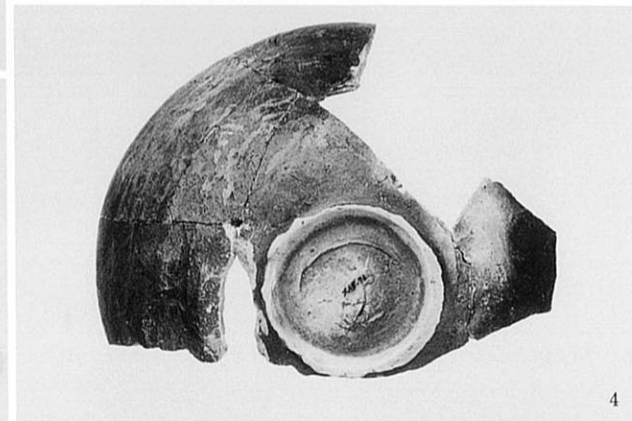
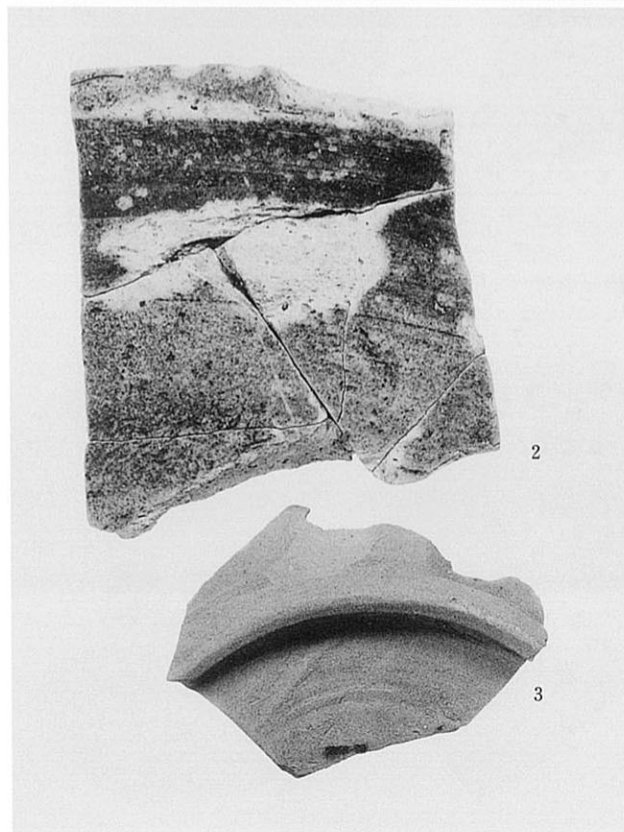
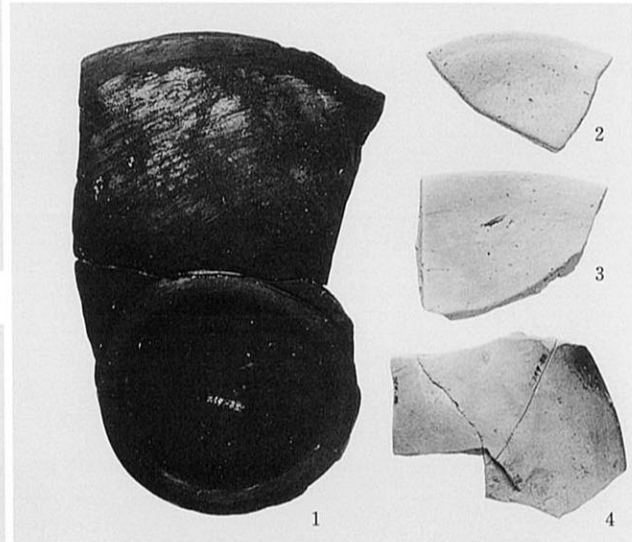
a. NO.49トレンチ土坑1出土須恵器壺(1)



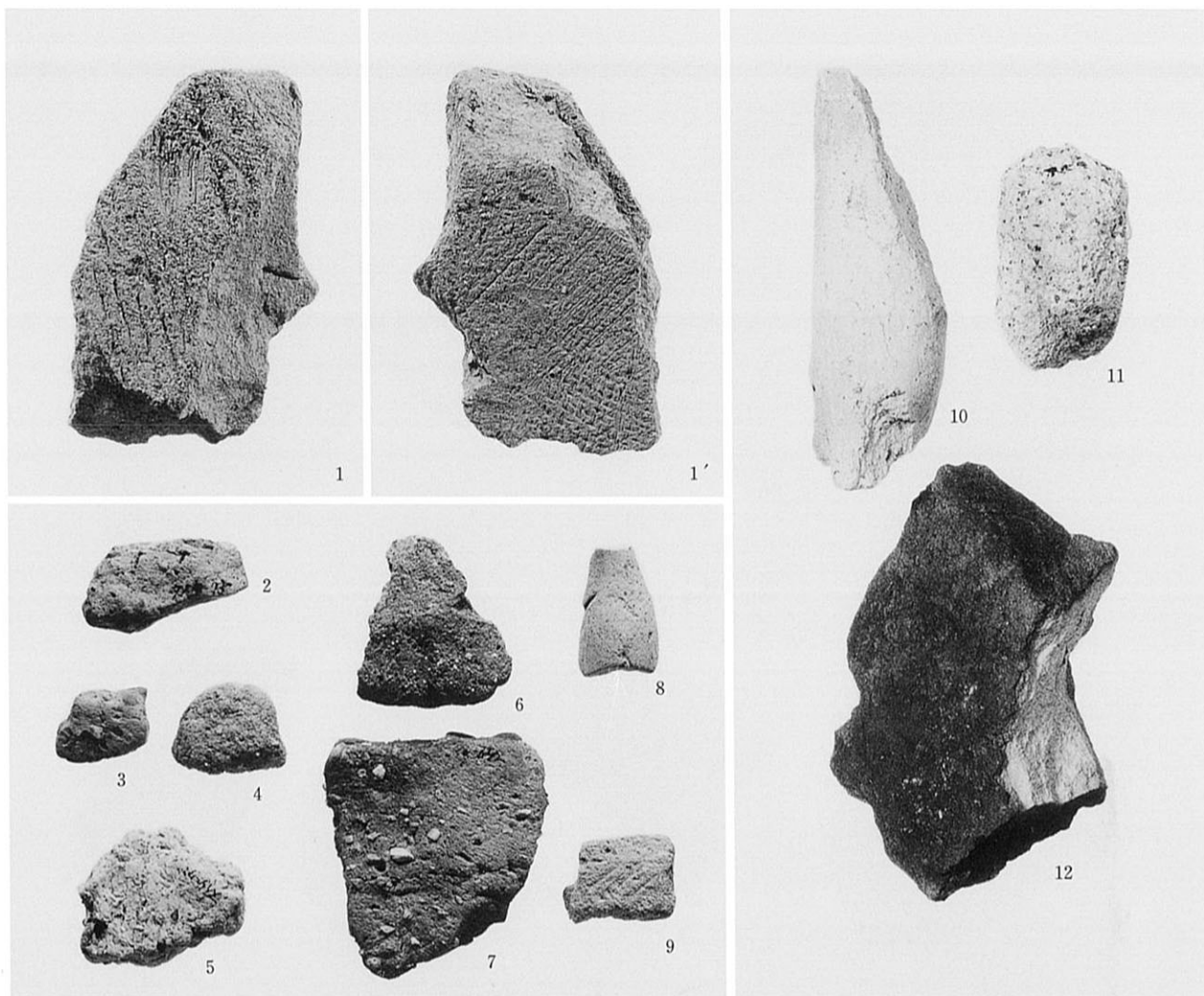
b. NO.49トレンチ土坑1出土土師器杯(1)



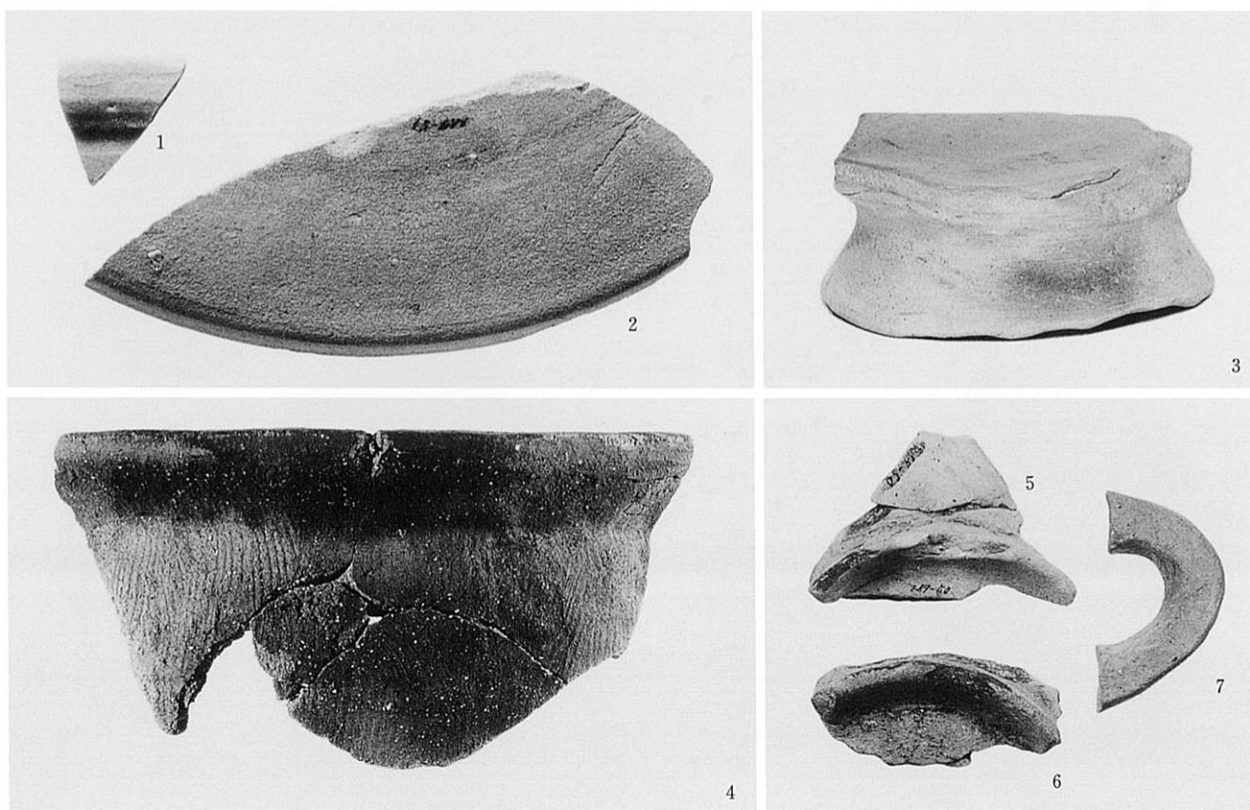
c. NO.49トレンチ井戸1出土土器(1~4)



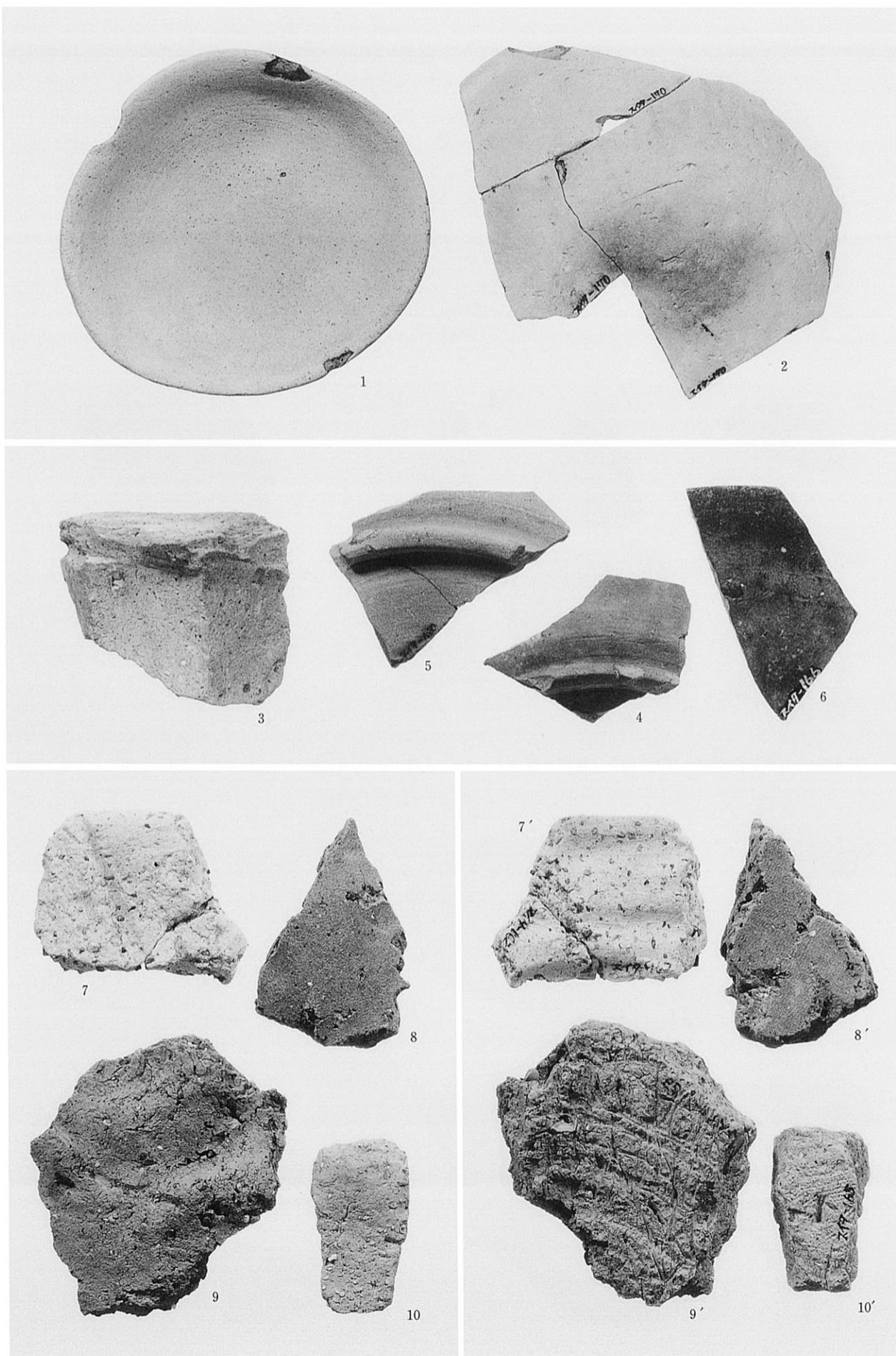
d. NO.49トレンチ包含層出土奈良三彩(1), 須恵器(2・3), 瓦器(4), 土師器(5・6)



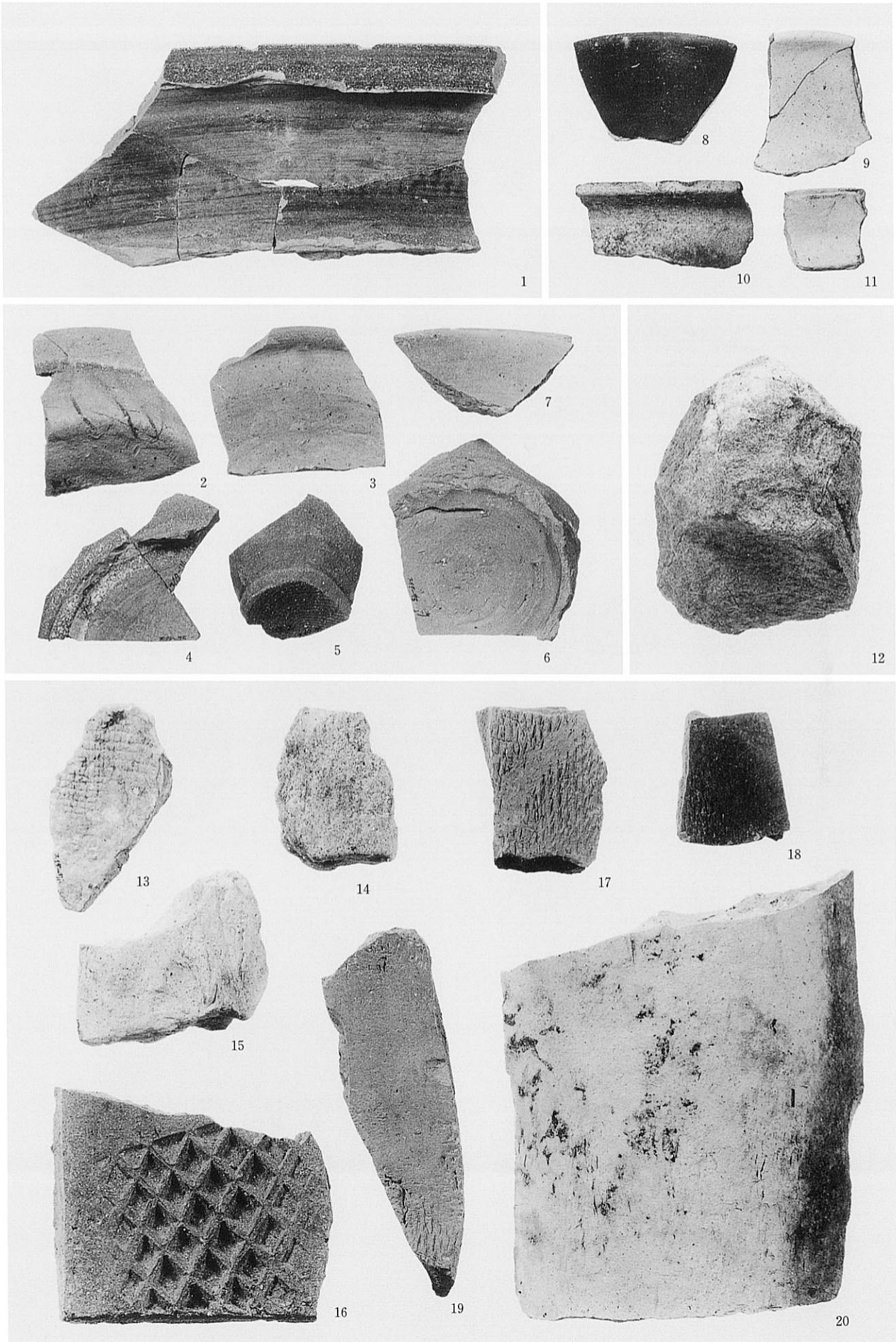
a. NO.49トレンチ包含層出土平瓦 (1), 製塩土器 (2~7), 土錘 (8), 石器 (9・11・12), 三足 (10)



b. NO.50トレンチ井戸1出土白磁 (1), 須恵器 (2), 土師器 (3・4), 包含層出土瓦器 (5・6), 須恵器 (7)

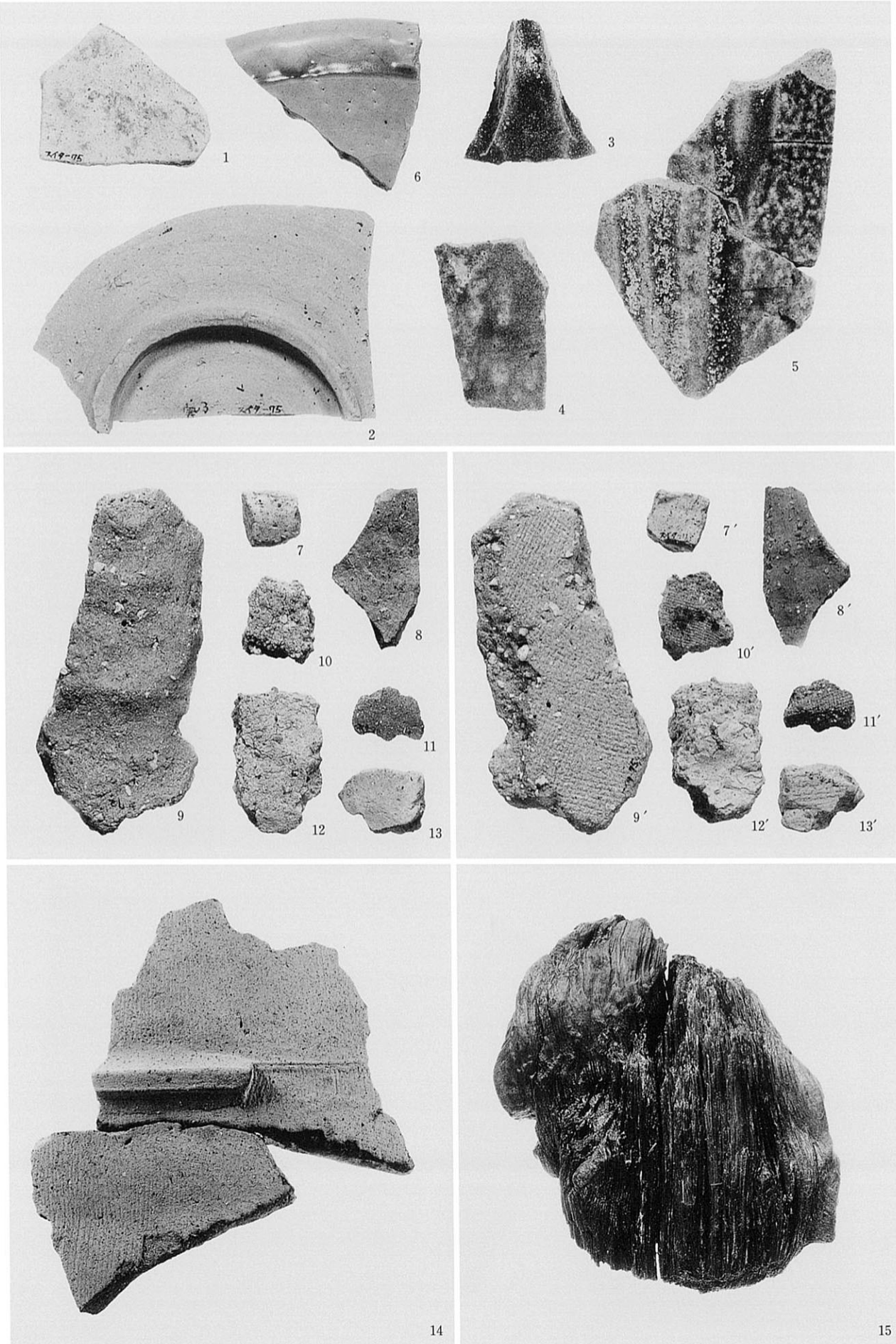


a. NO.51トレンチピット2 (1), ピット4 (2~4), ピット16 (5・8), ピット22 (6), ピット18 (7),  
ピット19 (9), ピット21 (10) 出土土師器 (1~3), 須恵器 (4・5), 瓦器 (6), 縄文土器 (7), 製塩土器 (8~10)

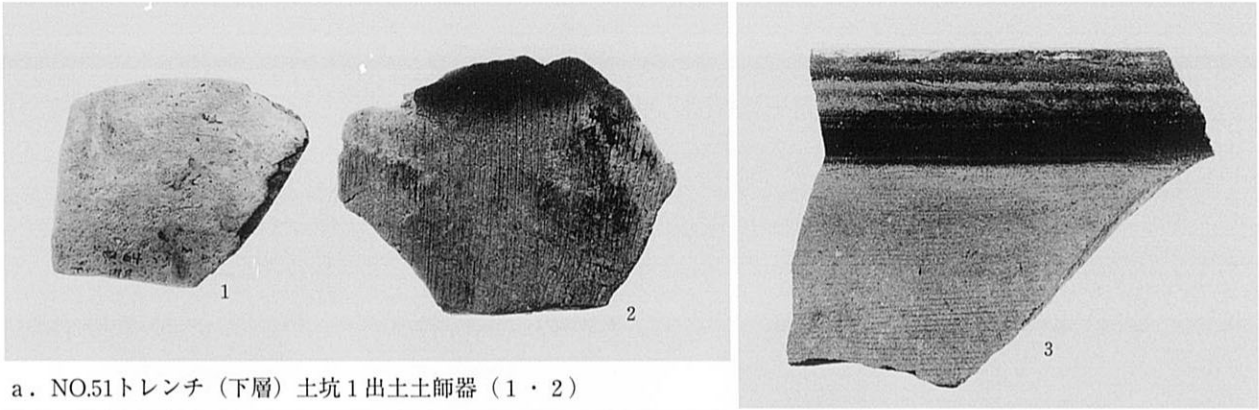


a. NO.51トレンチ上層包含層出土須恵器（1～7），黒色土器（8），土師器（9～11），叩き石（12），平瓦（13～19），丸瓦（20）

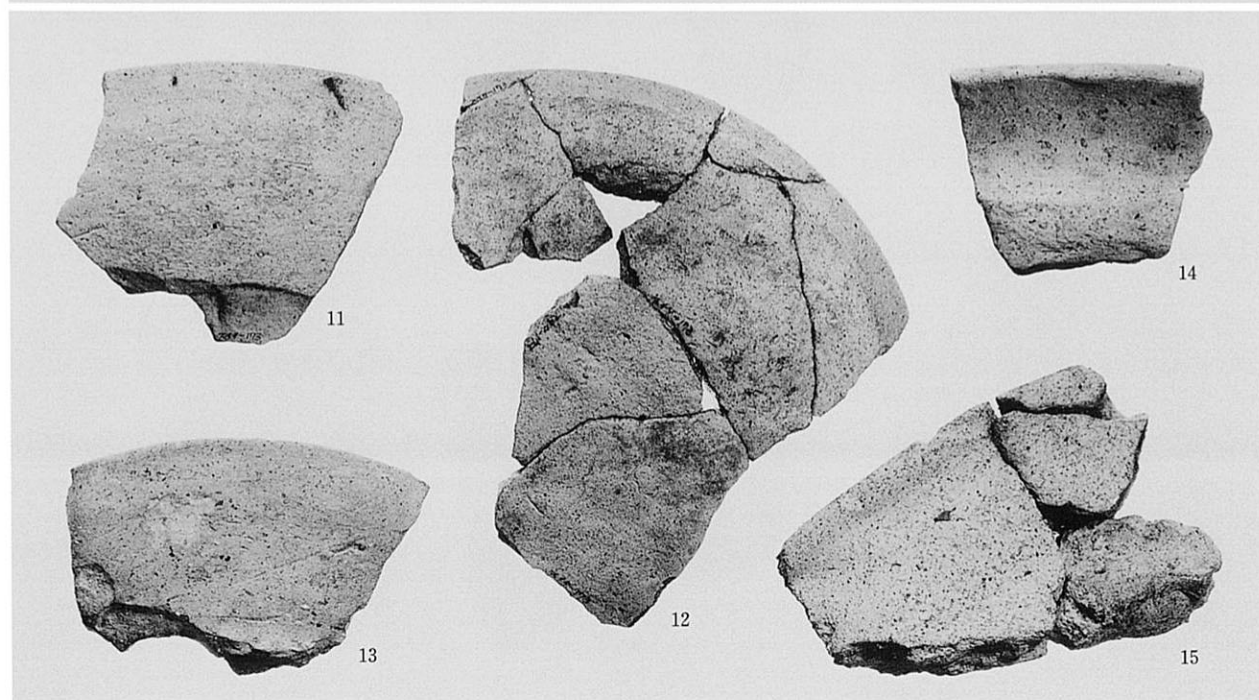
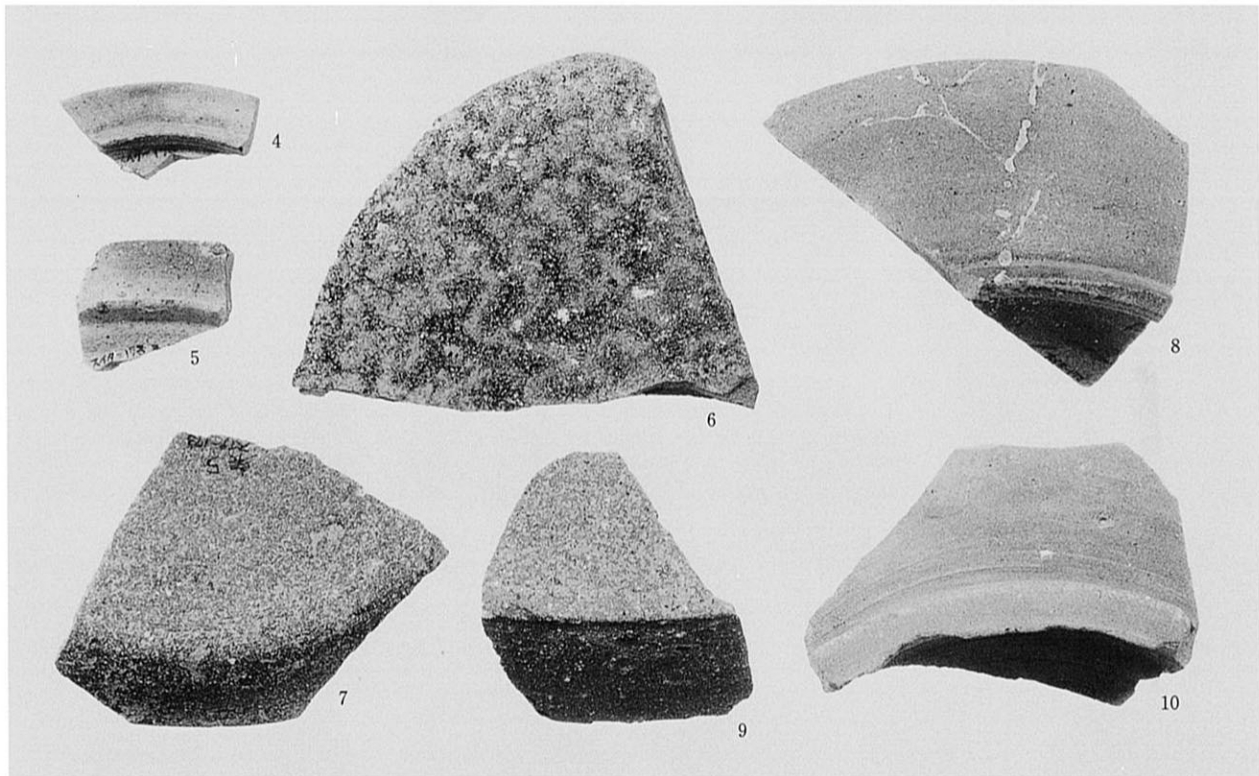




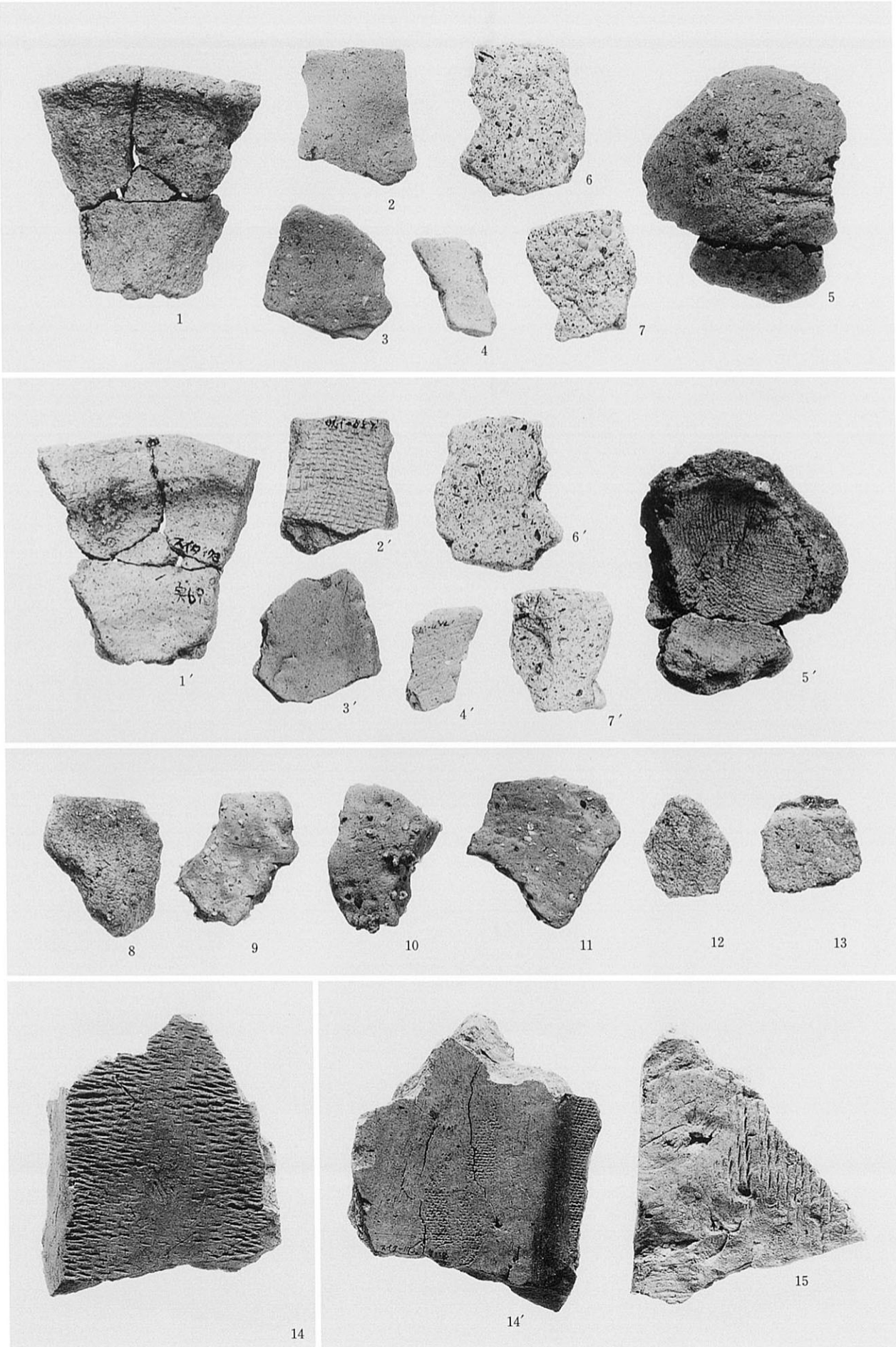
a. NO.51トレンチ上層包含層出土緑釉 (1), 灰釉 (2~5), 白磁 (6), 製塩土器 (7~13), 円筒埴輪 (14),  
ピット4出土柱根 (15)



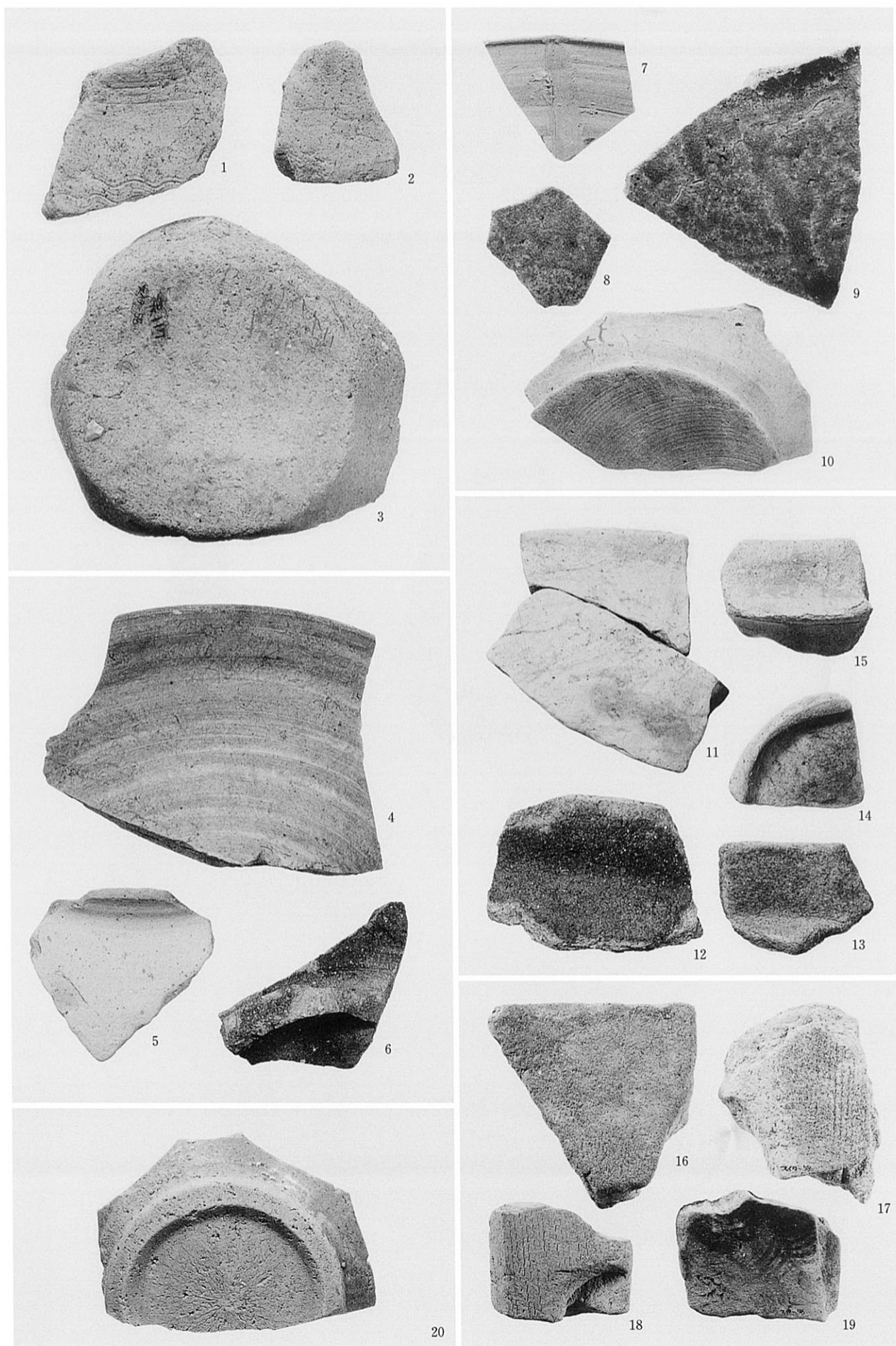
a. NO.51トレンチ（下層）土坑1出土土師器（1・2）



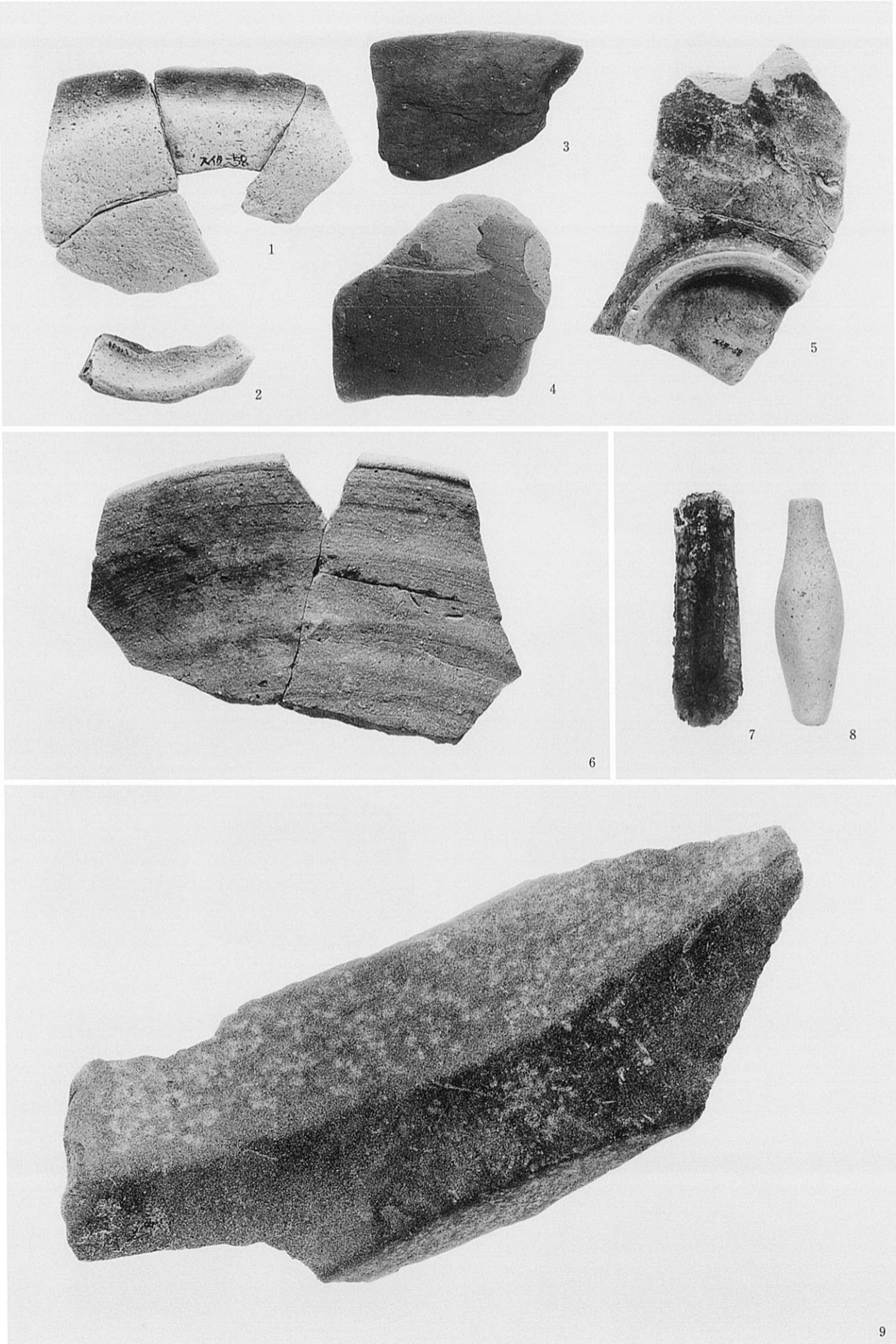
b. NO.51トレンチ（下層）包含層出土須恵器（3～10），土師器（11～15）



a. NO.51トレンチ (下層) 包含層出土製塩土器 (1~13), 軒平瓦 (14), 平瓦 (15)



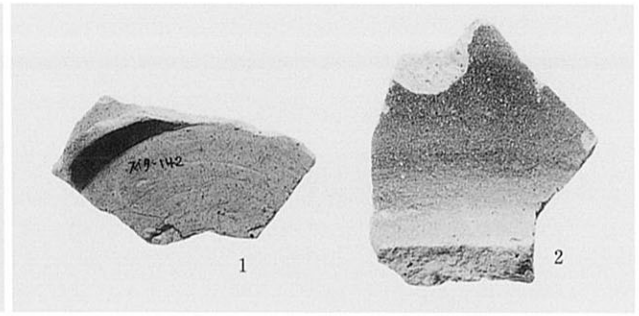
a. NO.52トレンチ包含層出土弥生土器（1～3），須恵器（4～6），灰釉（7～10），土師器（11～15），平瓦（16～18），  
埴（19），白磁（20）



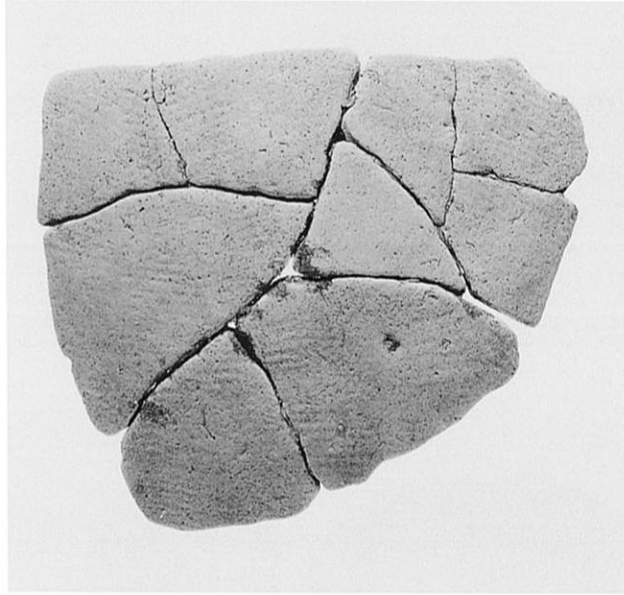
a. NO.52トレンチ包含層出土黒色土器（1～4），瓦器（5），東播ねり鉢（6），馬歯（7），土錘（8），砥石（9）



a. NO.53トレンチ土坑1出土須恵器杯



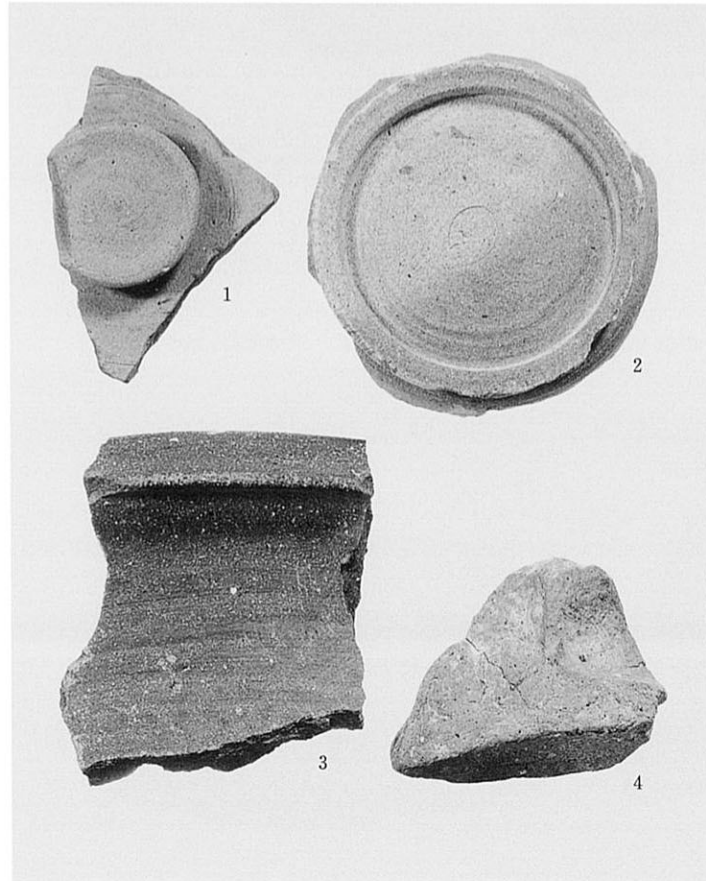
b. NO.53トレンチ土坑6出土須恵器 (1・2)



c. NO.53トレンチ土坑出土須恵器甕



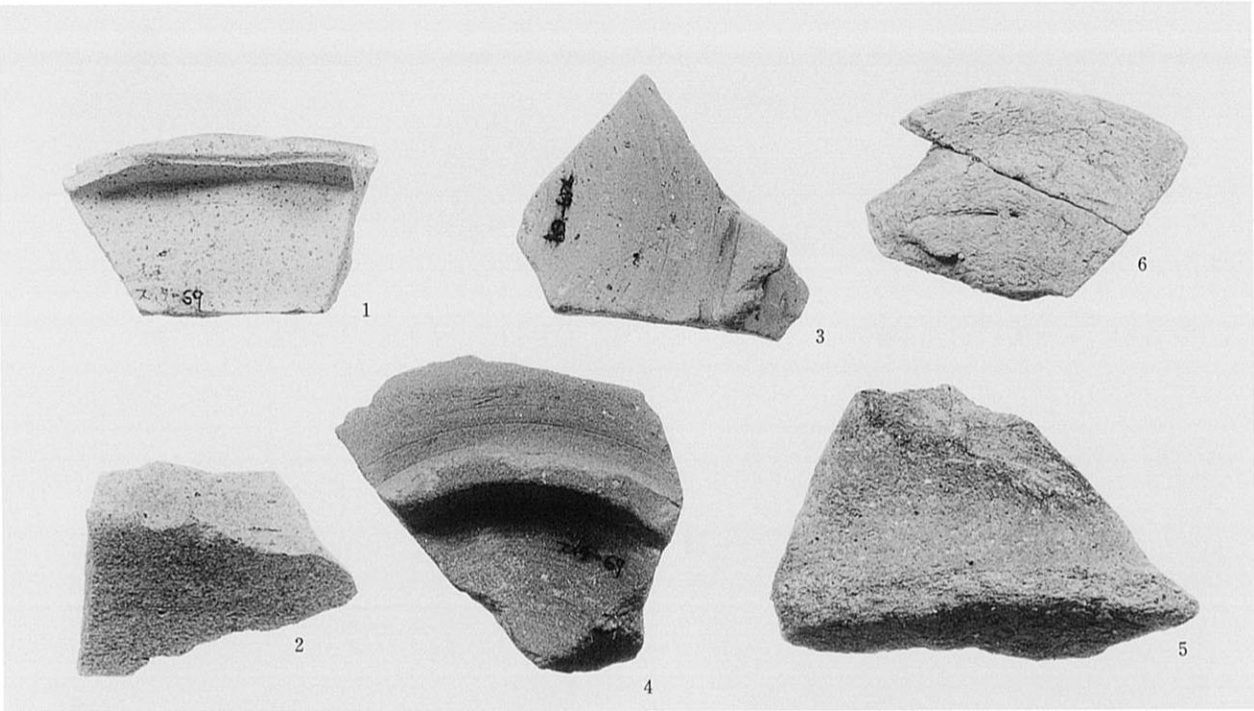
d. NO.53トレンチ地山直上出土緑釉皿



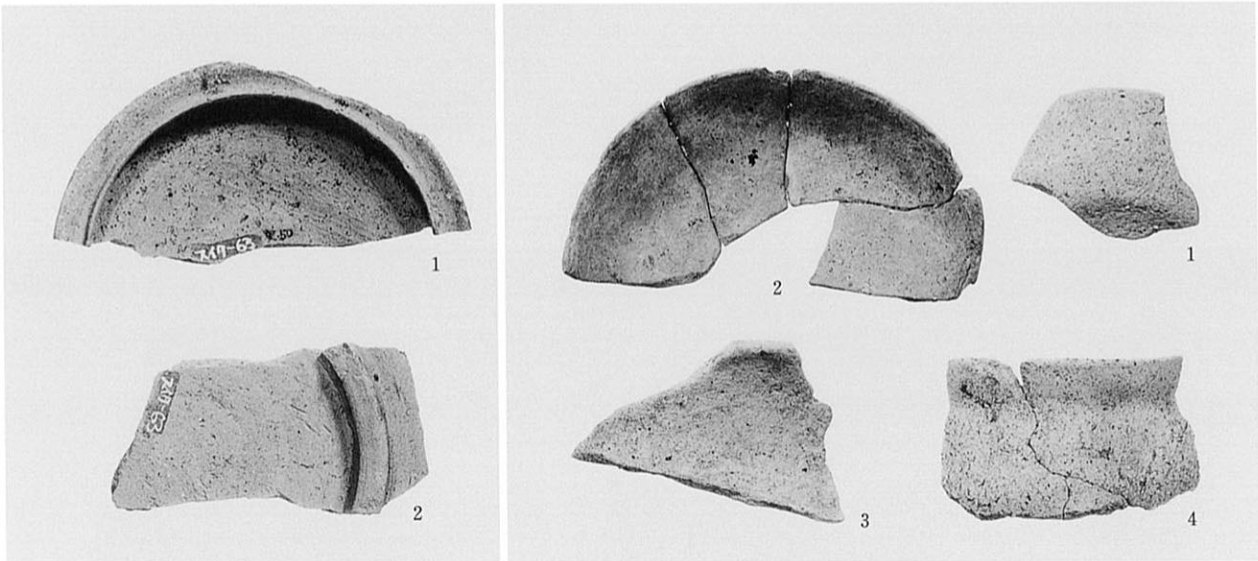
e. NO.53トレンチ包含層出土須恵器 (1~3), 土師器 (4)



f. NO.53トレンチ包含層出土平瓦



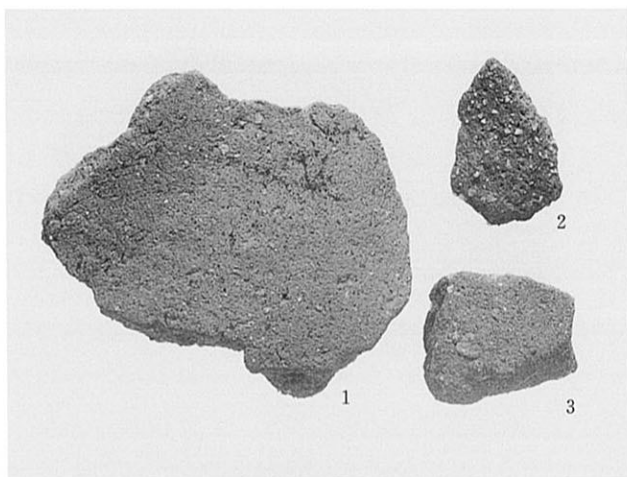
a. NO.55トレンチ包含層出土須恵器（1～4），土師器（5・6）



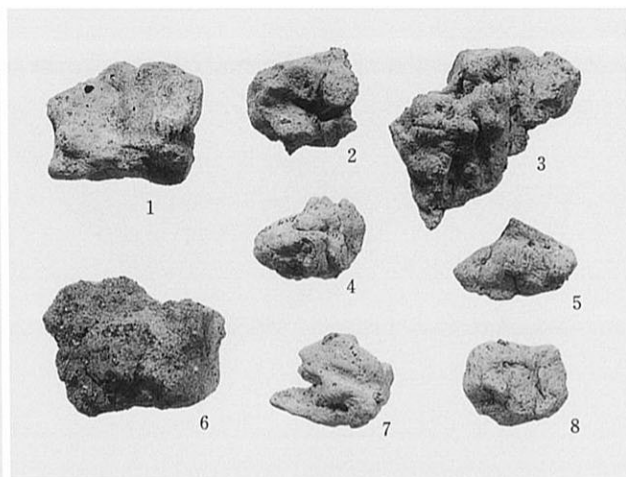
b. NO.56トレンチ土坑1出土須恵器（1・2） c. NO.56トレンチ土坑2出土須恵器（1），土師器（2～4）



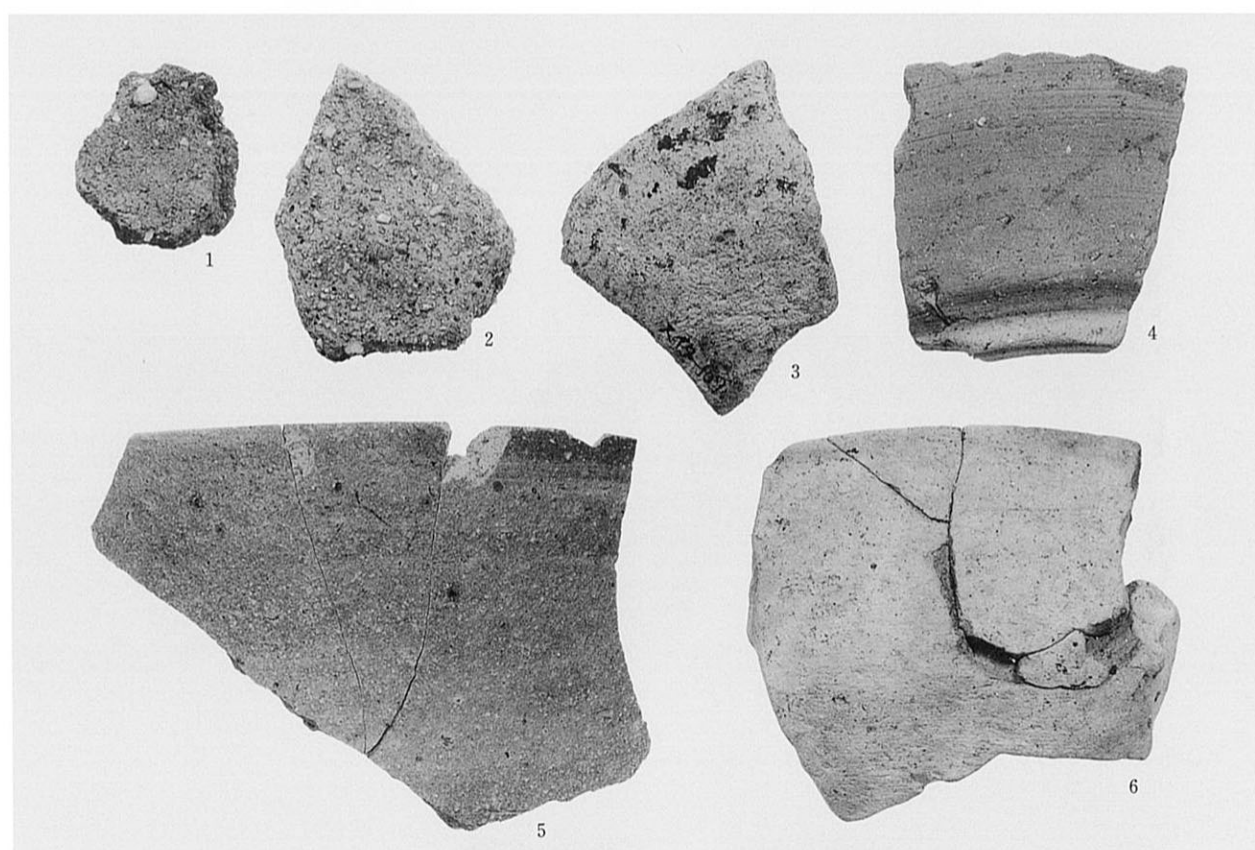
d. NO.56トレンチ土坑2出土須恵器（1・2）



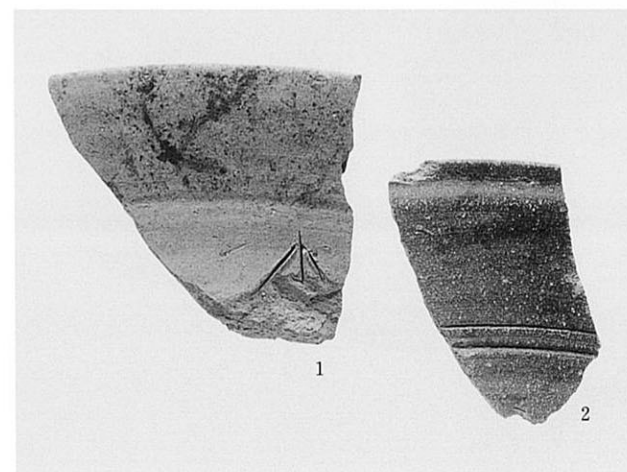
a. NO.56トレンチ土坑2出土製塩土器 (1~3)



b. NO.56トレンチ土坑2出土焼土 (1~8)



c. NO.56トレンチピット出土製塩土器 (1・2), 弥生土器 (3), 須恵器 (4・5), 土師器 (6)

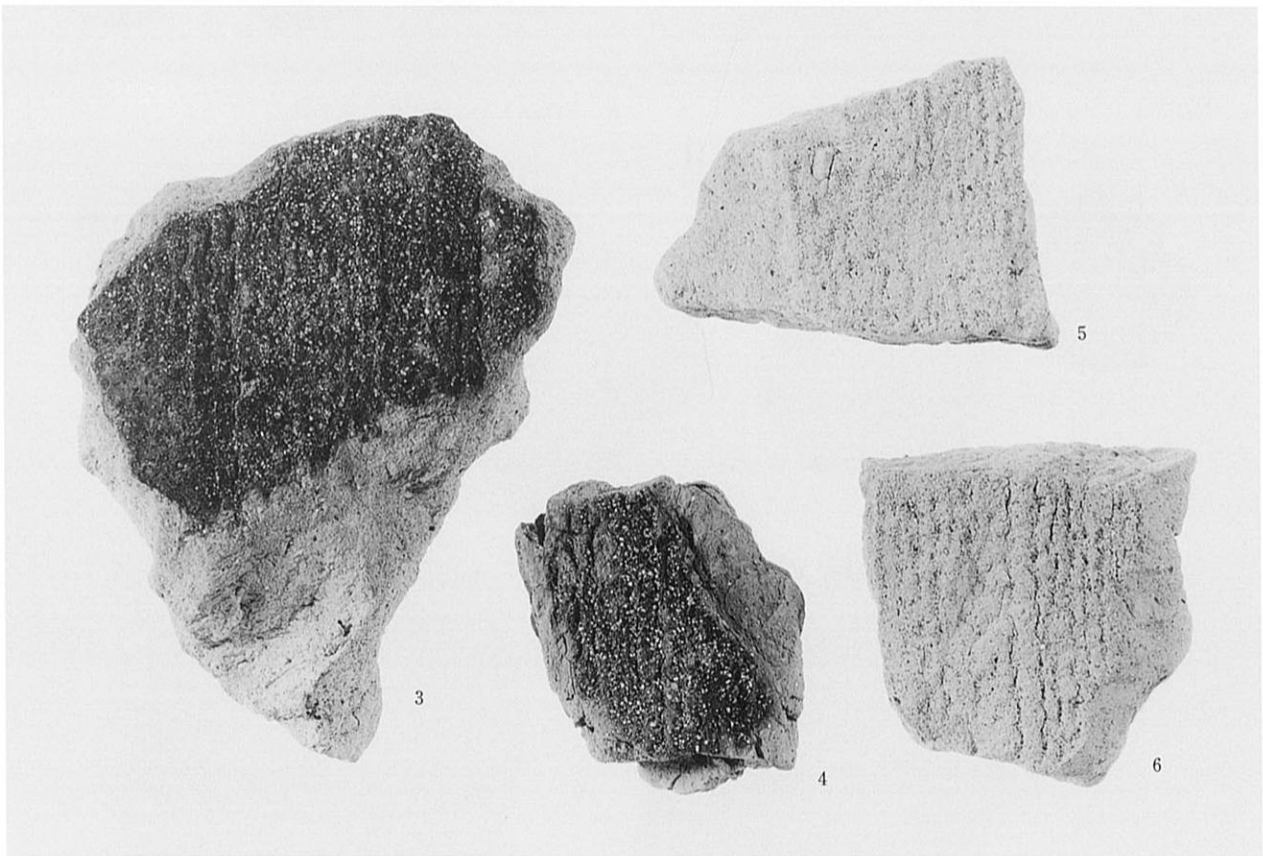
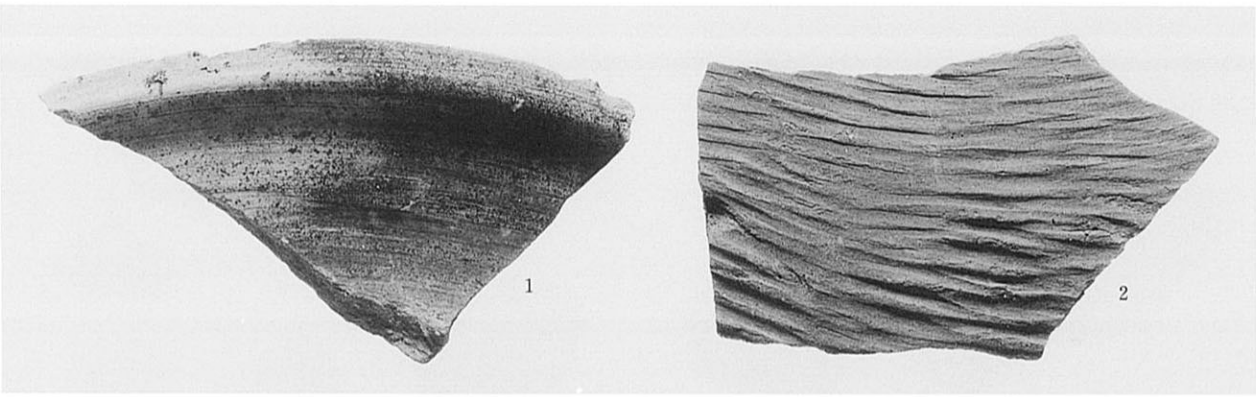


d. NO.56トレンチ包含層出土須恵器 (1・2)

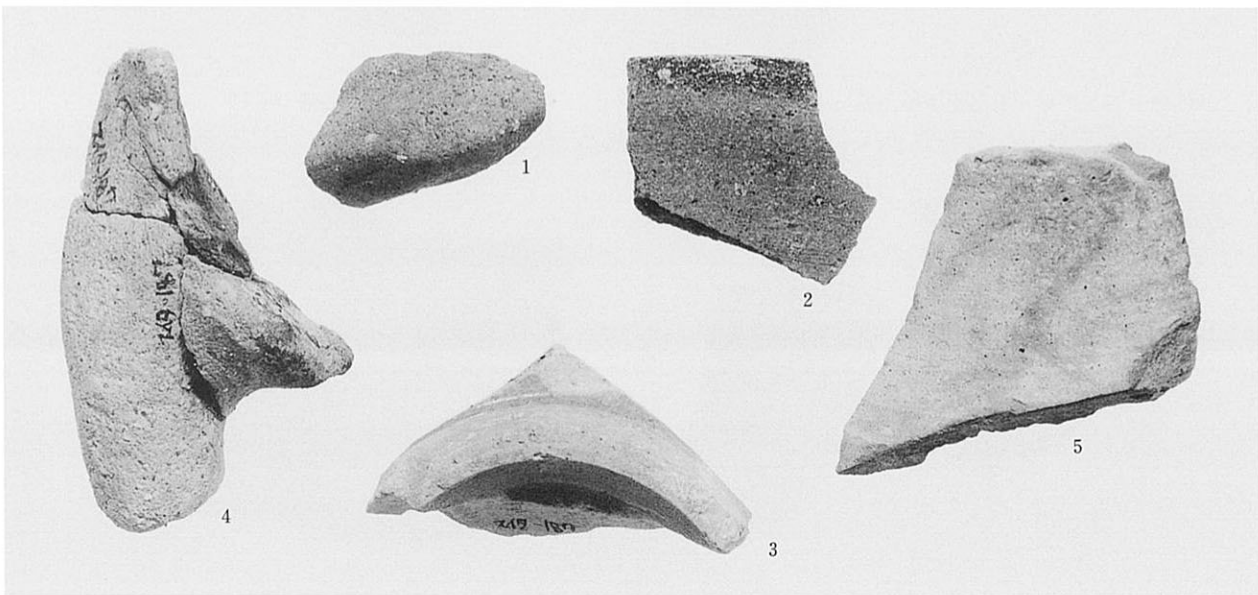


e. NO.57トレンチ土坑1出土須恵器壺





a. NO.58トレンチ井戸1出土須恵器（1・2），平瓦（3～6）



b. NO.61トレンチスキ溝出土土器（1～4），耕土層出土須恵器（5）

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	すいたそうしゃじょういせき							
書名	吹田操車場遺跡							
副書名	吹田(信)基盤整備工事に伴う吹田操車場遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書							
シリーズ番号	第42集							
編著者名	西口陽一・三好孝一							
編集機関	(財)大阪府文化財調査研究センター							
所在地	〒536-0016 大阪府大阪市城東区蒲生2丁目11-3 小森ビル4階 TEL 06-6934-6651							
発行年月日	1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	X	Y			
すいたそうしゃじょう 吹田操車場 遺跡	おおさかふすいたし 大阪府吹田市 しばたわう 芝田町	27205		135°33'～	35°45'～	1998年10月～ 1999年3月	586	吹田(信)基 盤整備工事
				135°32'	34°46'			
				-136987 ～ -135325	-42920 ～ -41467			
遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
吹田操車場 遺跡	集落跡	飛鳥・奈良・中世		大型土坑群・ 掘立柱建物跡		須恵器・土師器・瓦		奈良三彩・シジミ

(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第42集

### 吹 田 操 車 場 遺 跡

吹田(信)基盤整備工事に伴う吹田操車場遺跡発掘調査

発行年 1999年3月31日

発行所 (財)大阪府文化財調査研究センター

〒536-0016 大阪府大阪市城東区蒲生2丁目11-3  
小森ビル4階

TEL 06-6934-6651 FAX 06-6934-7029